

割田遺跡

令和2年9月

宇都宮市教育委員会

序

宇都宮市中心部の西北西約7km、多気山東麓の丘陵上に位置する割田遺跡は、古墳時代の古墳と中世の城館跡からなる遺跡です。

発掘調査は、大規模な宅地造成工事に先立ち、平成4年4月から平成5年3月までの1年間にわたり実施されたものです。調査の結果、古墳時代後期の円墳9基からは、勾玉、切小玉等の玉類、鉄刀、鉄鏃等の鉄製品、土師器などの遺物が出土しました。その他にも中世の多気城に関連すると思われる土塁と堀が約400mにわたって確認されました。この土塁と堀は宇都宮氏と後北条氏の抗争が本格化した16世紀後葉の所産と考えられ、宇都宮の中世を考える上で貴重なものであり、本報告書が多くの方々により広くご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、本調査及び報告書の作成にあたり、多大なるご協力とご理解を賜りました関係諸機関及び関係各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

令和2年9月30日

宇都宮市教育委員会

教育長 小堀 茂雄

例 言

- 1 本報告書は、栃木県宇都宮市田野町596-2他に所在する割田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、勸業開発株式会社（以下事業主）が施工する大規模宅地開発に伴う事前調査として実施したものである。調査の実施に当たっては事業主の依頼により宇都宮市教育委員会（以下市教委）が調査主体となり、費用は事業主が負担した。
- 3 調査対象面積は約18,000㎡、調査期間は平成4年4月6日～平成5年3月20日である。
- 4 発掘調査における測量及び写真撮影等は、吉澤宣行の協力を得て、神野安伸・梁木誠がこれにあたった。また報告書作成に伴う遺構・遺物の整理及び写真撮影等は、永岡亜紀の協力を得て、澁谷麻友子・梁木がこれにあたった。
- 5 本書の編集・執筆は、近藤真との協議を踏まえ、梁木と澁谷がこれにあたった。
- 6 本遺跡出土の遺物及び図面・写真等の記録類は、宇都宮市教育委員会で保管している。
- 7 発掘調査の関係者は次のとおりである。

○発掘調査時（平成4年度）

[指導助言]	宇都宮市文化財保護審議委員会委員	埴 静夫
	”	大金 宣亮
	”	橋本 澄朗
宇都宮市教育委員会	教育長	藤田 昌平
	教育次長	近能 忠良
	文化課長	安達 光政
	文化財保護係長	定岡 明義
	文化財保護係	手塚英男・梁木 誠・大塚雅之・小松俊雄 神野安伸・今平利幸・吉澤宣行（囑託）

[調査補助員] 小松寅雄、吉澤良助、熊田脍、大塚清、入江ツヤ、大垣俊亜、鈴木準、大竹静子、郷間麗子、斎藤京子、矢田部敏雄、木滑一枝、八百井トシ、木滑とみ子、阿部昭、阿部はるみ、鈴木銘一、清水豊、大垣ヤスヨ、阿久津博樹、高秀クニ

○報告書作成時（令和2年度）

[指導助言]	宇都宮市文化財保護審議委員会委員	橋本 澄朗
	”	竹澤 謙
宇都宮市教育委員会	教育長	小堀 茂雄
	教育次長	青木 容子
	文化課長	山口 達雄
	文化課主幹	今平 利幸
	文化財保護係長	前原 義之
	文化財保護グループ	近藤 真・竹下 亘・星野治彦・清地良太・ 田中宏迪・柳川実咲・高橋直也・高栖良子・ 梁木 誠（囑託）・澁谷麻友子（囑託）

- 8 発掘調査の実施並びに本書の作成にあたっては、栃木県教育委員会の指導を受けるとともに、次の諸機関及び諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。(敬称略、順不同)
- 栃木県立博物館、(公財)とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター

凡 例

- 1 挿図の縮尺は、原則として古墳墳丘を1/200、主体部を1/50とし、遺物は1/3もしくは1/2で示した。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の番号と一致する。
- 2 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
- 3 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ローム粒：LR、ロームブロック：LB、鹿沼パミス：KP、鹿沼ブロック：KB、今市パミス：IP、炭化物：C、炭化物粒：CR、焼土粒：SY、攪乱：K

目次

・序	
・例言、凡例	
I はじめに	
1 調査の経過	1
2 遺跡の環境	3
II 遺構と遺物	
1 古墳	
(1) 1号墳	9
(2) 2号墳	14
(3) 3号墳	18
(4) 4号墳	21
(5) 5号墳	27
(6) 6号墳	39
(7) 7号墳	43
(8) 8号墳	49
(9) 9号墳	52
(10) 1号石棺	59
2 堀・土塁	
(1) 堀・土塁の規模と構造	60
(2) 折と土橋	65
3 その他	
(1) 竪穴遺構	66
(2) 土坑	68
(3) 土坑墓	68
(4) 遺構外出土の遺物	69
III おわりに	
1 古墳群について	85
2 堀・土塁について	86
・報告書抄録	

插图目次

第1図	遺跡位置図	1	第40図	7号墳墳丘・周溝測量図	43
第2図	調査地区図	2	第41図	7号墳墳丘・周溝土層図	44
第3図	周辺の遺跡分布図	4	第42図	7号墳周溝内土坑	45
第4図	遺構配置図	7・8	第43図	7号墳石室天井石確認状況	45
第5図	1号墳墳丘・周溝測量図	9	第44図	7号墳横穴式石室	46
第6図	1号墳墳丘・周溝土層図	10	第45図	7号墳玄室遺物出土状況	47
第7図	1号墳横穴式石室	12	第46図	7号墳出土遺物	48
第8図	1号墳墓道遺物出土状況	13	第47図	8号墳墳丘・周溝測量図	49
第9図	1号墳出土遺物	13	第48図	8号墳墳丘・周溝土層図	50
第10図	2号墳墳丘・周溝測量図	14	第49図	8号墳横穴式石室	51
第11図	2号墳墳丘・周溝土層図	15	第50図	8号墳出土遺物	51
第12図	2号墳横穴式石室	16	第51図	9号墳墳丘・周溝測量図	53
第13図	2号墳出土遺物	17	第52図	9号墳墳丘・周溝土層図	54
第14図	3号墳墳丘・周溝測量図	18	第53図	9号墳横穴式石室確認状況	55
第15図	3号墳墳丘・周溝土層図	19	第54図	9号墳横穴式石室	55
第16図	3号墳石室・墓道確認状況	20	第55図	9号墳玄室遺物出土状況	56
第17図	3号墳横穴式石室	21	第56図	9号墳出土遺物(1)	57
第18図	4号墳墳丘・周溝測量図	22	第57図	9号墳出土遺物(2)	58
第19図	4号墳墳丘・周溝土層図	23	第58図	1号石棺確認状況	59
第20図	4号墳横穴式石室	24	第59図	1号石棺	60
第21図	4号墳羨道・閉塞状況	25	第60図	1号石棺出土遺物	60
第22図	4号墳周溝内遺物出土状況	25	第61図	堀・土塁断面図(1)	61
第23図	4号墳出土遺物	26	第62図	堀・土塁断面図(2)	62
第24図	5号墳墳丘・周溝測量図	27	第63図	堀・土塁断面図(3)	63
第25図	5号墳墳丘・周溝土層図	28	第64図	堀・土塁断面図(4)	64
第26図	5号墳石室天井石確認状況	29	第65図	1号竪穴遺構	66
第27図	5号墳横穴式石室	30	第66図	2号竪穴遺構	67
第28図	5号墳羨道閉塞状況	31	第67図	3号竪穴遺構・1号土抗	67
第29図	5号墳出土遺物(1)	32	第68図	土坑墓	68
第30図	5号墳玄室遺物出土状況	33	第69図	土坑墓出土古銭	68
第31図	5号墳出土遺物(2)	34	第70図	土坑墓出土内耳土鍋	69
第32図	5号墳出土遺物(3)	35	第71図	遺構外出土縄文土器・弥生土器	70
第33図	5号墳出土遺物(4)	36	第72図	遺構外出土石器(1)	71
第34図	5号墳出土遺物(5)	37	第73図	遺構外出土石器(2)	72
第35図	5号墳出土遺物(6)	38	第74図	遺構外出土石器(3)	73
第36図	6号墳墳丘・周溝測量図	39	第75図	遺構外出土石器(4)	74
第37図	6号墳墳丘・周溝土層図	40	第76図	割田古墳群の横穴式石室平面形	85
第38図	6号墳横穴式石室	41	第77図	多気城跡と割田遺跡	87
第39図	6号墳出土遺物	42			

表目次

第1表	周辺の遺跡一覧……………	5	第13表	9号墳出土鉄鏃観察表……………	82
第2表	1号墳出土土器観察表……………	75	第14表	1号石棺出土鉄鏃観察表……………	82
第3表	2号墳出土土器観察表……………	75	第15表	5号墳出土直刀・刀子観察表……………	82
第4表	4号墳出土土器観察表……………	75・76	第16表	7号墳出土直刀観察表……………	82
第5表	5号墳出土土器観察表……………	76	第17表	8号墳出土刀子観察表……………	83
第6表	6号墳出土土器観察表……………	76	第18表	9号墳出土直刀・刀子観察表……………	83
第7表	8号墳出土土器観察表……………	76	第19表	1号石棺出土刀子観察表……………	83
第8表	4号墳出土玉製品観察表……………	77	第20表	5号墳出土弓金具観察表……………	83
第9表	5号墳出土玉製品観察表……………	77	第21表	土坑墓出土古銭観察表……………	83
第10表	7号墳出土玉製品観察表……………	77・78	第22表	遺構外出土土器観察表……………	83・84
第11表	9号墳出土玉製品観察表……………	78・79	第23表	割田古墳群の墳丘規模……………	85
第12表	5号墳出土鉄鏃観察表……………	80~82			

図版目次

P L 1	遺跡遠景（南東から、背後に多気山）			
P L 2	遺跡全景（南上空から）、遺跡全景（西上空から）			
P L 3	調査前の遺跡現況（東部を西から）、調査前の遺跡現況（西部を東から）		P L 10	4号墳玄室奥壁、4号墳玄門、4号墳直刀出土状況、4号墳側壁裏込め断面、4号墳全景
P L 4	1号墳現況、1号墳調査風景、1号墳周溝の集石、1号墳周溝土器出土状況、1号墳墓道、1号墳墓道上土器出土状況、1号墳全景、1号墳横穴式石室全景		P L 11	5号墳現況、5号墳調査風景、5号墳石室確認状況、5号墳横穴式石室天井部、5号墳横穴式石室調査風景、5号墳横穴式石室全景、5号墳玄室（南から）、5号墳玄室（北から）
P L 5	1号墳玄室（南から）、1号墳玄室（北から）、1号墳墳丘断面、1号墳東側壁裏込め断面、1号墳全景		P L 12	5号墳玄室遺物出土状況、5号墳玄室鉄鏃出土状況、5号墳玄室馬具等出土状況、5号墳玄室直刀出土状況、5号墳側壁裏込め断面、5号墳墓道及び閉塞状況、5号墳奥壁裏込め断面
P L 6	2号墳現況、2号墳周溝調査、2号墳全景、2号墳横穴式石室、2号墳玄室、2号墳玄室奥壁、2号墳玄室床面遺物出土状況		P L 13	5号墳全景、6号墳現況、6号墳横穴式石室（西から）、6号墳横穴式石室（南から）、6号墳側壁裏込め断面
P L 7	3号墳現況、3号墳調査風景、3号墳周溝調査、3号墳周溝断面、3号墳横穴式石室調査風景、3号墳横穴式石室天井部、3号墳羨道部、3号墳墓道		P L 14	6号墳全景、1～6号墳全景
P L 8	3号墳玄室（南から）、3号墳玄室（北から）、3号墳側壁裏込め断面、3号墳奥壁裏込め断面、3号墳全景		P L 15	7号墳周溝調査、7号墳周溝断面、7号墳横穴式石室確認状況、7号墳石室被覆粘土、7号墳石室墓道、7号墳石室天井石、7号墳玄室（南から）、7号墳
P L 9	4号墳現況、4・5号墳周溝重複部断面			

- 玄室（北から）
- P L 16 7号墳玄門、7号墳石室西側壁、7号墳石室天井、7号墳玄室直刀出土状況、7号墳全景
- P L 17 8号墳調査前、8号墳周溝断面、8号墳横穴式石室、8号墳全景、9号墳現況、9号墳全景、9号墳横穴式石室（北から）、9号墳横穴式石室（西から）
- P L 18 9号墳玄室床面、9号墳玄室玉類出土状況、9号墳玄室鉄鏃出土状況、9号墳玄室直刀出土状況、9号墳全景
- P L 19 7～9号墳全景、1号石棺の位置、1号石棺確認状況、1号石棺蓋石除去状況、1号石棺完掘状況
- P L 20 堀・土塁現況（北東から）、堀・土塁現況（南西から）、堀・土塁清掃作業風景、調査前の堀・土塁、土塁断面・A地点、土塁断面・B地点、土塁断面・C地点、土塁調査風景・D地点
- P L 21 堀断面・A地点、堀断面・B地点、堀断面・C地点、堀・地層断面、堀・土塁（北東から）、堀・土塁（東から）、堀・土塁（南西から）、堀・土塁調査風景
- P L 22 1号土橋現況、1号土橋、2号土橋（南西から）、2号土橋（北西から）、折部現況、折部の土塁、折部調査風景、1号土橋と折部
- P L 23 折部と1号土橋、土坑墓、土坑墓遺物出土状況、土坑墓歯出土状況、7号墳周溝内土坑
- P L 24 1号墳出土遺物、2号墳出土遺物、4号墳出土遺物
- P L 25 5号墳出土遺物（1）
- P L 26 5号墳出土遺物（2）
- P L 27 7号墳出土遺物、8号墳出土遺物、9号墳出土遺物
- P L 28 1号石棺出土遺物、土坑墓出土遺物、遺構外出土土器、遺構外出土石器

I はじめに

1 調査の経過

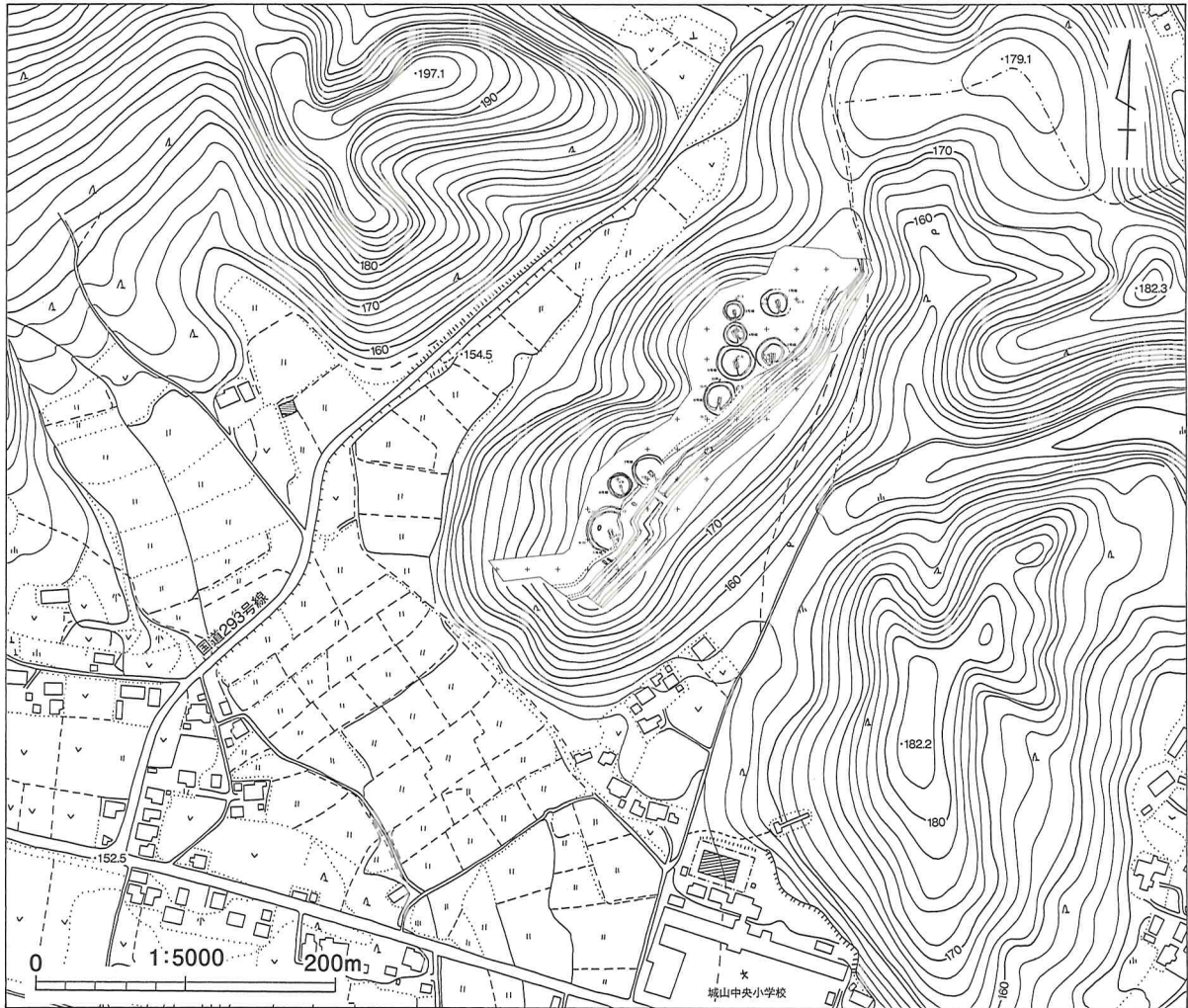
宇都宮市街地の西北西約7km、宇都宮市田野町596-2他に所在する割田遺跡は、民間開発（宅地造成）に伴って発見された埋蔵文化財包蔵地である。遺跡の発見から発掘調査に至るまでの経過は、概ね以下のとおりである。

昭和63年10月：当該地開発事業者である(株)勸業開発より大規模宅地造成（城西ニュータウン）の事業計画が提出される。これに基づき市教育委員会は現地調査を実施したがほとんどが山林のため埋蔵文化財等を確認することはできず、「周辺には登録遺跡が散在することから、開発にあたっては慎重に対応し、遺構・遺物等が出土した場合は直ちに連絡し協議する」旨の意見を付して事前協議とした。

平成2年1月17日：宇都宮市と(株)勸業開発において（仮称）城西ニュータウン開発計画に係る基本協定書が締結され、事前協議の趣旨に従い「新たに埋蔵文化財が発見されたときは市に速やかに通知し、その指導を受ける」旨の条項が明記された。



第1図 遺跡位置図



第2図 調査地区図

平成2年12月頃：造成予定地の伐採が開始される。

平成3年3月：市民より市教育委員会へ、造成地内から古墳や土塁が出ているとの通報が入る。これを受けて直ちに現地調査を実施したところ、伐採が進む造成予定地内において10基ほどの円墳と約200mにおよぶ堀・土塁を確認。市教育委員会は速やかに(株)勸業開発に報告し、今後の取り扱いについての協議を開始する。

平成3年5月：新たに発見された埋蔵文化財について、現状保存等も含めて協議を進めたが、造成地の中心部分であること、伐採工事で痛んだ遺構もあることなどから、発掘調査をして記録保存することのやむなきに至る。なお、発掘調査は市教育委員会が担当し、調査期間は1年間、調査に係る費用については(株)勸業開発が負担することで合意する。

平成4年4月：必要な手続きとともに調査体制を整え、年度当初より発掘調査を開始する。

発掘調査はほぼ1年間継続し、平成5年3月に終了したが、その経過の概要は以下のとおりである。

平成4年4月前半：調査区内の整理と遺構の確認。伐採・抜根工事により散乱した樹木を片付け、調査前の遺構の状況を確認する。この結果、古墳群の方は丘陵の北東部に6基、南西部に3基の合計9基の円墳が確認され、堀・土塁は丘陵尾根上をほぼ縦断していることが判明した。また、調査対象面積が約18,000㎡にも及ぶことから、調査区を北東部（1～6号墳と堀・土塁）と南東部（7～9号墳と堀・土塁）

に分け、2段階で調査を進めることにした。

平成4年4月後半～9月：北東部の調査。古墳群は最も北東に位置する1号墳から順に調査を開始。いずれも横穴式石室を主体部とする小型の円墳で、大部分は後世の攪乱等により損壊を受けていたが、最も大型の5号墳は比較的遺存状態が良く、石室内より多量の鉄器（直刀や鉄鏃）が出土した。また堀・土塁は尾根筋上に築かれたもので、幅約10m・高低差5～6mの急峻な薬研堀が主体となる大規模なものであった。なお、この堀・土塁の築造により、2・5号墳の一部が掘削を受けている。

平成4年10月～平成5年2月：南西部の調査。古墳は7～9号墳の3基で、北東部と同様にいずれも横穴式石室を主体部とする円墳。このうち9号墳は直径25mで、本古墳群中最大であることが判明した。一方堀・土塁の調査では「横矢掛」とみられる「折」と土橋が確認されたが、特に折の位置取りからは9号墳の墳丘を巧みに利用した可能性も考えられた。なお、この堀・土塁の総延長は300m以上に及んでいることが確認された。

平成4年3月：古墳群及び堀・土塁の全体測量、最終写真撮影等を実施し、調査を終了した。

2 遺跡の環境

宇都宮市は関東平野の北端に位置し、北西部には日光・足尾の山地帯が連なっている。本遺跡が立地するのはこの平野部から山地帯に移る変換点付近であり、すぐ北西には古賀志山地から延びる標高376mの多気山が控え、南東方面には姿川によって切り開かれた宝木台地や鹿沼台地といった平野部を見渡すことができる。本遺跡一帯は大谷丘陵と呼ばれる比高の小さい丘陵が連なる丘陵地で、古くから大谷石（凝灰岩）の産地としても知られている。このうち本遺跡を載せるのは、北東から南西に細長く延びた小丘陵で、裾部付近での大きさは長さ約400m・幅200m、比高は約30mを測る。基盤となるのは大谷層と呼ばれる凝灰岩や安山岩を主体とする地層で、表層は関東ローム層（宝木段丘堆積物）で覆われている。

次に本遺跡周辺の遺跡の分布状況であるが、山地帯となる北西部は少ないものの、南東側の姿川及び赤川沿岸には多くの遺跡が所在する。時代毎に概観すると以下のとおりである。

旧石器時代 近隣では上の原遺跡（31）が唯一みられ、黒曜石の細石刃や剥片が採集されている。

縄文時代 各時代を通じて遺跡数は最も多く、発掘調査されたものもいくつかみられる。なかでも1965年に調査された大谷寺洞穴遺跡（11）は、草創期の土器や人骨が出土したことで著名である。また1970年東北自動車道の建設に伴って調査された台耕上遺跡（45）では、縄文中期の竪穴住居跡や袋状土坑等が確認されている。

弥生時代 遺跡数は非常に少なく、時期や内容なども不明な点が多い。

古墳時代 遺跡数は縄文時代に次いで多い。このうち約半数が古墳又は古墳群であるが、いずれも小型の円墳を主体としたものがほとんどであり、前方後円墳等は確認されていない。このうち上の原古墳群（33）は8基の円墳から成る古墳群であるが、1987年に一部調査が実施され、凝灰岩切石を使用した横穴式石室が確認されている。また集落跡では1985年に向山根遺跡（22）が発掘され、古墳時代終り頃の竪穴住居跡が10軒ほど確認されている。

奈良平安時代 古墳時代の集落跡と重複するものが多く、村落が継続して営まれていたものと考えられる。残念ながら近隣での発掘調査例はみられない。

中世 遺跡数は少ないが、いずれも城館跡である。なかでも本遺跡のすぐ北西に位置する多気城跡（8）



第3図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地 (代表地番)	種別	時代	内容その他
1	割田遺跡	宇都宮市田野町596-2	古墳群・城館跡	古墳・中世	円墳9基、堀・土塁 1992年発掘
2	御経塚	宇都宮市新里町461	供養塚	近世	高塚5基
3	白岡遺跡	宇都宮市新里町326	集落跡・供養塚	縄文・近世	供養塚10基
4	岩原城跡	宇都宮市岩原町281-1	集落跡・城館跡	縄文・古墳・中世	
5	岩原神社西遺跡	宇都宮市岩原町242	集落跡	縄文	
6	仁良塚遺跡	宇都宮市宝木本町1769-1	集落跡	縄文・古墳	
7	佐宗前遺跡	宇都宮市田下町100	集落跡	古墳	
8	多気城跡	宇都宮市田下町802-1	城館跡	中世	1991・2009年発掘
9	源道寺遺跡	宇都宮市駒生町3189-1	集落跡	縄文・古墳・奈良平安	
10	瓦作古墳群	宇都宮市大谷町833-2	古墳群	古墳	円墳4基
11	大谷寺洞穴遺跡	宇都宮市大谷町1198	洞穴	縄文・弥生	1965年発掘
12	坂本高塚群	宇都宮市大谷町1119	供養塚	近世	
13	羽黒古墳	宇都宮市大谷町1116-1	古墳	古墳	
14	外和田高塚群	宇都宮市駒生町2616	供養塚	近世	高塚3基
15	日吉遺跡	宇都宮市福岡町1181-1	集落跡	縄文	
16	大光寺遺跡	鹿沼市栃窪646	集落跡	縄文・弥生～奈良平安	
17	蒔内古墳	鹿沼市栃窪192	古墳	古墳	
18	蒔内遺跡	鹿沼市栃窪230	集落跡	縄文・奈良平安	
19	薄地窪遺跡	鹿沼市栃窪448-2	集落跡	縄文・古墳・奈良平安	
20	栃窪石神塚群	鹿沼市栃窪石神	供養塚	近世	
21	栃窪石神遺跡	鹿沼市栃窪42	集落跡	縄文	
22	向山根遺跡	宇都宮市田野町271	集落跡	古墳・奈良平安	1985年発掘
23	境木遺跡	宇都宮市大谷町2012-2	集落跡	縄文・古墳・奈良平安	
24	漆久保遺跡	宇都宮市大谷町1428-2	集落跡	縄文	
25	梅林遺跡	宇都宮市大谷町1425-22	集落跡	縄文・古墳・奈良平安	
26	稲荷前遺跡	宇都宮市駒生町2191	集落跡	奈良平安	
27	天神台古墳	宇都宮市大谷町1993-1	古墳	古墳	
28	宗円塚古墳群	宇都宮市下荒針町1829	古墳群・供養塚	古墳・近世	古墳4基、高塚10基
29	羽下薬師堂裏古墳	宇都宮市下荒針町2650	古墳	古墳	
30	羽下遺跡	宇都宮市下荒針町2386	集落跡	奈良平安	
31	上の原遺跡	宇都宮市大谷町1496-1	集落跡	旧石器・縄文・古墳	
32	上の原高塚群	宇都宮市大谷町1756	供養塚	近世	高塚7基
33	上の原古墳群	宇都宮市大谷町1718-3	古墳群	古墳	円墳8基 1987年発掘
34	上の原南遺跡	宇都宮市大谷町1657	集落跡	縄文	
35	中城跡	宇都宮市駒生町2118	城館跡	中世	
36	千渡又四郎遺跡	鹿沼市千渡257-2	集落跡	縄文・奈良平安	
37	千渡五斗蒔遺跡	鹿沼市千渡2175-1	集落跡	奈良平安	
38	飯岡北遺跡	鹿沼市千渡2181-1	集落跡	縄文・弥生・古墳	
39	荒針高塚群	宇都宮市飯田町777	供養塚	近世	
40	台ノ内遺跡	宇都宮市飯田町786-3	集落跡	縄文	
41	宝性寺跡	宇都宮市飯田町497-1	社寺跡	近世	
42	下荒針西原遺跡	宇都宮市下荒針町2678	集落跡	縄文	
43	サルボ山高塚群	宇都宮市下荒針町2848	供養塚	近世	
44	大久保遺跡	宇都宮市下荒針町2964	集落跡	縄文	
45	台耕上遺跡	宇都宮市下荒針町3029	集落跡	縄文	1970年発掘

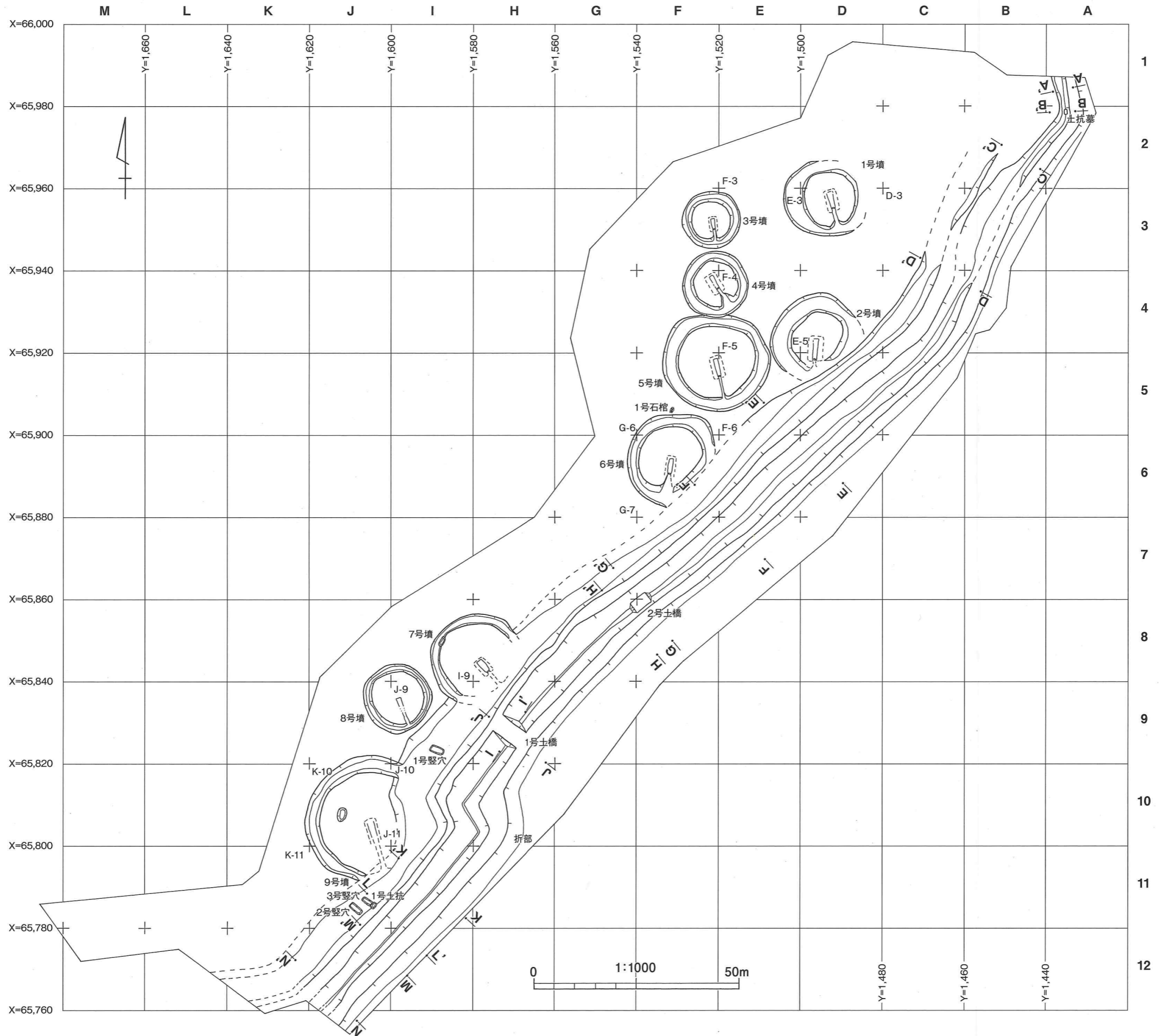
は、多気山全山を城郭とした本県屈指の山城跡である。標高376mの山頂を主郭部として、山肌全体に無数の堀・土塁・曲輪等を施し、山裾には総延長2kmに及ぶ大規模な横堀が外郭として巡らされている。1991・2009年の林道建設に伴う発掘調査では、薬研堀の堅堀や石張りの土塁などが確認されている。

なおこの多気城は、天正年間、宇都宮氏が北条氏の侵攻に備えて構築した軍事拠点で、一時は宇都宮城から本城機能も移したとされる重要な山城である。

近世 遺跡数は一定数みられるが、ほとんどが供養塚の類である。

(参考文献)

- | | | |
|-----------|------|---|
| 宇都宮市教育委員会 | 1983 | 『宇都宮の遺跡—宇都宮市埋蔵文化財等遺跡詳細分布確認調査報告書—』 |
| 宇都宮市教育委員会 | 1983 | 『上の原古墳群・向山根遺跡・二ヶ山遺跡—東京電力西宇都宮変電所等建設に伴う埋蔵文化財包蔵地に関する調査報告—』 |
| 宇都宮市教育委員会 | 1987 | 『向山根遺跡—第2次発掘調査報告—』 |
| 宇都宮市教育委員会 | 1987 | 『上の原8号墳』 |
| 宇都宮市教育委員会 | 1997 | 『多気城跡』 |
| 宇都宮市教育委員会 | 2013 | 『多気城跡II・岡本城跡』 |
| 宇都宮市教育委員会 | 2017 | 『宇都宮市遺跡分布地図』 |



第4图 遺構配置図

II 遺構と遺物

今回の発掘調査では古墳時代の遺構として円墳9基と小石棺1基、また中世の遺構として堀・土塁総延長約200m分が確認された。なお遺構は確認されなかったものの縄文及び弥生時代の遺物も確認されている。

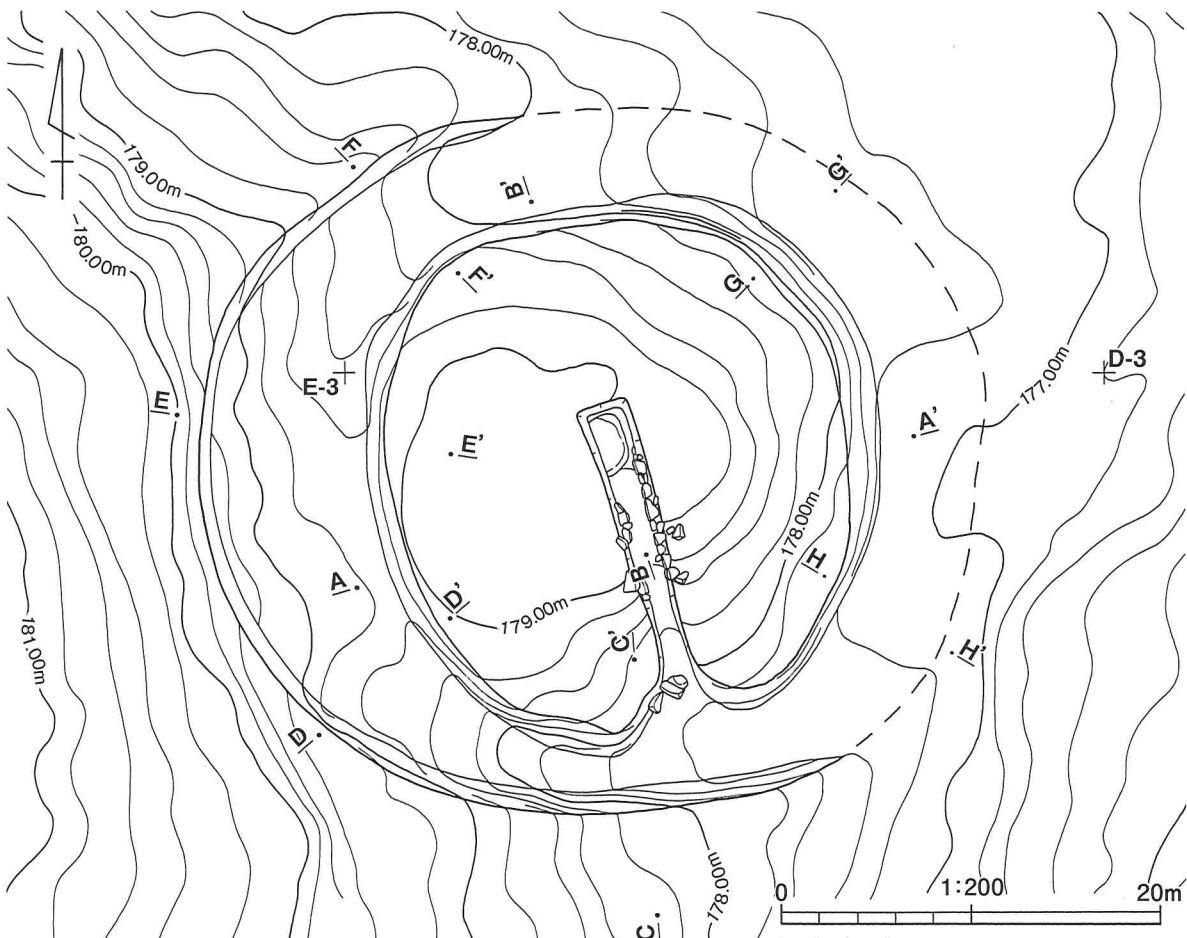
1 古墳

古墳群が確認されたのは、北東から南西に延びる小丘陵の尾根上で、大きく北東群（1～6号墳の6基）と南西群（7～9号墳の3基）に分かれている。これら9基の古墳はいずれも横穴式石室を埋葬主体部とする円墳で、北東の一群は密集度が高く周溝どうしの重複もみられた。現況は全体がほぼ雑木林に覆われていたが、造成工事のための伐採及び伐根が行われ、石室の石材等が散乱するとともに重機やトラックの走行による墳丘損壊も多くみられた。

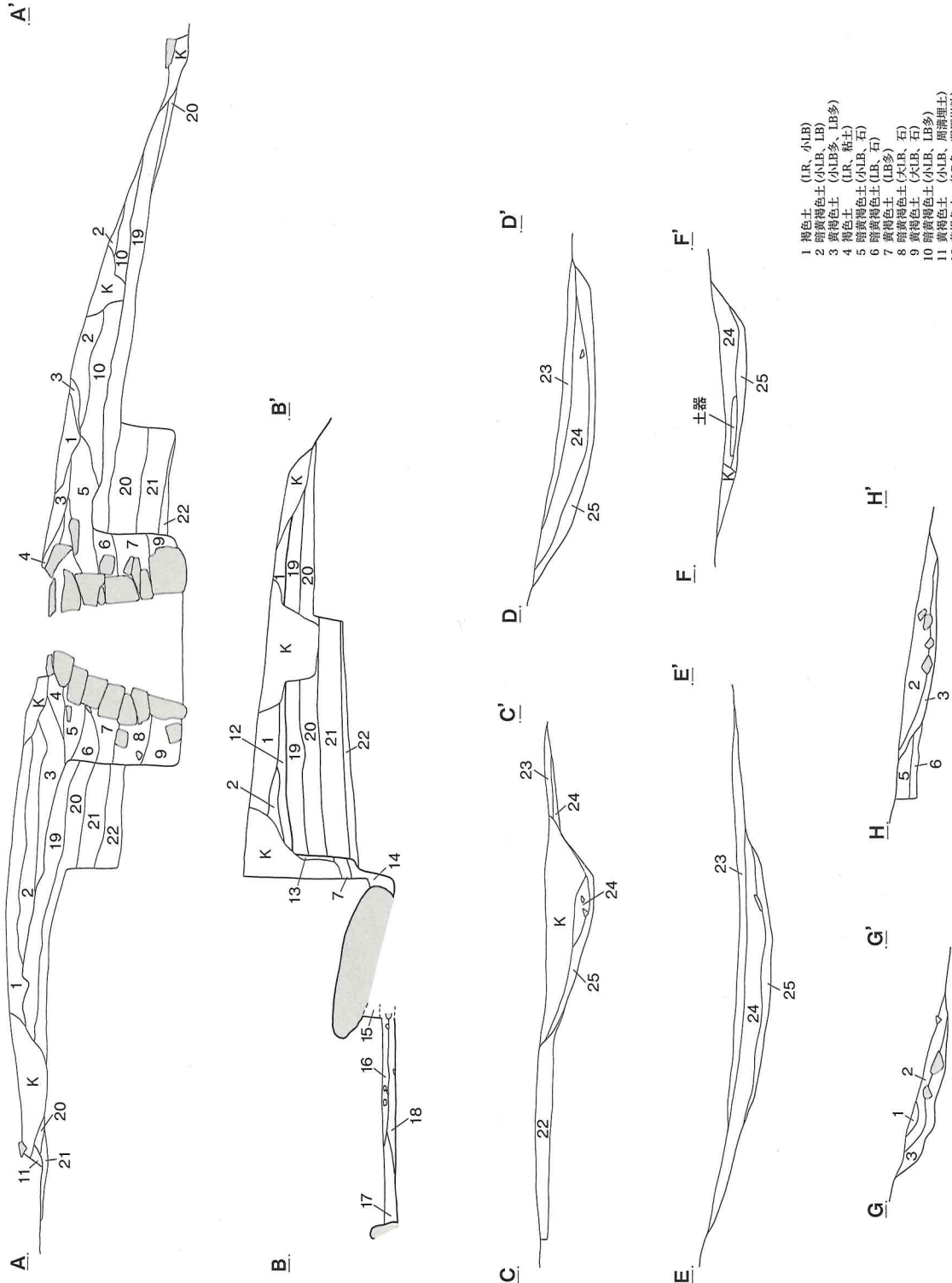
調査はまず古墳群の現況把握と墳丘測量を実施した後、最北部の1号墳から発掘調査を開始した。

(1) 1号墳

位置と現況 北東群中でも最北東端に位置する円墳で、丘陵尾根部の南東斜面、標高178～179m地点に立地する。近隣には西約25mに3号墳、南約30mに2号墳がそれぞれ位置している。現況は山



第5図 1号墳墳丘・周溝測量図



- 1 褐色土 (IR, 小LB)
- 2 暗黄褐色土 (小LB, LB)
- 3 黄褐色土 (小LB多, LB多)
- 4 褐色土 (IR, 粘土)
- 5 暗黄褐色土 (小LB, 石)
- 6 暗黄褐色土 (LB, 石)
- 7 黄褐色土 (LB多)
- 8 暗黄褐色土 (小LB, 石)
- 9 黄褐色土 (小LB, 石)
- 10 暗黄褐色土 (小LB, LB多)
- 11 黄褐色土 (小LB, 周層硬土)
- 12 黄褐色土 (LB多, 凝灰岩配)
- 13 褐色土 (小LB, 凝灰岩配)
- 14 暗黄褐色土 (小LB多)
- 15 褐色土 (LB, 粘土塊, 礫, やわらかい)
- 16 灰褐色土 (粘土塊多, 礫多, LB多, 粘性强)
- 17 黑褐色土 (IR, 小LB, C)
- 18 褐色土 (LB多, 礫少, 粘土塊少)
- 19 黄褐色土 (阳表土)
- 20 黄褐色土 (暗砂層)
- 21 暗黄褐色土 (暗砂層)
- 22 口一土
- 23 黑褐色土 (IR)
- 24 黄褐色土 (LB少, LB少)
- 25 黄褐色土 (LB多, LB多) (AA'·BB) L=179.00m
- (CC) L=178.60m
- (DD) L=179.70m
- (EE) L=179.80m
- (FF) L=178.90m
- (GG) L=178.10m
- (HH) L=177.70m

第6図 1号墳填丘・周溝土層図

林で、直径15m前後・高さ1.8m程の墳丘が確認されたが、表面は伐採のための重機等の走行により傷みが激しく、一部石室石材の散乱もみられた。

墳丘及び外部施設 (第5・6図) 墳丘はほぼ円形で、中心部より南に向かって開口する横穴式石室が構築されている。墳丘規模は周溝内側の立ち上がりで径13.7～14.3m、周溝を含めると18.7～21mと東西方向にやや長い。また墳丘高(残存高)は、墳頂部と周溝底部高低差で、西の山側が0.7m、東の谷側が2.2mである。墳丘盛土は、石室掘方付近で、旧表土上に0.5～0.6mの厚さで積まれた状況が確認されている。盛土はロームブロックを多く含む周溝掘削土が主体であるが、石室上部には粘土を含む層が盛られている。

周溝は幅2.3～5.1m、深さ0.3～0.65mで全体を囲んでいるが、西の山側が幅広で深さもあるのに対して東の谷側は幅狭く、特に外側立ち上がりは不明瞭である。所謂山寄型古墳特有の周溝形状となっている。周溝埋土は概ね3層に大別され、自然埋没である。周溝北西部の一角では、中層～上層から土師器の甕片がまとまって出土している。また東の谷側周溝内の下層からは、石室構築材の一部とみられる礫の集積が数カ所で確認されている。

墓道は全長約3.5m、幅0.7～0.9m、深さ0.5m前後で地山を掘り込んだもので、周溝への取り付け部では大きく「ハ」の字状に開いている。断面は逆台形で、底面はほぼ平坦である。埋土は自然堆積で周溝より粘質でやや締りがある。周溝への取り付け部付近の埋土上層からは、7点分の土師器坏・埴がまとまって出土している。

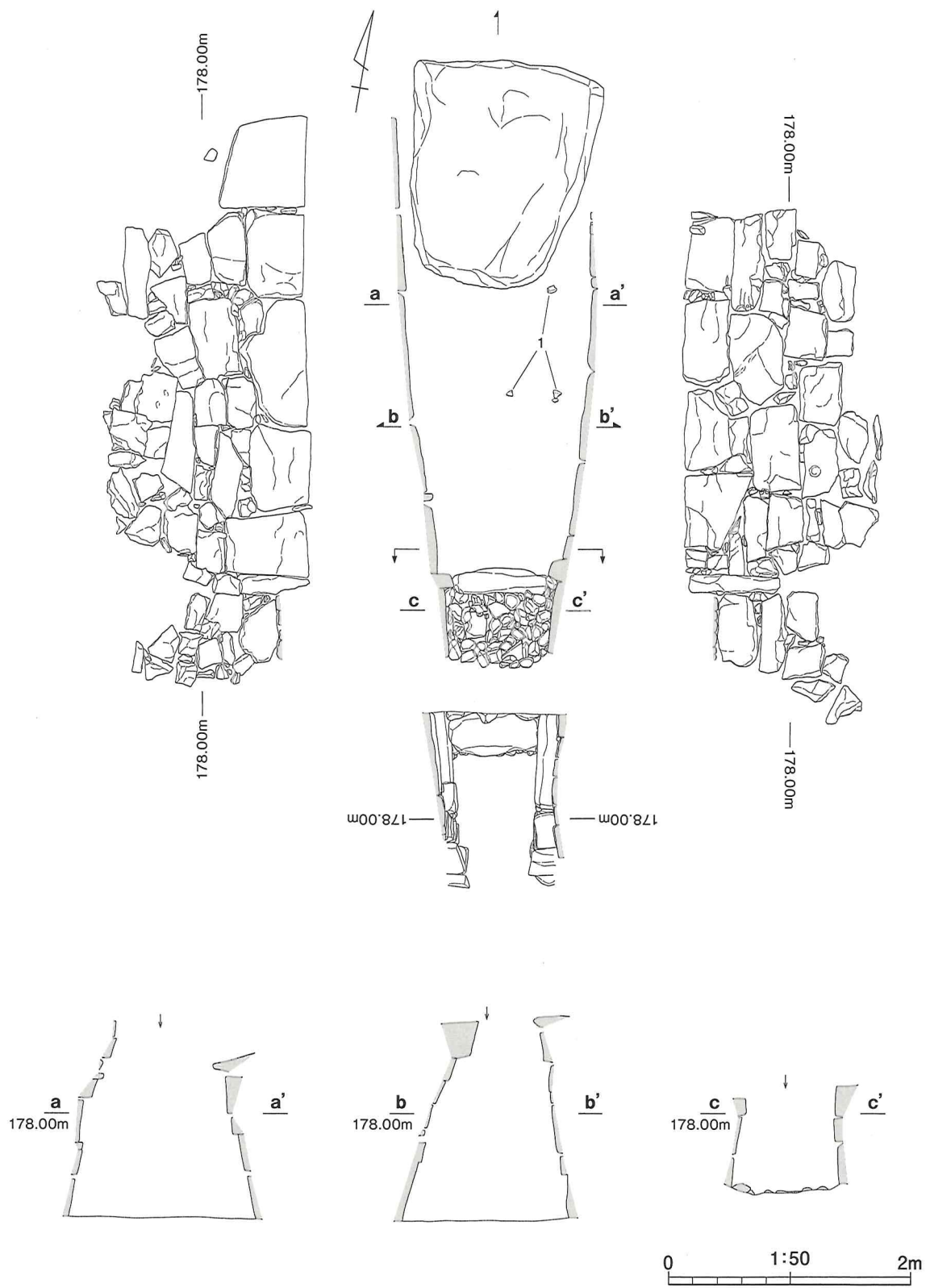
なお本墳からは葺石・埴輪等の外部施設は確認されていない。

埋葬主体部 (第7・8図) 石室は天井石がすべて失われ奥壁の鏡石が前倒しとなっていたが、遺存する両側壁及び玄門等の形状から両袖型の横穴式石室と思われる。石室構造は半地下式で、旧地表面より長さ5.2m・幅2.8m・深さ1.1～1.4mで掘り込まれた長方形土坑内に、玄室と羨道が一体で築かれたものである。石室全長は約4.95mで、主軸方位はN-17°-Wを示す。

玄室は長さが4.13m、幅は奥が1.54m(推定)、玄門側が1.02mで、長方形バチ型の両袖式である。奥壁は凝灰岩の一枚石で、長さ(高さ)1.85m、幅1.05～1.58m、厚さ30～45cmで、内面はほぼ平滑に加工されている。側壁は多気山周辺に分布する安山岩(地元では田下石とも呼ばれる)の割石(削石)積みである。割石は直方体のものが使用され、基本的に基部から中段にかけては大型のもの、上部に行くに従って小型のものが配されている。基部の割石はもともと大型(幅70～100cm、高さ40～70cm)で、両側とも5枚で揃えた可能性が高い。これらは横積みの基本であるが、西壁最奥部の割石は平面を内側に向けて立て、裏込めで安定させている。上部は小型(幅30～50cm、厚さ20～35cm)の割石を中心とした小口積みで、持ち送りを強めている。

玄門には凝灰岩の柱状(厚さ10～20cm)割石が使用されている。両側壁に組み込まれた立柱石は高さ80cm前後で、内側に12～13cm突出し、両立柱石間の基部には幅76cm、高さ34cmの框石が据えられている。さらに両立柱石上には楣石が載っていたものとみられるが、これらから推定される玄門の間口は、幅62～68cm、高さ50cm弱である。なお玄室床面からは玉石・礫等が全く確認されず、地山のローム面であった可能性が高い。

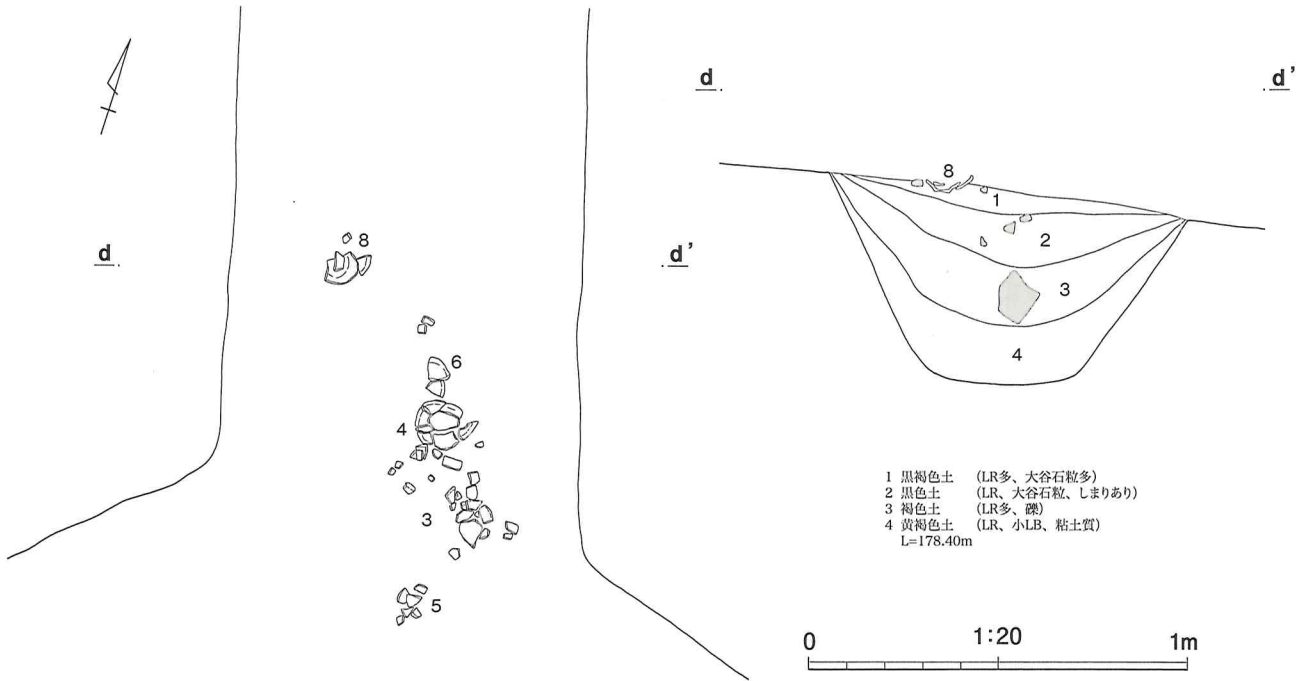
羨道は長さ62cm、幅78～90cmで、床面は玄室床面より30cm高く、墓道底面より25cm低い。側壁は玄室よりやや小ぶりの安山岩の割石積み、床面は凝灰岩の小礫(10～20cm)が敷詰められている。



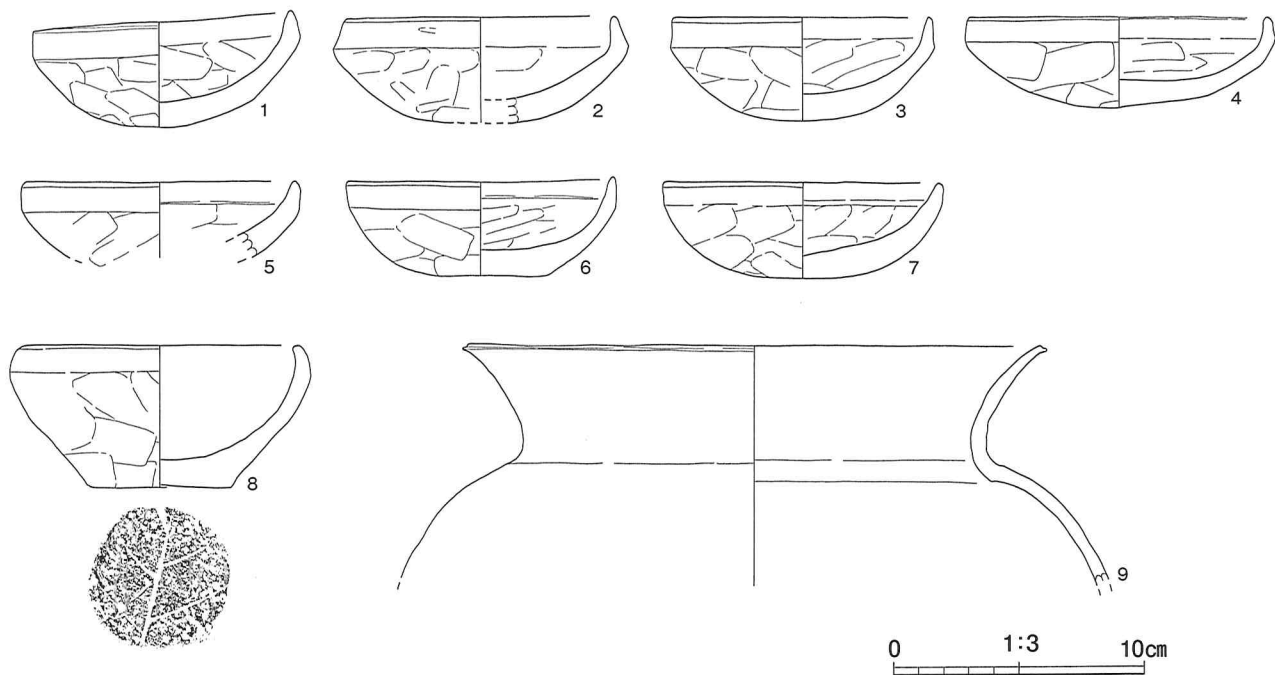
第7图 1号墳横穴式石室

出土遺物 (第9図・第2表)

出土したのはいずれも土器で、図示し得たのは土師器の坏7点・埴1点・甕1点である。土師器坏1は玄室床面から出土した3点の破片が接合したものである。土師器坏2～7及び埴8は墓道入口部の埋土上層から破片でまとまって出土したもので、破碎されたものとみられる。土師器甕9は北西部周溝の埋土下層から破片で出土したものである。



第8図 1号墳墓道遺物出土状況



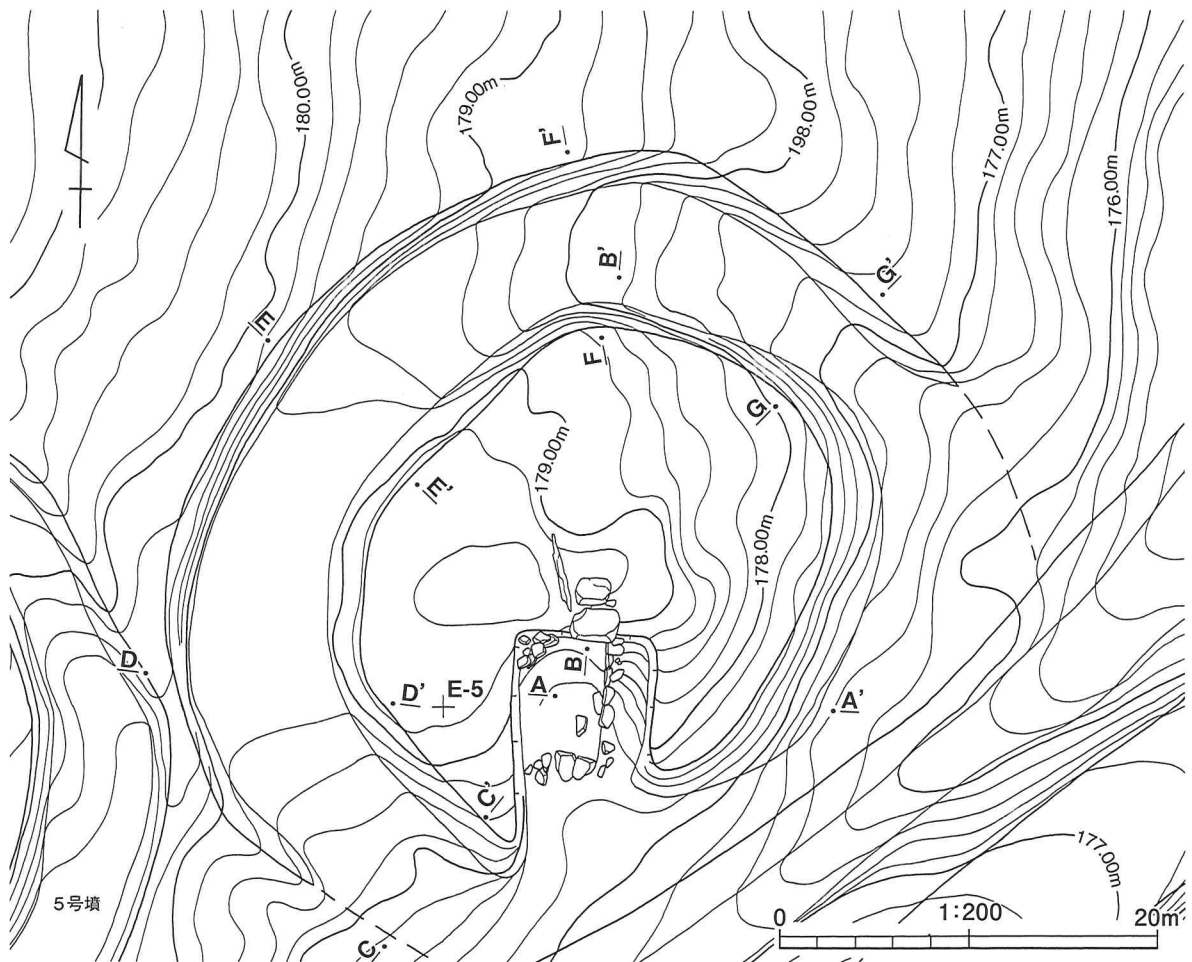
第9図 1号墳出土遺物

(2) 2号墳

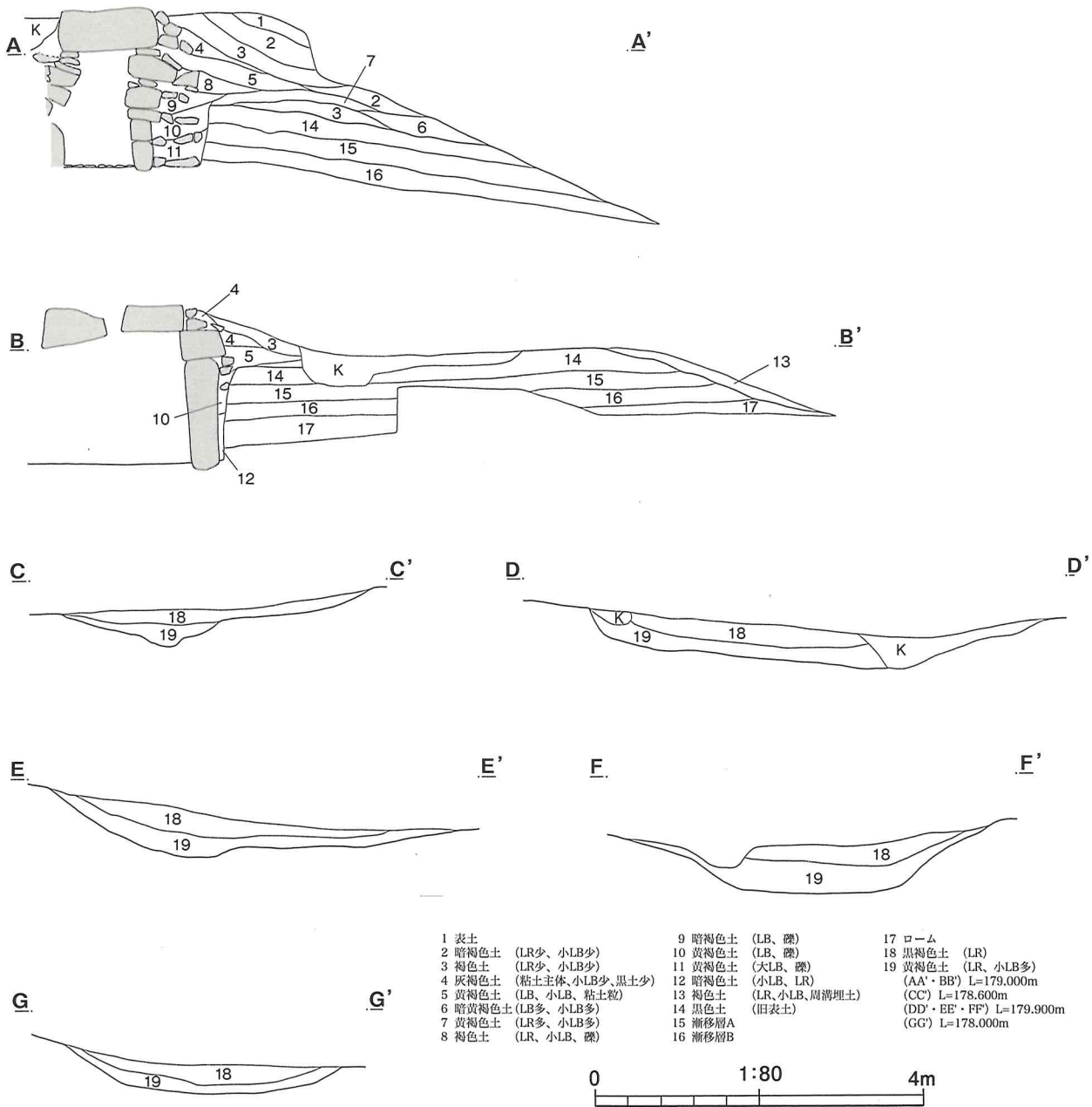
位置と現況 北東群中の中ほど東寄りに位置する円墳。立地は丘陵南東斜面上で、標高176～178mと古墳群中で最も低い地点に位置する。すぐ西側には5号墳が位置し、周溝間は僅か数十cmまで隣接している。また、南東側には中世の堀・土塁が近接して築かれており、これによって横穴式石室羨道・墓道及び周溝の一部が破壊を受けたものとみられる。現況は山林で、直径17m前後・高さ2.2m程の墳丘が確認されたが、表面は伐採のための重機等の走行により傷みが激しく、石室石材等の散乱も多くみられた。

墳丘及び外部施設 (第10・11図) 墳丘はやや歪んだ円形で、中心部より南に向かって開口する横穴式石室が構築されている。墳丘規模は周溝内側の立ち上がりで径12.8～15.2m、周溝を含めると長手方向(南西から北東)で22.2mを測る。また墳丘高(残存高)は、墳頂部と周溝底部高低差で、北西の山側が0.6m、南東の谷側が2.9mである。墳丘盛土は、石室掘方西側付近で、旧表土上に1～1.2mの厚さで積まれた状況が確認されている。盛土はロームブロックを多く含む周溝掘削土が主体であるが、天井石付近には粘土を多く含む層が盛られている。

周溝は幅3.5～5.2m、深さ0.2～0.65mで全体を囲んでいたものとみられるが、南東谷側は特に外側立ち上がりが不明瞭であるとともに、中世の堀・土塁による掘削でかなり消失したものと思われる。周溝埋土は概ね2層に大別され、自然埋没である。墓道は大部分が中世の堀・土塁によって削平され



第10図 2号墳墳丘・周溝測量図



第11図 2号墳墳丘・周溝土層図

ていたが、羨道入口部に僅かに底面の一部が残存しており、それから推測すると幅は羨道と同じく0.7m前後で、地山を溝状に掘りぬいたものであったとみられる。

なお本墳からは葺石・埴輪等の外部施設は確認されていない。

埋葬主体部(第12図) 石室は南半部が大きく破壊されていたが、遺存する両側壁・床面及び玄門等の形状から両袖型の横穴式石室と思われる。石室構造は半地下式で、旧地表面より長さ約6.0m・幅3.6m・深さ1.2mで掘り込まれた長方形土坑内に、玄室と羨道が一体で築かれたものである。石室全長は約5.5mで、主軸方位はN-3°-Eを示す。

玄室は長さ4.87m・幅1.22mの細長い長方形。側壁は直線的で、胴張りはみられない。奥壁は安山岩の巨石を2段に積んだもので、高さは1.50m、幅は基底部で1.20m、天井部で約0.7mに持ち送られている。下段の奥壁は長さ(高さ) 1.15m、幅0.8~1.2m、厚さ35~40cmの巨石で、内面はほぼ



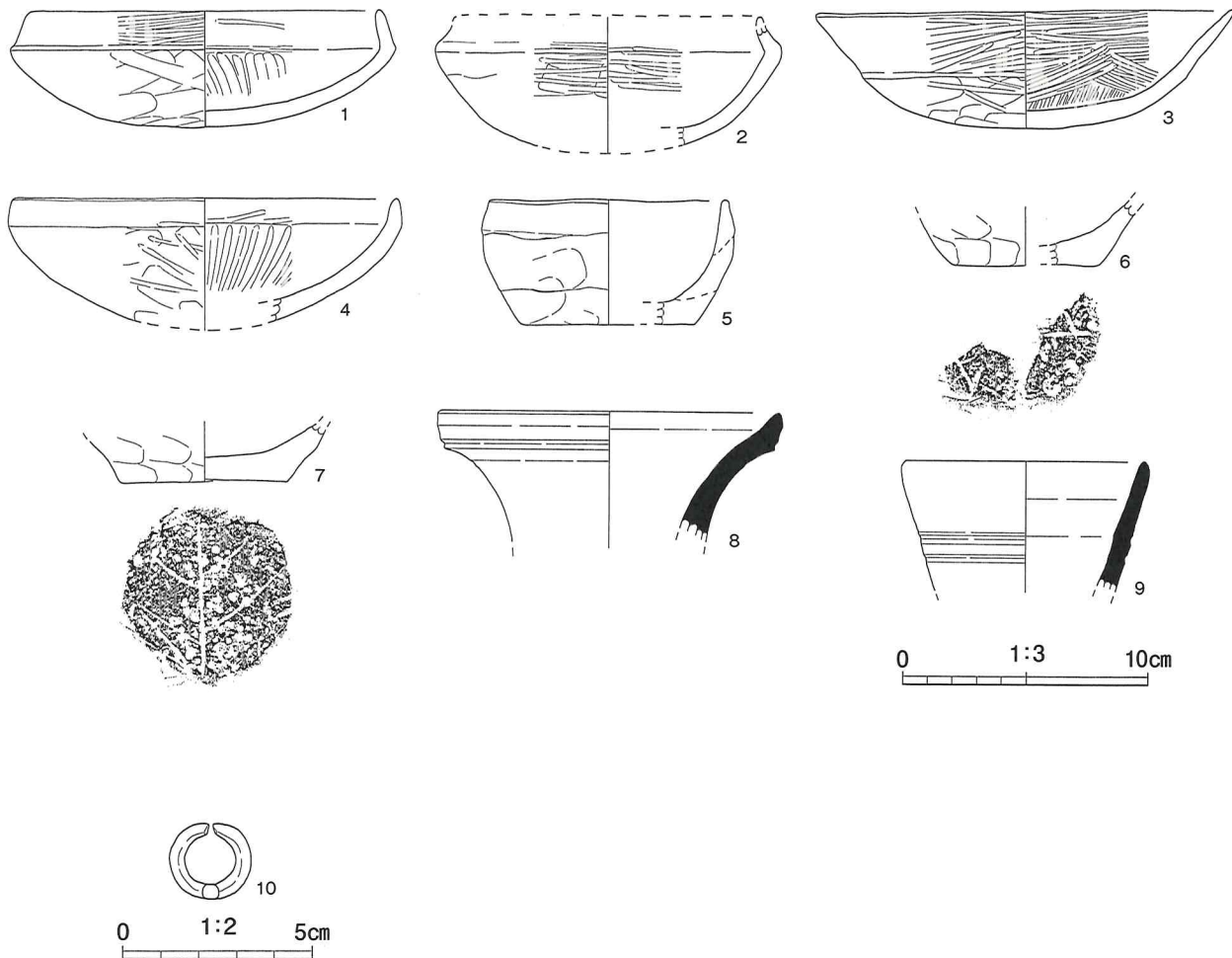
第12图 2号墳横穴式石室

平滑に加工されている。側壁も残存部分はすべて安山岩の割石(削石)積みである。割石は直方体のものが使用され、基本的に基部から中段にかけては大型のもの、上部に行くに従って小型のものが配されている。基部の割石は幅60～90cm、高さ30～70cmの大型で、横又は縦に積まれ裏込めで安定させている。上部は小型(幅30～50cm、厚さ20～35cm)の割石を中心とした小口積みで、持ち送りを強めている。玄室床面は10～20cm程の剥片を密に敷き詰めたものであるが、安山岩と凝灰岩が半々ほどの割合で使用されている。天井石は奥の2枚が残されていたが、いずれも安山岩で、最奥のものは長さ1.3m、幅0.85m、厚さ35～40cmの大型割石である。

玄門部は恐らく組み合わせ式のものであったと思われるが、立柱石・框石等は確認されていない。羨道は両側の基部に使用されたと思われる安山岩の割石が残されており、幅約0.7m、長さ0.6～0.7の小規模なものであったものとみられる。なお床面には玄室と同種なものが荒く敷かれている。

出土遺物(第13図・第3表)

出土したのは土器と装身具で、図示し得たのは土師器の坏4点・手捏ね1点・甕2点、須恵器の壺1点・瓶1点および金銅製耳環1点である。土師器坏1と須恵器瓶9は石室付近の攪乱坑から出土したものである。土師器坏2・3・4及び須恵器壺8は中世の堀・土塁によって崩された墓道(前庭部)付近から採集されたものである。金銅製耳環10は玄室中程のやや東寄り、床面直上からの出土である。



第13図 2号墳出土遺物

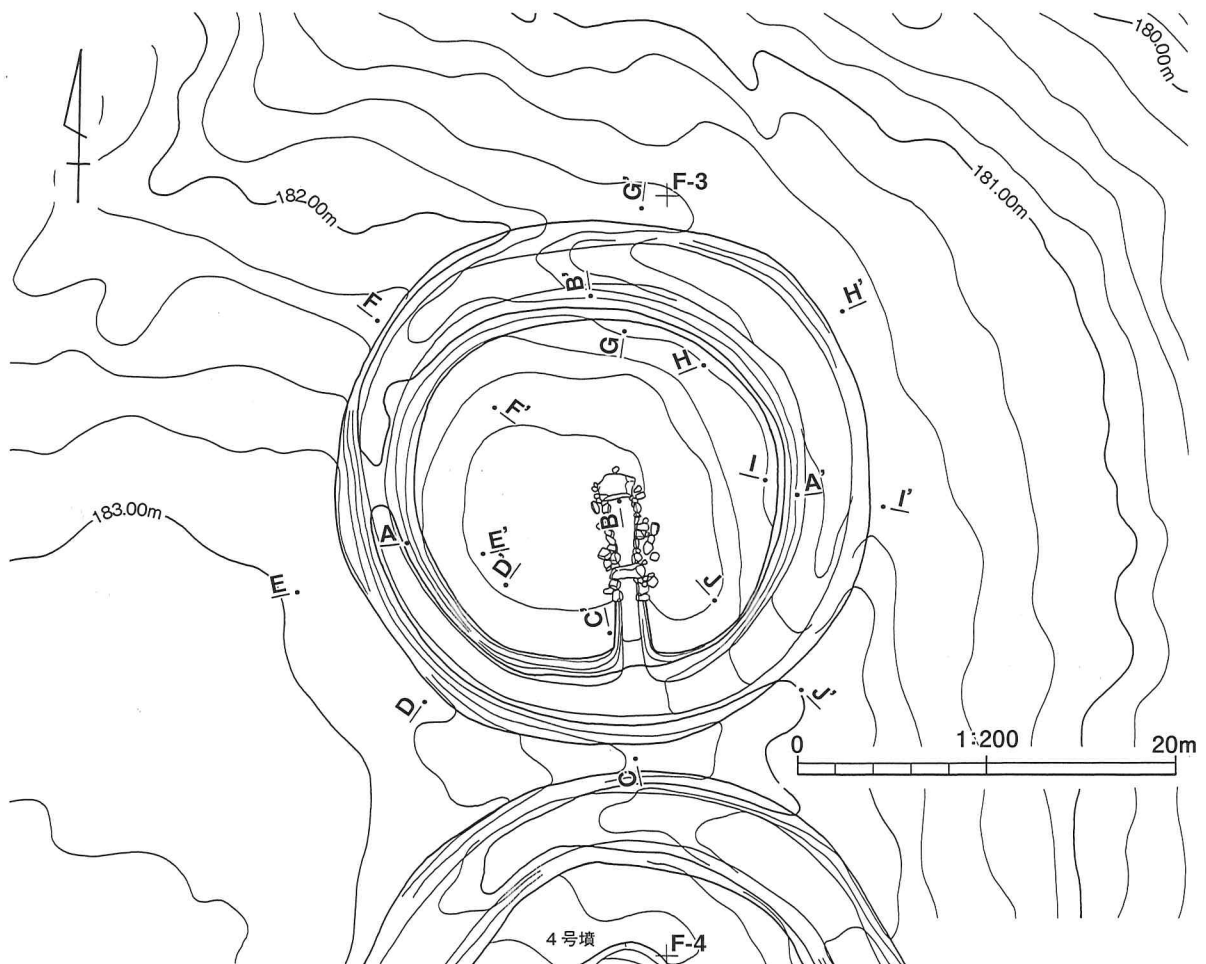
(3) 3号墳

位置と現況 北東群中最も小型の円墳で、1号墳とともに北端部に位置する。立地は丘陵尾根の頂部付近で北斜面を望み、標高は182m前後と古墳群中で最も高い。南には4号墳が僅か50～60cmの距離に近接し、約10m東には1号墳が位置している。現況は山林で、直径12～13m・高さ1.2m程の墳丘が確認されたが、表面は伐採のための重機等の走行により傷みが激しく、石室の天井石が一部露呈していた。

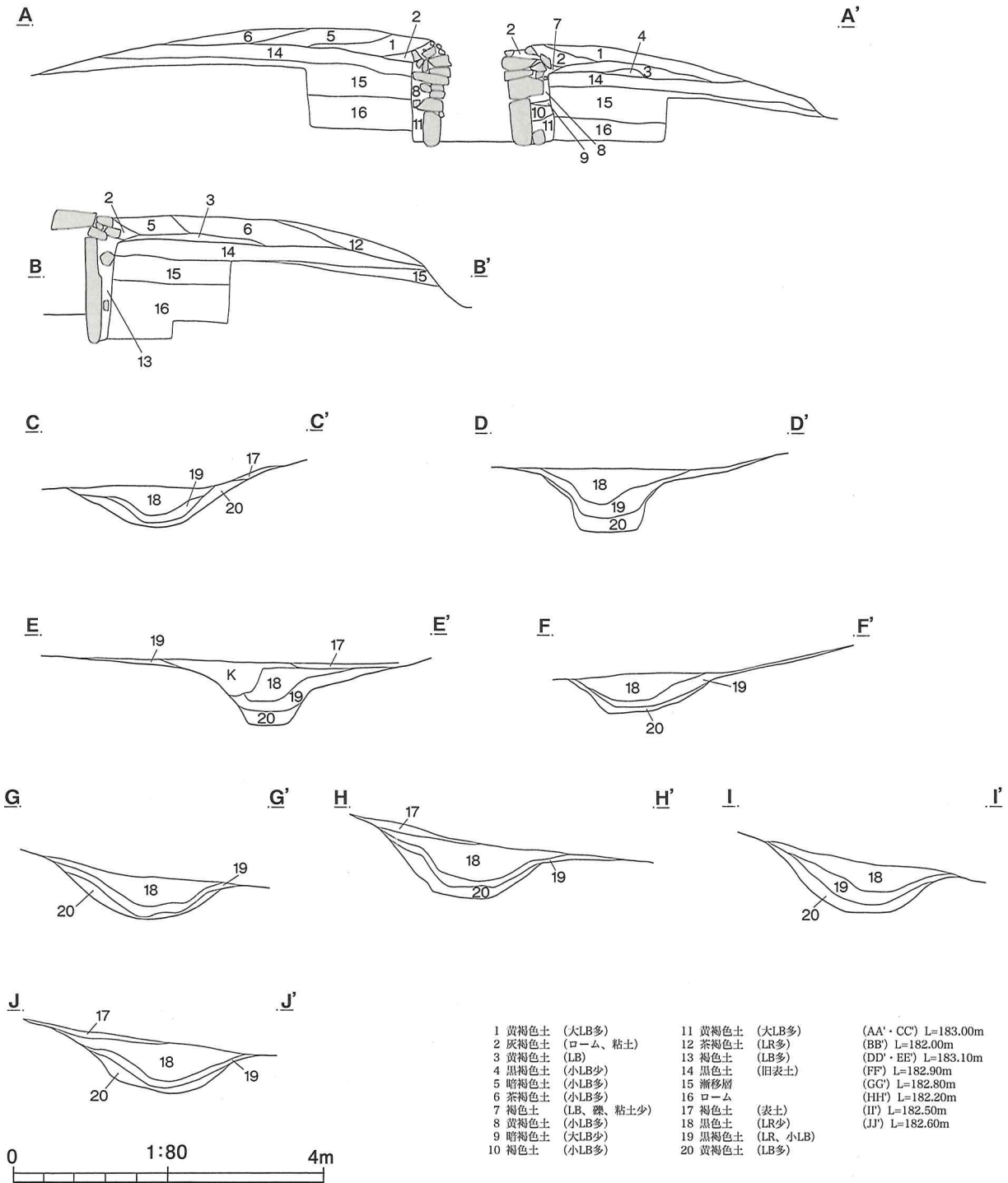
墳丘及び外部施設 (第14・15図) 墳丘は東西方向が僅かに長い円形で、中心部より南に向かって開口する横穴式石室が構築されている。墳丘規模は周溝内側の立ち上がりで径10.5～11.1m、周溝を含めても長手方向(南西)で14.1mとかなり小規模である。また墳丘高(残存高)は、墳頂部と周溝底部の最大高低差(北東側)で1.7mである。墳丘盛土は、石室掘方付近で、旧表土上に0.3～0.4mの厚さで積まれた状況が確認されている。盛土はロームブロックを多く含む周溝掘削土が主体であるが、天井石付近には粘土を多く含む層がみられる。

周溝は幅1.9～2.9m、深さ0.35～0.82mで全体を囲んでおり、掘方も明瞭である。周溝埋土は概ね3層に大別され、自然埋没であるが、最下層にはロームブロックの混入が目立っている。

墓道は全長約1.5m、幅0.7～0.9m、深さ0.3～0.5m前後で地山を掘り込んだもので、ほぼそのまま周溝に取り付けられている。断面は逆台形で、底面はほぼ平坦である。埋土は自然堆積で周溝より



第14図 3号墳墳丘・周溝測量図

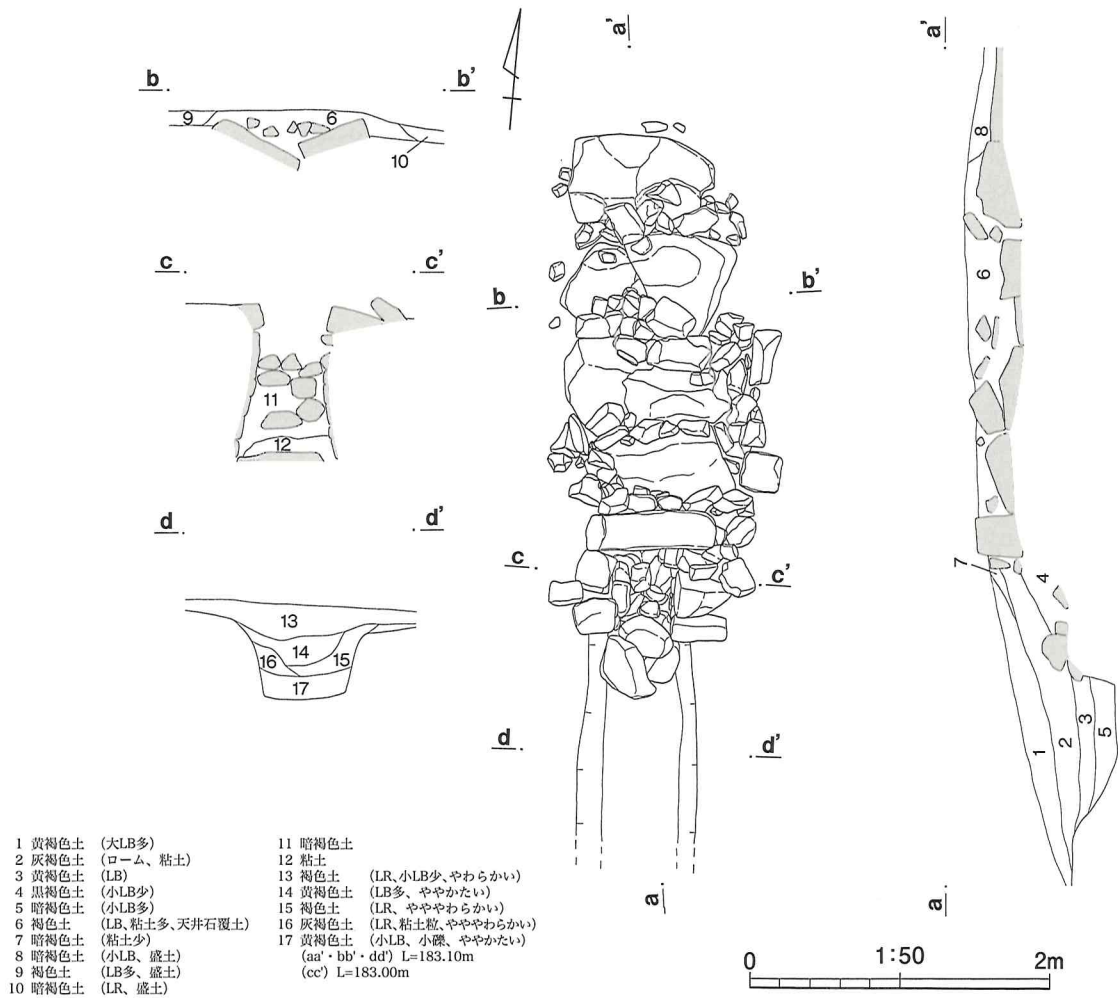


第15図 3号墳墳丘・周溝土層図

やや締りがある。

なお本墳からは葺石・埴輪等の外部施設は確認されていない。

埋葬主体部 (第16・17図) 石室は天井石が一部陥没していたもののほぼ全体が遺存しており、両側壁及び玄門等の構造から無袖型の横穴式石室と思われる。石室構造は半地下式で、旧地表面より長さ約3.5m・幅1.8m・深さ0.8～1.2mで掘り込まれた長方形土坑内に、玄室と羨道が一体で築かれたものである。石室全長は3.05mで、主軸方位はN-5°-Wを示す。



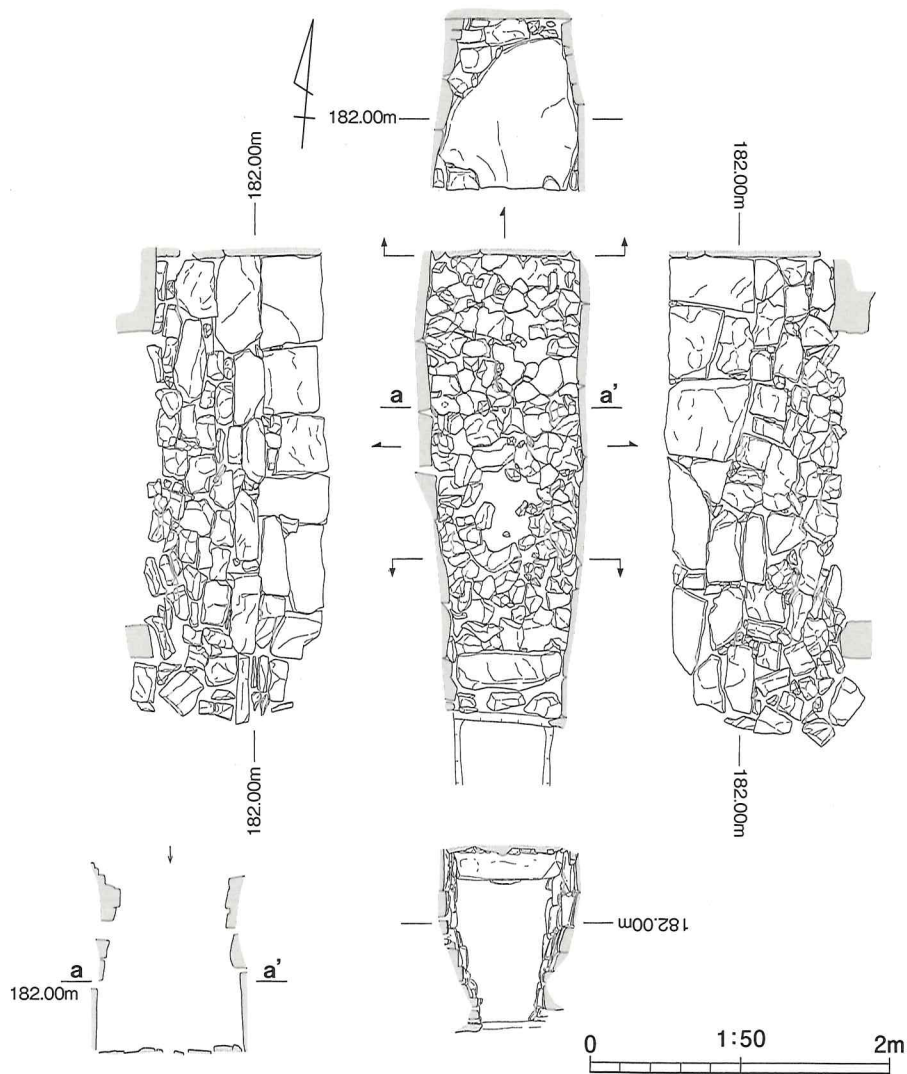
第16図 3号墳石室・墓道確認状況

玄室は長さが2.62m、幅は奥壁部で1.0m、玄門部で0.78m。平面形はややバチ型の長方形で、胴張りはみられない。奥壁は安山岩の一枚石を中心に据え、天井部との隙間をブロック状の割石で埋めたもので、高さは1.1m、幅は基底部で1.0m、天井部で約0.7mに持ち送られている。奥壁一枚石は長さ(高さ)0.95m、幅0.9m、厚さ約25cmの巨石で、内面はほぼ平滑に加工されている。側壁もすべて安山岩の割石(削石)積みで、基本的に基部から1~2段は大型のもの、上部に行くに従って小型のものが配されている。基部の割石は幅40~60cm、高さ30~50cmの大型で、横又は縦に積まれ裏込めで安定させている。上部は小型(幅20~40cm、厚さ15~30cm)の割石を中心とした小口積みで、持ち送りを強めている。玄室床面は10~20cm程の凝灰岩剥片を密に敷き詰めたものである。天井石は安山岩の巨石4枚で、最奥のものは長さ1.0m、幅0.6m、厚さ20~30cmの大型割石である。

玄門は両側の立柱石を持たずに、底面を框石(長さ70cmで、一辺20cmの角柱状)で仕切り、楣石(長さ85cmで、一辺25cmの角柱状)が側壁上端に直に渡されたものであり、いずれも安山岩の割石が用いられている。これらによる玄門の間口は、幅70cm、高さ92cmである。

羨道は全長40cm程の非常に短いものである。床面は框石により玄室より20cmほど高く、安山岩の小型割石が敷かれている。側壁は安山岩の割石積みで、玄門部と一体で積まれたものである。なお羨道部は15~30cmの安山岩割石で閉塞されていた。

出土遺物は確認されていない。

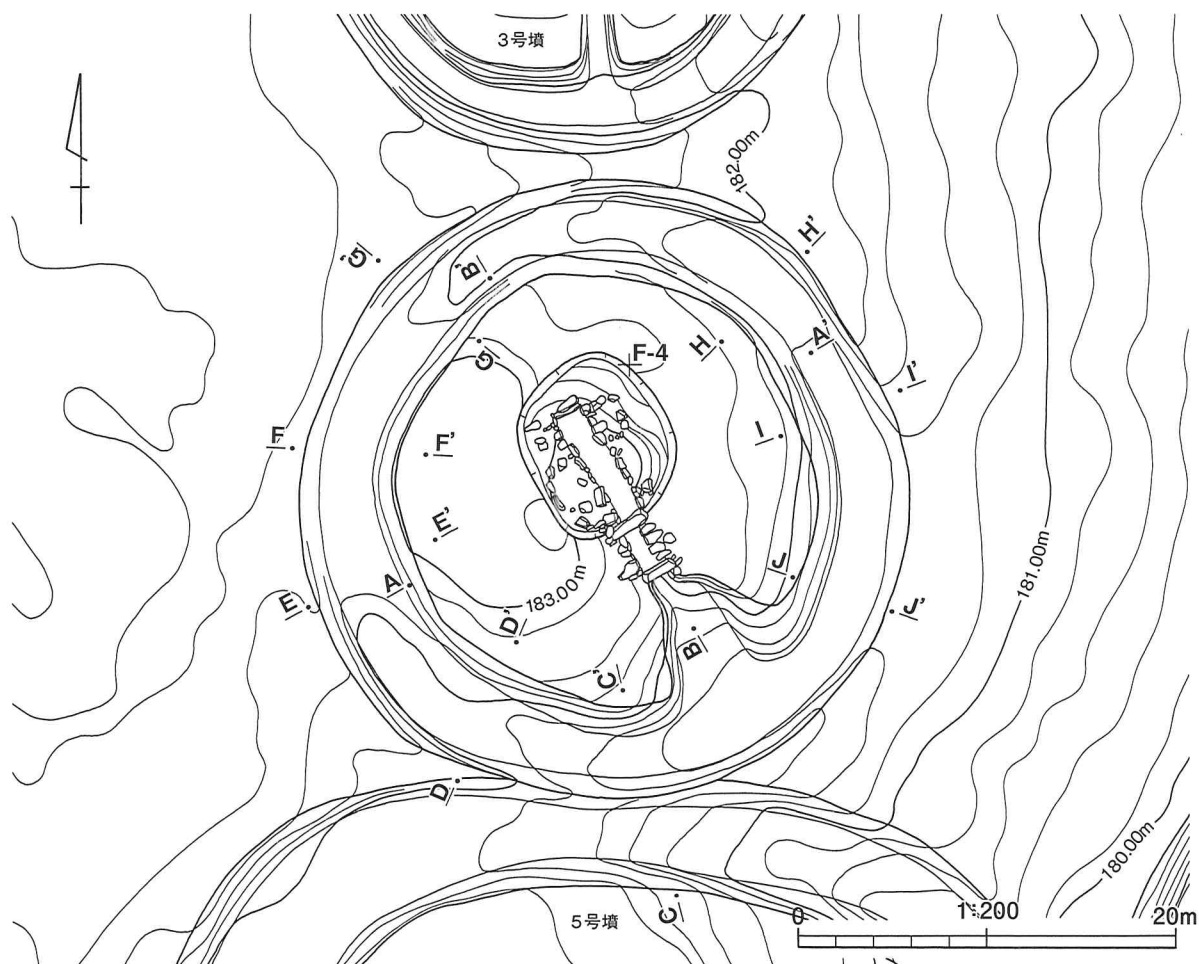


第17図 3号墳横穴式石室

(4) 4号墳

位置と現況 北東群中の中央部に位置する円墳で、丘陵尾根上から南東に下がる緩斜面上に立地する。標高は181～182m前後で、古墳群中では高所である。本墳は3号墳と5号墳の丁度中間に位置するが、5号墳とは周溝が重複関係にあり、本墳の方が切っていることが確かめられている。現況は山林で、直径12～13m・高さ1.5m程の墳丘が確認されたが、表面は伐採のための重機等の走行により傷みが激しく、石室の天井石が一部露呈していた。

墳丘及び外部施設 (第18・19図) 墳丘はやや多角形(六角か?)気味の円形で、中心部より南南東に向かって開口する横穴式石室が構築されている。墳丘規模は周溝内側の立ち上がりで径11.9～12.4m、周溝を含めると長手方向(南北)で16.3mである。また墳丘高(残存高)は、墳頂部と周溝底部の最大高低差(南西側)で2.1mである。墳丘盛土は、石室掘方付近で、旧表土上に約0.4mの厚さで積まれた状況が確認されている。盛土はロームブロックを多く含む周溝掘削土が主体であるが、天井石付近には粘土を含む層がみられる。



第18図 4号墳墳丘・周溝測量図

周溝は幅2.4～2.8m、深さ0.6～0.75mで全体を整美に圍繞するが、特に内側立ち上がり線は横穴式石室を主軸として六角形を意識したようにもみられる。周溝埋土は自然埋没で、概ね3層に大別され、最下層にはロームブロックの混入が目立っている。

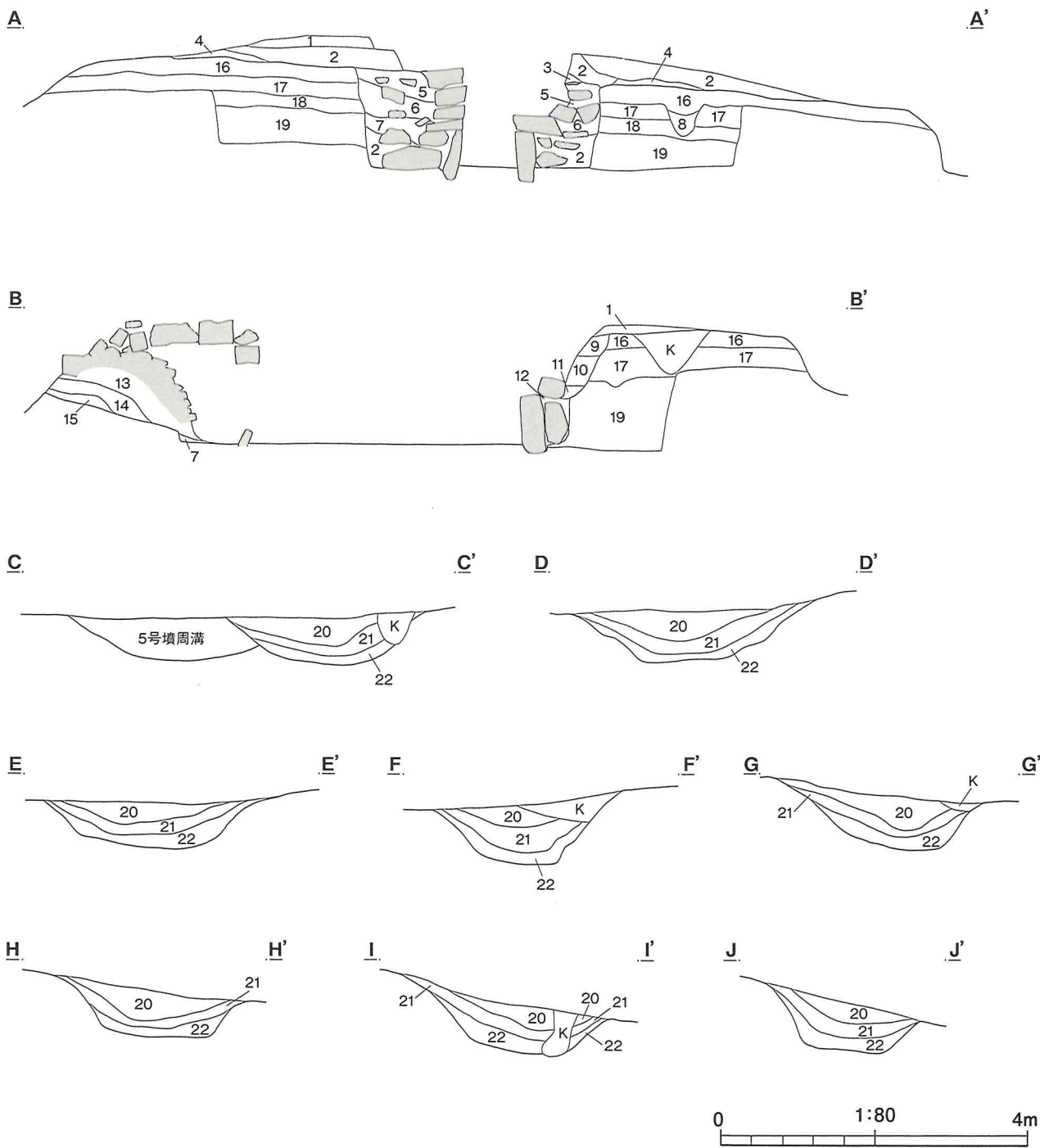
墓道は羨門から「ハ」の字状に地山を掘り込んで周溝に取り付けたもので、幅は羨門部で0.75m、周溝取り付け部で約3.5m、長さは約3.0mである。底面はほぼ平坦で、周溝に向かって緩やかに下っている。

なお本墳からは葺石・埴輪等の外部施設は確認されていない。

埋葬主体部 (第20・21図) 石室は盗掘にあったものとみられ、天井石がすべて失われるとともに奥壁・側壁とも上半部が大きく破壊を受けているが、両側壁及び玄門等の構造から無袖型の横穴式石室とみられる。

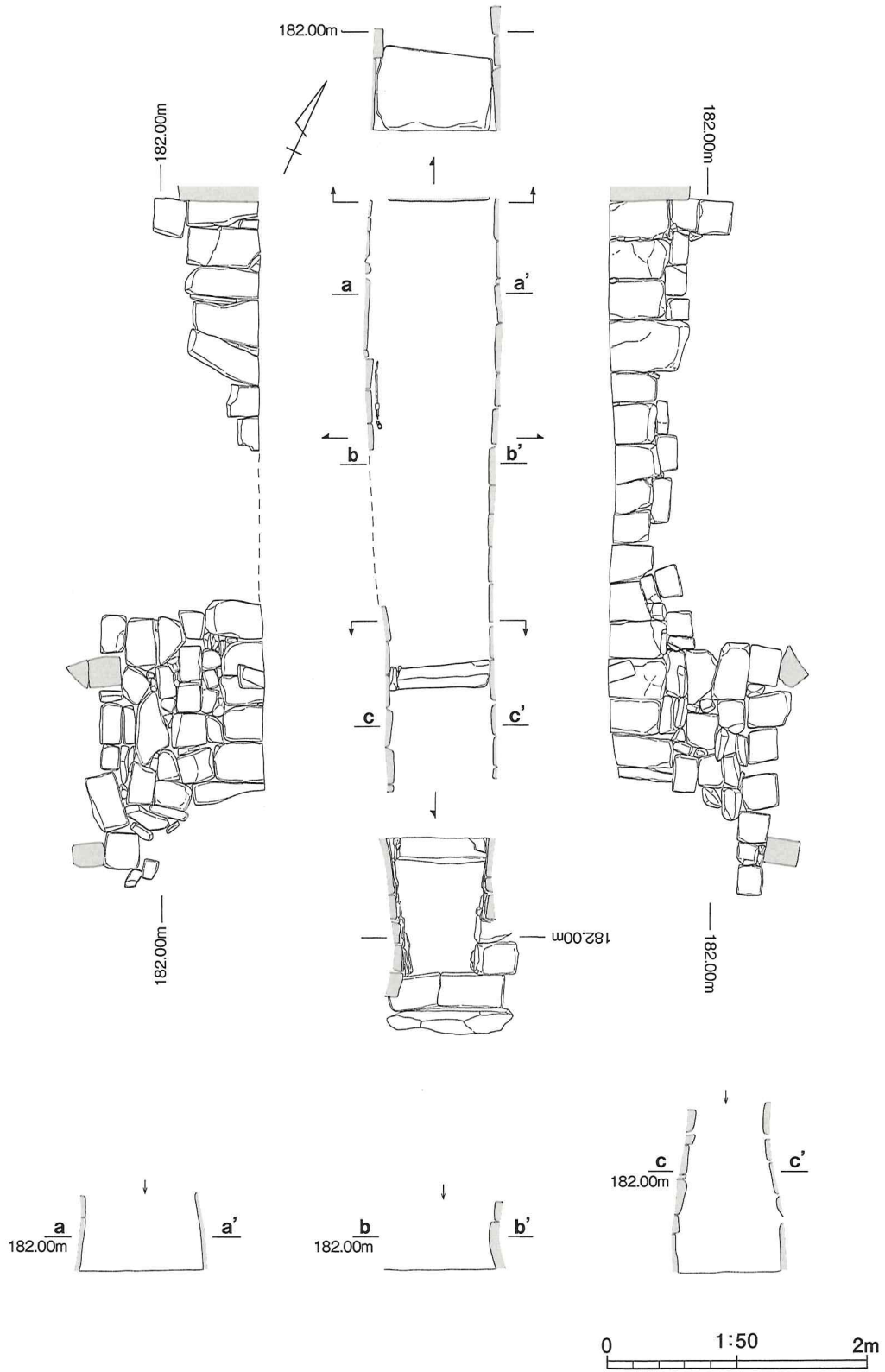
石室構造は半地下式で、旧地表面より長さ約5.1m・幅3.2m・深さ0.9～1.45mで掘り込まれた長方形土坑内に、玄室と羨道が一体で築かれたものである。石室全長は4.5mで、主軸方位はN-29°-Wを示す。

玄室は長さが3.54m、幅は奥壁部で0.95m、玄門部で0.78m。平面形はややバチ型の長方形で、胴張りはみられない。奥壁は下半部に使用された安山岩の巨石が残されている。大きさは幅90cm、高さ65cm、厚さ25～35cmで、内面はほぼ平滑に仕上げられられている。上半部にどのような石材が積み



- | | | |
|------------------|--------------------------|---------------------|
| 1 暗褐色土 (小LB) | 11 黄褐色土 (LB多) | 21 暗褐色土 (LR, 小LB多) |
| 2 黄褐色土 (LB多) | 12 黄褐色土 (LB) | 22 黄褐色土 (LB多) |
| 3 灰褐色土 (小LB、粘土) | 13 暗褐色土 (LR、やわらかい) | (AA'・BB') L=183.00m |
| 4 褐色土 (小LB少) | 14 暗褐色土 (小LB多、かたい、しまりあり) | (CC) L=182.50m |
| 5 褐色土 (小LB多) | 15 黄褐色土 (LB、かたい、しまりあり) | (DD) L=182.80m |
| 6 暗褐色土 (小LB) | 16 黒色土 (旧表土) | (EE'・FF) L=183.10m |
| 7 黄褐色土 (LB) | 17 漸移層A | (GG) L=182.60m |
| 8 褐色土 | 18 漸移層B | (HH) L=182.30m |
| 9 黒褐色土 (LR) | 19 コーム | (II'・JJ') L=182.10m |
| 10 褐色土 (LR, 小LB) | 20 黒褐色土 (LR, 小LB少) | |

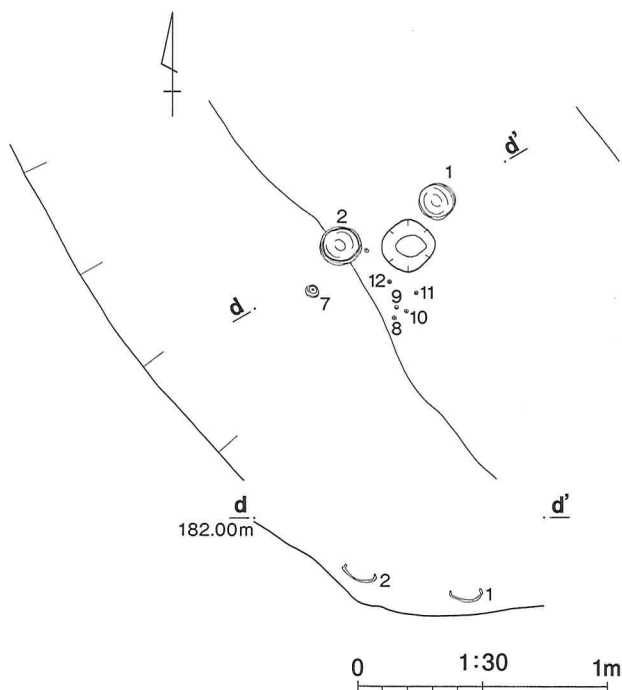
第19図 4号墳墳丘・周溝土層図



第20图 4号墳横穴式石室



第21図 4号墳羨道・閉塞状況



第22図 4号墳周溝内遺物出土状況

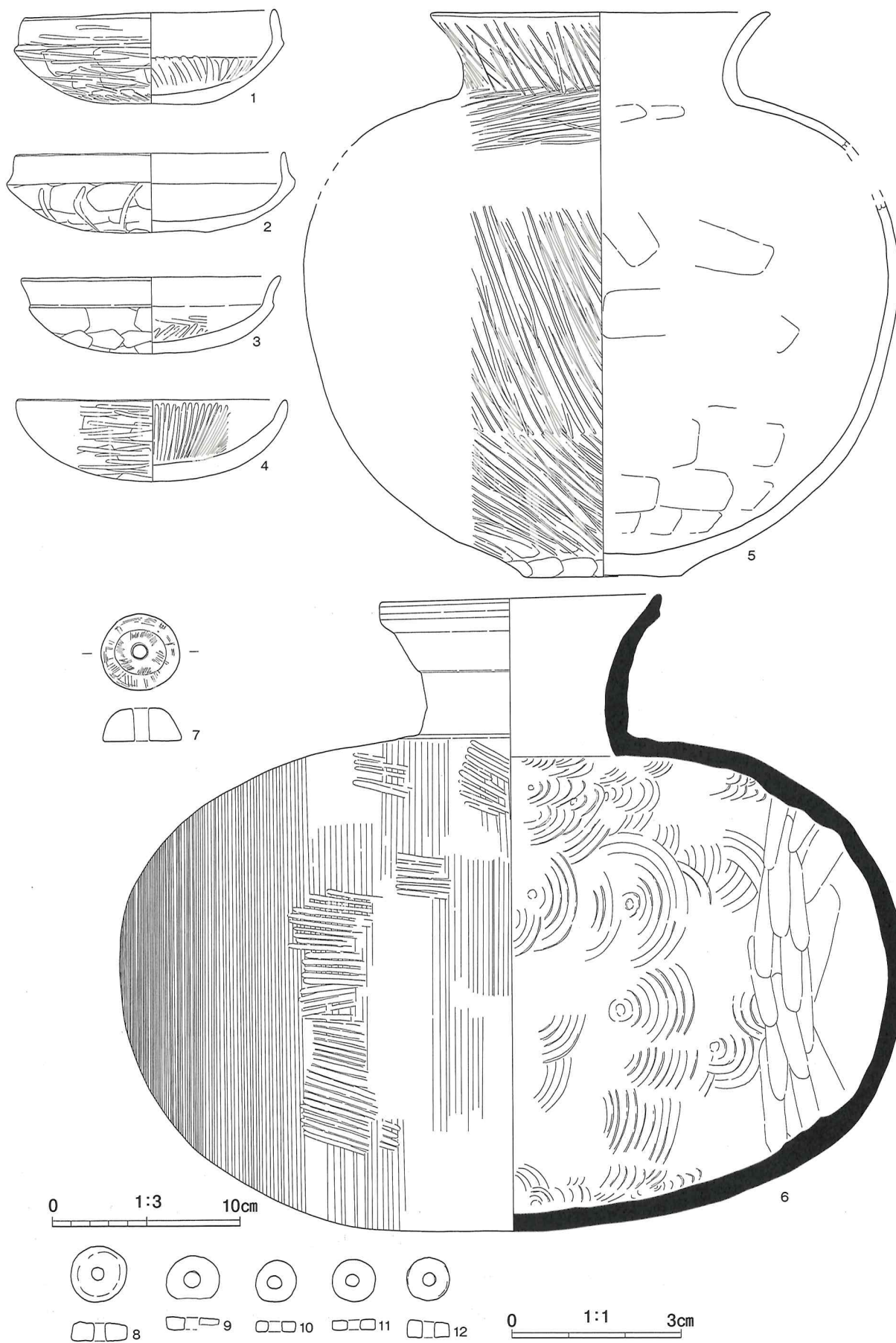
れたかは不明であるが、全体の高さは1.2m程あったものと推定される。側壁もすべて安山岩の割石（削石）積みであるが、ブロック状の直方体石材を意識的に揃えているようである。まず基部には大型な石材（長さ40～60cm、幅25～40cm）を縦一段に並べ、その上部は小型な石材（長さ20～30cm、幅15～25cm）を数段に小口積みし持ち送りを造っていたものとみられる。なお床面は地山ローム面そのまま、敷石等はみられない。

玄門は両側の立柱石を持たずに、底面を框石（長さ75cm、幅20cm、厚さ15cmの角柱状）で仕切り、楣石（長さ85cmで、一辺25cmの角柱状）が側壁最上段に組み渡されたものであり、いずれも安山岩の割石が用いられている。これらによる玄門の間口は、幅78cm、高さ85cmである。

羨道は玄室側壁の延長にややせり出した天井を持つもので、天井部先端には羨門を意識したものとみられる楣石（長さ95cm、幅25cm、厚さ20cmの角柱状）が渡されている。羨道の規模は、幅が底面で0.75m、長さが底面で0.9m・天井部で1.3m、高さ1.2m程である。側壁・天井石とも安山岩の割石で、底面は玄室同様ローム面のままであり、緩やかに上る墓道底面につながられている。なお羨道入口部は15～30cmの安山岩割石で閉塞されていた。

出土遺物（第22・23図，第4・8表）

出土したのは土器と玉類等で、図示し得たのは土師器の坏3点・甕1点、須恵器の横瓶1点、石製紡錘車1点及び白玉5点である。土師器坏1・2は周溝南西部の最下層からいずれも上向きで並んで出土したものである。すぐ近くからは滑石製の紡錘車7と白玉8～12も出土しており、何らかの祭祀が行われたものとみられる。土師器坏4・甕5及び須恵器横瓶6は東側周溝の中～上層にかけて出土したものである。いずれも小破片での出土であり、破碎されたものとみられる。なお、玄室内から直刀1口が出土したが、所在不明となっている。



第23图 4号墳出土遺物

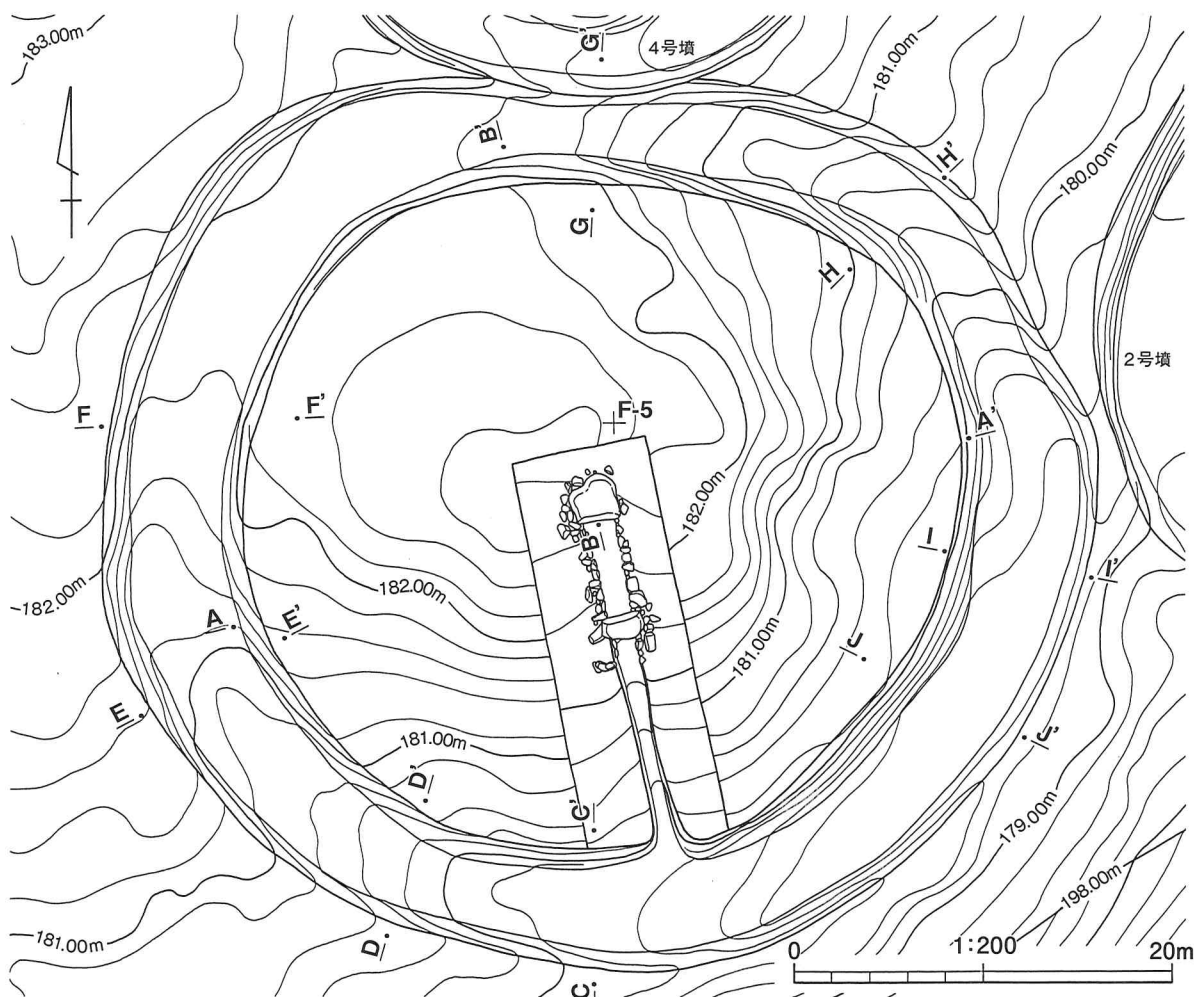
(5) 5号墳

位置と現況 北北東群中のほぼ中央に位置し、群中では最大の円墳である。立地は丘陵尾根上から南東に下がる緩斜面上で、標高は180～182m前後である。本墳周辺には北に4号墳、東に2号墳、南西に6号墳が隣接し、前述したとおり4号墳には周溝が切られている。現況は山林で、直径18～20m・高さ2.4m程の墳丘が確認されたが、表面は伐採のための重機等の走行により傷みが激しく、石室の天井石が一部露呈していた。

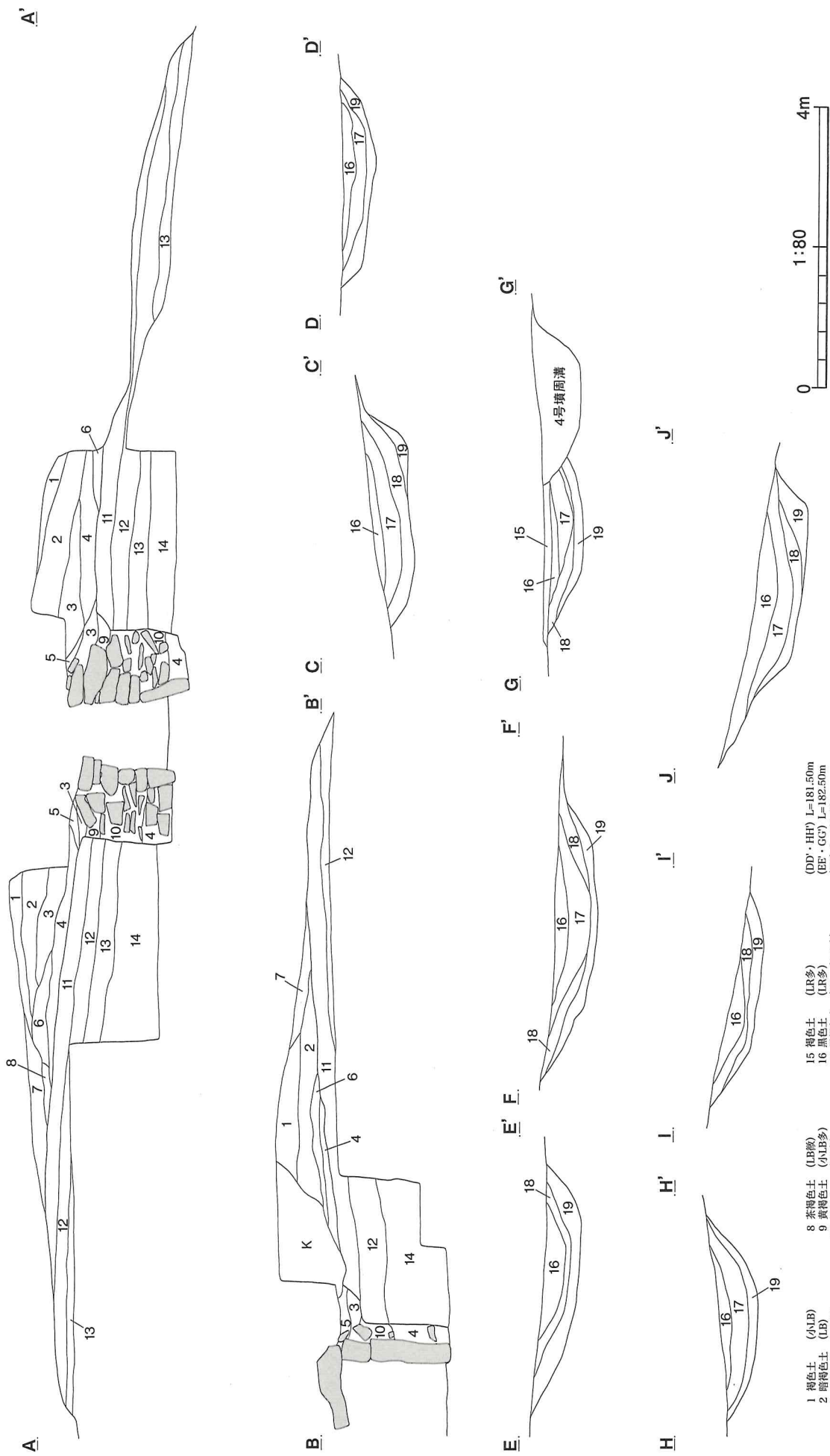
墳丘及び外部施設 (第24・25図) 墳丘は東西方向にやや長い円形で、中心部よりほぼ南に向かって開口する横穴式石室が構築されている。墳丘規模は周溝内側の立ち上がりで径18.5～20.2m、周溝を含めると東西方向で26.4m、南北方向で23.3mである。また墳丘高(残存高)は、墳頂部と周溝底部の最大高低差(南東側)で約3.5mである。墳丘盛土は、石室掘方付近で、旧表土上に約1.0mの厚さで積まれた状況が確認されている。盛土はロームブロックを多く含む周溝掘削土が主体であるが、天井石付近には粘土を含む層がみられる。

周溝は幅2.7～4.2m、深さ0.4～0.65mで全体を整美に圍繞している。周溝埋土は自然埋没で、概ね3～4層に分かれ、下層にはロームブロックの混入が目立っている。

墓道は全長約4.8mと長く、幅0.55～0.7m、深さ0.4～0.6m前後で地山を掘り込み、ほぼそのまま周溝に取り付けられている。断面は逆台形で、底面はほぼ平坦である。埋土は自然堆積で、周溝よ



第24図 5号墳墳丘・周溝測量図



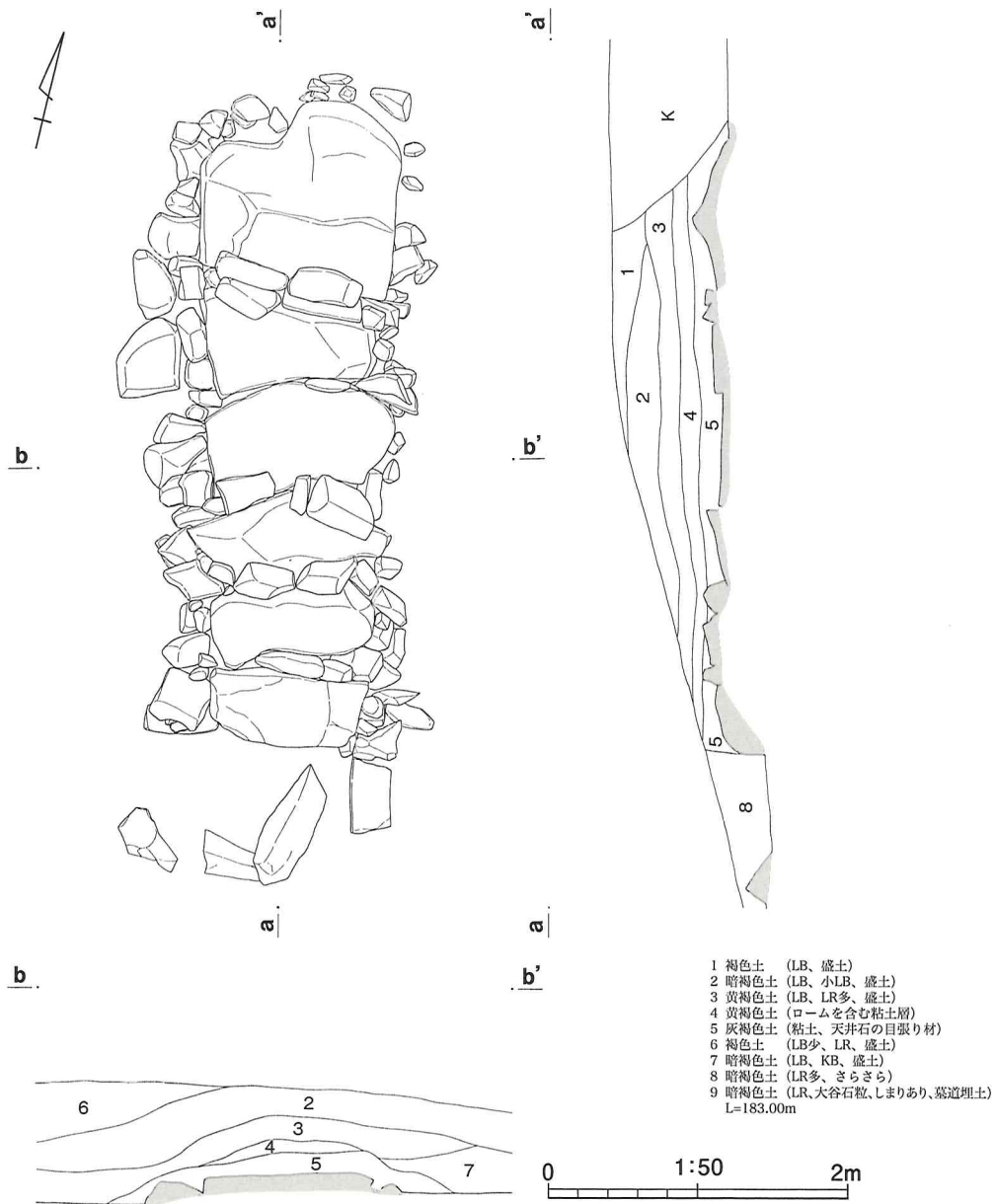
第25图 5号填填丘・周溝土層图

りも全体的に締りがある。なお下層には粘土を多く含む堅い層がみられることから、追葬時等に整地されたものと考えられる。

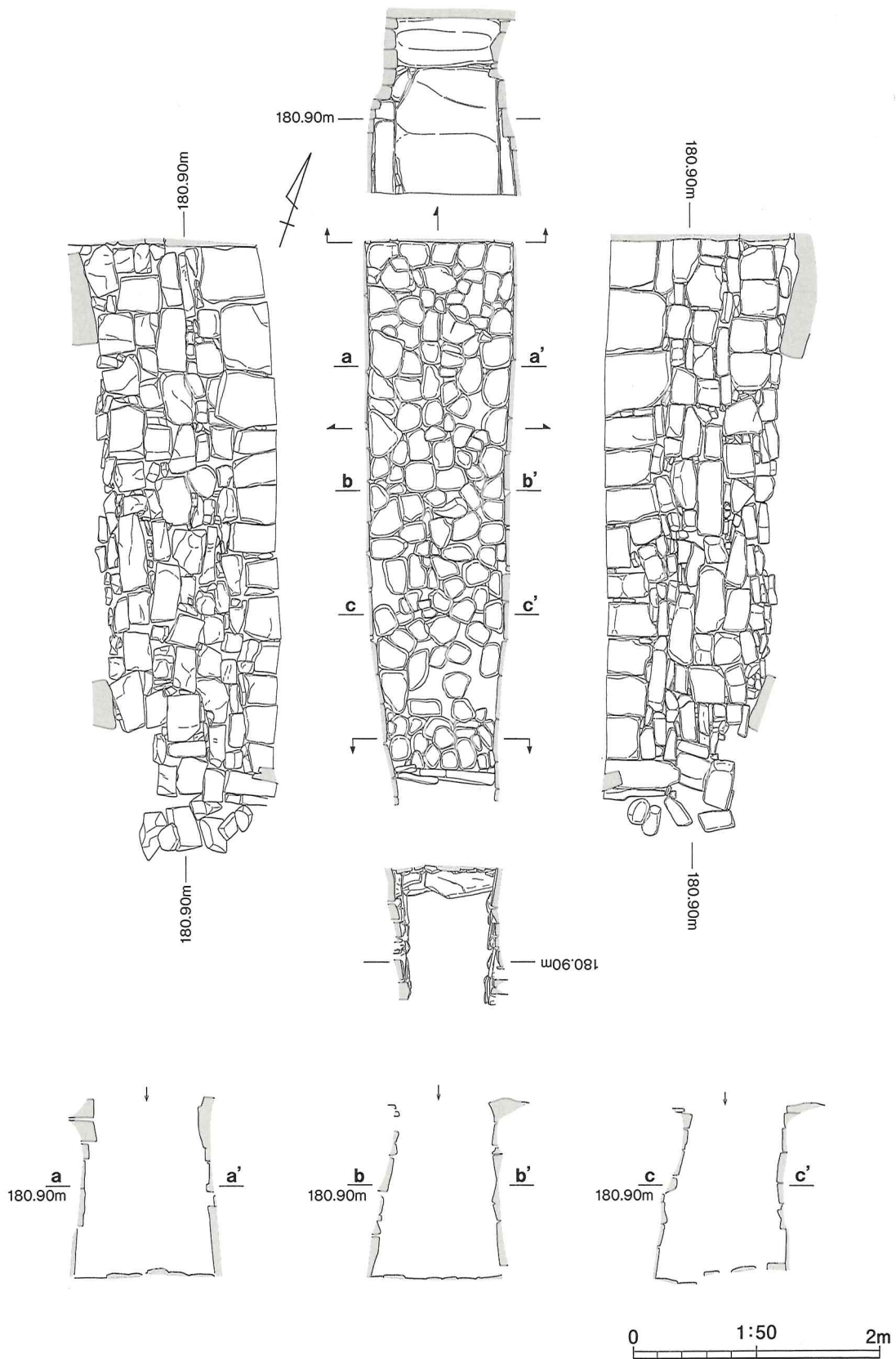
なお本墳からは葺石・埴輪等の外部施設は確認されていない。

埋葬主体部 (第26～28図) 石室は奥壁天井の北側と玄門付近に一部攪乱等があったものの、遺存状態は全体的に良好であり、両側壁及び玄門等の構造から無袖型の横穴式石室とみられる。石室構造は半地下式で、旧地表面より長さ約5.5m・幅3.0m・深さ1.2～1.45mで掘り込まれた長方形土坑内に、玄室と羨道が一体で築かれたものである。石室全長は4.55mで、主軸方位はN-15°-Wを示す。

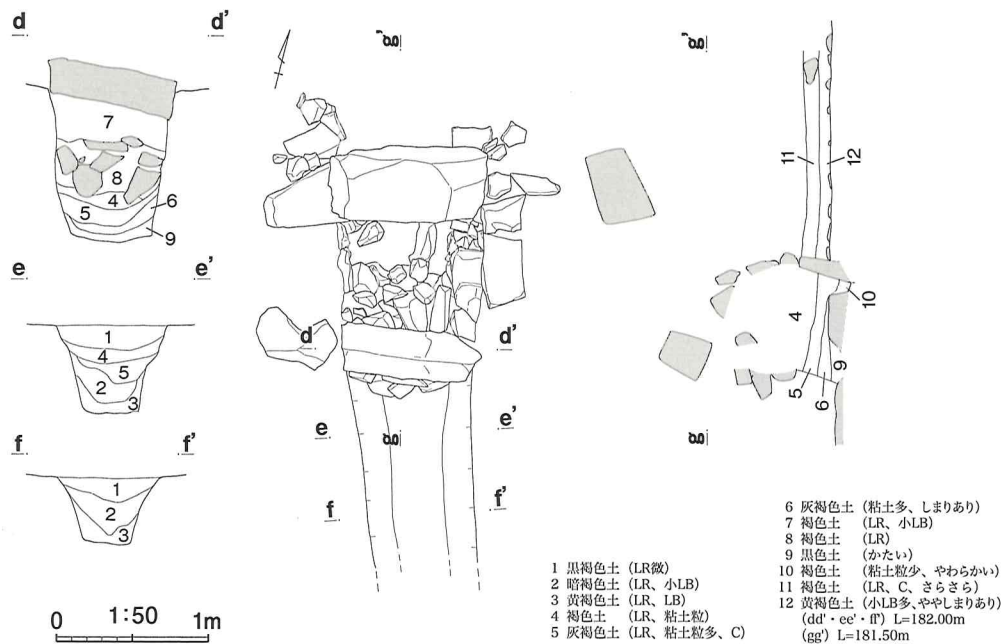
玄室は長さが4.25m、幅は奥壁部で1.18m、玄門部で0.8m。平面形は全体的には細長いバチ型であるが、玄門付近ではやや絞り込むように角度が付けられている。奥壁は2段の巨石と脇を埋める細長い石で組まれたもので、高さは1.43m、幅は底面で1.18m、天井部で0.85mである。これらはいずれも安山岩の割石で、中心となる下段の巨石は高さ103cm、幅85cm、厚さ約30cmで、内面はほぼ平滑



第26図 5号墳石室天井石確認状況



第27图 5号墳横穴式石室



第28図 5号墳羨道閉塞状況

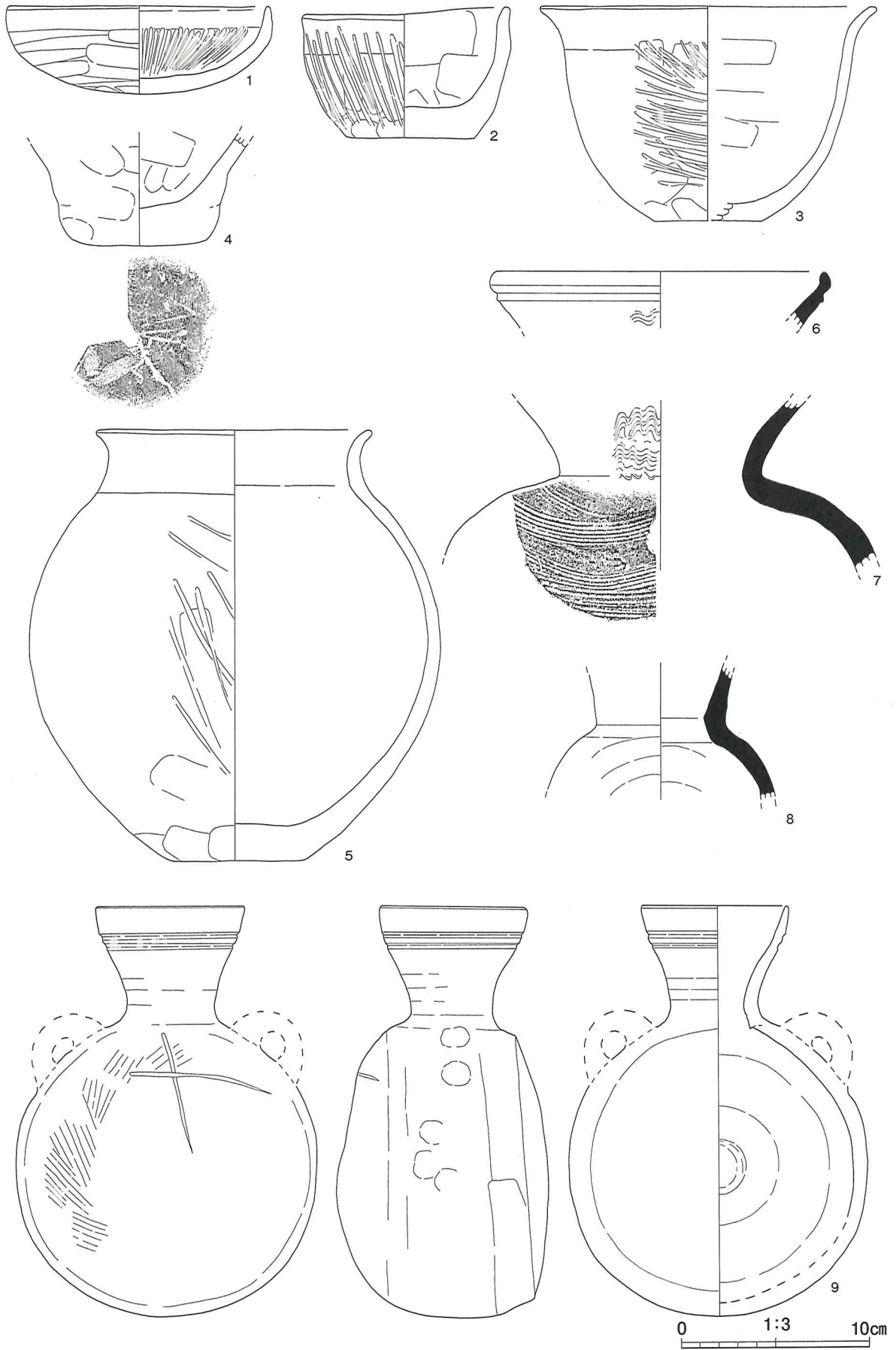
に仕上げられている。側壁もすべて安山岩の割石(削石)積みであり、ブロック状の直方体石材が意識的に使用されている。まず基部は大型な石材(長さ30～55cm、幅25～50cm)を立てて一段に並べ、裏込めで安定させているが、特に奥壁寄りには大型のものが揃えられている。その上部は小型な石材(長さ20～50cm、幅10～30cm)を数段に小口積みし、持ち送りを造っている。また奥部では幅の薄い石材と厚い石材を交互に積んで装飾的な効果が出されている部分もみられる。なお床面は20～30cm大の板状凝灰岩割石が敷詰められたものである。

玄門は両側の立柱石を持たずに、底面を框石(高さ約20cm、厚さ約10cmの安山岩板状割石を組み合わせたもの)で仕切ったものである。楣石は抜き取られていたが、残存する側壁の状況からすると玄門天井より一段(約30cm)低くして側壁上端に組み渡されたものであると思われる。従って玄門の間口は、幅80cm、高さ約90cm程であったものとみられる。

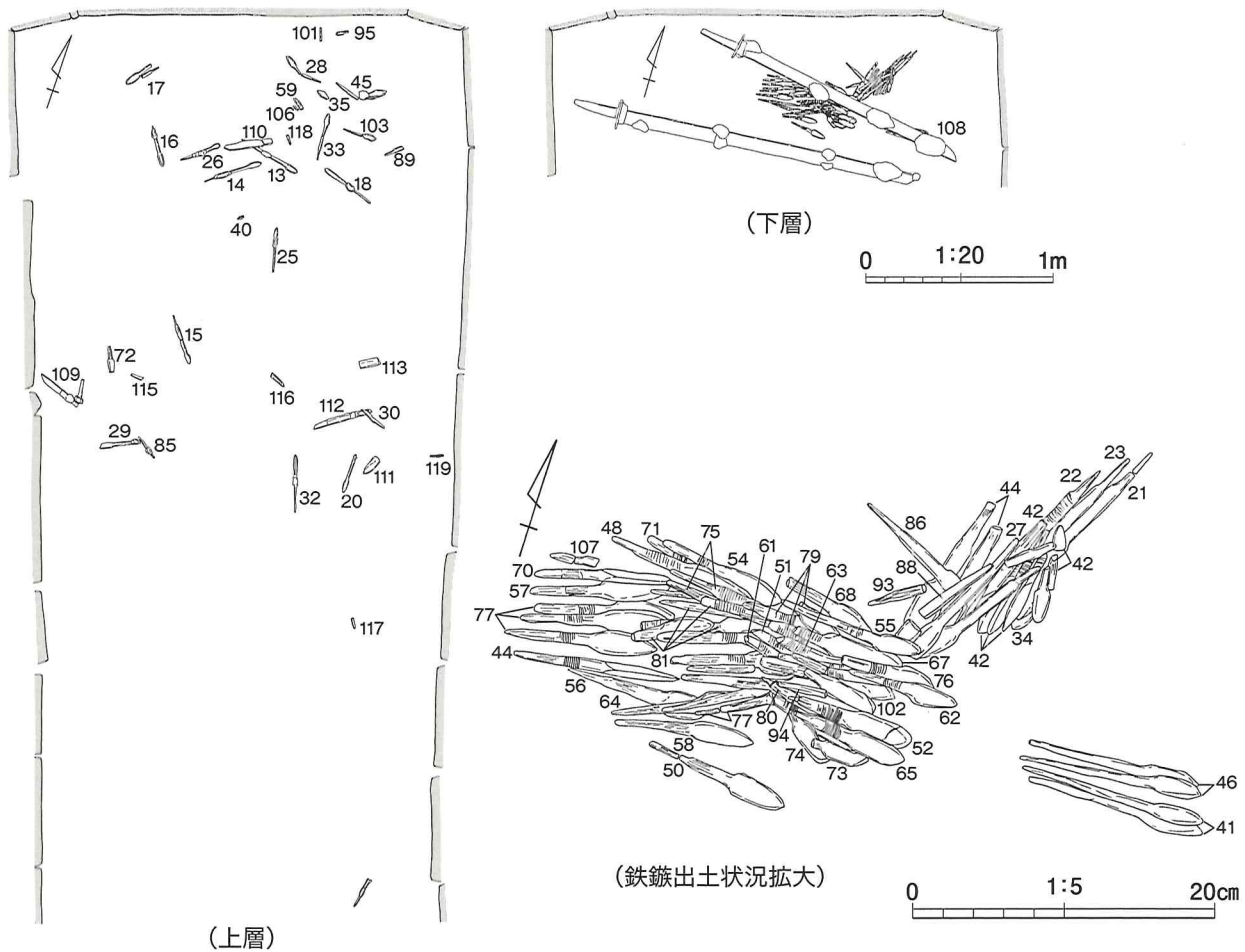
羨道は玄室側壁の延長にややせり出した天井を持っていたものとみられるが、天井石は抜き取られている。また底面は玄室とほぼ同じ高さで、敷石等はみられない。推定される羨道規模は非常に小さく、幅が底面で80cm、長さが底面で30cm・天井部で約60cm、高さ約1m程である。なお羨道入口部は15～30cmの安山岩割石で閉塞されていた。

出土遺物(第29～35図, 第5・9・12・15・20表)

墳丘及び外部施設から出土したのは土器類で、図示し得たのは土師器の坏1点・埴1点・鉢1点・甕2点、須恵器の壺2点・瓶1点・提瓶1点である。土師器坏1は墓道中ほどの埋土上層から上向きで出土したものである。土師器の甕5と鉢3は前庭部の周溝埋土中層から小破片で出土したものであり、破碎されたものとみられる。土師器埴2は南墳丘上、須恵器壺7は西墳丘上からの出土である。須恵器提瓶9は東墳丘端部から周溝埋土中層にかけて破片で出土したもので、やはり破碎されたものと思われる。

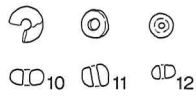


第29图 5号墳出土遺物(1)

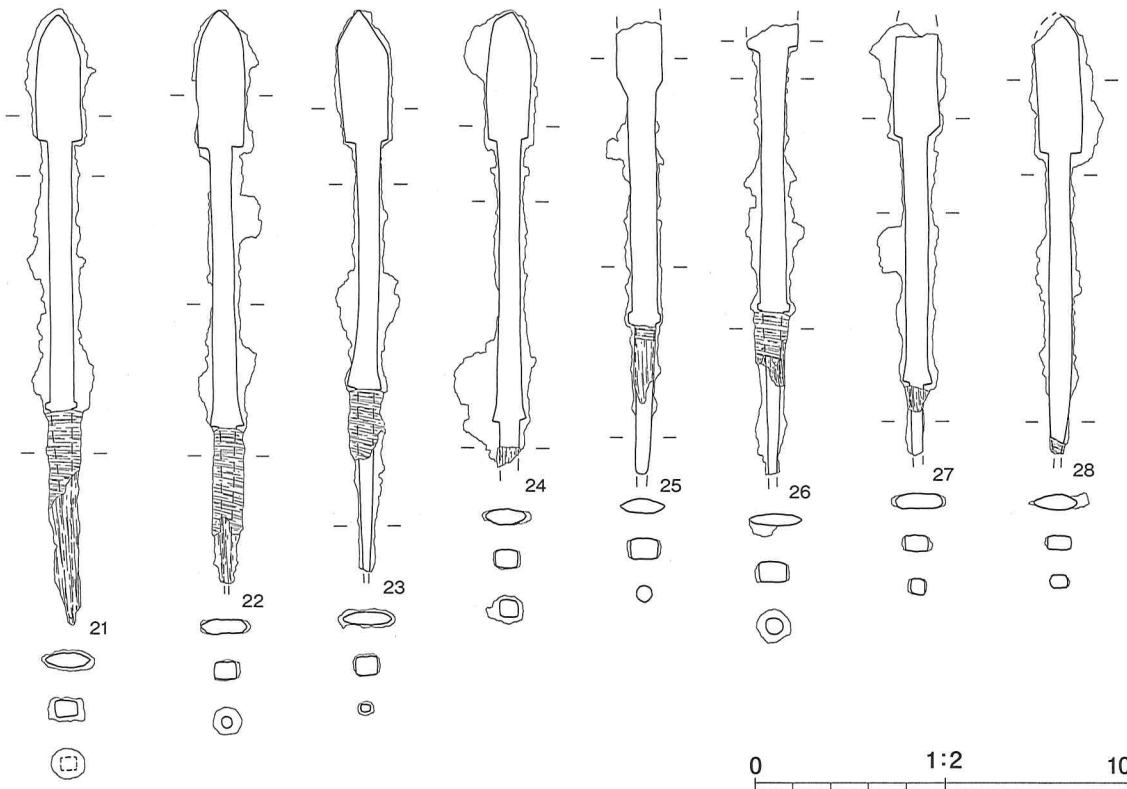
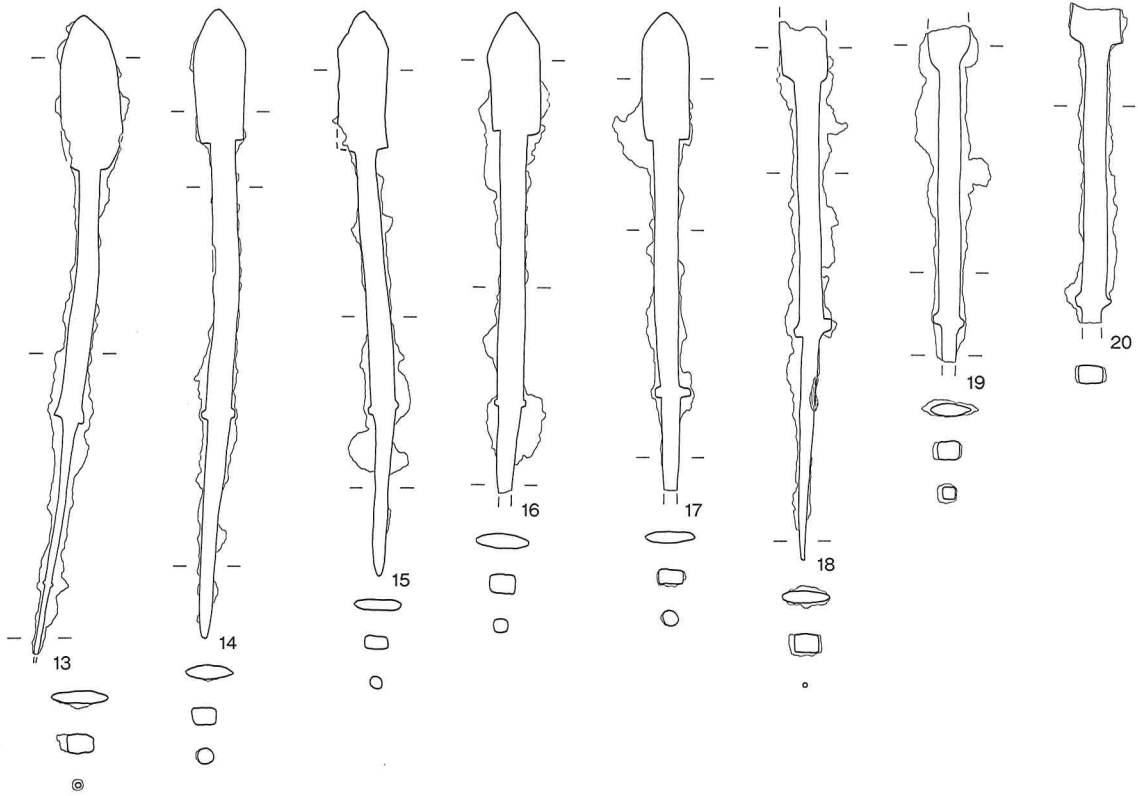


第30図 5号墳玄室遺物出土状況

玄室内からは玉類と大量の鉄器類が出土している。図示し得たのはガラス小玉3点、鉄鏃119点、直刀1口、刀子数口その他である。ガラス小玉10・11・12は位置はばらばらであるが、いずれも床面石敷き上からの出土である。鉄鏃は頸部や茎部の破片も含め119点図示したが、鏃身が確認されているのは92点で、その内訳は柳葉形が51点、長三角形が40点、無茎有孔長三角形が1点である。鉄鏃が集中して出土したのは、奥壁やや東寄りの手前10～30cm程のところの床面で、約70点が鏃身を何方向かに揃え束ねられたようになっていた。また、他に約20点の鉄鏃が奥壁から1.3m程の範囲に散乱していたが、これらはほとんどが鏃身が長三角形のものである。以上の状況からこれら鉄鏃は、鏃身の種類ごとにいくつかの束にされ、奥壁に立て掛けられたか胡籐などに納めて立てられていたものと考えられる。直刀2口は奥壁手前10～40cm程のところやや斜位に横たわり、切っ先は東側壁に向けられていた。このうち直刀108は密集した鉄鏃の上に乗った形となっていた。このことから、直刀は切っ先を下にして東側壁に立て掛けられていた可能性も考えられる。また刀子数口分は長三角形鏃身の鉄鏃とともにやや広範囲に散乱していた。なお、玄室から出土したもう一口の直刀は、所在不明となっている。

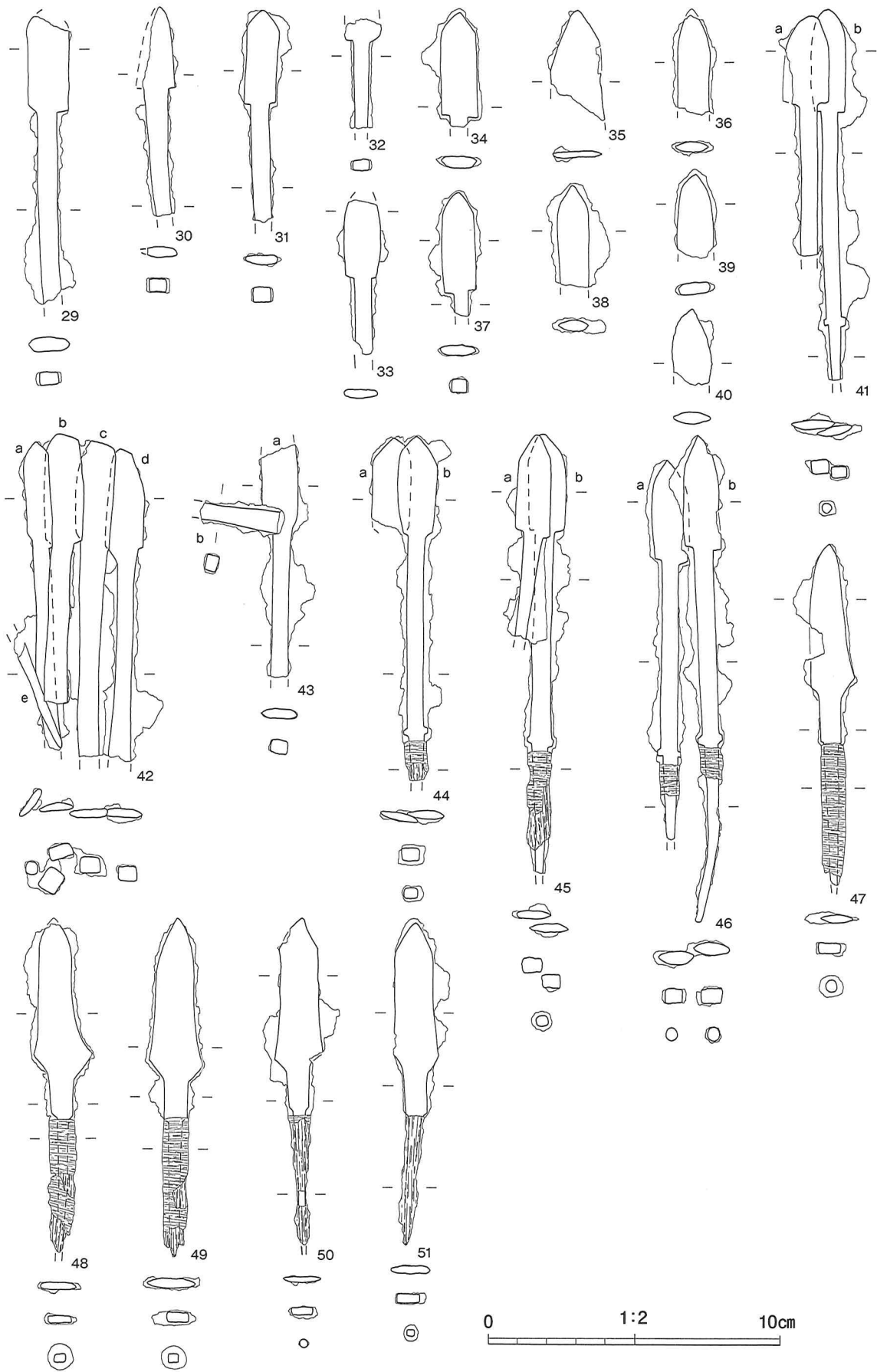


0 1:1 3cm

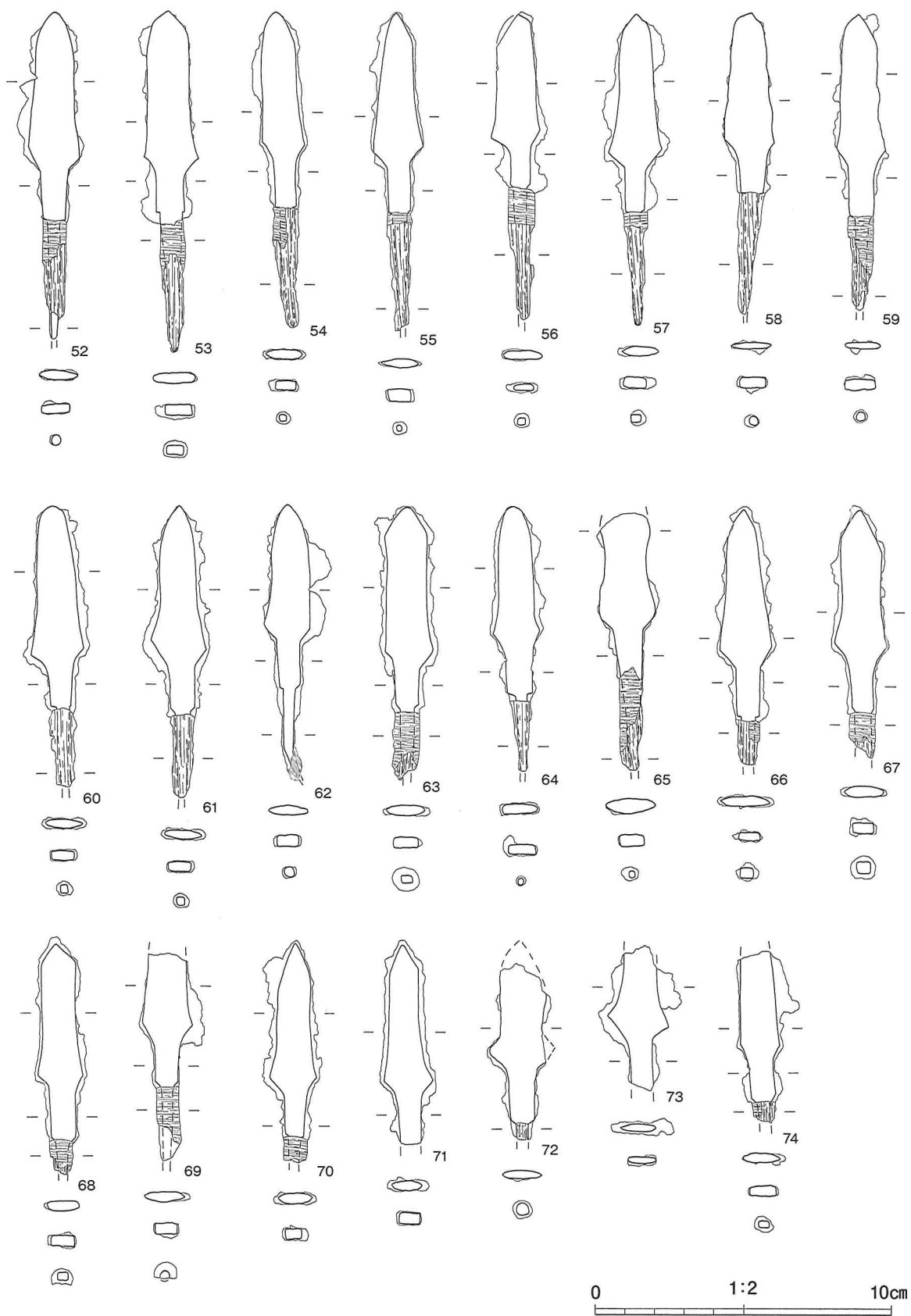


0 1:2 10cm

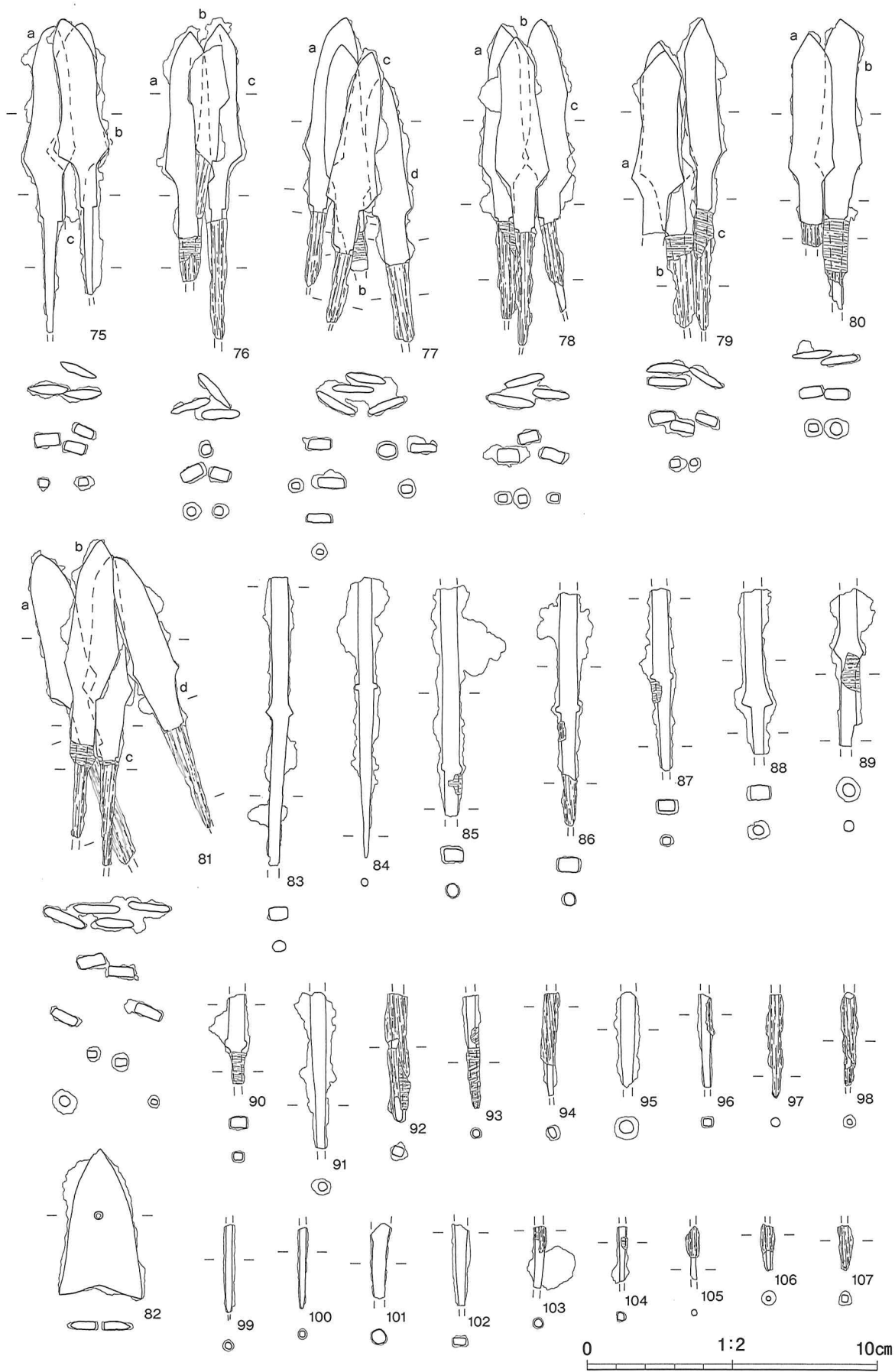
第31图 5号墳出土遺物(2)



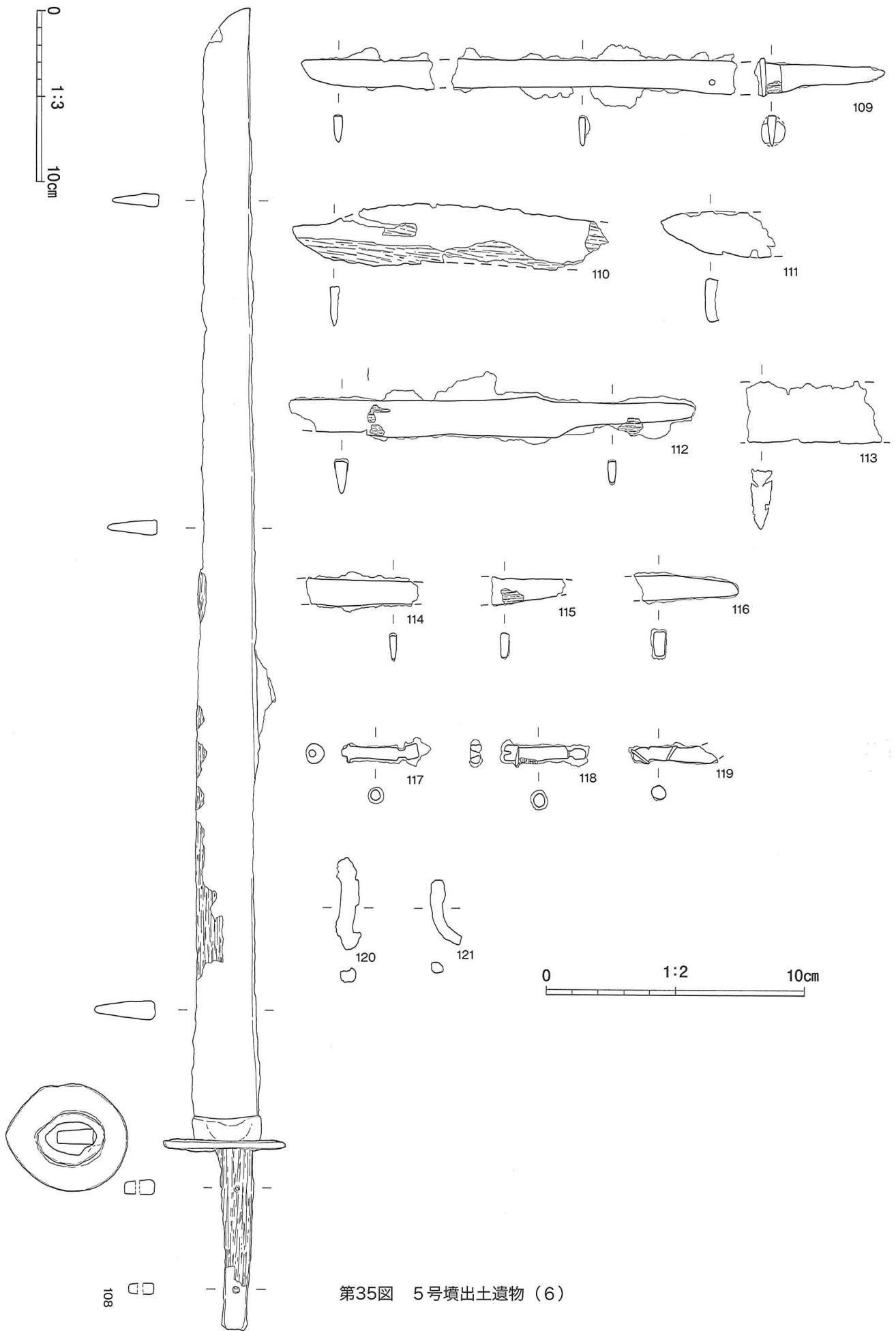
第32图 5号墳出土遺物 (3)



第33图 5号墳出土遺物(4)



第34图 5号填出土遗物(5)



第35图 5号墳出土遺物(6)

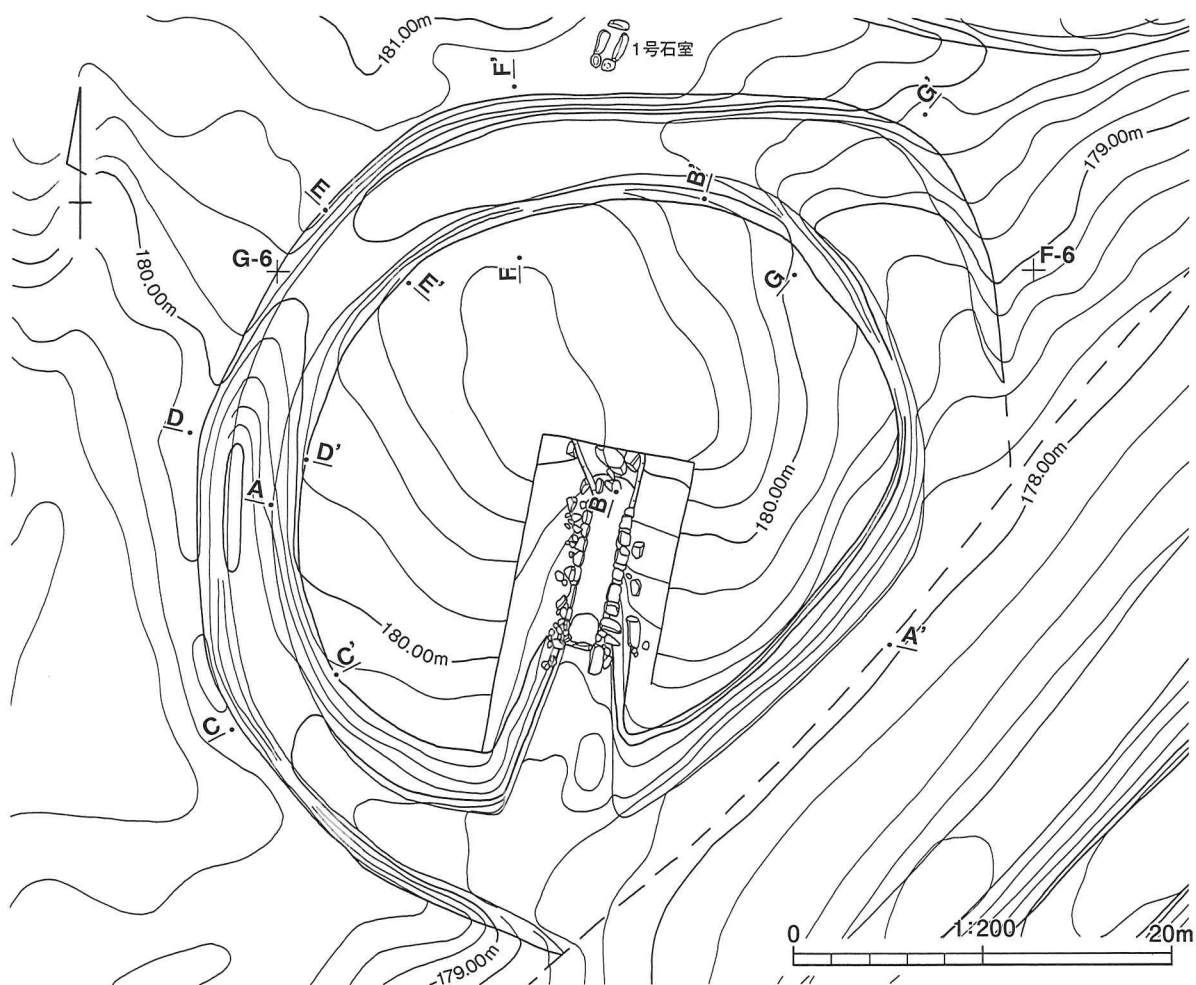
(6) 6号墳

位置と現況 北東群中で最も南に位置する円墳。立地は丘陵尾根上から南東に下がる緩斜面上で、標高は179～180m前後である。本墳周辺では北に5号墳が僅か2m程の距離に近接し、南東部は周溝及び墳丘の一部が中世の堀・土塁によって削り取られている。現況は山林で、直径18～19m・高さ2m程の墳丘が確認されたが、表面は伐採のための重機等の走行により傷みが激しく、石室の石材等もかなり散乱していた。

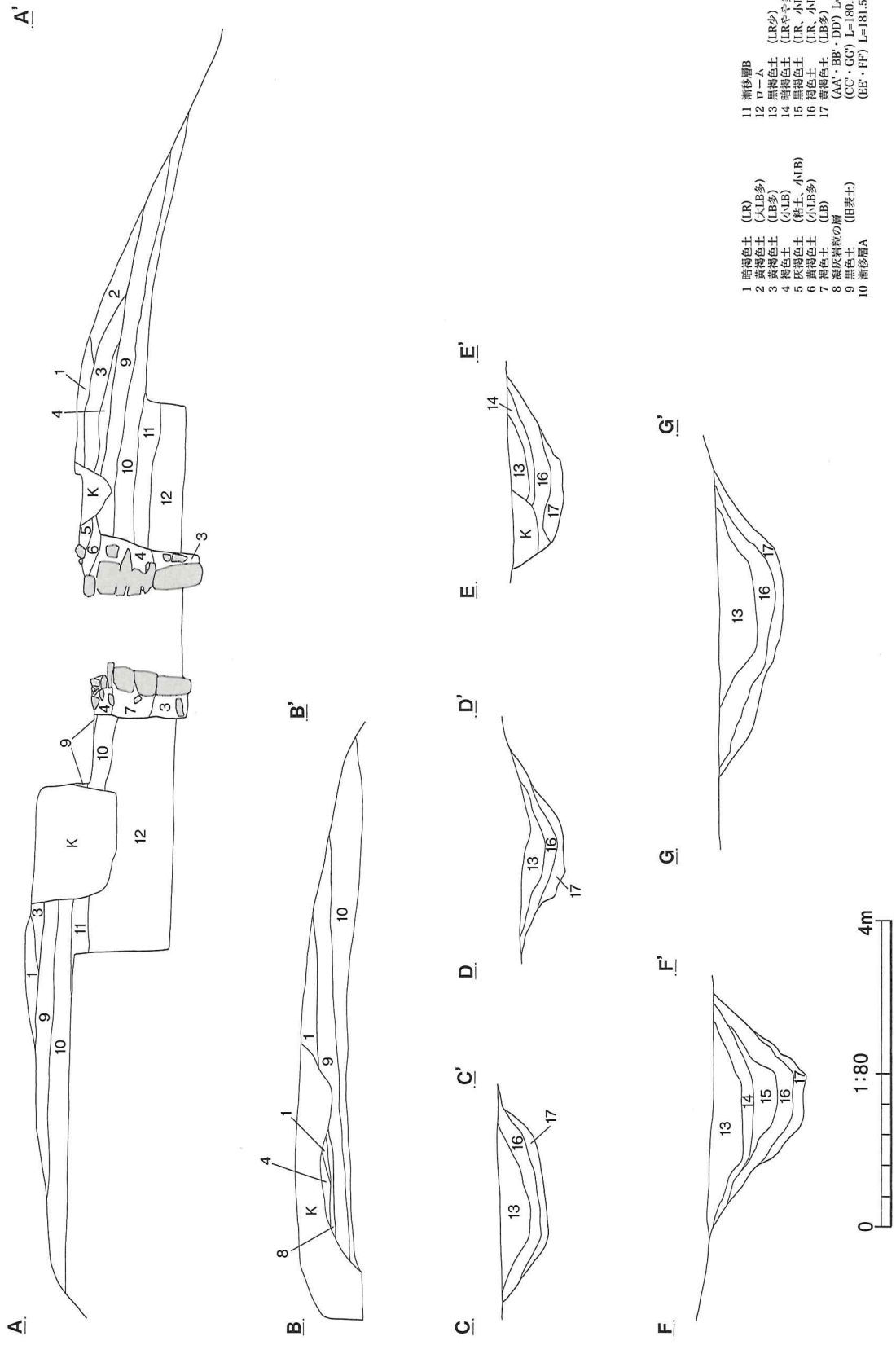
墳丘及び外部施設 (第36・37図) 墳丘は一部崩されているものの円形とみられ、中心部よりほぼ南に向かって開口する横穴式石室が構築されている。墳丘規模は周溝内側の立ち上がりで径18.6m、周溝を含めると24.1mである。また墳丘高(残存高)は、墳頂部と周溝底部の最大高低差(南東側)で約2.5mである。墳丘盛土は攪乱によりかなり削られていたが、旧表土上に約40cmの厚さで積まれた状況が確認されている。盛土は周溝掘削土が主体とみられ、多量のロームブロックを含んでいる。

周溝は全体的には幅2.8～4.5m、深さ0.5～0.7mであるが、西側の一部は長さ5～6mに渡って他より50～60cm深めに掘られている。周溝埋土は自然埋没で、概ね3～5層に分かれ、下層にはロームブロックの混入が目立っている。

墓道は羨道付近の攪乱等が激しく不明な点が多いが、残存状況から判断するとやや「ハ」の字状に



第36図 6号墳墳丘・周溝測量図



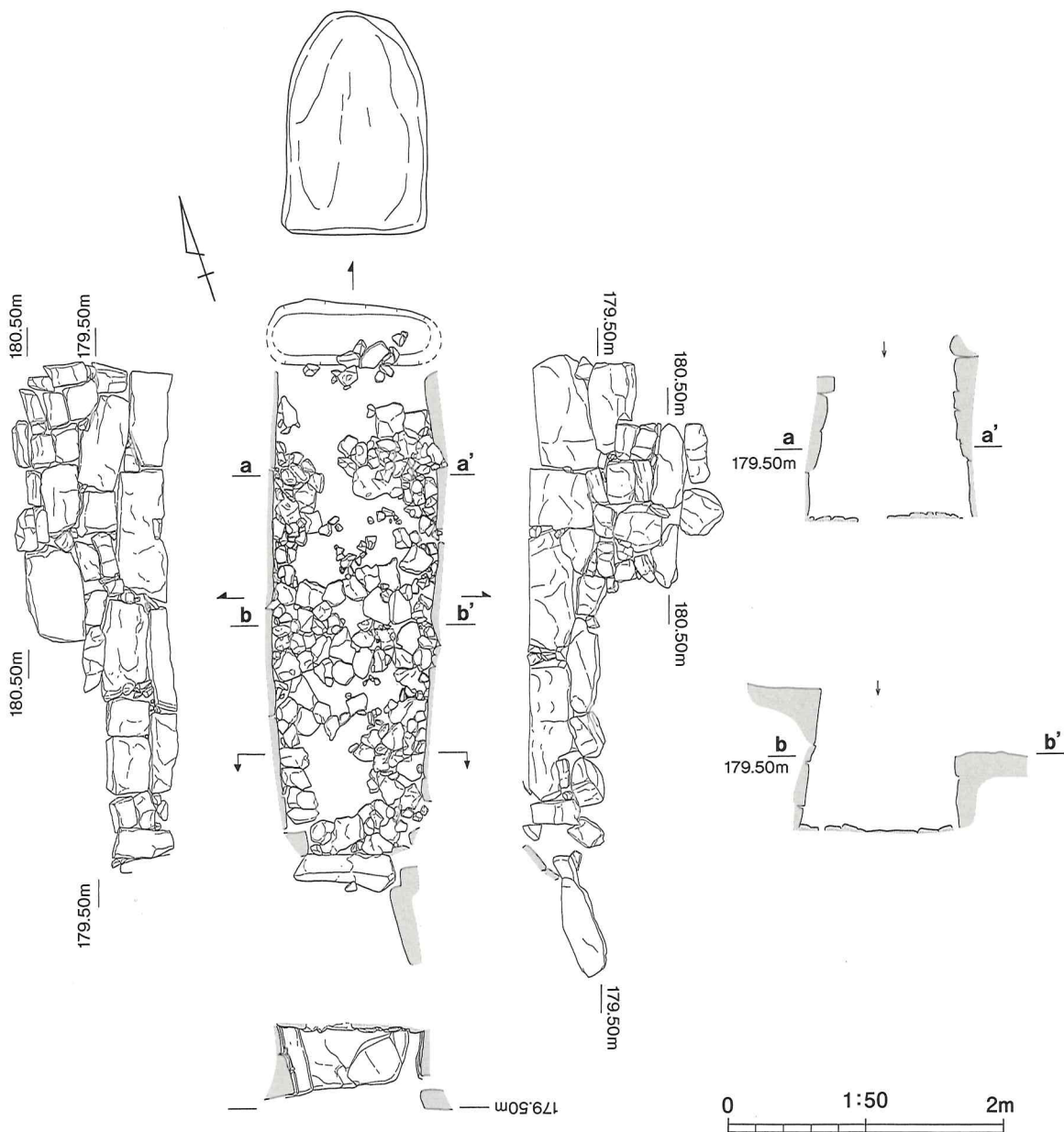
第37図 6号墳填丘・周溝土層図

開いて周溝に取り付いたものとみられる。規模は長さ約2.5m、幅は羨道取り付け部で約1m、周溝取り付け部で約2.5mと推定される。

なお本墳からは葺石・埴輪等の外部施設は確認されていない。

埋葬主体部（第38図） 石室は天井石・奥壁、玄門等がすべて抜き取られ、両側壁の下部と床面が残された状態であるが、若干胴張のみられる両袖型の横穴式石室とみられる。攪乱等が激しく不明な部分が多いが、石室構造は半地下式で、旧地表面より長さ約5.0m・幅2.3m・深さ1.4mで掘り込まれた長方形土坑内に、玄室と羨道が一体で築かれたものとみられる。石室全長は推定4.3mで、主軸方位はN-18°-Eを示す。

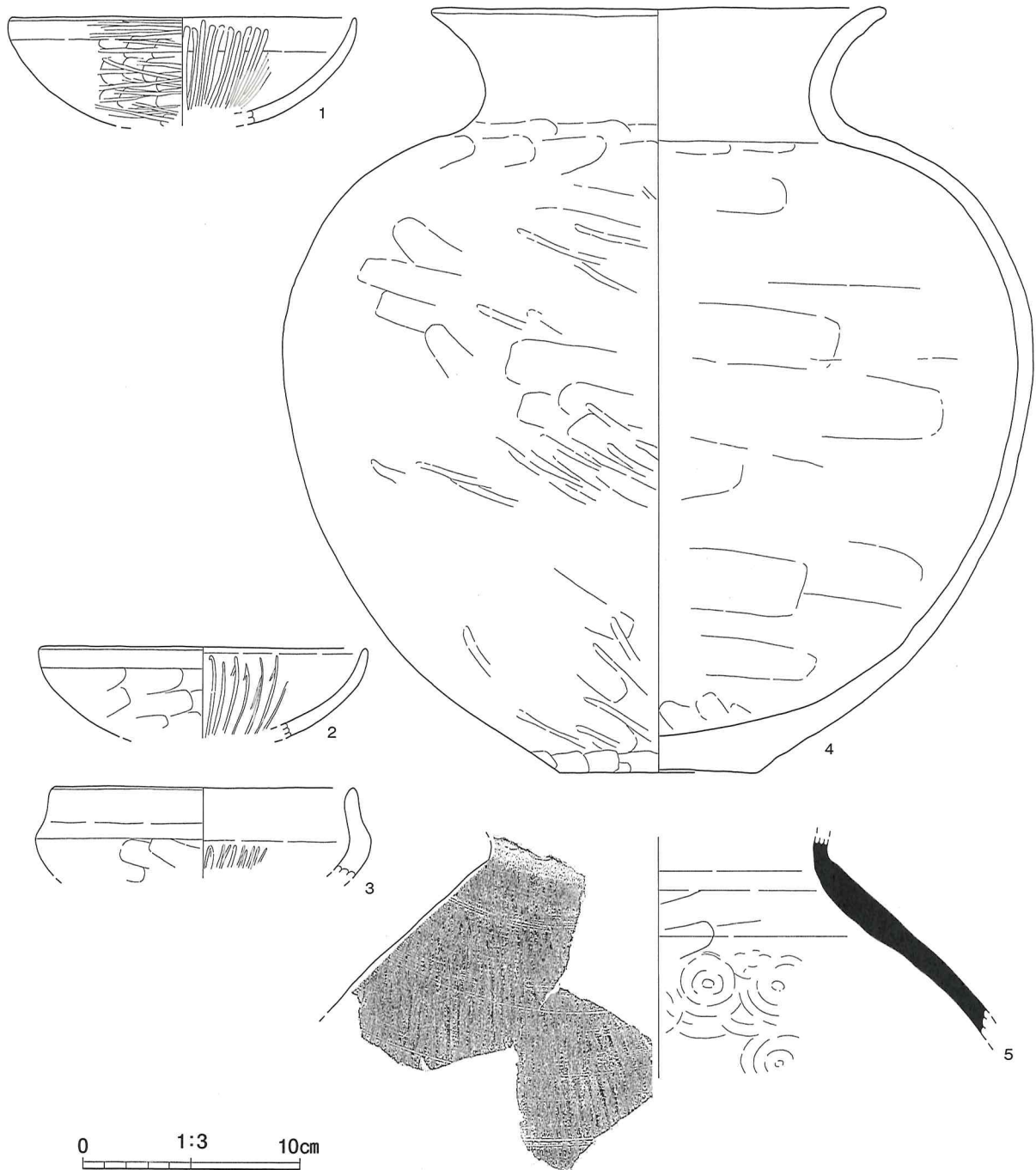
玄室は奥壁が抜かれているため長さは推定で4.6m、幅は奥壁部で1.05m、中央部で1.18m、玄門部で0.95mであり、僅かな胴張りがみられる。奥壁は据えた痕跡が長さ1.25m・幅0.45m・深さ5～



第38図 6号墳横穴式石室

6cmの窪みとして残されている。なお本墳の西方約25mに凝灰岩の一枚石（長さ1.6m・幅1.05m・厚さ35cm）が放置された状態で確認されており、本石室の奥壁であったものと思われる。側壁は安山岩（一部凝灰岩）の割石積みであり、ブロック状の直方体石材が意識的に使用されている。まず基部は大型な石材（長さ50～90cm、幅20～50cm）1段ないし2段を横に並べ、その上部は小型な石材（長さ20～50cm、幅10～30cm）を主体に小口積みし、持ち送りを作っている。残存部での側壁高は1.3m前後である。なお玄室床面は、10～20cm程の凝灰岩の剥片を敷詰めたものである。

玄門も上部は壊されているが、框石と西側立柱石の一部が残ることから凡その構造と大きさが推定できる。框石は長さ70cm・幅35cm・厚さ10cmの板状に加工された凝灰岩で、やや外側に倒れている。また西側立柱石は一辺約20cmの角柱状の安山岩割石で、上部は欠損するが、内側に



第39図 6号墳出土遺物

15cmほど入っている。

羨道は僅かに東側側壁の基部とみられる安山岩割石（長さ70cm・幅25cm）が残されていることから、やや開き気味に墓道に繋がっていたものと思われる。推定される平面規模は、長さが0.7m、幅が玄門部で0.7m、墓道取り付け部で約1mである。

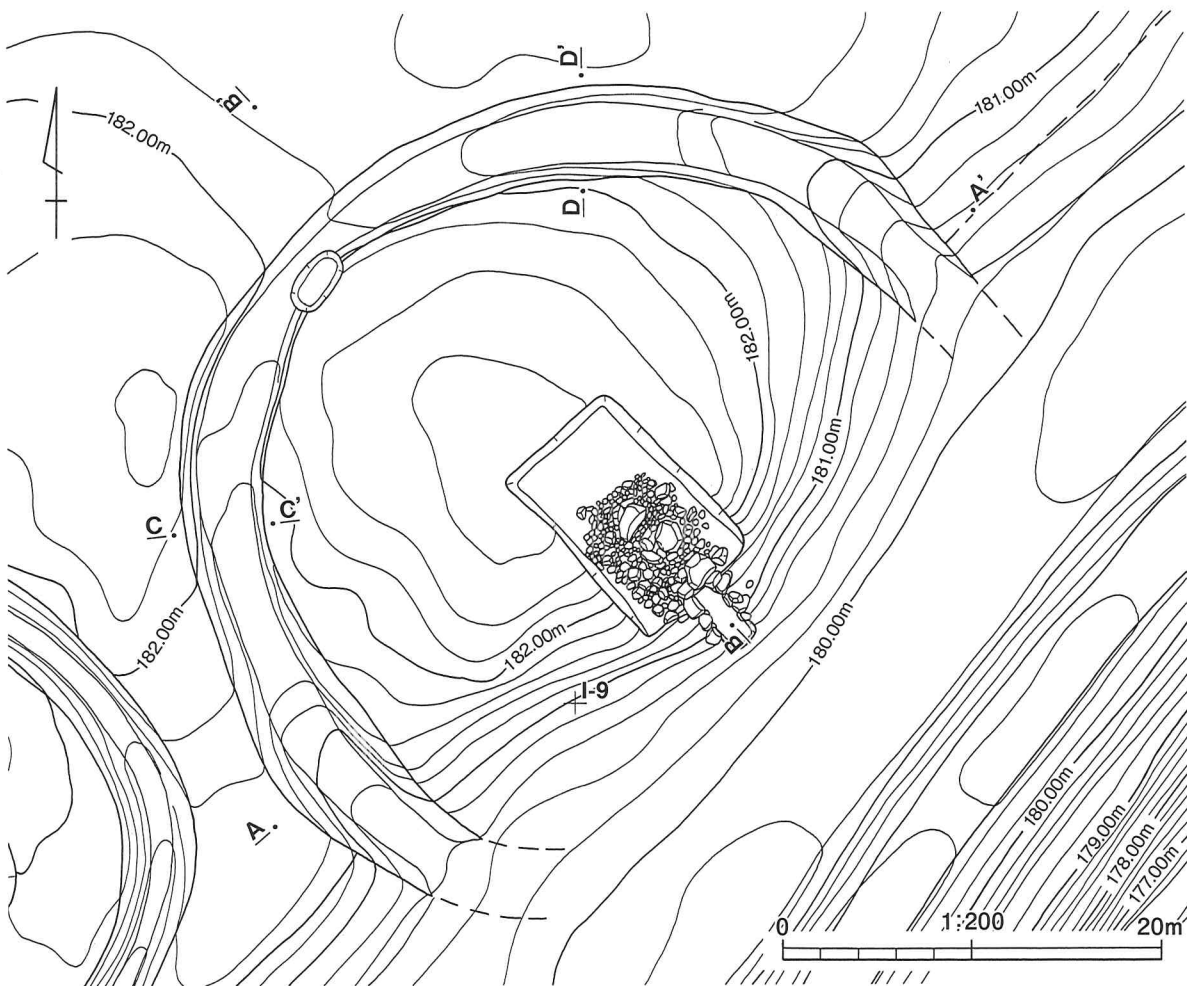
出土遺物（第39図・第6表）

出土したのは土器類のみで、図示し得たのは土師器坏3点・甕1点と須恵器甕1点である。土師器坏1は南西部周溝の埋土中層から出土したものである。他は石室西側の攪乱層からの出土で、この内土師器甕4は小破片が結合しほぼ完形となったものである。

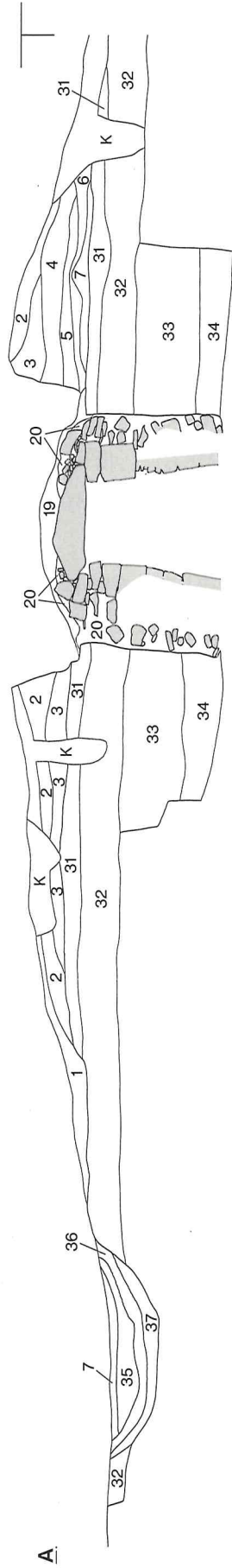
（7）7号墳

位置と現況 南西群中で最も北に位置する円墳。立地は丘陵尾根上から南東に下がる緩斜面上で、標高は180～181m前後である。本墳周辺には8号墳がすぐ西に隣接するとともに、南東部の周溝及び墳丘の一部が中世の堀・土塁によって削り取られている。現況は山林で、直径17～18m・高さ2m程の墳丘が確認されたが、表面は伐採のための重機等の走行により傷みが激しかった。

墳丘及び外部施設（第40・41図） 墳丘は一部崩されているものの円形とみられ、中心部より南東に向かって開口する横穴式石室が構築されている。墳丘規模は周溝内側の立ち上がりで径17.4m、周溝



第40図 7号墳墳丘・周溝測量図



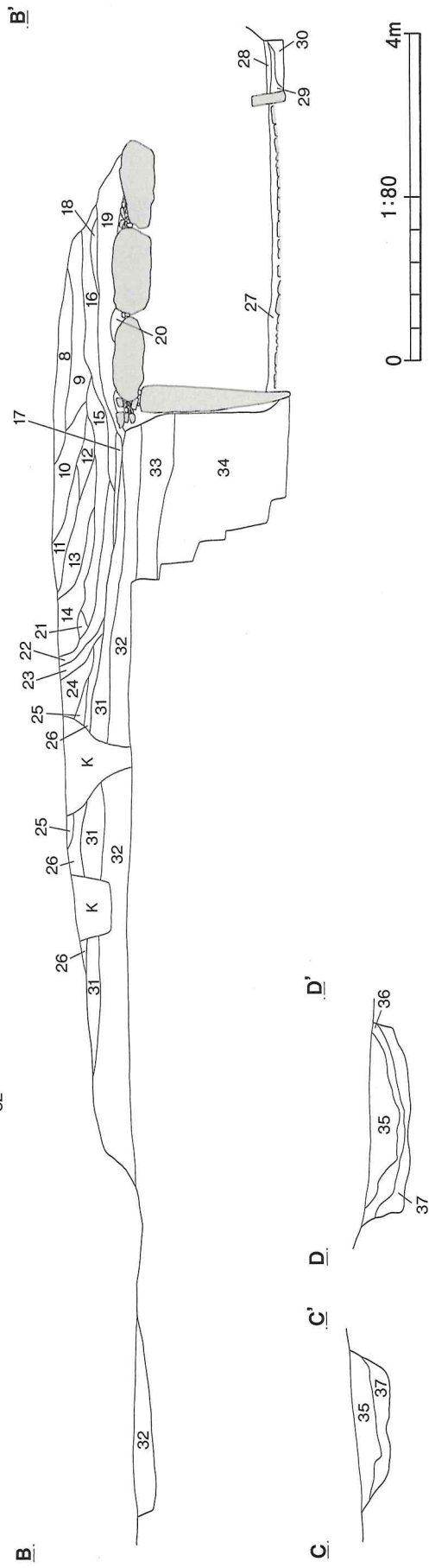
A'

- 1 黒褐色土 (いろいろ)
- 2 黒褐色土 (UB, LR少、凝灰岩粒少)
- 3 明褐色土 (UB, LR多、IP、凝灰岩粒、CR少)
- 4 褐色土 (UB, LR多、凝灰岩粒、CR微)
- 5 黄褐色土 (UB, IP、凝灰岩粒、LR堆積層)
- 6 黄褐色土 (UB, IP、凝灰岩粒、LR堆積層)
- 7 褐色土 (UR多、IP少)
- 8 暗褐色土 (UR多、IP、LB少)
- 9 褐色土 (UR、LB多、IP微)
- 10 暗黄褐色土 (UB多、LR多、IP、凝灰岩粒少)
- 11 明褐色土 (UB、LR多、IP、凝灰岩粒少)

- 12 褐色土 (LR多、LB少、IP多)
- 13 暗黄褐色土 (LR多、LB少、IP粒、黒色B少)
- 14 褐色土 (LR多、凝灰岩粒少)
- 15 明褐色土 (LR多、凝灰岩粒少、IP粒微)
- 16 明褐色土 (LR多、凝灰岩粒少、粘土粒微)
- 17 褐色土 (LR多、IP粒、凝灰岩粒少、IP粒、粘土粒、KP粒微)
- 18 黒褐色土 (粘土粒多、LR少)
- 19 白色土 (粘土粒、天井石の目張り材)
- 20 褐色土 (粘土粒多、凝灰岩粒多)
- 21 暗褐色土 (LR多)
- 22 暗褐色土 (LR多、凝灰岩粒、IP少)

- 23 褐色土 (LR多、凝灰岩粒、IP少)
- 24 明褐色土 (LR多、LB、IP少)
- 25 明褐色土 (LR多、LB、IP、凝灰岩粒少)
- 26 黒褐色土 (凝灰岩粒多、LR少)
- 27 明褐色土 (LR、粘土粒、凝灰岩粒、粘性強、遺物を含む)
- 28 暗褐色土 (粘土粒、凝灰岩粒多)
- 29 暗褐色土 (粘土粒、凝灰岩粒、LR、凝灰岩片少)
- 30 暗黄褐色土 (LR多、凝灰岩粒少)
- 31 黒色土 (陽表土)
- 32 新砂層
- 33 ソフトローム

- 34 ハードローム
- 35 明褐色土 (LR少、IP少)
- 36 明褐色土 (LR多)
- 37 暗黄褐色土 (LR多、LB少)



B'

- 12 褐色土 (LR多、LB少、IP多)
- 13 暗黄褐色土 (LR多、LB少、IP粒、黒色B少)
- 14 褐色土 (LR多、凝灰岩粒少)
- 15 明褐色土 (LR多、凝灰岩粒少、IP粒微)
- 16 明褐色土 (LR多、凝灰岩粒少、粘土粒微)
- 17 褐色土 (LR多、IP粒、凝灰岩粒少、IP粒、粘土粒、KP粒微)
- 18 黒褐色土 (粘土粒多、LR少)
- 19 白色土 (粘土粒、天井石の目張り材)
- 20 褐色土 (粘土粒多、凝灰岩粒多)
- 21 暗褐色土 (LR多)
- 22 暗褐色土 (LR多、凝灰岩粒、IP少)

- 23 褐色土 (LR多、凝灰岩粒、IP少)
- 24 明褐色土 (LR多、LB、IP少)
- 25 明褐色土 (LR多、LB、IP、凝灰岩粒少)
- 26 黒褐色土 (凝灰岩粒多、LR少)
- 27 明褐色土 (LR、粘土粒、凝灰岩粒、粘性強、遺物を含む)
- 28 暗褐色土 (粘土粒、凝灰岩粒多)
- 29 暗褐色土 (粘土粒、凝灰岩粒、LR、凝灰岩片少)
- 30 暗黄褐色土 (LR多、凝灰岩粒少)
- 31 黒色土 (陽表土)
- 32 新砂層
- 33 ソフトローム

- 34 ハードローム
- 35 明褐色土 (LR少、IP少)
- 36 明褐色土 (LR多)
- 37 暗黄褐色土 (LR多、LB少)

第41図 7号墳墳丘・周溝土層図

を含めると23.0mである。また墳丘高(残存高)は、墳頂部と周溝底部の最大高低差(南東側)で約2.1mである。墳丘盛土は中心部から北西側にかけて遺存状態がよく、石室近辺で旧表土上に約95cmの厚さで積まれた状況が確認されている。盛土は周溝掘削土が主体とみられ、多量のロームブロックを含んでいる。なお、石室天井石の直上全面は厚さ20cm程の白色粘土で被覆されていた。

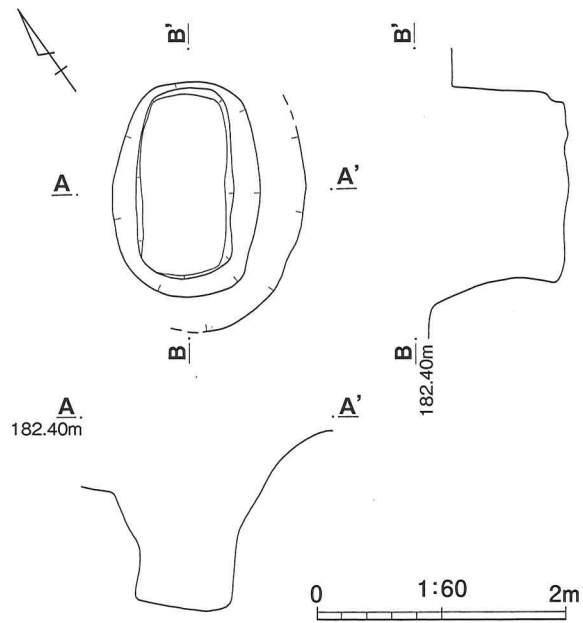
周溝は幅1.4～2.9m、深さ0.4～0.65mで、墳丘規模の割にはやや小規模である。周溝埋土は自然埋没で、概ね3層に分かれ、下層にはロームブロックの混入が目立っている。北西部周溝の内側立ち上がり部に土坑が1基確認されている。長軸を周溝に沿わせた長方形土坑で、大きさは1.68m×1.17m、深さは90cm程である。副葬品等の出土はみられなかったが、墓坑と考えられる。

墓道部分は中世の土塁・堀築造により周溝とともに大きく削り取られたと思われ、残されていたのは羨道に取り付く僅かな残骸である。幅約80cmでローム地山を掘り込み、底面は羨道より20～30cm高く平らに仕上げられている。周溝までは約4mの長さがあったものと思われる。

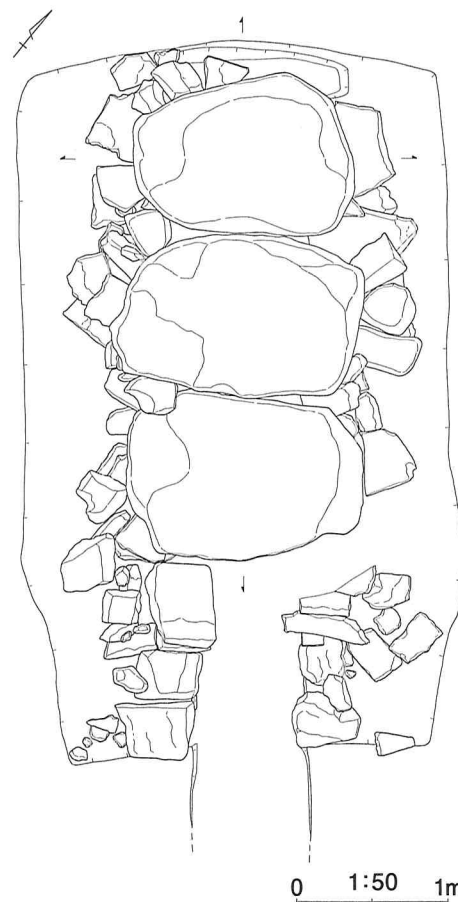
なお本墳からは葺石・埴輪等の外部施設は確認されていない。

埋葬主体部(第43・44図) 石室は中世の堀・土塁により羨道部と玄門の上部が掘削されたものの、全体的に遺存状態は良好であり、若干胴張のみられる両袖型の横穴式石室である。石室構造は半地下式で、旧地表面より長さ4.1m・幅2.85m・深さ1.8m前後で掘り込まれた長方形土坑内に、玄室と羨道が一体で築かれたものである。石室全長は4.25mで、主軸方位はN-43°-Wを示す。

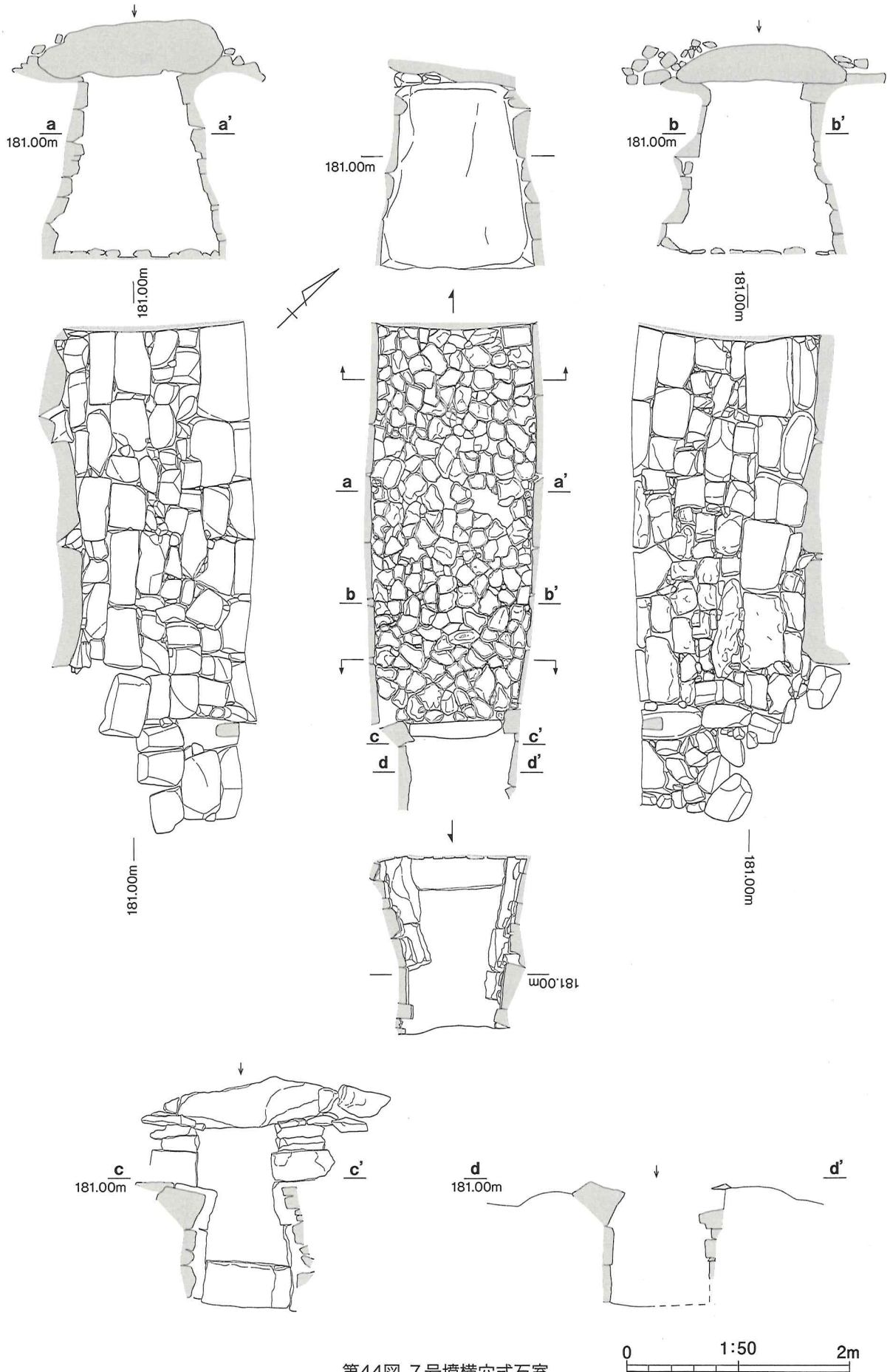
玄室は長さが3.55m、幅は奥壁部1.36m、中央部1.45m、玄門部1.24mで、側壁に僅かな胴張りを有する整美な形状である。奥壁は



第42図 7号墳周溝内土坑



第43図 7号墳石室天井石確認状況



第44图 7号填横穴式石室

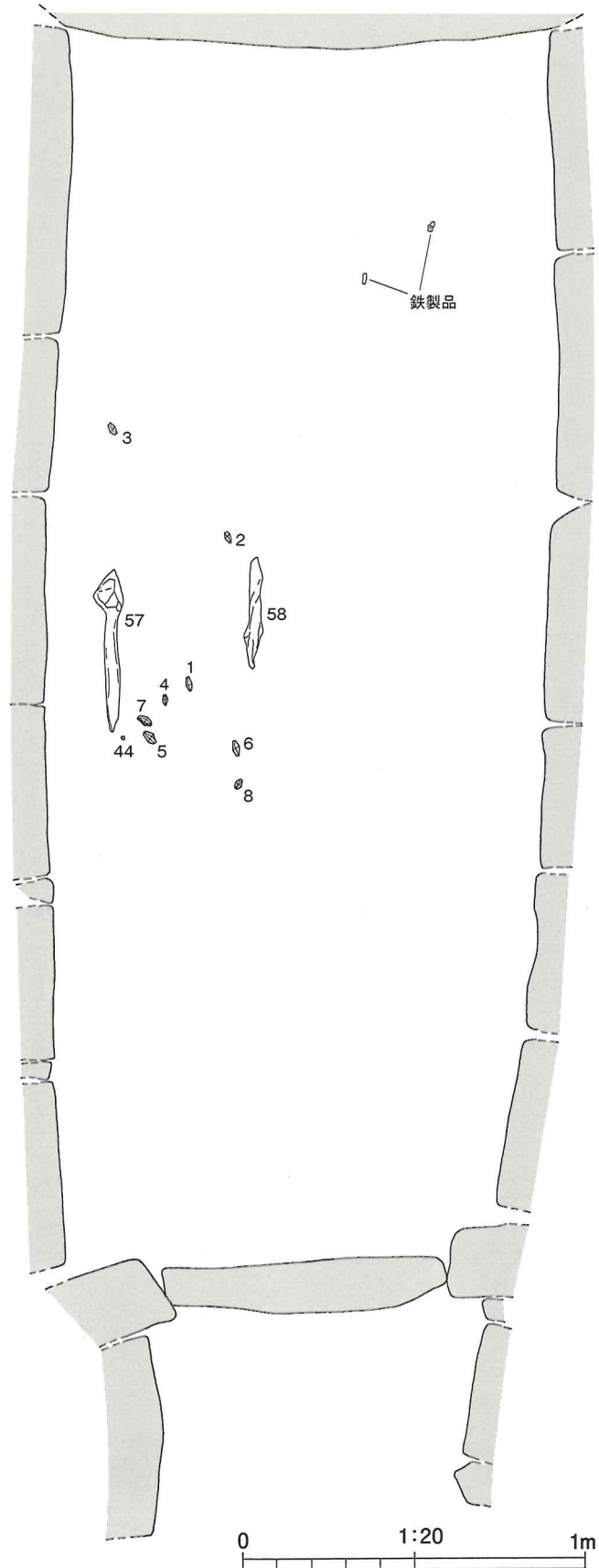
凝灰岩の一枚石で、高さ1.68m、幅が床面で1.36m・天井で0.85m。この奥壁は床下に食い込む部分を加えた全長が（高さ）1.82m、厚さ約35cmで、内面は平滑に仕上げられている。側壁は安山岩（一部凝灰岩）の割石積みであり、ブロック状の直方体石材が意識的に使用されている。まず基部は大型の石材（長さ50～90cm、幅20～45cm）を1段ないし2段横積みにし、その上に小型な石材（長さ20～50cm、幅10～30cm）を2～3段小口積みしている。さらに上段には再び大型の石材を横積みし、全体を持ち送りしている。天井石は3枚の大型割石（長さ1.5～1.6m、幅1.0～1.1m、厚さ35～50cm）が残されていたが、最奥部が凝灰岩で他は安山岩である。また、玄室床面は、10～20cm程の凝灰岩の剥片を敷詰めたものである。

玄門は上部が失われたものの、框石と立柱石の一部が残されている。框石は長さ85cm・幅38cm・厚さ13cmの板状の安山岩割石で、玄室床面より約20cm高く据えられている。立柱石は一辺約25cm前後の角柱状の凝灰岩割石で、内側に15～20cmほど入っている。上部構造は残されていないが、恐らく玄室天井より一段下げて楣石が渡されていたものと思われる。

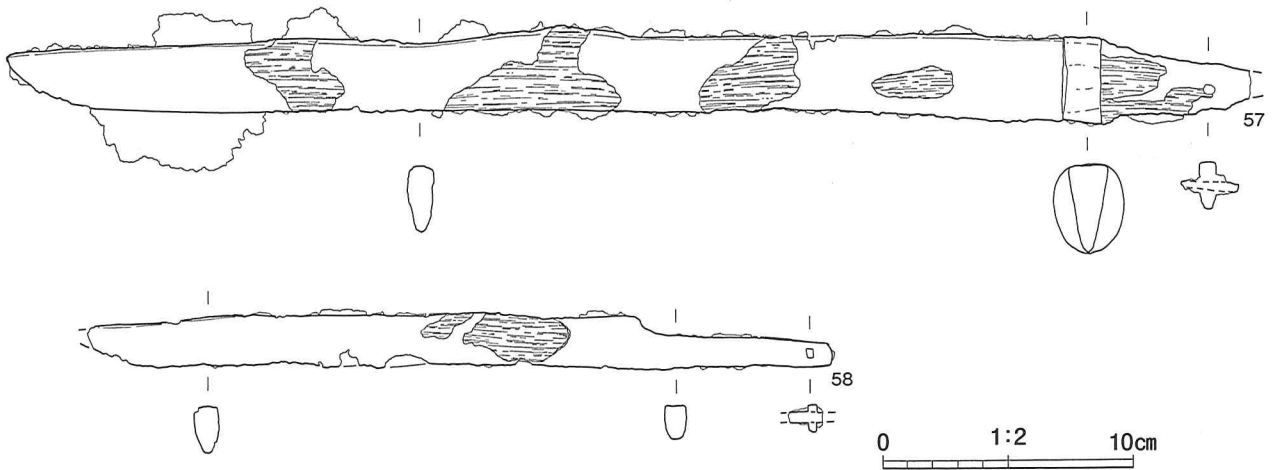
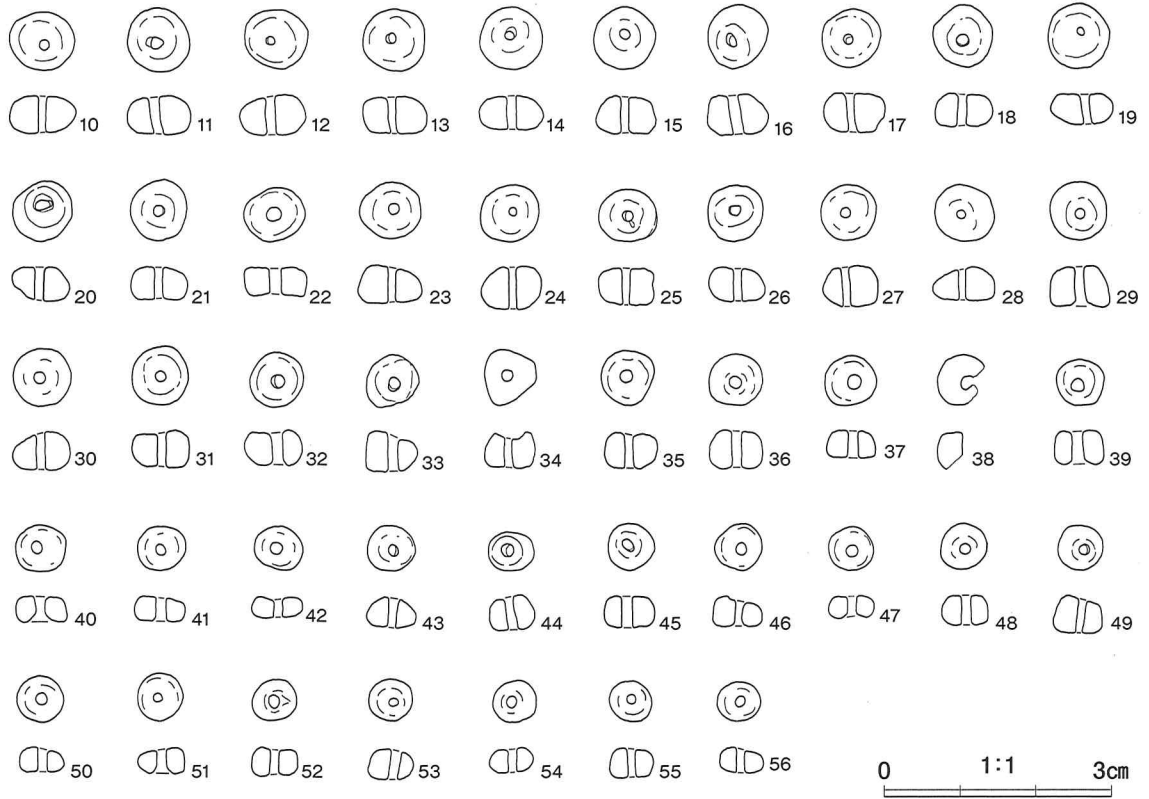
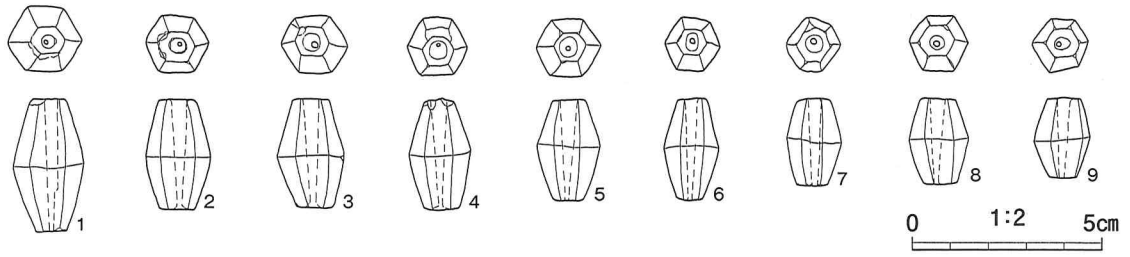
羨道は幅0.85m・長さ0.7m程で、側壁は安山岩割石が2～3段残され、床面には敷石等は確認されない。

出土遺物（第45・46図、第10・16表）

出土したのは玉類と鉄器で、内訳は切子玉9点、土玉47点、直刀1口、刀子1口である。いずれも玄室床面からの出土である。切子玉1及び4～8の6点は、奥壁から約2.5m手前の西側壁寄りに集中し、環を描くような配置で確認されている。また直刀と刀子は、この切子玉群のすぐ北側に切っ先を奥壁に向けた状態で確認されている。



第45図 7号墳玄室遺物出土状況



第46图 7号墳出土遺物

(8) 8号墳

位置と現況 南西群中のほぼ中央に位置する円墳で、西には7号墳、南には9号墳が隣接している。立地は丘陵尾根上から南に下がる緩斜面上で、標高は181～182m前後である。現況は山林で、直径15～16m・高さ1.5m程の墳丘が確認されたが、表面は伐採のための重機等の走行により激しく傷むとともに墳丘中央は大きく攪乱を受け石室石材等の散乱も見られた。

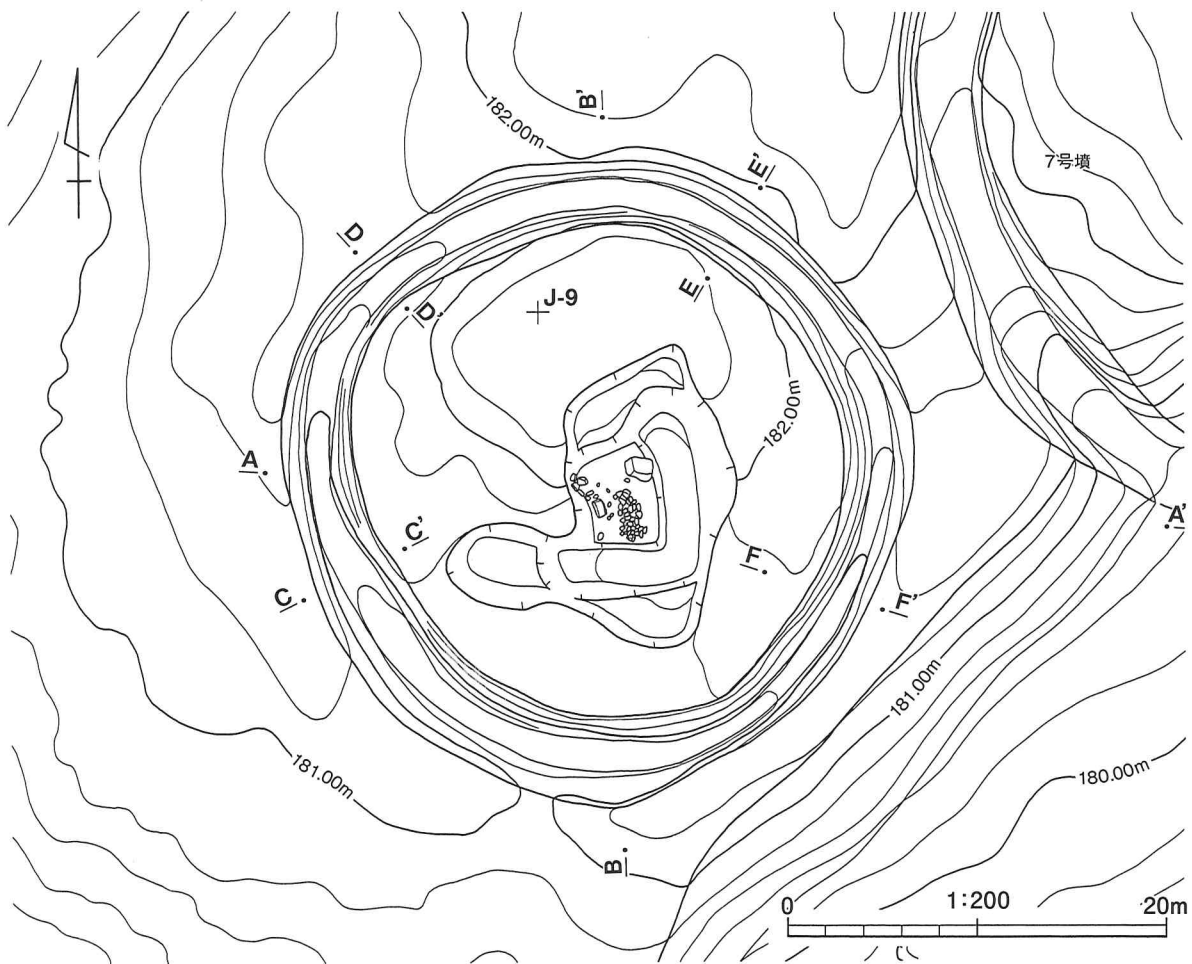
墳丘及び外部施設 (第47・48図) 墳丘はほぼ円形で、中心部より南南東に向かって開口するとみられる横穴式石室が構築されている。墳丘規模は周溝内側の立ち上がりで径14.2m、周溝を含めると16.5mである。また墳丘高(残存高)は、墳頂部と周溝底部の最大高低差(南東側)で約1.7mである。墳丘盛土は攪乱のため遺存状態は悪く、石室近辺で旧表土上に20～30cmの厚さが確認された程度であるが、多量のロームブロックを含んだものである。

周溝は幅1.4～2.3m、深さ0.5～0.75mで、整美に全周している。周溝埋土は自然埋没で、概ね3～4層に分かれ、下層にはロームブロックの混入が目立っている。

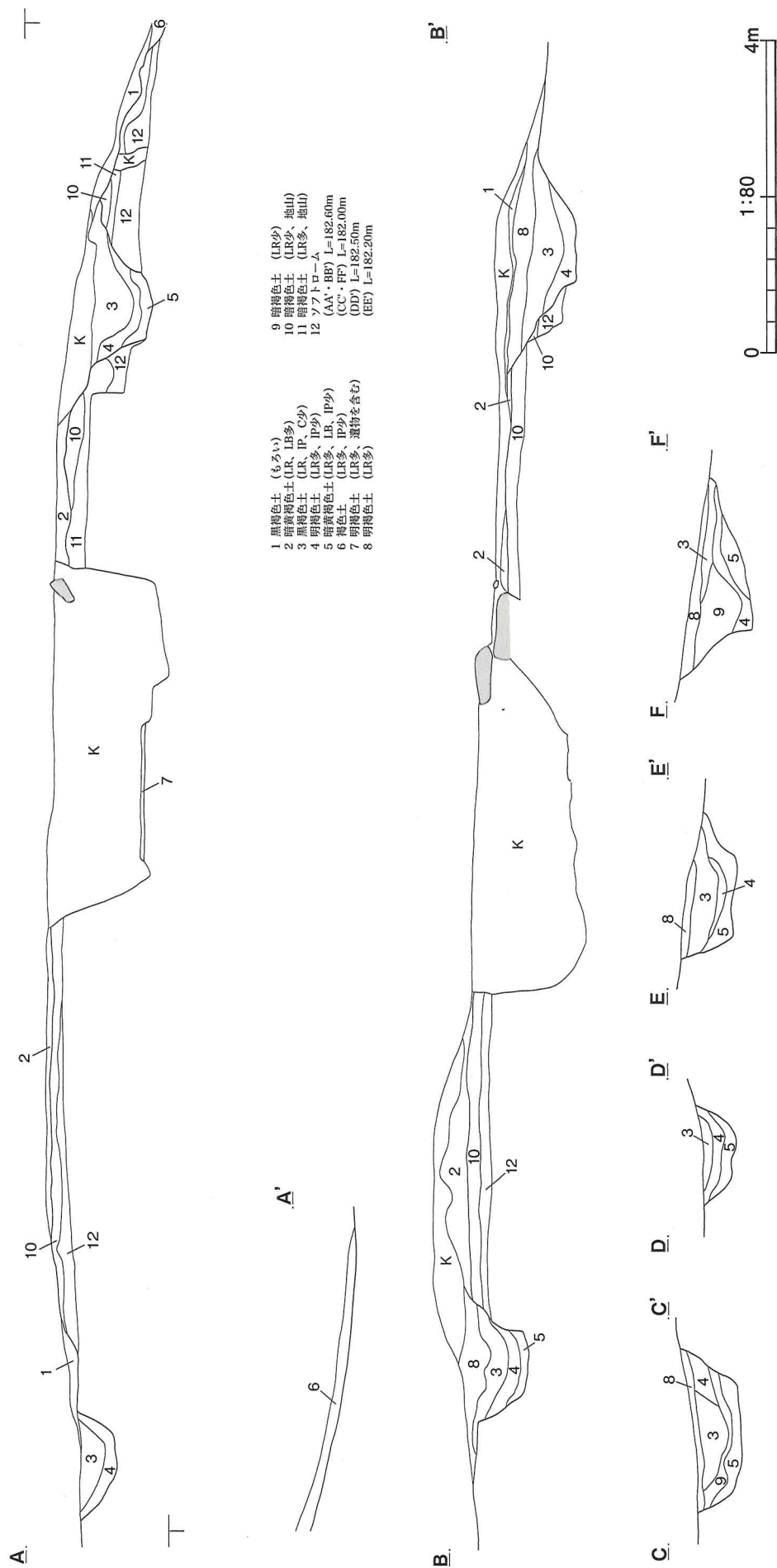
墓道は攪乱のために石室入口部は不明であるが、周溝取り付け部付近には幅70～80cm、深さ50cm前後でローム地山を掘り込んだものが1.8m程の区間残されている。恐らく墓道の長さは3m前後であったものと思われる。

なお本墳からは葺石・埴輪等の外部施設は確認されていない。

埋葬主体部 (第49図) 石室は遺存状態が極めて悪く、残されていたものは西側壁・奥壁の基部及



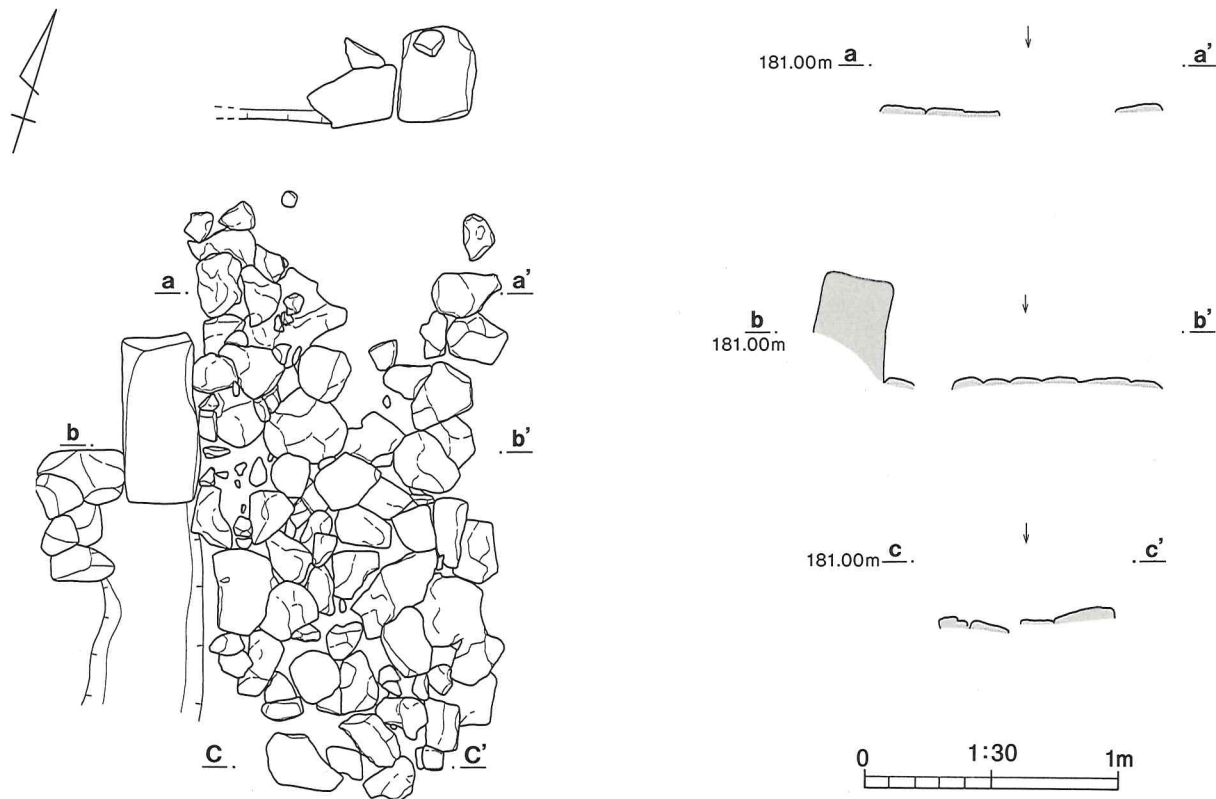
第47図 8号墳墳丘・周溝測量図



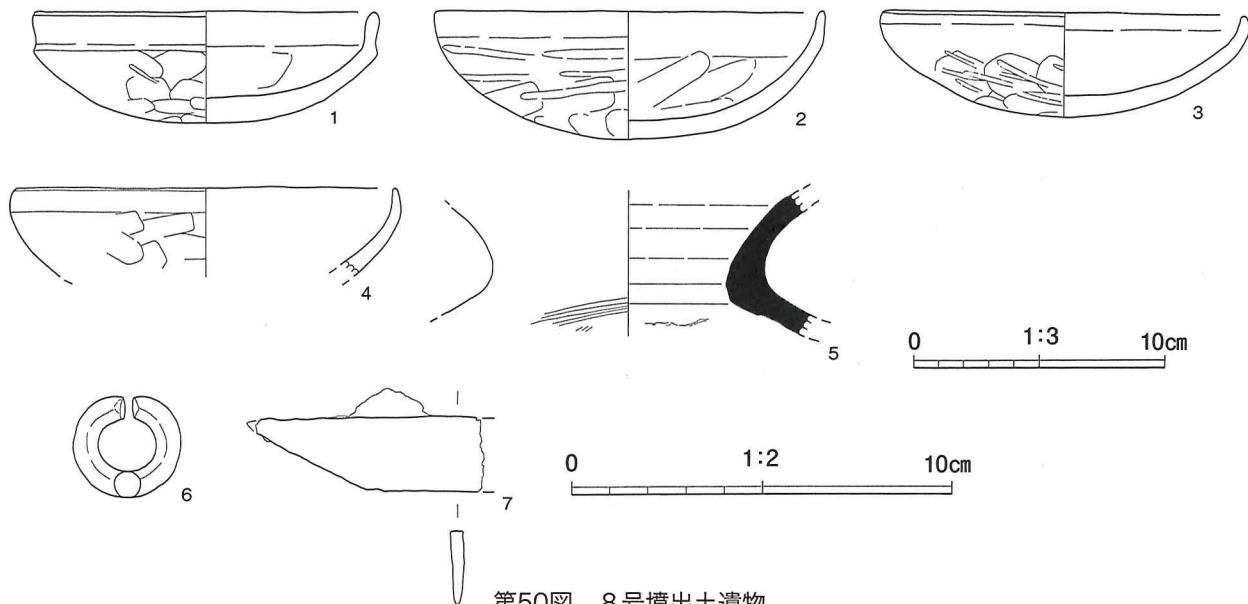
第48図 8号墳填丘・周溝土層図

び玄室床面の一部であり、玄門・羨道等は完全に失われている。攪乱のため掘方等は不明であるが、確認された玄室床面は旧地表より1m前後低く、他の古墳と同様大型土坑内に半地下式に築かれたものと思われる。推定される石室全長3.5m前後で、主軸方位はN-16°-Wを示す。

玄室の規模は、壁石材を据えた痕跡や床石の状況等から、幅1.1m前後・長さ3.0前後と推定される。唯一残された西側壁の基部石は、長さ52cm・幅40cm・厚さ22cmの安山岩割石である。また床石は、



第49図 8号墳横穴式石室



第50図 8号墳出土遺物

10～20cm大の凝灰岩剥片を敷詰めたものである。

玄門及び羨道は不明である。

出土遺物 (第50図, 第7・17表)

出土したものは土器類・装身具及び鉄器片で、図示し得たのは土師器杯4点、須恵器瓶1点、耳環1点、刀子片1点である。土師器杯2・4が周溝埋土中出土で、他はいずれも墳丘及び石室の攪乱層からの出土である。

(9) 9号墳

位置と現況 割田古墳群中最大の円墳で、南西群中最も南に位置する。立地は丘陵尾根上の南西端部で、標高は178～180m前後である。本墳の南西側には中世の堀・土塁が近接して築かれ、墳丘及び周溝の一部が削られている。現況は山林で、直径24m・高さ2.8m程の墳丘が確認されたが、表面は伐採のための重機等の走行により傷みが激しい。なお中世の堀・土塁は丁度この地点でクランク状の折が入るが、これは本墳を避けたというよりも、墳丘を物見台として利用しようとしたものと考えられる。

墳丘及び外部施設 (第51・52図) 墳丘は南西側の一部が削られているものの概ね円形とみられ、中心部より南南東に向かって開口する横穴式石室が構築されている。墳丘規模は周溝内側の立ち上がりで径24.5m、周溝を含めると31.5mである。また墳丘高(残存高)は、墳頂部と周溝底部の最大高低差(南西側)で2.9mである。墳丘盛土は中心部から北西側にかけて遺存状態がよく、石室近辺で旧表土上に約90cmの厚さで積まれた状況が確認されている。盛土は周溝掘削土が主体とみられ、多量のロームブロックを含んでいる。

周溝は南西部が削平されているが、幅2.8～4.2m、深さ0.4～0.75mである。周溝埋土は自然埋没で2～3層に分かれ、下層にはロームブロックの混入が目立っている。

墓道も攪乱や削平の影響を受け、残されていたのは中間部分の長さ3m弱程である。幅70～80cm、深さ40～50cmでローム地山を掘り抜いたもので、本来羨道入口から周溝取り付け部まで5～6mの長さがあったものとみられる。

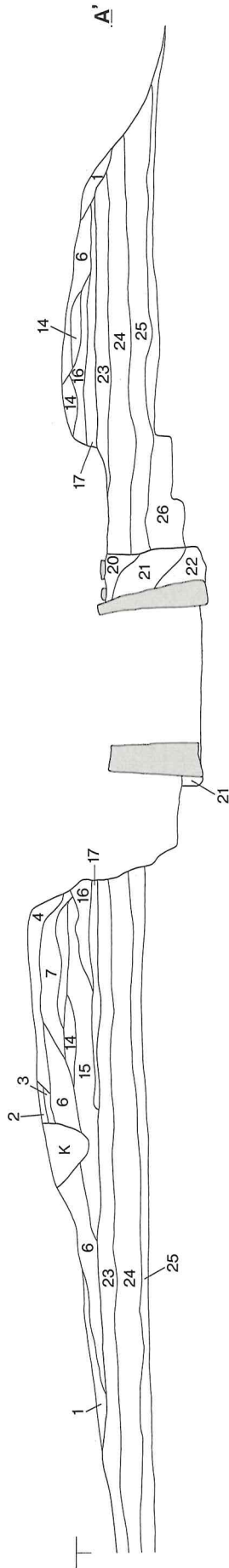
なお本墳からは葺石・埴輪等の外部施設は確認されていない。

埋葬主体部 (第53・54図) 石室は大きく攪乱を受け、残されたのは玄室側壁の下部と床の玉石敷き及び倒された奥壁だけである。玄門部と羨道はすべて抜き取られていることから袖の構造は不明であるが、僅かに胴張りを有する横穴式石室である。石室構造は半地下式で、旧地表面より長さ5.0m以上・幅2.9m・深さ1.4m前後で掘り込まれた長方形土坑内に、玄室と羨道が一体で築かれたものと思われる。推定される石室全長は約5mで、主軸方位はN-17°-Wを示す。

玄室は遺存する長さが3.5m、幅は奥壁部1.66m、中央部1.71m、最南部1.48mで、側壁に緩やかな胴張りを有する。玄室内に倒れていた奥壁は凝灰岩の一枚石で、高さ2.05m、幅1.6m、厚さ65cm、内面は平滑に仕上げられている。側壁は安山岩の割石積みであり、ブロック状の直方体石材が意識的に使用されている。基底部分は大型の石材を縦又は横に積んだものであり、特に奥壁側には大きな石材(長さ90～120cm、幅90～110cm)を2枚ずつ揃えている。中～上段は欠損しているが、中小の石材を主体に小口積みしていたものと考えられる。奥壁の大きさからみると玄室の高さは2m近くあったものと思われる。床面は5～10cm大の玉石(川原石)を密に敷詰めたものである。



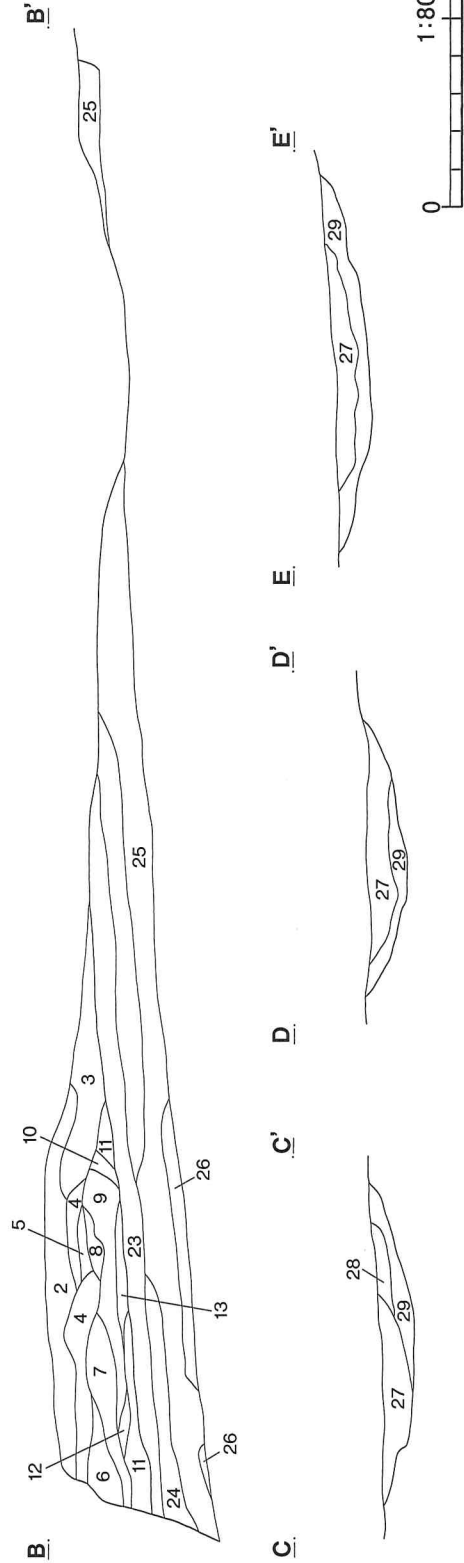
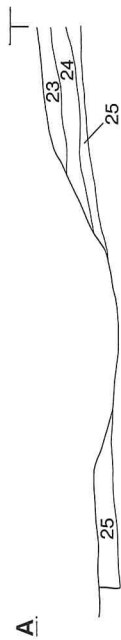
第51図 9号墳墳丘・周溝測量図



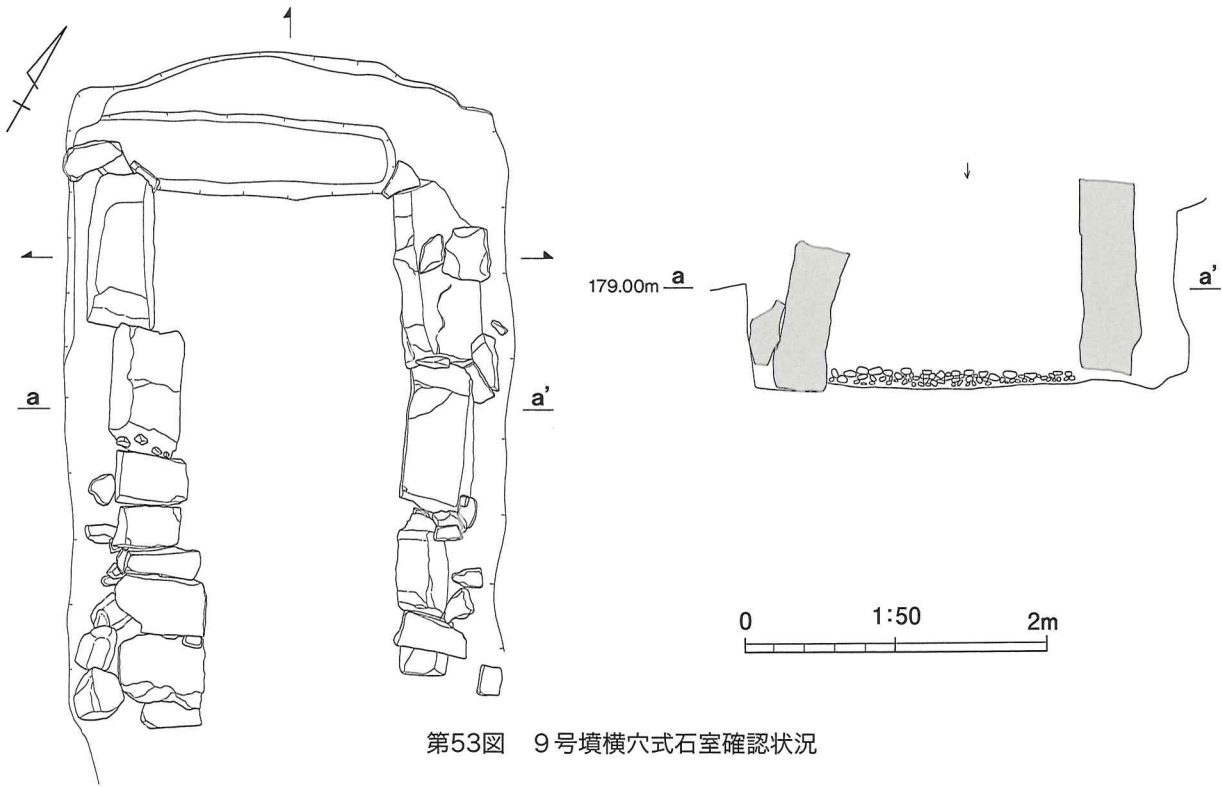
- 1 暗褐色土 (緑土)
- 2 褐色土 (IR, LB少)
- 3 暗褐色土 (IR多)
- 4 暗褐色土 (IR多, IR, IP少)
- 5 暗褐色土 (IR少, LB少)
- 6 暗褐色土 (IR多, LB多)
- 7 暗褐色土 (IR多, LB多)
- 8 暗褐色土 (IR多, LB多, IP少)
- 9 暗褐色土 (IR多, LB少, 黒色土が混じる)
- 10 暗褐色土 (IR, LB多)
- 11 暗褐色土 (IR, LB多)

- 12 暗褐色土 (IR極多)
- 13 暗褐色土 (IR多)
- 14 暗褐色土 (IR多)
- 15 暗褐色土 (IR多, IP少)
- 16 暗褐色土 (IR多, 黒色土)
- 17 暗褐色土 (IR, LB極多)
- 18 暗褐色土 (IR, LB極多)
- 19 暗褐色土 (IR, LB極多)
- 20 暗褐色土 (IR, LB極多)
- 21 暗褐色土 (IR, LB極多)
- 22 暗褐色土 (IR極多, LB多)

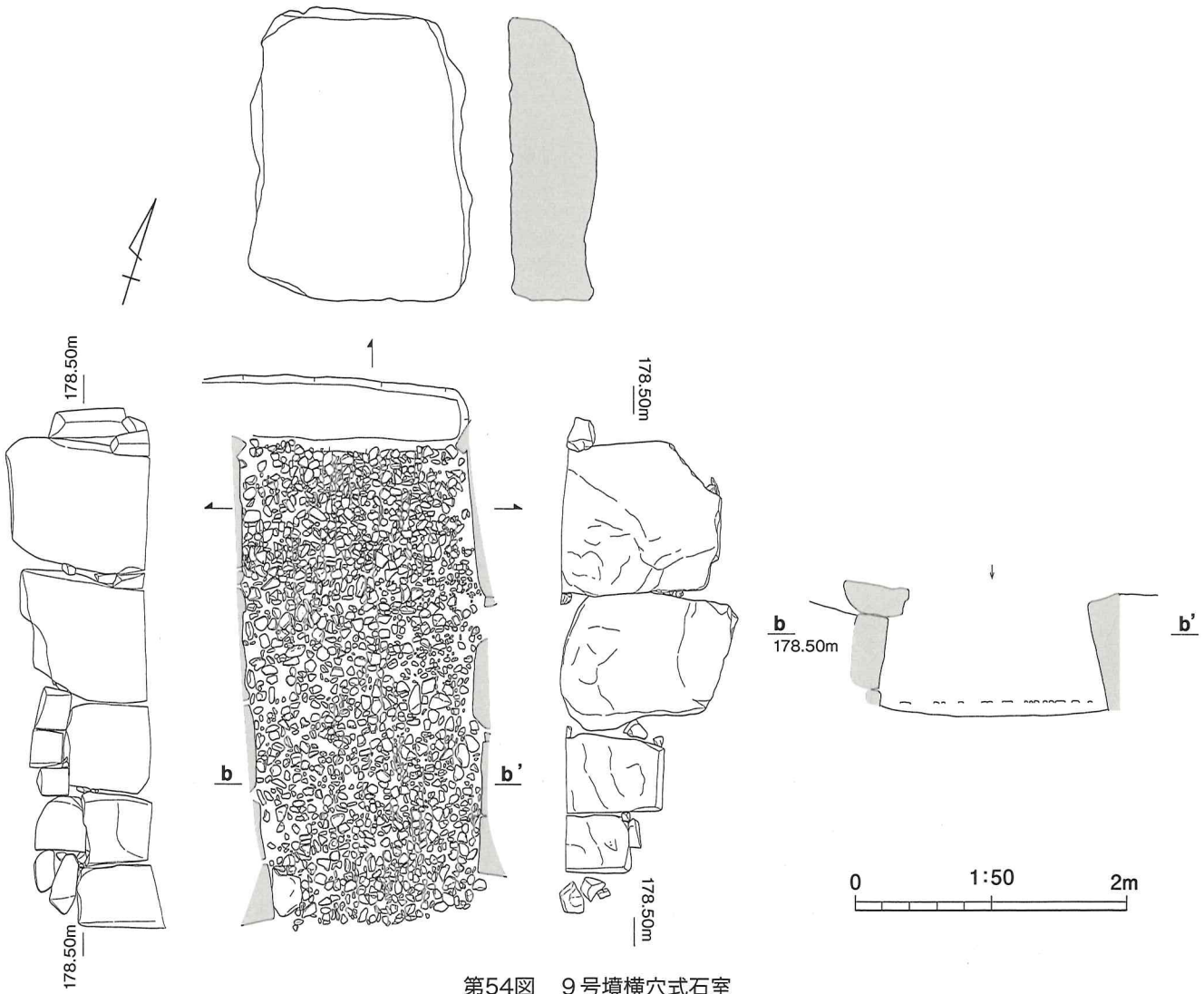
- 23 暗褐色土 (黒色土)
- 24 暗褐色土 (暗褐色土)
- 25 暗褐色土 (暗褐色土)
- 26 暗褐色土 (暗褐色土)
- 27 暗褐色土 (暗褐色土)
- 28 暗褐色土 (暗褐色土)
- 29 暗褐色土 (暗褐色土)
- (AA', CC') L=179.00m
- (BB', EE') L=180.50m
- (DD) L=180.00m



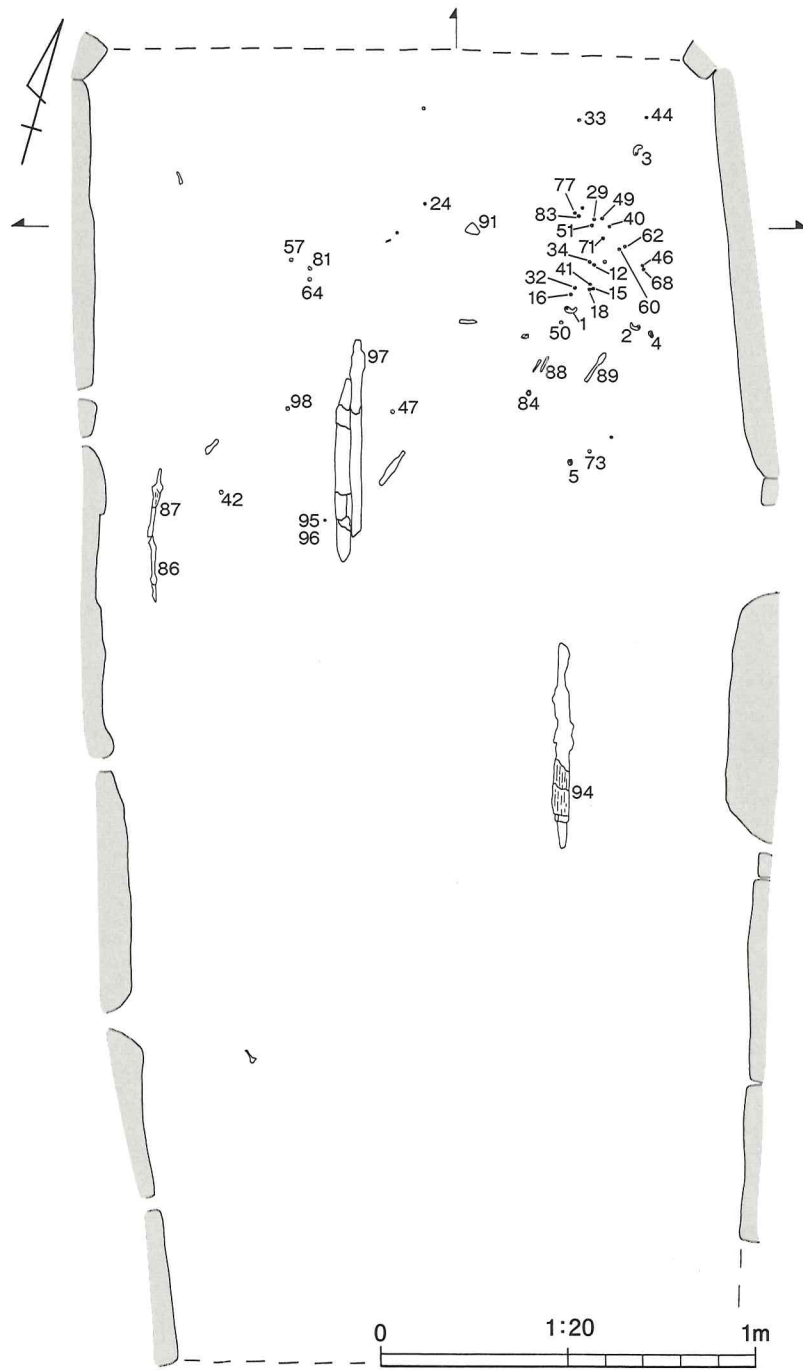
第52図 9号墳填丘・周溝土層図



第53图 9号墳横穴式石室確認状況



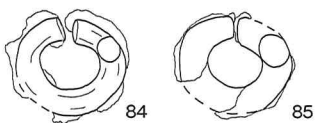
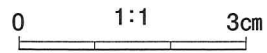
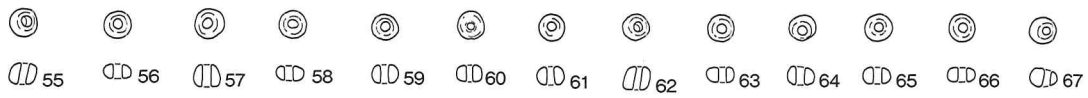
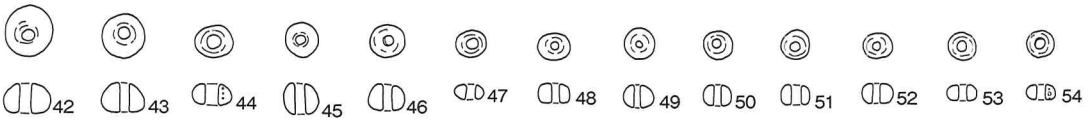
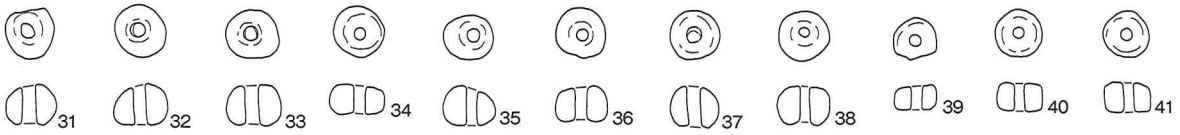
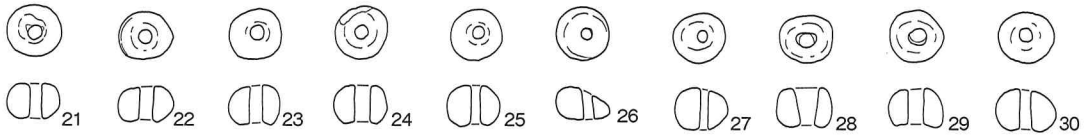
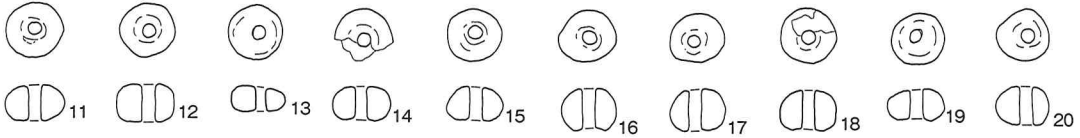
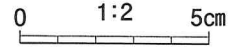
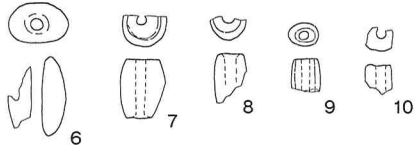
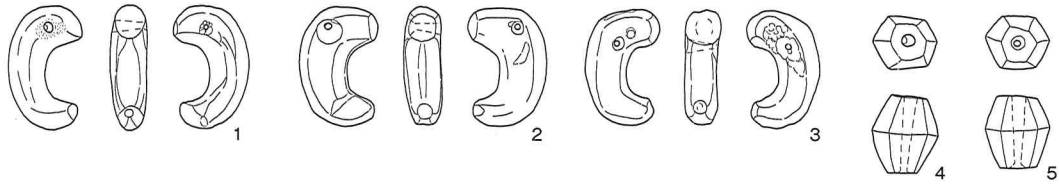
第54图 9号墳横穴式石室



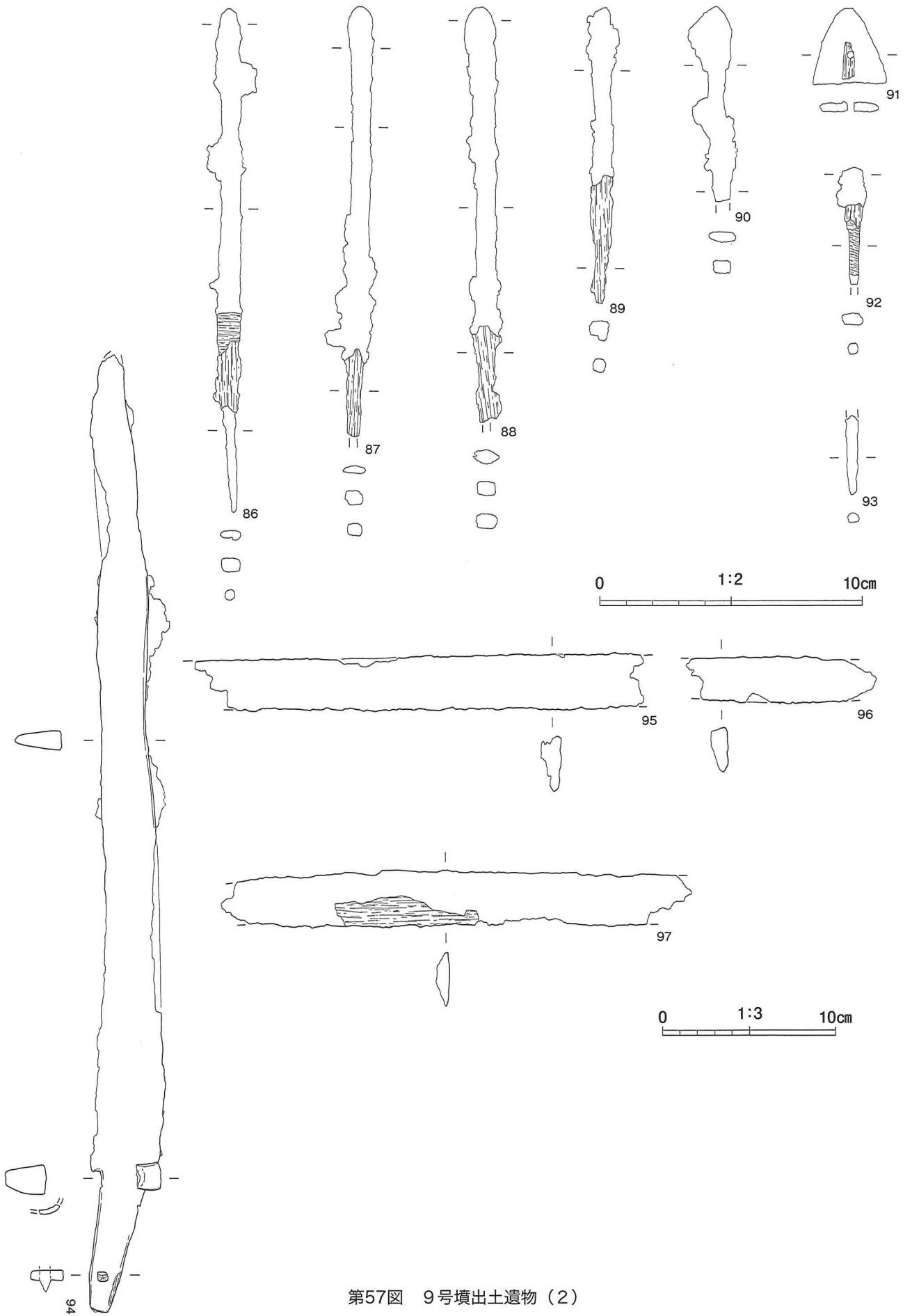
第55図 9号墳玄室遺物出土状況

出土遺物 (第55～57図, 第11・13・18表)

出土したのは玉類・装身具及び鉄器で、その内訳は瑪瑙製の勾玉3点・水晶製の切子玉2点・琥珀製の棗玉5点・漆塗りの土玉31点・ガラス小玉42点・耳環2点・鉄鏃7点及び直刀2口である。出土位置はいずれも玄室床面の石敷き上である。直刀2口(94～96)は、奥壁から約1m手前のやや西側壁寄りのところで、切っ先を玄門に向け南北に揃えた状態で確認されている。原位置を留めていると思われるのはこれだけで、他は奥壁から1.5m程の範囲に散乱した状態であるが、玉類は東側壁寄りで奥壁から50cm程手前辺りにやや集中している様子がみられる。



第56图 9号墳出土遺物(1)



第57图 9号墳出土遺物(2)

(10) 1号石棺

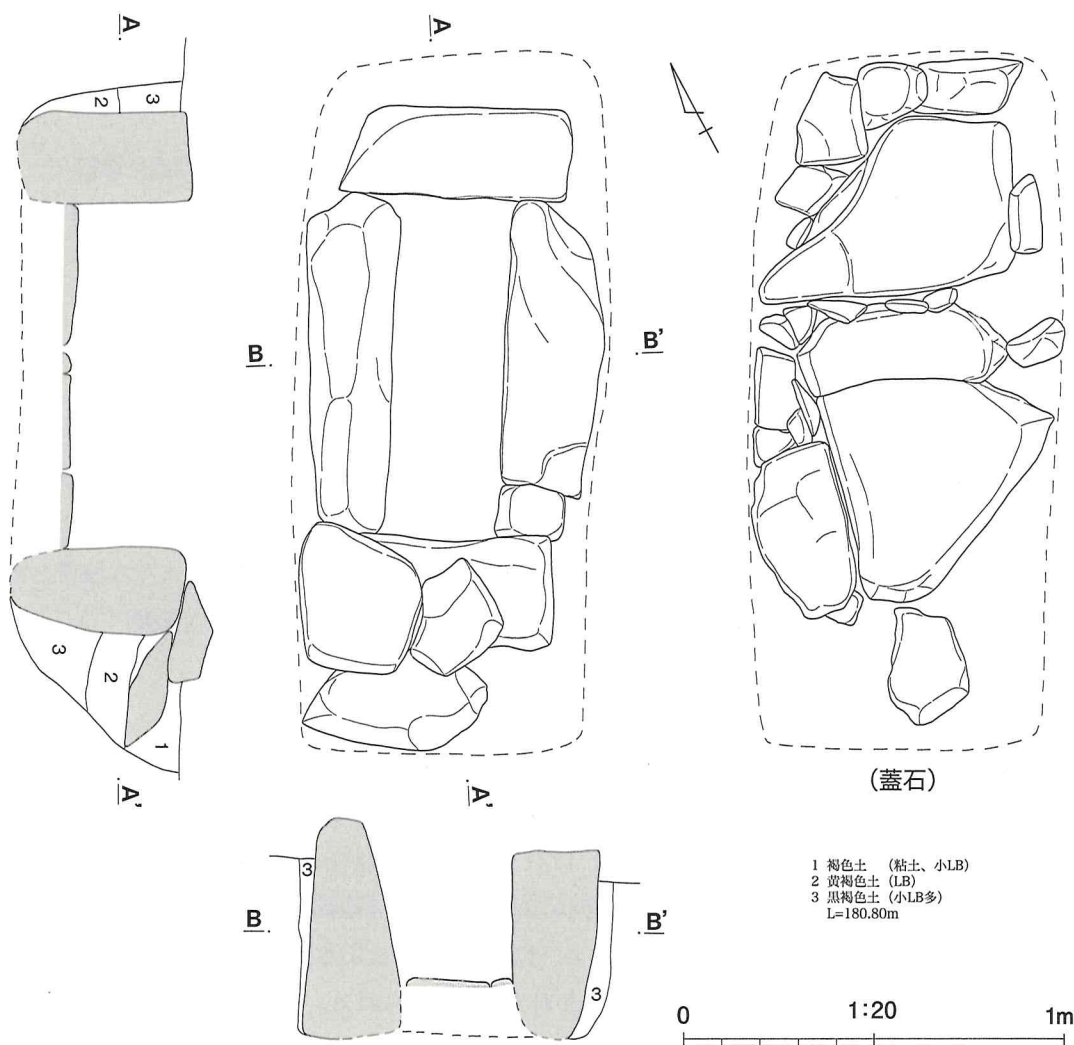
5号墳と6号墳の間から確認された小石棺である。丘陵尾根から南に下がる緩斜面上の立地で、標高は180.6m前後、6号墳とは僅か1m程の距離に近接している。現況は山林で、表土除去によって蓋石が現れたものであり、マウンド上の盛土等は確認されていない。

本石棺は幅84cm、長さ182cm、深さ40～50cmの長方形土坑内に構築された小型の箱型石棺で、主軸方位はN-22°-Eを示している。石材はすべて安山岩の割石である。蓋石はやや不整形な大型割石(40～70cm大)を2枚置き、隙間を小型な割石で塞いだものであり、さらに全体は粘土で被覆されていたものとみられる。箱部は基本的に4枚の割石で組まれたものである。長軸は長さ70～90cm・幅50～60cm・厚さ20～25cmの板状割石2枚で、やや短い東側は角柱材(約15cm角)で補っている。短軸は長さ55～60cm・幅45～50cm・厚さ25cm前後の板状割石2枚で、長軸石材の小口を塞ぐように置かれている。これらは粘土・ロームブロック・小割石等の裏込めで安定させている。

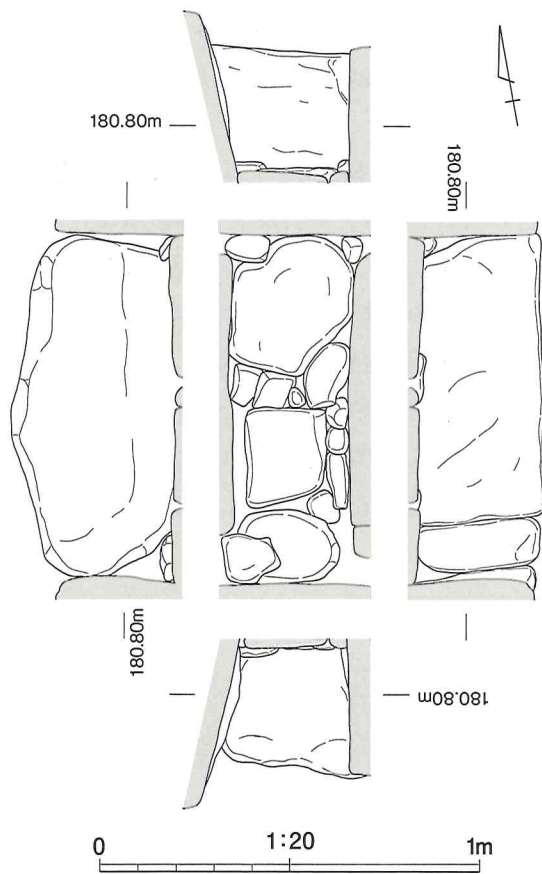
床部は25～35cm大の平らな割石を3枚敷き、隙間を小割石で埋めたものである。なお、本石棺内法の大きさは、長さ90cm・幅32cm・深さ30～35cm程である。

出土遺物(第60図, 第14・19表)

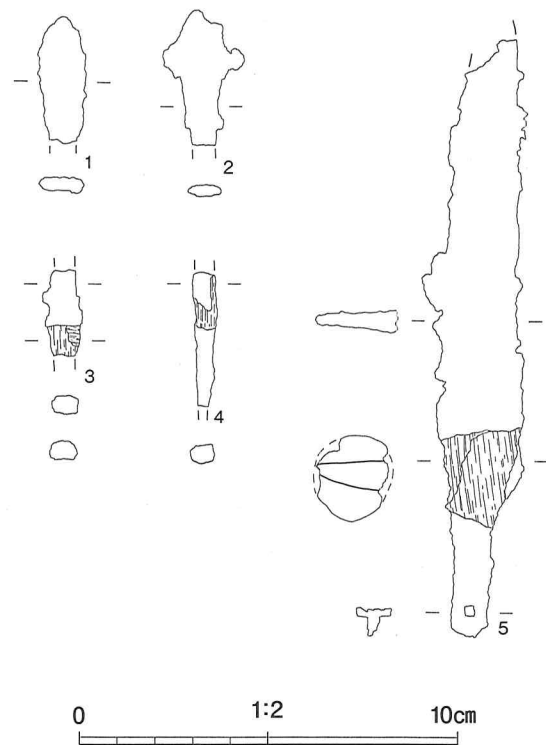
石棺内からは鉄鏃と刀子片が出土している。



第58図 1号石棺確認状況



第59図 1号石棺



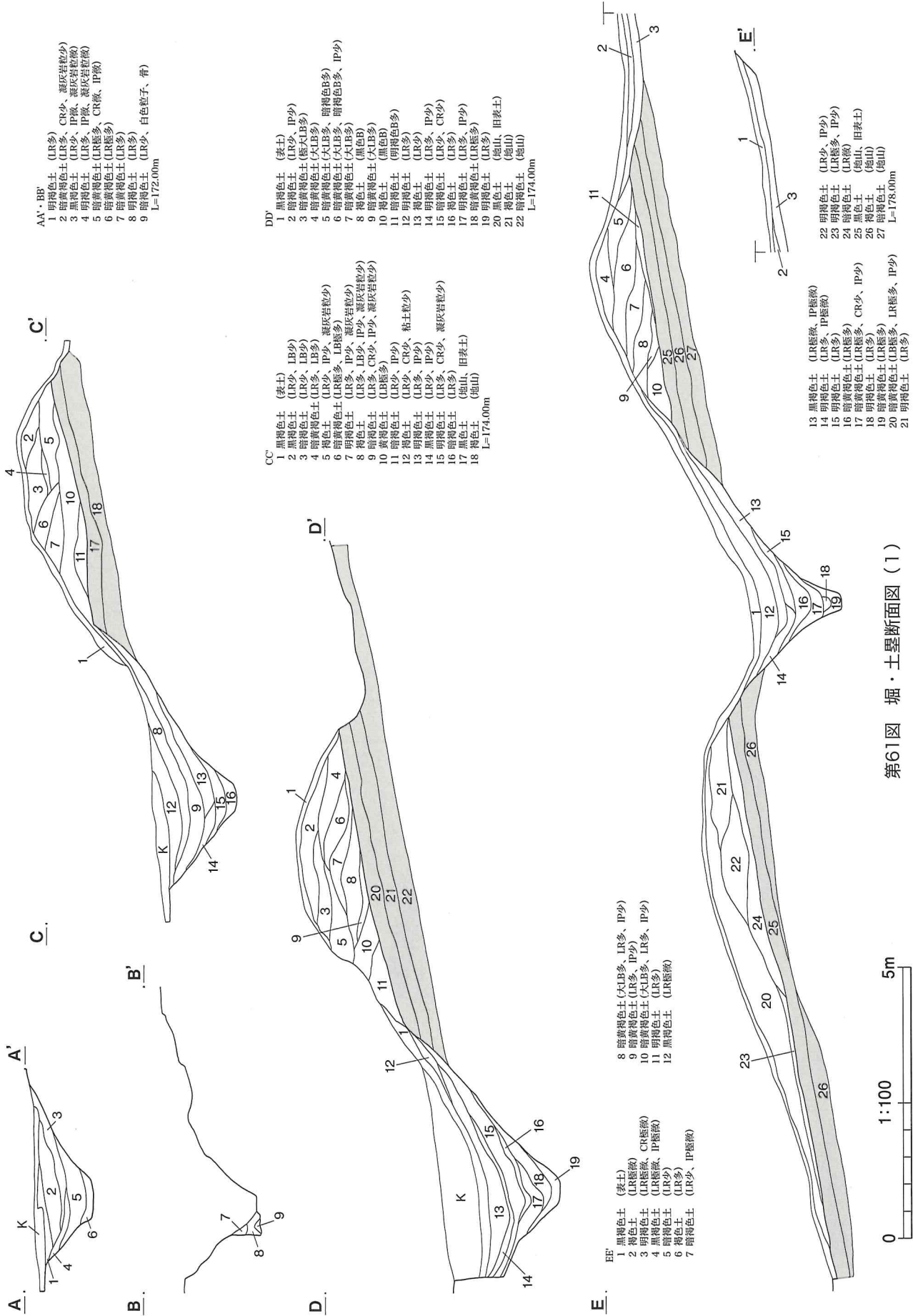
第60図 1号石棺出土遺物

2 堀・土塁

今回、本遺跡で確認された堀・土塁は、位置・規模・構造等から多気城跡に関連するものとみられる。小丘陵の尾根筋を縦断するように築かれた大規模な堀・土塁で、調査地区内で長さ約290m分を確認している。この堀・土塁の長さについては、北東部は土取りにより不明であるが、南西部では丘陵裾部まで達していることが確認されており、総延長は400m近くあったものとみられる。また古墳群と重複する立地をとっているが、実際には南東側すれすれに設定されており、墳丘を大きく破壊することは避けられている。

(1) 堀・土塁の規模と構造

立地と形状 (第4図) この堀・土塁が立地するのは、主に丘陵墳頂部から5～10m程下った南東緩斜面上で、ほぼ等高線(標高175～180m)に沿った形で横堀状に築かれたものである。平面形状的には調査区南西端から約60mのところ折が入るが、他はほぼ直線的で地形による僅かなうねりが見える程度である。一方、南西への展開については調査区外ではあるが、西へ屈曲して丘陵裾部まで伸びていることが確認されており、縦堀状に築かれたものとみられる。また、北東への展開については、土取りですでに掘削されていたが、調査区端部付近で北への屈曲する様子がみられる。なお、確認さ



第61图 掘·土壘断面图(1)

0 1:100 5m

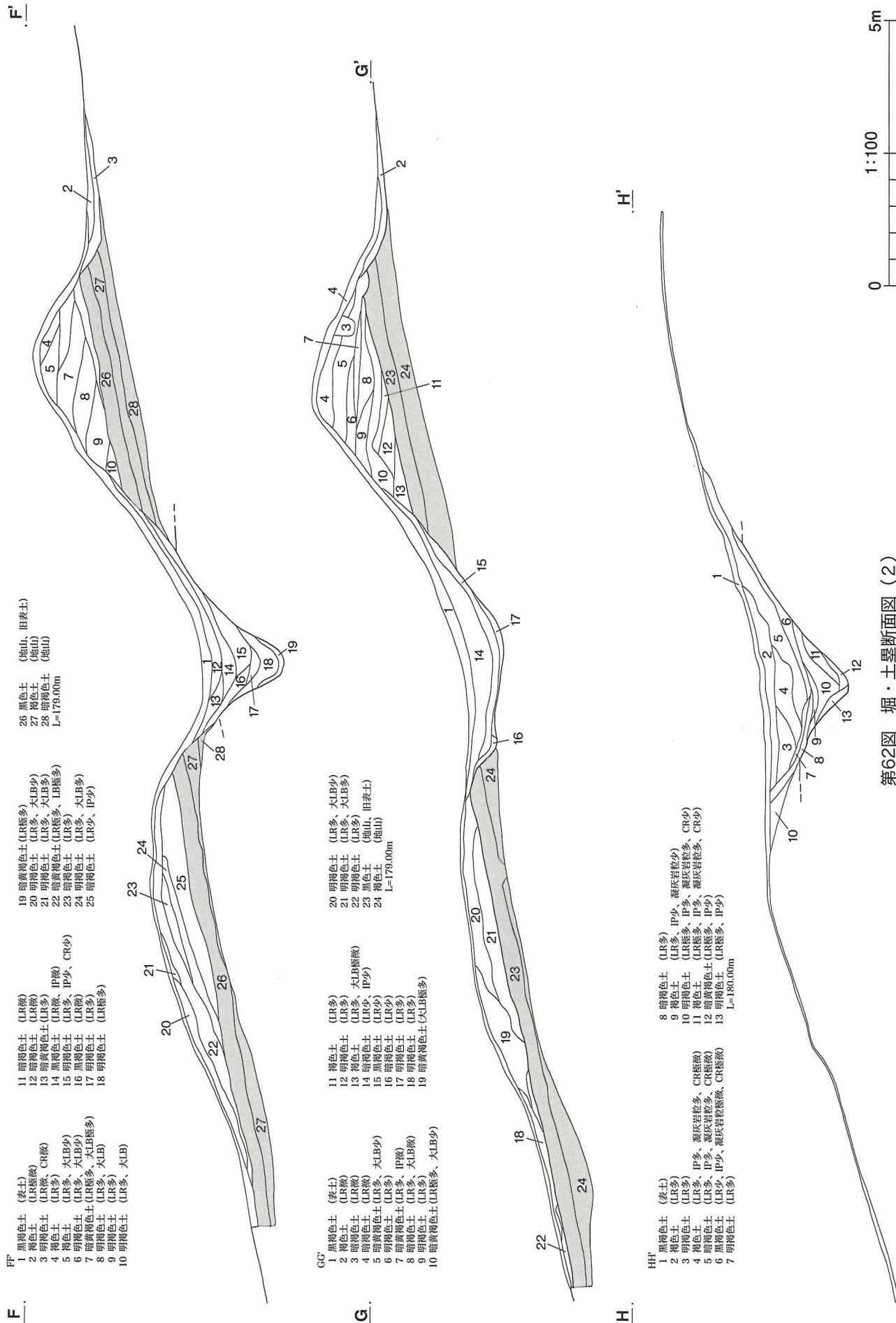
- AA', BB'
- 1 暗褐色土 (LR多) CR少、凝灰岩粒少
 - 2 暗黄褐色土 (LR多、IP微、凝灰岩粒微)
 - 3 暗褐色土 (LR少、IP微、凝灰岩粒微)
 - 4 暗褐色土 (LR多、IP微、凝灰岩粒微)
 - 5 暗黄褐色土 (LR多、IP微、凝灰岩粒微)
 - 6 暗黄褐色土 (LR多、IP微、凝灰岩粒微)
 - 7 暗黄褐色土 (LR多、IP微、凝灰岩粒微)
 - 8 暗褐色土 (LR多)
 - 9 暗褐色土 (LR少、白色粒子、骨)
- L=172.00m

- DD'
- 1 暗褐色土 (表土)
 - 2 暗褐色土 (LR少、IP少)
 - 3 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 4 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 5 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 6 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 7 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 8 褐色土 (黑色B)
 - 9 暗黄褐色土 (LR多)
 - 10 暗黄褐色土 (LR多)
 - 11 暗黄褐色土 (LR多)
 - 12 暗黄褐色土 (LR多)
 - 13 褐色土 (LR多、IP少)
 - 14 暗褐色土 (LR多、IP少)
 - 15 暗褐色土 (LR多、IP少)
 - 16 暗褐色土 (LR多、IP少)
 - 17 暗黄褐色土 (LR多、IP少)
 - 18 暗黄褐色土 (LR多、IP少)
 - 19 暗黄褐色土 (LR多)
 - 20 暗黄褐色土 (LR多)
 - 21 暗黄褐色土 (LR多)
 - 22 暗黄褐色土 (LR多)
- L=174.00m

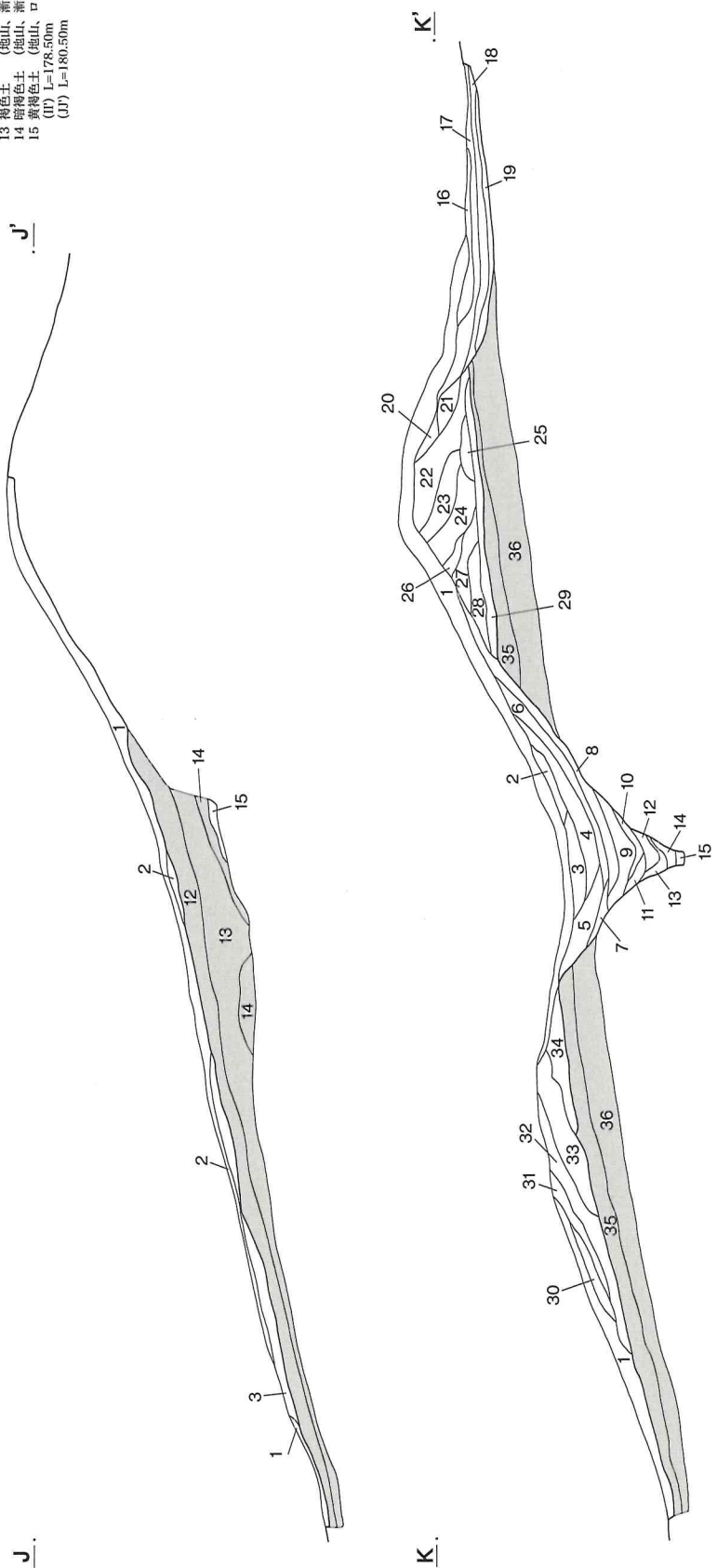
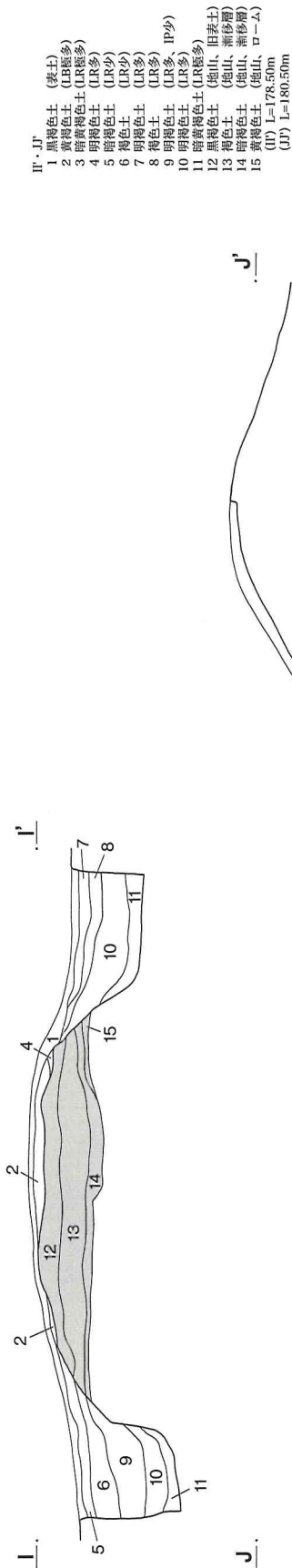
- CC'
- 1 暗褐色土 (表土)
 - 2 暗褐色土 (LR少、IP少)
 - 3 暗褐色土 (LR少、IP少)
 - 4 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 5 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 6 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 7 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 8 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 9 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 10 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 11 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 12 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 13 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 14 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 15 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 16 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 17 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 18 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
- L=174.00m

- EE'
- 1 暗褐色土 (表土)
 - 2 暗褐色土 (LR微、IP微)
 - 3 暗褐色土 (LR微、IP微)
 - 4 暗褐色土 (LR微、IP微)
 - 5 暗褐色土 (LR微、IP微)
 - 6 暗褐色土 (LR微、IP微)
 - 7 暗褐色土 (LR少、IP微)
 - 8 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 9 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 10 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 11 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 12 暗黄褐色土 (LR多、IP多)

- 13 暗褐色土 (LR微、IP微)
 - 14 暗褐色土 (LR多、IP微)
 - 15 暗褐色土 (LR多、IP微)
 - 16 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 17 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 18 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 19 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 20 暗黄褐色土 (LR多、IP多)
 - 21 暗褐色土 (LR多、IP多)
 - 22 暗褐色土 (LR多、IP多)
 - 23 暗褐色土 (LR多、IP多)
 - 24 暗褐色土 (LR多、IP多)
 - 25 暗褐色土 (LR多、IP多)
 - 26 暗褐色土 (LR多、IP多)
 - 27 暗褐色土 (LR多、IP多)
- L=178.00m

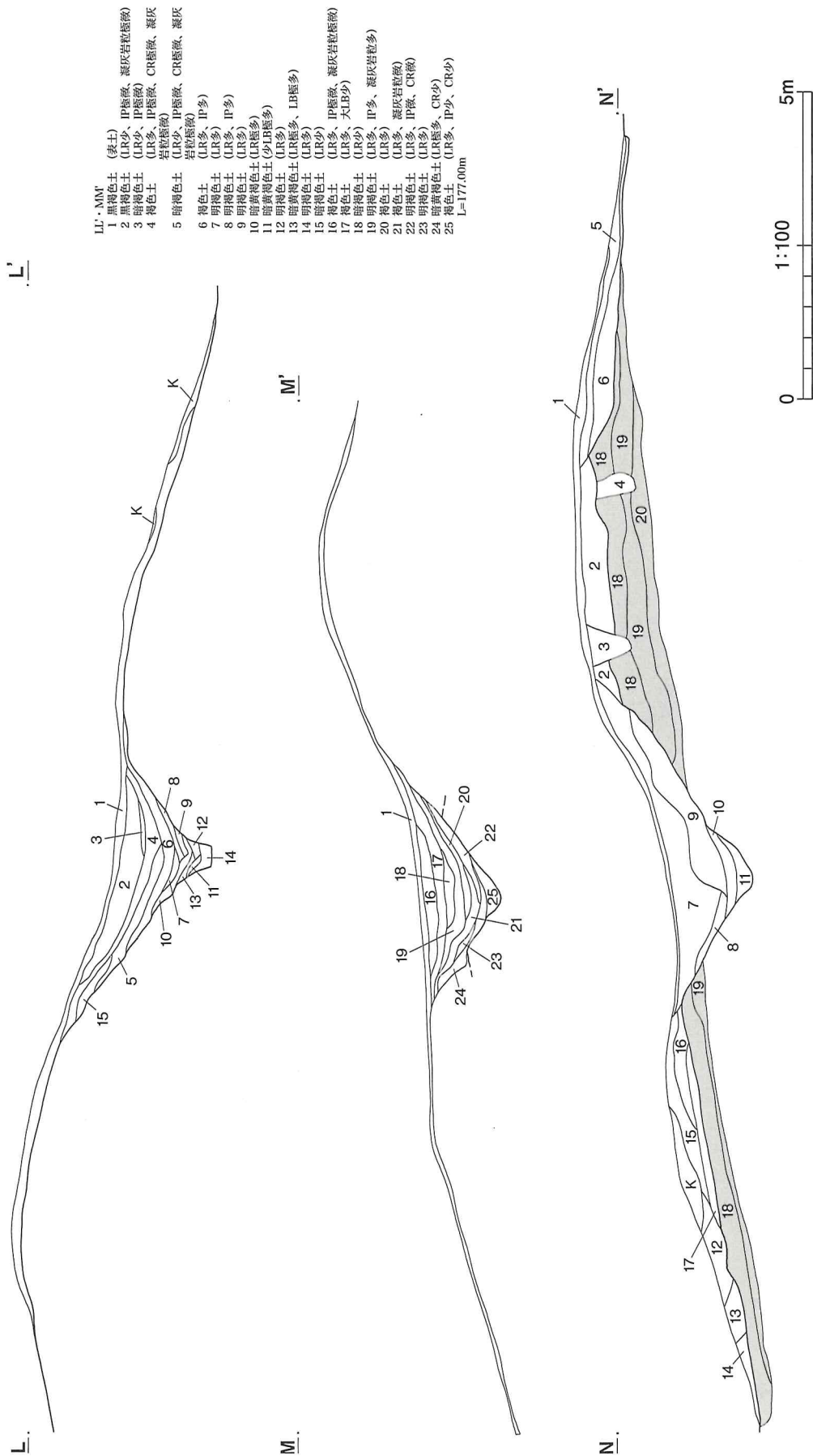


第62圖 堀・土壘断面図 (2)



- KK'
- 1 暗褐色土 (表土)
 - 2 暗褐色土 (LR少, IP少)
 - 3 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 4 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 5 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 6 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 7 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 8 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 9 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 10 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 11 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 12 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 13 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 14 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 15 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 16 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 17 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 18 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 19 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 20 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 21 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 22 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 23 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 24 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 25 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 26 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 27 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 28 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 29 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 30 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 31 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 32 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 33 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 34 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 35 暗褐色土 (LR多, IP少)
 - 36 暗褐色土 (LR多, IP少)
- II'. JJ'
- 1 暗褐色土 (LR少, LB少)
 - 2 暗褐色土 (LR多, LB極多)
 - 3 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 4 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 5 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 6 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 7 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 8 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 9 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 10 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 11 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 12 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 13 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 14 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 15 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 16 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 17 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 18 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 19 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 20 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 21 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 22 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 23 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 24 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 25 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 26 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 27 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 28 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 29 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 30 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 31 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 32 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 33 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 34 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 35 暗褐色土 (LR多, LB多)
 - 36 暗褐色土 (LR多, LB多)
- (II') L=177.50m

第63图 堀・土壁断面图 (3)



- LL · MM
 1 黑得色土 (表土)
 2 黑得色土 (LR少、IP極微、凝灰岩粒極微)
 3 暗得色土 (LR少、IP極微、凝灰岩粒極微)
 4 得色土 (LR多、IP極微、CR極微、凝灰岩粒極微)
 5 暗得色土 (LR少、IP極微、CR極微、凝灰岩粒極微)
 6 得色土 (LR多、IP多)
 7 明得色土 (LR多)
 8 明得色土 (LR多、IP多)
 9 明得色土 (LR多)
 10 暗黃得色土 (LR極多)
 11 暗黃得色土 (少LB極多)
 12 明得色土 (LR多)
 13 暗黃得色土 (LR極多、LB極多)
 14 明得色土 (LR多)
 15 暗得色土 (LR少)
 16 得色土 (LR多、IP極微、凝灰岩粒極微)
 17 得色土 (LR多、大LB少)
 18 暗得色土 (LR少)
 19 明得色土 (LR多、IP多、凝灰岩粒多)
 20 得色土 (LR多)
 21 得色土 (LR多、凝灰岩粒極微)
 22 明得色土 (LR多、IP極、CR極)
 23 明得色土 (LR多)
 24 暗黃得色土 (LR極多、CR少)
 25 得色土 (LR多、IP少、CR少)
 L=177.00m

- NN
 1 黑得色土 (表土)
 2 得色土 (LR多、IP少、凝灰岩粒少)
 3 得色土 (LR極多、LB少)
 4 暗得色土 (LR多、LB少、IP少)
 5 明得色土 (LR多、凝灰岩粒少)
 6 明得色土 (LR極多)
 7 得色土 (LR多、IP少)
 8 明得色土 (LR多、IP少)
 9 明得色土 (LR極多、IP少、CR少、凝灰岩粒少)
 10 明得色土 (LR極多、中LB少、IP少、CR少)
 11 暗黃得色土 (LR極多、中LB極多)
 12 暗黃得色土 (LR極多、LB極多)
 13 暗黃得色土 (LR極多、LB少)
 14 暗黃得色土 (LR極多)
 15 暗得色土 (LR多、IP少)
 16 得色土 (LR多、IP少)
 17 暗黃得色土 (LR極多)
 18 黑得色土 (地山、旧表土)
 19 明得色土 (地山、潛移層)
 20 黃得色土 (地山、P-A)
 L=175.36m

第64圖 堀・土層断面圖 (4)

れた長さは中心部の横堀部が約290m、南西側で西へ折れる縦堀部が約70mであるが、北東側でも同様な展開が考えられることから総延長は400mを超える大規模なものであったと思われる。

構造と規模 (第61～64図) 堀は所謂薬研堀で、堀底はかなり狭く仕上げられ、一人一人が入れないようなところもある。土塁は両側に盛られるが、谷側は低くなだらかなのに対して、山側は高くしっかりと積まれている。さらにこの山側土塁の山側には、広く浅い堀状の窪みが形成されている。これらの基本的な構築状況を代表的な土層断面(E-E'・F-F'等)から読み取ると次のようになる。

まず堀部は、傾斜10°前後の緩斜面地に幅5.5m程で設定し、谷側約50°・山側約40°の傾斜で2.5m程掘り下げ、幅30cm前後の底面に仕上げている。次に土塁部であるが、谷側の土塁は幅が7～8mと広いが高さは0.8m程で盛り上がりは緩やかである。堀の掘削土をそのまま積み上げたものとみられ、上層へ行くに従ってロームブロックの混入度が増えている。この盛り土は谷側への流出も多く、あまり突き固められなかったものとみられる。これに対して山側の土塁は幅が4～5mと狭いが高さは1.2m程あり、斜面もしっかりと整えられている。この山側土塁の積み方で特徴的なことは、谷側から土手を造るように順に積み上げていく手法で、突き固めもしっかりとなされている。これによって、山側土塁の頂部から堀底までに、都合7m程(高低差4.5m)の急斜面が形成されている。またこの山側土塁のさらに山側には幅5～10m、深さ0.5～1m程の幅広で浅い堀状の窪みが全体に確認できる。山側土塁の盛り土の主体はこの掘削土とみられ、山側から盛り土を削り下ろすことで作業の効率化を図ったものと考えられる。なお、堀部及びこの堀状窪み部の埋土はいずれも自然堆積で、大きな改修や掘り返しの痕跡は認められない。

(2) 折と土橋

本堀・土塁には特徴的な施設として、折と二つの土橋(1号・2号土橋)が確認されている。このうち折と1号土橋は、横矢がけの仕掛けとして設けられたものとみられる。

折 位置的には調査区南西端から50～60m程北東の地点で、堀・土塁を10m程クランク状に屈曲させたものである。この屈曲した山側土塁上から北東の1号土橋までは25m前後であり、十分横矢をかけられる距離に設定されている。また、この付近は堀底がかなり狭く仕上げられ、防御性を高めている。K-K'の断面図にも示されているように幅20cm余りの堀底から深さ約1mまでは60～70°の急斜面に掘られている。文字どおりの薬研堀で、底に落ちたら容易には抜け出せない構造になっている。さらにこの折は、古墳群中最大規模な9号墳の裾部を取り巻くように築造されており、丁度墳丘を見張り台のように利用した可能性も考えられる。

1号土橋 前述の折部から北東へ約25mの位置に設けられたのが1号土橋である。幅約4.5m(基底部では6.5m前後)の地山掘り残しの土橋で、長さは6～7m程である。この土橋部の土塁の状況を見ると谷側はほとんど盛られていないが、山側は周辺と変わりなく築かれている。このため谷側から進むと、かなりの登り傾斜となっている。

2号土橋 1号橋の北東約45mの地点に設けられた土橋である。ローム層以下を掘り残した低めの土橋で、幅は約5m(基底部では5.5m前後)、上面の長さは3m前後である。堀底からこの上面までは1.5m前後あるが、土塁は両側とも周辺同様に築かれており、どちらからもいったん下がらなければ渡ることができない。かなり幅広ではあるが、敵上の障壁として掘り残した可能性も考えられる。

3 その他

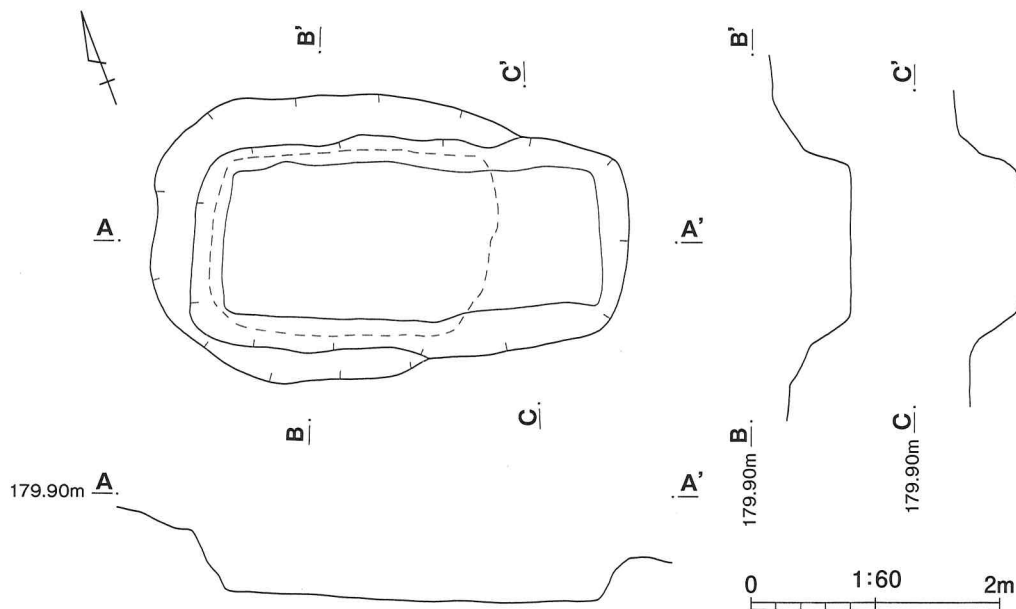
(1) 竪穴遺構

堀・土塁の折部付近から3基の竪穴遺構が確認されている。いずれも山側土塁と古墳群の間に設けられた幅広で浅い堀状の窪みの中で、炭や炭化物・焼土等が多く出土していることから、炭焼き窯の可能性が高いものとみられる。

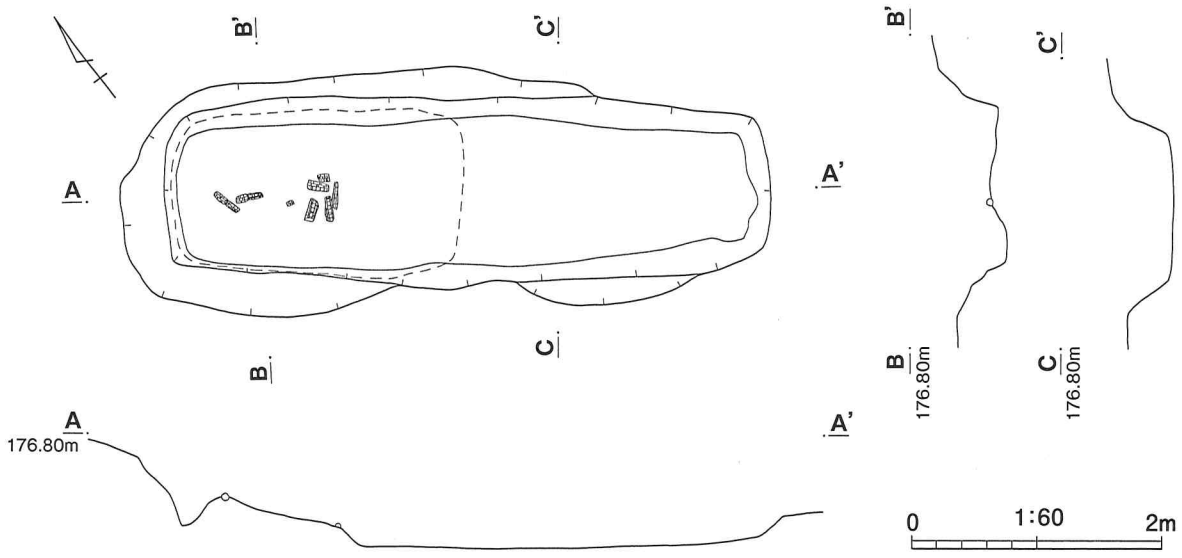
1号竪穴遺構 (第65図) 折部の北約15mに位置する。中心竪穴の平面形は3.45m×1.65mの長方形で、主軸方位はN-70°-Wである。深さは北西部山側が約70cm、南東部谷側が約30cmで、北西部山側の壁は二段に掘り込まれている。底面はほぼ平坦で、北西部山側には多くの炭化物・焼土が確認されている。

2号竪穴遺構 (第66図) 折部の南西約30mに位置する。中心竪穴の平面形は4.8m×1.45mの長方形で、主軸方位はN-55°-Wである。深さは北西部山側が約70cm、南東部谷側が約25cmで、北西部山側の壁は二段に掘り込まれている。底面はほぼ平坦で、北西部山側の壁寄りには多くの炭が残されていた。

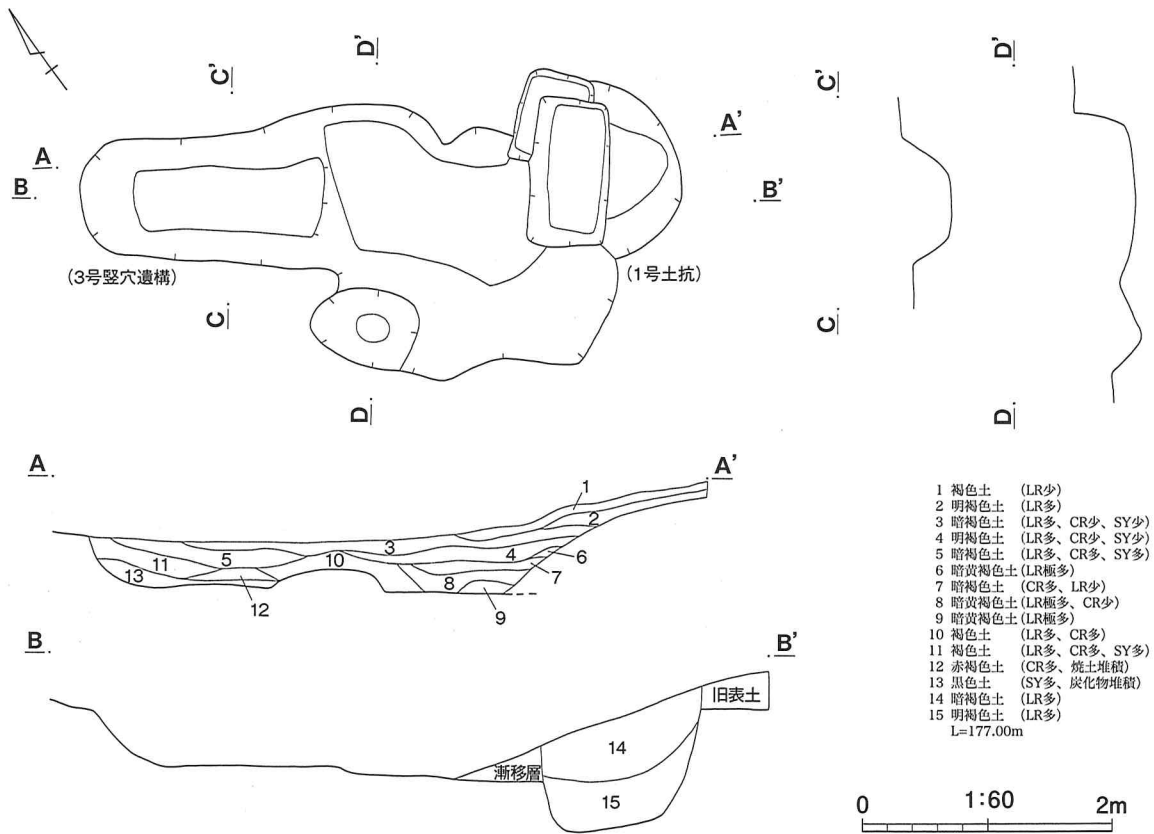
3号竪穴遺構 (第67図) 2号竪穴遺構の北東1.5m程のところに並ぶように位置する。中心竪穴は南東部がやや攪乱を受けているが、3.0m×1.0程の長方形とみられ、主軸方位はN-45°-Wである。深さは北西部が約40cm、南東部が一段深く約50cmである。なお、焼土・炭化物はほとんど確認されていない。



第65図 1号竪穴遺構



第66图 2号竖穴遺構



- 1 褐色土 (LR少)
 - 2 明褐色土 (LR多)
 - 3 暗褐色土 (LR多、CR少、SY少)
 - 4 明褐色土 (LR多、CR少、SY少)
 - 5 暗褐色土 (LR多、CR多、SY多)
 - 6 暗黄褐色土 (LR極多)
 - 7 暗褐色土 (CR多、LR少)
 - 8 暗黄褐色土 (LR極多、CR少)
 - 9 暗黄褐色土 (LR極多)
 - 10 褐色土 (LR多、CR多)
 - 11 褐色土 (LR多、CR多、SY多)
 - 12 赤褐色土 (CR多、燼土堆積)
 - 13 黑色土 (SY多、炭化物堆積)
 - 14 暗褐色土 (LR多)
 - 15 明褐色土 (LR多)
- L=177.00m

第67图 3号竖穴遺構・1号土坑

(2) 土坑

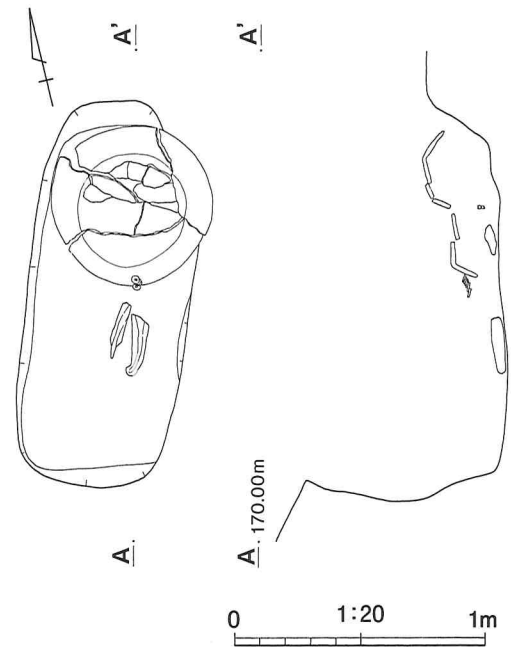
1号土坑 3号竖穴遺構の南東部に重複し、中世土塁の北西裾部に位置する。大きさ1.2m×65cmの長方形土坑で、確認面からの深さは1.15mと深めである。主軸方位はN-47°-Eであり、長軸が土塁方向に並行する形になっている。重複関係では3号竖穴遺構に切られた状況を示しているが、出土遺物は確認されていない。

(3) 土坑墓 (第68図)

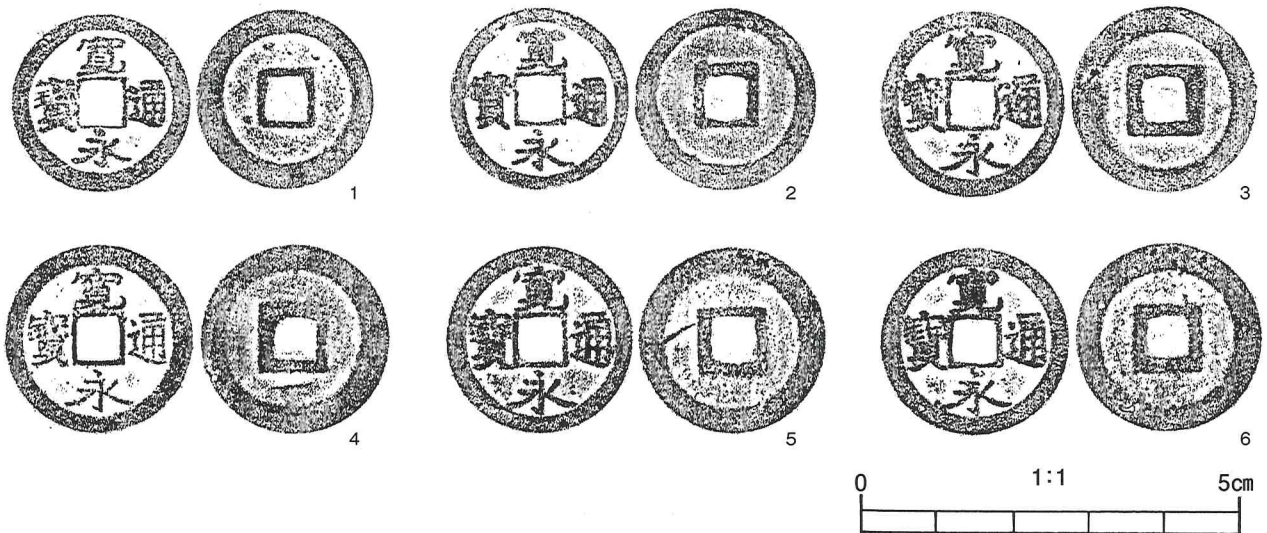
土坑墓が確認されたのは、堀・土塁の調査区北東端部であり、丁度この堀・土塁が北方向へ屈曲するコーナー部付近である。実際に土坑が掘られた位置は、この屈曲した堀の谷側(東側)立ち上がり部で、長軸を南北方向にとって堀壁に沿うような形となっている。土坑の平面形はN-13°-Eに主軸をとる長方形で、確認面での大きさは43cm×102cm、深さが54cmである。なお土坑が掘られたのは堀がある程度埋没してからとみられることから、深さはこれ以上あったものと思われる。

底面からは人骨数点と北壁寄りで歯が出土している。また底面から5~10cm浮いた高さで、中央から銅銭6枚(六銅銭)、北壁寄りから被せた状態の内耳土鍋1個体が確認されている。このことから遺体は頭を北にして鍋被りで葬られたものとみられる。

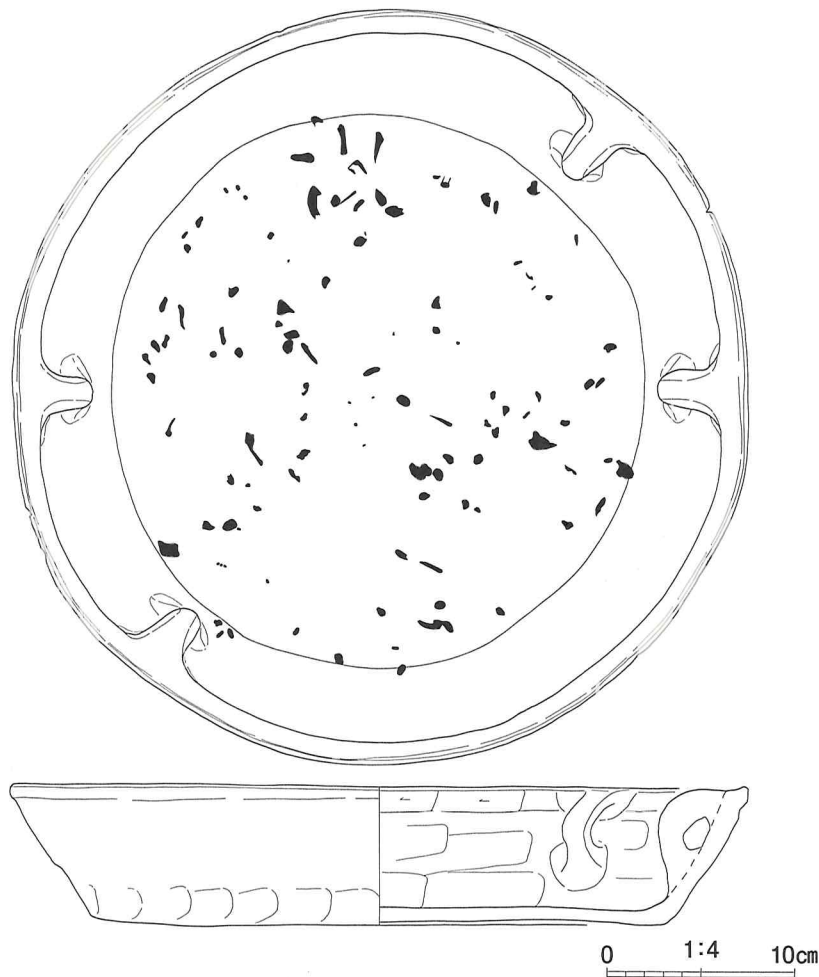
出土遺物 (第21表) 土坑墓内から出土したものは、内耳土鍋1点・銅銭6点及び人骨等である。内耳土鍋は2対の内耳(吊手)が付く焙烙状の浅い土鍋である。口径39.0cm、器高7.3cm、底径30.6cmで、焼成は良好で赤褐色を呈する。また内面底部には使用時のものとみられる黒色の焦げ状物質がこびり付いている。なお銅銭はすべて寛永通寶で、六道銭として入れられたものとみられる。



第68図 土坑墓



第69図 土坑墓出土古銭



第70図 土抗墓出土内耳土鍋

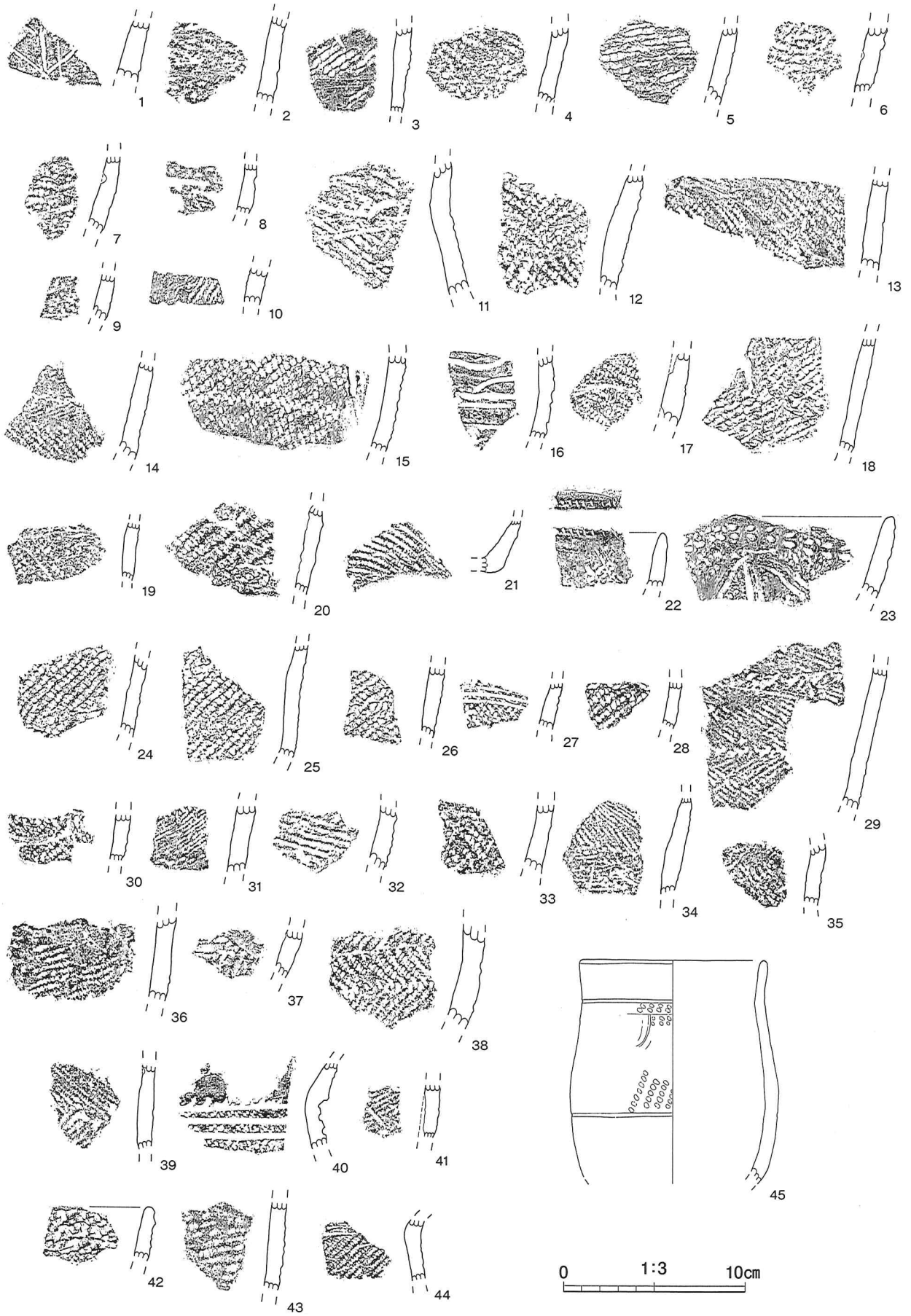
(4) 遺構外出土の遺物

古墳群の盛土及び周溝埋土中からは、縄文式土器や各種石器等が出土している。今回の調査ではこれらに伴う遺構は確認されていないが、古墳群を載せる丘陵頂部付近には縄文集落等が営まれていたものとみられる。

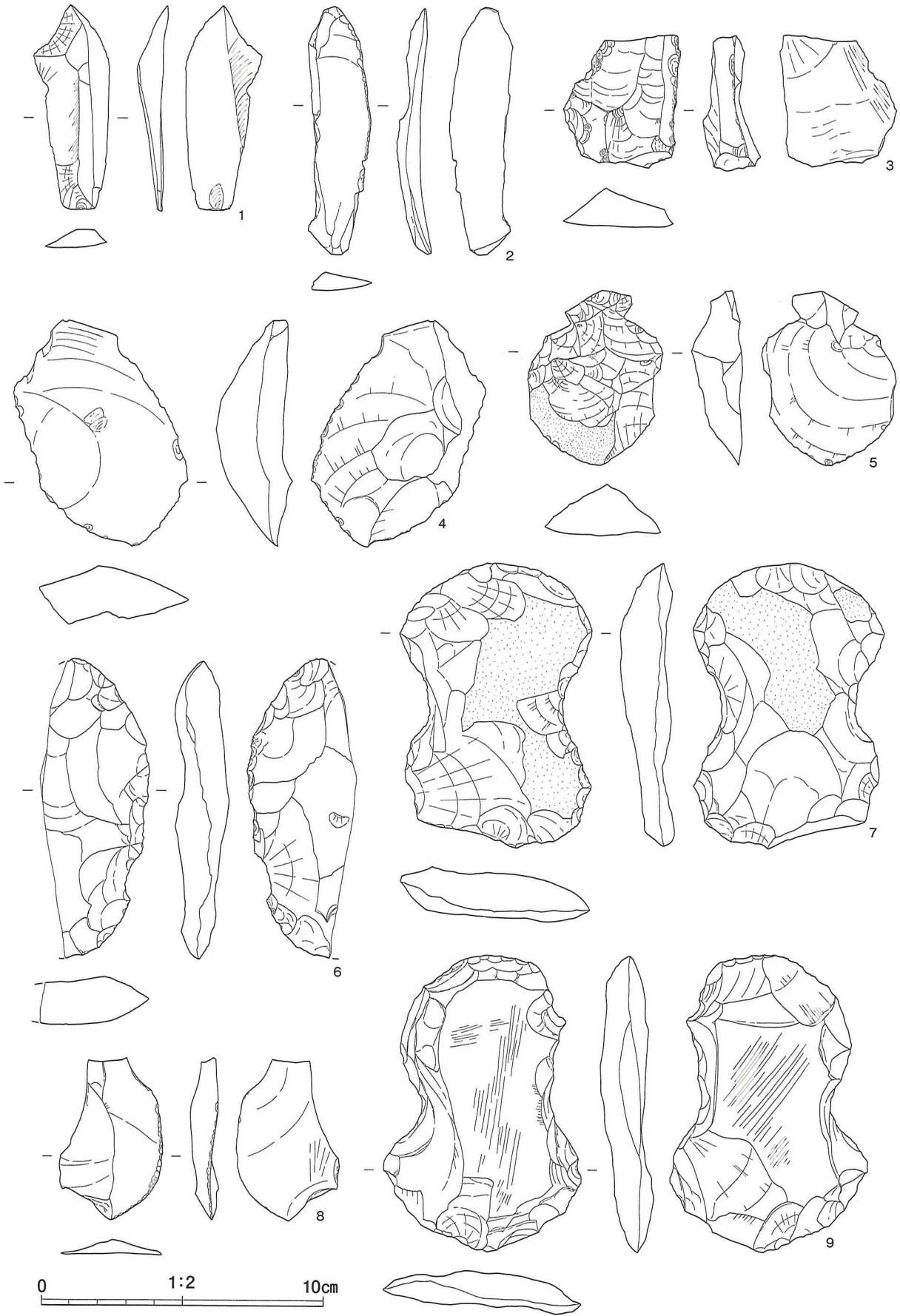
縄文式土器 (第71図) いずれも小破片であるが、羽状縄文を地文とするもの (12・29・34・38など) や沈線文が付されるもの (16・23・32・40など) 等が多くみられるとともに、半数以上が胎土に繊維を含んでいる。縄文前期の黒浜式から諸磯式にかけてのものが中心とみられる。

弥生式土器 (第71図) 小型の甕形土器1点 (45) が出土している。復元ではあるが口径10cm・器高10数cm程のコップ状で、口縁部が僅かに外反している。二次的な焼成を受けたとみられ器面の剥落が多いが、外面には上半部を中心に縄文と沈線文が施されている。弥生中期のものともみられる。

石器類 (第72～75図, 第22表) 石器は比較的種類が多く、ナイフ形石器 (1・2)、尖頭器 (6)、スクレーパー (3・8)、石匙 (4・5)、打製石斧 (7・9)、乳棒状石斧 (11)、磨製石斧 (10・12・13・16・17)、砥石 (15)、石皿 (18・32・36)、磨石 (20他多数) などがみられる。この内ナイフ形石器・尖頭器等は旧石器時代のものと考えられる。なお14は装身具の垂飾である。



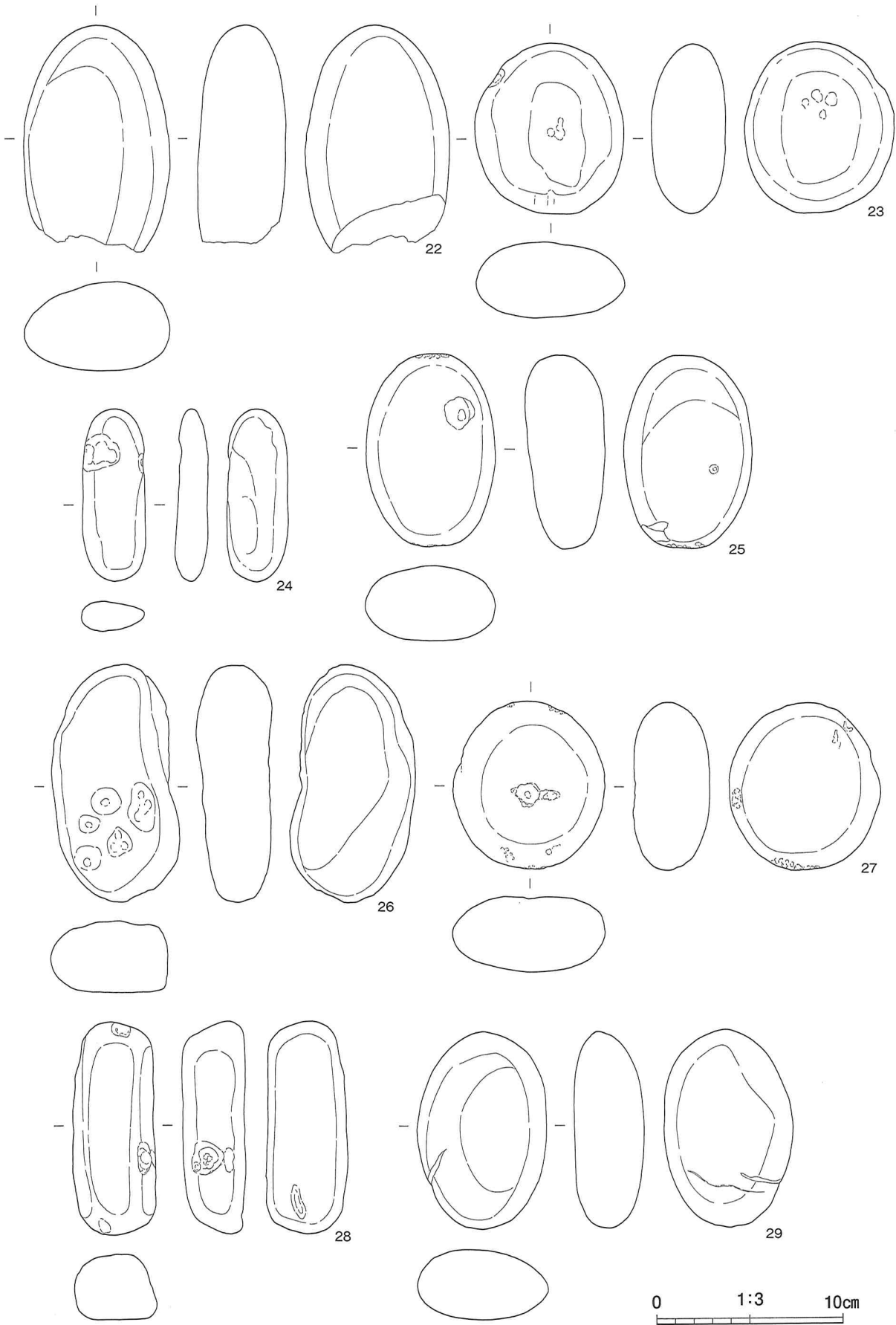
第71図 遺構外出土縄文土器・弥生土器



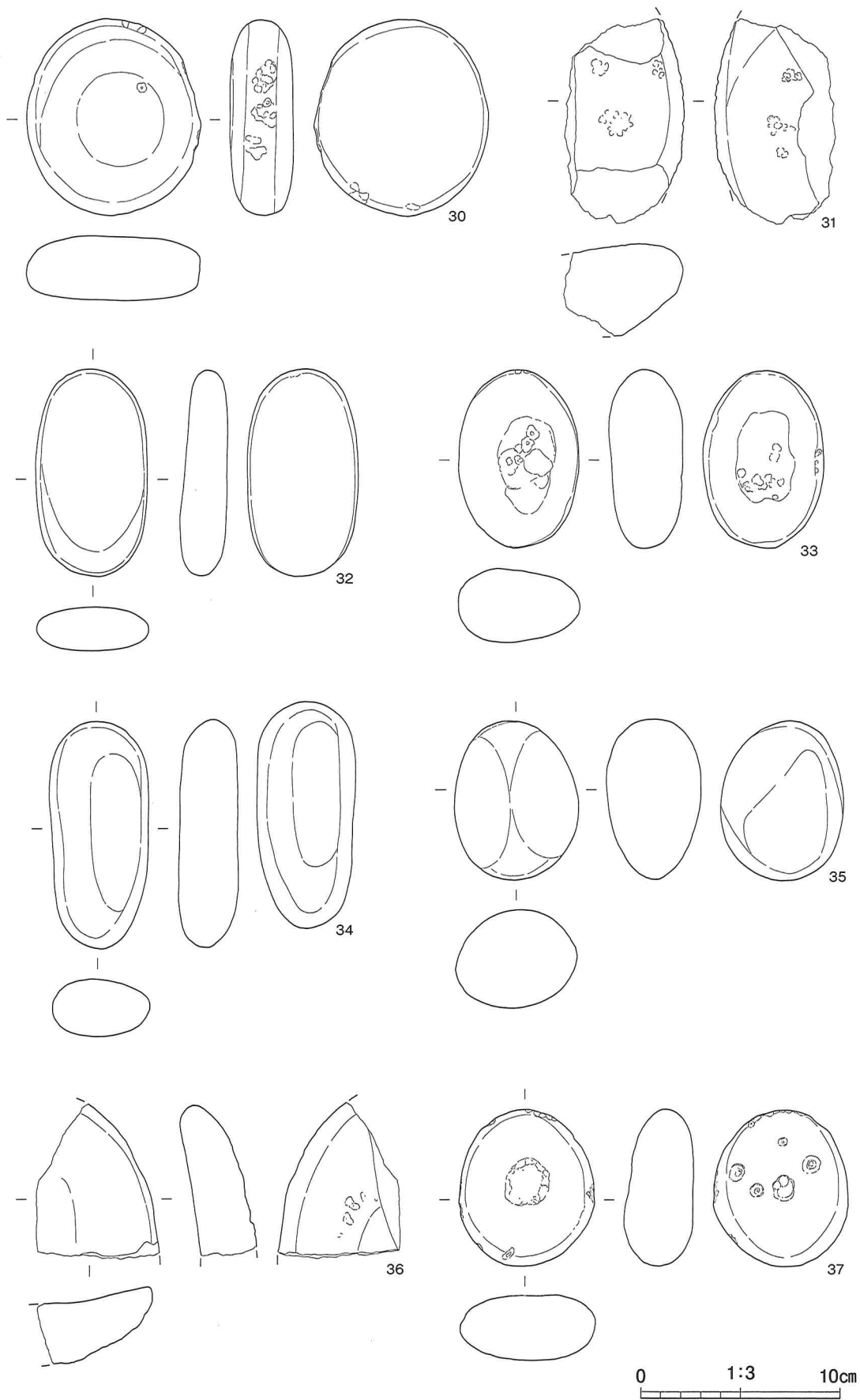
第72図 遺構外出土石器(1)



第73図 遺構外出土石器 (2)



第74図 遺構外出土石器 (3)



第75図 遺構外出土石器（4）

第2表 1号墳出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	10.2	4.6	—	丸底。口縁端部が立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。	黒色	角閃石、赤色スコリア粒	普通	石室床面	ほぼ完形
2	土師器 杯	(10.7)	(4.2)	—	丸底。口縁部。口縁部は立ち上がり、端部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。	黒色	角閃石、赤色スコリア粒	普通	墓道上層	1/2残
3	土師器 杯	(10.2)	4.1	—	丸底。口縁端部が立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。	外:黒色 内:暗褐色	砂粒、小石、角閃石、赤色スコリア粒	普通	墓道上層	4/5残
4	土師器 杯	11.8	3.6	—	丸底。口縁端部は短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	暗褐色	角閃石、砂粒、赤色スコリア粒	普通	墓道上層	ほぼ完形
5	土師器 杯	(10.8)	(3.0)	—	口縁部はやや立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。	黒褐色	微細砂粒	普通	墓道上層	1/5残
6	土師器 杯	10.6	3.9	4.0	平底気味の丸底。口縁部は短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削り、内面は細めのヘラでヘラナデ。	暗褐色	角閃石、微細砂粒	普通	墓道上層	4/5残
7	土師器 杯	(10.9)	3.8	—	丸底。口縁部はやや立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。	暗褐色	角閃石、砂粒、赤色スコリア粒	普通	墓道上層	3/5残
8	土師器 碗	(10.9)	5.6	5.7	平底。口縁部は内湾する。	口縁部横ナデ。外面はヘラ削り。底部には木葉痕。	褐色	微細砂粒	普通	墓道上層	1/2残
9	土師器 甕	(23.1)	(9.4)	—	口縁部は外反し、端部に稜を有する。	口縁部横ナデ。胴部内外面ともに横ナデか。	褐色	石英、角閃石、赤色スコリア粒 微細粒	普通	北西周溝下層	1/6残

第3表 2号墳出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	14.2	4.6	—	丸底。口縁部は内傾し、体部に受け部を有する。	口縁部横ナデののちヘラ磨き。体部外面はヘラ削り、内面はヘラ磨き。	外:暗褐色 内:赤褐色	石英、角閃石、赤色スコリア粒	普通	石室付近 攪乱中	2/3残
2	土師器 杯	—	(4.7)	—	丸底。口縁部は内傾し、端部が短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部は内外面ともにヘラ磨き。	淡褐色	石英、角閃石	普通	前庭部 表採	1/3残
3	土師器 杯	16.8	4.7	—	体部から口縁部にかけてならだかに広がる。体部中央付近にわずかに稜が見受けられる。	口縁部横ナデ。口縁部外面はナデののち横方向のヘラ磨き。体部外面はヘラナデののち一部にヘラ磨き。内面はヘラ磨き、黒色処理。	外:暗褐色 内:黒色	石英、白色粒	普通	前庭部 表採	完形
4	土師器 杯	15.3	(5.0)	—	丸底か。口縁部は短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削りののち粗くヘラ磨き。内面は放射状にヘラ磨き。	赤褐色	石英、角閃石	良好	前庭部 表採	1/4残
5	手捏ね	(9.6)	5.0	(7.0)	平底。口縁部はやや内傾しながら立ち上がる。	口縁部横ナデ。外面はナデを施しているものの、輪積み痕が残る。内面ナデ。	淡褐色	微細砂粒	普通	墳丘北側	1/5残
6	土師器 甕?	—	(2.7)	(5.8)	平底。	外面ヘラ削り。底部に木葉痕。	淡褐色	石英、赤色スコリア粒	普通	北西周溝 中層	底部のみ
7	土師器 甕?	—	(2.4)	6.6	平底。	外面ヘラ削り。底部に木葉痕。	淡褐色	微細砂粒、小石	普通	墳丘北側	底部のみ
8	須恵器 壺	13.6	(5.2)	—	右回転クロコ成形。口縁端部は立ち上がる。	口縁部に沈線。	暗灰褐色	砂粒、白色砂粒	良好	前庭部 表採	口縁部のみ
9	須恵器 瓶	(9.8)	(5.3)	—	右回転クロコ成形。	頸部に2条の沈線。	灰褐色	細砂粒	良好	石室付近 攪乱中	口縁部のみ

第4表 4号墳出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	13.3	5.1	—	丸底。口縁部はやや内傾しながら立ち上がり、受け部を有する。	外面口縁部横ナデののち一部にヘラ磨き。体部外面はヘラ削り後、粗くヘラ磨き。内面は放射状ヘラ磨き。	褐色	石英、角閃石、砂粒	良好	南西周溝 下層	完形
2	土師器 杯	14.4	4.2	—	丸底。口縁部は内傾しながら立ち上がり、受け部を有する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削りののち一部にヘラ磨き。	外:淡褐色 内:黒色	角閃石、砂粒、赤色スコリア粒	良好	南西周溝 下層	完形
3	土師器 杯	(13.8)	4.1	—	丸底。口縁部は外反しながら立ち上がり、受け部を有する。	口縁部横ナデ。体部外面は全体にヘラ削りを施したのち、上部のみヘラナデ。内面は粗くヘラ磨き。	褐色	長石、微細砂粒	良好	墳丘南端	2/3残
4	土師器 杯	14.4	4.3	—	丸底。口縁部はわずかに立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後、粗く横方向のヘラ磨き。内面は放射状ヘラ磨き。	褐色	石英、角閃石、赤色スコリア粒	普通	東側周溝 中層	1/2残

5	土師器 甕	(18.0)	(30.5)	(8.5)	平底。口縁部はくの字状に外反する。	口縁部外面は横ナデのち細かいヘラ磨き。胴部は全体にナデのち細かくヘラ磨き。内面はナデか。	褐色	角閃石、 微細砂粒	良好	南東周溝 上層	1/4残
6	須恵器 横瓶	15.0	33.8	—	口縁部は短く立ち上がる。	外面全体にカキ目。内面は同心円文。成形時に塗いだ部分は念入りにナデている。	灰褐色	砂粒	不良	東側周溝 上層	7/8残

第5表 5号墳出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	(13.8)	(4.6)	—	丸底。口縁部は真つすぐ立ちあがる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後、粗くヘラ磨き。内面は放射状のヘラ磨き。	褐色	石英、 赤色スコリア粒	普通	墓道上層	ほぼ完形
2	土師器 埴	11.0	6.9	6.7	平底。底部は厚手。口縁端部はやや外反する。	口縁部横ナデ。外面はヘラ削り後、粗くヘラ磨き。内面ヘラナデ。底部はヘラ削り。	外:暗褐色 内:黒褐色	砂粒	普通	南側 墳丘上	7/8残
3	土師器 鉢	(17.8)	11.3	(5.7)	平底。口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。外面ヘラ削り後ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	赤褐色	角閃石、 赤色スコリア粒	良好	前庭部 中層	1/2残
4	土師器 甕	—	(6.0)	7.2	平底。厚手。	内外面ともにナデ。底部には木葉痕。	褐色	角閃石、砂粒	普通	前庭部 中層	1/10残
5	土師器 甕	(14.5)	22.7	7.2	平底。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部横ナデ。胴部外面はヘラ削り後、粗くヘラ磨き。	淡褐色	微細砂粒	普通	前庭部 中層	
6	須恵器 壺	(17.3)	(3.0)	—	右回転クロコ成形。口縁端部は短く内傾する。	口縁端部に沈線。その下に櫛歯波状文。	青灰色	白色細砂粒	良好	北側 墳丘上	
7	須恵器 壺	—	(8.9)	—	右回転クロコ成形。頸部はくの字状に屈曲する。	頸部に櫛歯波状文。	青灰色	砂粒	良好	西側 墳丘上	
8	須恵器 瓶	—	(7.2)	—	右回転クロコ成形。	外面ヘラナデ。	暗灰色	砂粒	良好	表採	
9	須恵器 提瓶	7.8	21.6	—	胴部は風船技法を採用。胴上部には把手の剥離痕。	口縁部には2条の沈線。	灰色		良好	東側墳丘上 ~周溝中層	

第6表 6号墳出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	(15.8)	(5.0)	—	丸底か。	口縁部横ナデ。外面ヘラ削りのち粗くヘラ磨き。内面は放射状ヘラ磨き。	褐色	微細砂粒	良好	南西周溝 中層	
2	土師器 杯	15.0	(4.2)	—	丸底か。	口縁部横ナデ。外面ヘラ削り、内面は放射状ヘラ磨き。	赤褐色	石英、角閃石	良好	石室攪乱 層	
3	土師器 杯	(13.6)	(4.2)	—	口縁部はくの字状に内傾。厚手。	口縁部横ナデ。外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。	外:褐色 内:黒褐色	赤色スコリア粒 角閃石	普通	石室攪乱 層	
4	土師器 甕	(21.0)	35.2	9.0	平底。口縁部はくの字状にひろがる。	口縁部横ナデ。胴部外面はヘラ削り後、一部にヘラ磨き。胴上部外面はヘラナデ。内面は横方向のヘラナデ。	淡褐色	砂粒	良好	石室攪乱 層	
5	須恵器 甕	—	(9.3)	—	頸部はくの字状に外反しながら立ち上がるか。	胴部外面は平行タタキのちカキ目。内面は同心円文。	青灰色	小石	良好	石室攪乱 層	

第7表 8号墳出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	(13.8)	4.4	—	丸底。口縁部は立ち上がり、受け部を有する。	口縁部横ナデ。外面ヘラ削り、口縁部付近漆仕上げ。内面漆仕上げ。	灰褐色	赤色スコリア粒 角閃石	普通	攪乱層	
2	土師器 杯	15.4	5.1	—	丸底。口縁端部はやや立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削りのちナデとヘラ磨きを施す。内面はヘラナデ。	暗赤褐色	石英、 赤色スコリア粒	良好	周溝内	
3	土師器 杯	(14.4)	4.1	—	丸底。口縁端部は短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削りのち一部にヘラ磨き。内面はナデ。内外面漆仕上げ。	淡褐色		良好	攪乱層	
4	土師器 杯	15.0	(3.4)	—	口縁部はやや内傾しながら立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内外面漆仕上げ。	灰褐色		良好	周溝内 攪乱層	
5	須恵器 壺	—	(5.8)	—	右回転クロコ成形。くの字状に頸部が立ち上がる。	外面にカキ目か。	暗灰色		普通	攪乱層	頸部のみ

第8表 4号墳出土玉製品観察表

No	種別	材質	色調	法量 (mm)	重さ (g)	出土位置	備考
8	白玉	滑石	灰色	直径:10、孔径:2.5、厚さ:3.5	0.61	南西周溝下層	
9	白玉	滑石	暗灰色	直径:9.5、孔径:3.0、厚さ:1.5	0.21	南西周溝下層	
10	白玉	滑石	乳褐色	直径:7.5、孔径:2.5、厚さ:2.0	0.25	南西周溝下層	
11	白玉	滑石	乳褐色	直径:7.5、孔径:2.5、厚さ:2.0	0.19	南西周溝下層	
12	白玉	滑石	乳褐色	直径:7.5、孔径:3.0、厚さ:3.0	0.38	南西周溝下層	

第9表 5号墳出土玉製品観察表

No	種別	材質	色調	法量 (mm)	重さ (g)	出土位置	備考
10	小玉	ガラス	青	直径:4.5、孔径:1.0、厚さ:2.0	0.06	玄室床面	欠損
11	小玉	ガラス	青	直径:3.5、孔径:1.5、厚さ:4.0	0.06	玄室床面	
12	小玉	ガラス	青	直径:3.1、孔径:0.8、厚さ:2.0	0.06	玄室床面	

第10表 7号墳出土玉製品観察表

No	種別	材質	色調	法量 (mm)	重さ (g)	出土位置	備考
1	切子玉	水晶	—	長:35.0、幅:18.5	12.87	玄室床面	片面穿孔
2	切子玉	水晶	—	長:29.0、幅:17.5	9.85	玄室床面	片面穿孔
3	切子玉	水晶	—	長:28.5、幅:18.0	9.46	玄室床面	片面穿孔 途中で穿孔し直している
4	切子玉	水晶	—	長:28.0、幅:16.0	8.37	玄室床面	片面穿孔
5	切子玉	水晶	—	長:27.0、幅:17.0	7.93	玄室床面	片面穿孔
6	切子玉	水晶	—	長:27.0、幅:15.0	6.48	玄室床面	片面穿孔
7	切子玉	水晶	—	長:23.0、幅:15.0	5.73	玄室床面	片面穿孔
8	切子玉	水晶	—	長:23.0、幅:15.5	6.31	玄室床面	片面穿孔
9	切子玉	水晶	—	長:21.0、幅:15.0	5.42	玄室床面	片面穿孔
10	土玉	—	黒	直径:8.5、孔径:1.5、厚さ:5.0	0.33	玄室内	漆残
11	土玉	—	黒	直径:8.5、孔径:1.5、厚さ:5.0	0.4	玄室内	漆残
12	土玉	—	黒	直径:8.5、孔径:1.5、厚さ:5.0	0.4	玄室内	漆残
13	土玉	—	黒	直径:8.5、孔径:1.5、厚さ:5.0	0.41	玄室内	漆残
14	土玉	—	黒	直径:8.5、孔径:1.5、厚さ:4.5	0.35	玄室内	
15	土玉	—	黒	直径:8.5、孔径:1.5、厚さ:5.0	0.34	玄室内	漆残
16	土玉	—	黒	直径:8.5、孔径:2.0、厚さ:5.0	0.39	玄室内	漆残
17	土玉	—	黒	直径:8.5、孔径:1.5、厚さ:5.0	0.31	玄室内	漆残
18	土玉	—	黒	直径:8.5、孔径:1.5、厚さ:4.5	0.3	玄室内	漆残
19	土玉	—	黒	直径:8.0、孔径:1.0、厚さ:4.0	0.39	玄室内	漆残
20	土玉	—	黒	直径:8.0、孔径:1.5、厚さ:4.5	0.28	玄室内	漆残
21	土玉	—	黒	直径:8.0、孔径:1.5、厚さ:4.5	0.26	玄室内	漆残
22	土玉	—	黒	直径:8.0、孔径:2.0、厚さ:4.0	0.24	玄室内	
23	土玉	—	黒	直径:8.0、孔径:1.25、厚さ:5.0	0.34	玄室内	漆残
24	土玉	—	黒	直径:8.0、孔径:1.0、厚さ:5.5	0.38	玄室内	
25	土玉	—	黒	直径:8.0、孔径:1.5、厚さ:5.0	0.29	玄室内	漆残
26	土玉	—	黒	直径:8.0、孔径:1.5、厚さ:4.5	0.31	玄室内	漆残
27	土玉	—	黒	直径:8.0、孔径:1.5、厚さ:5.5	0.36	玄室内	漆残
28	土玉	—	黒	直径:8.0、孔径:1.0、厚さ:4.5	0.26	玄室内	
29	土玉	—	黒	直径:8.0、孔径:1.5、厚さ:5.5	0.33	玄室内	漆残
30	土玉	—	黒	直径:7.5、孔径:1.5、厚さ:5.0	0.28	玄室内	漆残
31	土玉	—	黒	直径:7.5、孔径:1.5、厚さ:4.5	0.34	玄室内	漆残
32	土玉	—	黒	直径:7.5、孔径:1.8、厚さ:5.0	0.27	玄室内	
33	土玉	—	黒	直径:7.5、孔径:1.5、厚さ:5.5	0.22	玄室内	漆残
34	土玉	—	黒	直径:7.5、孔径:1.5、厚さ:5.0	0.17	玄室内	漆残
35	土玉	—	黒	直径:7.0、孔径:1.5、厚さ:5.0	0.21	玄室内	
36	土玉	—	黒	直径:7.0、孔径:1.5、厚さ:5.0	0.23	玄室内	漆残
37	土玉	—	黒	直径:7.0、孔径:2.0、厚さ:3.5	0.17	玄室内	
38	土玉	—	黒	直径:(6.5)、孔径:(1.5)、厚さ:(5.0)	0.14	玄室内	欠損
39	土玉	—	黒	直径:6.5、孔径:2.0、厚さ:4.5	0.21	玄室内	
40	土玉	—	黒	直径:6.5、孔径:1.5、厚さ:3.5	0.14	玄室内	漆残
41	土玉	—	黒	直径:6.5、孔径:1.5、厚さ:3.5	0.16	玄室内	漆残
42	土玉	—	黒	直径:6.5、孔径:1.5、厚さ:3.0	0.14	玄室内	漆残

43	土玉	—	黒	直径：6.5、孔径：1.5、厚さ：4.0	0.12	玄室内	漆残
44	土玉	—	黒	直径：6.5、孔径：1.5、厚さ：4.5	0.16	玄室内	
45	土玉	—	黒	直径：6.25、孔径：1.5、厚さ：4.0	0.16	玄室内	漆残
46	土玉	—	黒	直径：6.0、孔径：1.5、厚さ：4.0	0.12	玄室内	漆残
47	土玉	—	黒	直径：6.0、孔径：1.5、厚さ：3.0	0.1	玄室内	漆残
48	土玉	—	黒	直径：6.0、孔径：1.5、厚さ：4.0	0.12	玄室内	
49	土玉	—	黒	直径：6.0、孔径：1.5、厚さ：5.0	0.18	玄室内	漆残
50	土玉	—	黒	直径：6.0、孔径：1.5、厚さ：3.5	0.14	玄室内	漆残
51	土玉	—	黒	直径：6.0、孔径：1.25、厚さ：3.5	0.12	玄室内	
52	土玉	—	黒	直径：6.0、孔径：1.5、厚さ：4.0	0.15	玄室内	漆残
53	土玉	—	黒	直径：6.0、孔径：1.5、厚さ：4.0	0.16	玄室内	漆残
54	土玉	—	黒	直径：6.0、孔径：1.25、厚さ：3.5	0.1	玄室内	
55	土玉	—	黒	直径：6.0、孔径：1.5、厚さ：4.0	0.12	玄室内	漆残
56	土玉	—	黒	直径：5.5、孔径：1.0、厚さ：3.5	0.12	玄室内	漆残

第11表 9号墳出土玉製品観察表

No	種別	材質	色調	法量(mm)	重さ(g)	出土位置	備考
1	勾玉	瑪瑙	暗赤褐色	長:32.0、厚:10.0	6.68	玄室床面	
2	勾玉	瑪瑙	暗赤褐色	長:31.0、厚:10.0	7.73	玄室床面	
3	勾玉	瑪瑙	黄白色	長:31.0、厚:9.0	6.5	玄室床面	
4	切子玉	水晶	—	長：20.5、幅：18.0	6.66	玄室床面	片面穿孔
5	切子玉	水晶	—	長：19.0、幅：17.0	6.03	玄室床面	片面穿孔
6	琺瑯玉	琥珀	褐色	長：20.5、径：10.5～16.0、孔径：3.0	石膏で復元しているため計測不能	玄室床面	欠損
7	琺瑯玉	琥珀	褐色	長：15.5、径：12.0、孔径：2.5	0.73	玄室床面	欠損
8	琺瑯玉	琥珀	褐色	長：(13.0)、径：(9.5)、孔径：(3.0)	0.3	玄室床面	欠損
9	琺瑯玉	琥珀	暗褐色	長：(9.0)、径：6.0～8.0、孔径：2.0	0.25	玄室床面	欠損
10	琺瑯玉	琥珀	褐色	長：(8.0)、径：—、孔径：—	0.11	玄室床面	欠損
11	土玉	—	黒褐色	直径：7.5、孔径：1.5、厚さ：5.0	0.24	玄室床面	漆残
12	土玉	—	黒褐色	直径：7.5、孔径：2.0、厚さ：5.0	0.23	玄室床面	
13	土玉	—	灰褐色	直径：7.5、孔径：1.5、厚さ：3.5	0.15	玄室床面	
14	土玉	—	黒褐色	直径：7.5、孔径：2.0、厚さ：4.5	0.17	玄室床面	欠損
15	土玉	—	黒褐色	直径：7.5、孔径：2.0、厚さ：4.5	0.15	玄室床面	
16	土玉	—	黒褐色	直径：7.5、孔径：2.0、厚さ：5.5	0.15	玄室床面	
17	土玉	—	黒褐色	直径：7.5、孔径：2.0、厚さ：5.5	0.23	玄室床面	
18	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：1.5、厚さ：5.5	0.25	玄室床面	
19	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：2.0、厚さ：4.0	0.24	玄室床面	
20	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：2.0、厚さ：5.0	0.26	玄室床面	
21	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：1.5、厚さ：4.5	0.2	玄室床面	漆残
22	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：1.5、厚さ：4.5	0.19	玄室床面	
23	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：2.0、厚さ：5.5	0.22	玄室床面	
24	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：2.0、厚さ：5.0	0.27	玄室床面	
25	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：1.5、厚さ：5.5	0.21	玄室床面	
26	土玉	—	灰褐色	直径：7.0、孔径：1.5、厚さ：4.0	0.19	玄室床面	
27	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：1.5、厚さ：5.5	0.21	玄室床面	
28	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：3.0、厚さ：5.0	0.24	玄室床面	
29	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：2.0、厚さ：5.0	0.26	玄室床面	
30	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：2.0、厚さ：5.5	0.25	玄室床面	
31	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：1.5、厚さ：5.2	0.22	玄室床面	
32	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：2.0、厚さ：5.5	0.26	玄室床面	
33	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：2.0、厚さ：5.5	0.26	玄室床面	
34	土玉	—	灰褐色	直径：7.0、孔径：1.5、厚さ：4.0	0.19	玄室床面	
35	土玉	—	黒褐色	直径：7.0、孔径：1.5、厚さ：5.0	0.17	玄室床面	
36	土玉	—	黒褐色	直径：6.5、孔径：1.5、厚さ：5.0	0.21	玄室床面	
37	土玉	—	黒褐色	直径：6.5、孔径：1.55、厚さ：5.5	0.23	玄室床面	
38	土玉	—	黒褐色	直径：6.5、孔径：1.5、厚さ：5.0	0.24	玄室床面	
39	土玉	—	灰褐色	直径：6.0、孔径：1.5、厚さ：3.5	0.12	玄室床面	欠損
40	白玉	—	灰褐色	直径：6.0、孔径：1.5、厚さ：3.5	0.21	玄室床面	白玉に近い形状
41	白玉	—	灰褐色	直径：6.0、孔径：1.5、厚さ：4.0	0.14	玄室床面	

42	小玉	ガラス	暗青緑	直径：6.5、孔径：1.5、厚さ：4.0	0.25	玄室床面	
43	小玉	ガラス	群青	直径：5.5、孔径：1.25、厚さ：4.0	0.15	玄室床面	
44	小玉	ガラス	青緑	直径：5.0、孔径：2.0、厚さ：3.0	0.09	玄室床面	
45	小玉	ガラス	群青	直径：4.5、孔径：1.25、厚さ：4.0	0.12	玄室床面	
46	小玉	ガラス	青緑	直径：4.5、孔径：1.5、厚さ：3.5	0.08	玄室床面	
47	小玉	ガラス	青緑	直径：4.5、孔径：1.5、厚さ：2.0	0.04	玄室床面	
48	小玉	ガラス	青緑	直径：4.5、孔径：1.0、厚さ：2.5	0.05	玄室床面	
49	小玉	ガラス	群青	直径：4.5、孔径：1.0、厚さ：3.0	0.07	玄室床面	
50	小玉	ガラス	青緑	直径：4.0、孔径：1.5、厚さ：2.8	0.05	玄室床面	
51	小玉	ガラス	群青	直径：4.0、孔径：1.5、厚さ：2.8	0.04	玄室床面	
52	小玉	ガラス	群青	直径：4.0、孔径：1.0、厚さ：2.5	0.04	玄室床面	
53	小玉	ガラス	淡緑	直径：3.75、孔径：1.25、厚さ：2.1	0.05	玄室床面	
54	小玉	ガラス	青緑	直径：3.75、孔径：1.0、厚さ：2.0	0.03	玄室床面	
55	小玉	ガラス	青緑	直径：3.75、孔径：1.0、厚さ：2.8	0.03	玄室床面	
56	小玉	ガラス	群青	直径：3.5、孔径：1.25、厚さ：2.0	0.02	玄室床面	
57	小玉	ガラス	青緑	直径：3.5、孔径：1.25、厚さ：3.0	0.06	玄室床面	
58	小玉	ガラス	群青	直径：3.5、孔径：1.25、厚さ：2.0	0.05	玄室床面	
59	小玉	ガラス	青緑	直径：3.5、孔径：1.0、厚さ：2.5	0.06	玄室床面	
60	小玉	ガラス	群青	直径：3.5、孔径：1.0、厚さ：2.25	0.04	玄室床面	
61	小玉	ガラス	群青	直径：3.5、孔径：1.0、厚さ：2.5	0.06	玄室床面	
62	小玉	ガラス	青緑	直径：3.5、孔径：1.0、厚さ：3.0	0.05	玄室床面	
63	小玉	ガラス	群青	直径：3.5、孔径：1.0、厚さ：2.0	0.03	玄室床面	
64	小玉	ガラス	青緑 (不透明)	直径：3.5、孔径：1.5、厚さ：2.5	0.04	玄室床面	
65	小玉	ガラス	群青	直径：3.5、孔径：1.0、厚さ：2.25	0.05	玄室床面	
66	小玉	ガラス	青緑	直径：3.5、孔径：1.25、厚さ：1.8	0.02	玄室床面	
67	小玉	ガラス	群青	直径：3.5、孔径：1.0、厚さ：2.5	0.05	玄室床面	
68	小玉	ガラス	青緑	直径：3.5、孔径：1.0、厚さ：2.5	0.04	玄室床面	
69	小玉	ガラス	青緑	直径：3.5、孔径：1.25、厚さ：2.5	0.03	玄室床面	
70	小玉	ガラス	青緑 (不透明)	直径：3.5、孔径：1.0、厚さ：2.5	0.04	玄室床面	
71	小玉	ガラス	青緑	直径：3.5、孔径：0.8、厚さ：2.5	0.03	玄室床面	
72	小玉	ガラス	青緑 (不透明)	直径：3.5、孔径：1.0、厚さ：3.0	0.05	玄室床面	
73	小玉	ガラス	群青	直径：3.5、孔径：1.0、厚さ：2.0	0.03	玄室床面	
74	小玉	ガラス	青緑	直径：3.25、孔径：1.25、厚さ：2.5	0.05	玄室床面	
75	小玉	ガラス	群青	直径：3.0、孔径：1.0、厚さ：2.0	0.04	玄室床面	
76	小玉	ガラス	青	直径：3.0、孔径：0.8、厚さ：1.5	0.02	玄室床面	
77	小玉	ガラス	暗青緑	直径：3.0、孔径：0.8、厚さ：2.0	0.01	玄室床面	
78	小玉	ガラス	青緑	直径：3.0、孔径：1.0、厚さ：2.0	0.03	玄室床面	
79	小玉	ガラス	青緑	直径：3.0、孔径：1.0、厚さ：2.0	0.01	玄室床面	
80	小玉	ガラス	青緑	直径：3.0、孔径：1.0、厚さ：1.5	0.01	玄室床面	欠損
81	小玉	ガラス	青	直径：2.5、孔径：1.0、厚さ：1.5	0.03	玄室床面	
82	小玉	ガラス	青緑	直径：(3.5)、孔径：(1.0)、厚さ：2.0	0.02	玄室床面	
83	小玉	ガラス	青緑	直径：(3.0)、孔径：(1.0)、厚さ：2.0	0.02	玄室床面	欠損

第12表 5号墳出土鉄鏃観察表

No	全長 (cm)	鏃身部 (cm)				頸部 (cm)			茎部 (cm)			重量 (g)	
		形態	長	幅	厚	長	幅	厚	長	幅	厚		
13	17.05	長三角形	4.15	1.6	0.3	6.7	0.7	0.5	6.2	径:0.3		15.6	
14	16.6	長三角形	3.5	1.4	0.4	7.3	0.7	0.5	5.8	径:0.5		16.57	
15	15.0	長三角形	3.7	1.35	0.3	7.0	0.65	0.3	4.3	径:0.3		13.36	
16	(12.65)	長三角形?	3.25	1.4	0.4	7.2	0.7	0.5	(2.2)	径:0.4		15.52	
17	(12.7)	長三角形	3.4	1.3	0.35	6.8	0.7	0.4	(2.5)	径:0.45		13.47	
18	(14.3)	長三角形?	(1.65)	1.3	0.35	6.75	0.7	0.55	5.9	径:0.45~0.1		14.73	
19	(8.9)	—	(1.2)	(1.15)	0.3	6.6	0.55	0.5	1.1	0.35	0.35	11.89	
20	(8.4)	長三角形?	(1.1)	1.3	—	6.2	0.6	0.5	0.7	—	—	10.49	
21	15.85	長三角形	3.35	1.2	0.4	7.1	0.65	0.45	5.4	0.45	—	20.43	
22	(15.0)	長三角形	3.65	1.3	0.3	7.3	0.6	0.5	(4.05)	径:0.3		17.84	
23	(14.8)	長三角形	3.5	1.3	0.35	6.5	0.6	0.5	(4.8)	0.3	0.2	15.59	
24	(12.0)	長三角形	3.4	1.15	0.4	7.4	0.65	0.5	(1.2)	0.5	0.45	17.81	
25	(12.0)	長三角形	(1.5)	1.15	0.4	6.5	0.7	0.55	4.0	径:0.45		12.97	
26	(11.8)	—	(0.6)	1.4	0.3	6.9	0.7	0.5	(4.3)	径:0.45		12.03	
27	(11.1)	長三角形?	(2.7)	1.2	0.4	6.6	0.6	0.45	(1.8)	0.4	0.4	13.07	
28	(11.5)	長三角形	(3.6)	1.2	0.4	長:(7.9)、幅:0.5~0.6、厚:0.4							12.22
29	(9.9)	長三角形	(3.3)	1.4	0.5	(6.6)	0.65	0.55	—	—	—	13.54	
30	(7.15)	長三角形	2.85	(1.1)	0.35	(4.3)	0.65	0.4	—	—	—	6.49	
31	(7.25)	長三角形	3.15	1.1	0.3	(4.1)	0.7	0.5	—	—	—	7.23	
32	(3.8)	—	(0.8)	1.25	—	(2.9)	0.55	0.4	—	—	—	3.35	
33	(5.3)	長三角形	(2.7)	1.2	0.3	(2.6)	0.65	—	—	—		5.22	
34	(3.9)	長三角形	3.5	1.2	0.4	—	—	—	—	—	—	5.05	
35	(3.8)	長三角形?	(3.8)	1.7	0.2	—	—	—	—	—	—	2.77	
36	(3.4)	柳葉形?	(3.4)	(1.1)	0.3	—	—	—	—	—	—	3.59	
37	(4.2)	長三角形	3.5	1.2	0.35	(0.7)	0.5	0.45	—	—	—	4.68	
38	(3.4)	長三角形	(3.4)	1.1	0.4	—	—	—	—	—	—	5.18	
39	(2.9)	長三角形	(2.9)	1.1	0.4	—	—	—	—	—	—	3.07	
40	(2.65)	長三角形?	(2.65)	1.35	0.4	—	—	—	—	—	—	2.17	
41	a (8.25)	長三角形	3.05	1.5	0.3	(5.2)	0.6	0.5	—	—	—	24.95	
	b (12.8)	長三角形	3.6	1.2	0.4	7.4	0.6	0.4	(1.8)	径:0.35			
42	a (10.6)	長三角形	3.7	1.0	0.3	(6.9)	0.75	0.7	—	—	—	59.3	
	b (9.2)	長三角形	3.7	1.3	0.3	(5.5)	0.8	0.5	—	—	—		
	c (10.8)	長三角形	3.4	1.3	0.3	(7.4)	0.6	0.55	—	—	—		
	d (10.85)	長三角形	3.45	1.3	0.3	(7.4)	0.6	0.5	—	—	—		
	e (4.0)	—	—	—	—	—	—	—	(4.0)	径:0.5			
43	a (8.0)	長三角形?	(2.9)	1.3	0.3	(5.1)	0.6	0.5	—	—	—	12.78	
	b (3.0)	—	—	—	—	(3.0)	0.55	0.4	—	—	—		
44	a (3.2)	長三角形	(3.2)	1.4	0.3	—	—	—	—	—	—	18.18	
	b (11.85)	長三角形	3.45	1.4	0.3	6.7	0.6	0.4	(1.7)	0.5	0.4		
45	a (7.1)	長三角形	3.5	1.2	0.3	(3.6)	0.6	0.5	—	—	—	30.63	
	b (15.2)	長三角形	3.4	1.3	0.3	7.5	0.7	0.5	(4.3)	径:0.45~0.2			
46	a (13.15)	長三角形	3.4	1.3	0.4	6.65	0.6	0.5	(3.1)	径:0.45		33.3	
	b (16.8)	長三角形	3.9	1.2	0.45	6.7	0.65	0.55	6.2	径:0.5			
47	(11.9)	柳葉形	5.0	1.5	0.3	2.0	0.7	0.35	(4.9)	径:0.5~0.2		9.06	
48	(11.25)	柳葉形	(4.5)	1.7	0.3	2.1	0.7	0.3	(4.65)	0.4	0.3	9.45	
49	11.7	柳葉形	5.1	1.7	0.35	1.9	0.8	0.35	4.7	0.4	0.35	9.23	
50	(11.2)	柳葉形	4.9	1.4~1.9	0.2	1.7	0.7	0.3	(4.6)	径:0.3		8.21	
51	(11.1)	柳葉形?	4.6	1.35	0.3	2.0	0.8	0.3	4.5	0.3	0.2	7.28	
52	(11.0)	柳葉形	4.9	1.3	0.3	2.1	1.0	0.4	(4.0)	径:0.35		10.87	
53	11.5	柳葉形	4.95	1.55	0.35	1.8	0.9	0.35	4.75	0.6	0.3	10.42	
54	10.6	柳葉形	4.4	1.3	0.3	2.2	0.7	0.3	4.0	0.25	0.25	7.11	
55	(10.9)	柳葉形	4.8	1.7	0.3	2.3	0.8	0.4	(3.8)	径:0.5~0.2		8.43	

56		(10.5)	柳葉形	(4.3)	1.3	0.3	1.6	0.7	0.2	(4.6)	0.3	0.3	7.48
57		10.5	柳葉形	4.7	1.6	0.3	2.0	0.7	0.4	3.8	0.3	0.25	9.1
58		(10.05)	柳葉形	4.3	1.4	0.2	1.7	0.9	0.4	4.05	徑:0.3		7.72
59		(10.0)	柳葉形	4.6	1.3	0.2	2.3	1.0	0.4	(3.1)	徑:0.3		9.07
60		(9.45)	柳葉形	5.05	1.5	0.3	1.7	0.8	0.3	(2.7)	0.3	0.35	8.58
61		(9.9)	柳葉形	4.9	1.3	0.3	2.0	0.8	0.3	(3.0)	徑:0.3		10.49
62		(9.4)	柳葉形?	4.3	1.3	0.3	2.0	0.75	0.4	(3.1)	徑:0.4		7.12
63		(8.95)	柳葉形?	4.9	2.6	0.4	1.9	0.8	0.4	(2.15)	0.4	0.25	10.17
64		(9.2)	柳葉形	4.4	1.2	0.3	2.2	0.85	0.3	(2.6)	徑:0.2		7.89
65		(8.7)	柳葉形	(3.4)	1.4~1.9	0.5	長:(5.3)、幅:0.85~0.3、厚:0.4~0.2						9.09
66		(8.6)	柳葉形	4.8	1.7	0.3	2.2	0.8	0.3	(1.6)	0.4	0.4	8.56
67		(8.3)	柳葉形	4.6	1.7	0.4	2.1	0.7	0.4	(1.6)	0.45	0.4	9.07
68		(7.7)	柳葉形	4.4	1.4	0.35	2.1	0.85	0.4	(1.2)	0.4	0.3	7.32
69		(7.0)	柳葉形	(2.5)	1.7	0.35	2.0	0.75	0.4	(2.5)	徑:0.4~(0.25)		6.16
70		(7.4)	柳葉形	4.55	1.4	0.4	1.95	0.8	0.4	(0.9)	—	—	6.99
71		(6.7)	柳葉形	4.6	1.4	0.35	(2.1)	0.75	0.35	—	—	—	6.55
72		(6.0)	柳葉形	(3.0)	(1.85)	0.3	2.5	0.8		(0.5)	徑:0.45		6.26
73		(4.95)	柳葉形?	(2.85)	1.2	0.3	(2.1)	1.0	0.3	—	—	—	5.18
74		(6.0)	柳葉形	(3.2)	1.2	0.3	1.8	1.9	0.35	(1.0)	0.4	0.3	5.62
75	a	(10.6)	柳葉形	4.6	1.6	0.4	2.1	0.8	0.4	(3.9)	0.35	0.3	23.81
	b	(9.65)	柳葉形	4.7	2.5	0.3	1.9	0.6	0.35	(3.05)	0.4	0.3	
	c	(6.85)	柳葉形	4.5	1.5	0.35	(2.35)	0.7	0.35	—	—	—	
76	a	(8.6)	柳葉形	4.7	1.4	0.3	2.4	0.8	0.5	(1.5)	徑:0.3		23.95
	b	(6.0)	柳葉形?	(2.3)	1.6	0.3	1.7	1.0	0.5	(2.0)	徑:0.4		
	c	(10.8)	柳葉形	4.8	1.35	0.3	1.5	0.6	0.45	(4.5)	徑:0.3		
77	a	(9.55)	柳葉形	4.7	1.3	0.3	2.05	0.8	0.4	(2.8)	0.3	0.25	34.22
	b	(9.1)	柳葉形	5.1	1.4	0.3	1.4	0.8	0.3	(2.6)	0.3	0.2	
	c	(7.9)	柳葉形	4.9	1.3	0.25	1.7	0.9	0.4	(1.3)	0.6	0.45	
	d	(8.9)	柳葉形	4.6	1.4	0.3	1.6	0.8	0.3	(2.7)	0.4	0.3	
78	a	(10.2)	柳葉形	4.9	1.5	0.3	1.8	0.7	0.45	(3.5)	0.35	0.3	25.98
	b	(10.7)	柳葉形	4.6	2.8	0.3	2.1	0.7	0.4	(4.0)	0.3	0.3	
	c	(10.1)	柳葉形	5.0	1.55	0.3	1.9	0.75	0.4	(3.2)	0.3	0.3	
79	a	(6.45)	柳葉形	4.5	1.4	0.35	(1.95)	0.8	0.3	—	—	—	23.53
	b	(9.9)	柳葉形	4.6	1.3	0.3	2.0	0.8	0.3	(3.3)	0.3	0.3	
	c	(10.75)	柳葉形	4.7	1.3	0.3	1.85	0.8	0.3	(4.2)	徑:0.3		
80	a	(7.4)	柳葉形	4.7	1.35	0.3	1.9	0.8	0.4	(0.8)	0.4	0.3	15.32
	b	(10.0)	柳葉形	5.0	1.2	0.3	1.9	0.9	0.4	(3.1)	徑:0.5		
81	a	(10.9)	柳葉形	4.8	1.5	0.35	2.2	0.85	0.3	(3.9)	徑:0.35		37.22
	b	(10.6)	柳葉形	4.7	1.6	0.3	3.1	0.9	0.35	(2.8)	0.35	0.25	
	c	(10.9)	柳葉形	4.6	1.3	0.3	2.5	0.9	0.35	(3.8)	0.4	0.25	
	d	9.5	柳葉形	4.3	1.45	0.3	2.0	0.9	0.4	3.2	0.4~0.1	0.2	
82		(5.2)	長三角形	5.2	2.9	0.3	—	—	—	—	—	—	7.74
83		(10.0)	—	—	—	—	(4.7)	0.65	0.45	(5.3)	徑:0.5		9.35
84		(9.7)	—	—	—	—	(3.8)	0.55	0.4	5.9	徑:0.3		9.42
85		(8.0)	—	—	—	—	(6.4)	0.7	0.45	(1.6)	徑:0.5		11.86
86		(8.1)	—	—	—	—	(4.1)	0.6	0.55	(4.0)	徑:0.45		9.09
87		(6.25)	—	—	—	—	(3.05)	0.6	0.4	(3.2)	0.3	0.25	4.88
88		(5.7)	—	—	—	—	(4.0)	0.6	0.5	(1.7)	徑:0.4		6.08
89		(5.5)	—	—	—	—	(2.2)	0.6	0.45	(3.3)	徑:0.4		6.01
90		(3.1)	—	—	—	—	(1.7)	0.6	0.35	(1.4)	0.3	0.25	2.74
91		(5.35)	—	—	—	—	—	—	—	(5.35)	徑:0.3		4.12
92		(4.35)	—	—	—	—	—	—	—	(4.35)	0.4	0.3	2.95
93		(3.9)	—	—	—	—	—	—	—	(3.9)	徑:0.3		1.08
94		(3.5)	—	—	—	—	—	—	—	(3.5)	徑:0.4		1.1

95	(3.3)	-	-	-	-	-	-	-	(3.3)	径:0.5	2.34
96	(3.2)	-	-	-	-	-	-	-	(3.2)	0.3 0.25	1.01
97	(3.6)	-	-	-	-	-	-	-	(3.6)	径:0.3	1.02
98	(3.2)	-	-	-	-	-	-	-	(3.2)	径:0.2	0.86
99		-	-	-	-	-	-	-	(3.0)	径:0.25	0.84
100	(2.85)	-	-	-	-	-	-	-	(2.85)	0.25 0.2	0.41
101	(2.6)	-	-	-	-	-	-	-	(2.6)	径:0.5	1.35
102	(2.8)	-	-	-	-	-	-	-	(2.8)	0.45 0.3	0.9
103	(2.15)	-	-	-	-	-	-	-	(2.15)	径:0.3	1.19
104	(2.0)	-	-	-	-	-	-	-	(2.0)	0.3 0.3	0.37
105	(1.9)	-	-	-	-	-	-	-	(1.9)	径:0.2	0.2
106	(1.65)	-	-	-	-	-	-	-	(1.65)	径:0.2	0.3
107	(1.4)	-	-	-	-	-	-	-	(1.4)	0.2 0.2	0.23

第13表 9号墳出土鉄鏃観察表

No	全長 (cm)	鏃身部 (cm)			頸部 (cm)			茎部 (cm)			重量 (g)	
		形態	長	幅	厚	長	幅	厚	長	幅		厚
86	19.1	柳葉形?	(2.5)	(1.0)	(0.3)	(8.7)	(0.7)	(0.6)	(7.8)	(0.3)	(0.4)	17.61
87	(16.3)	柳葉形?	(2.2)	(0.9)	(0.3)	(8.4)	(0.7)	(0.5)	(5.7)	(0.5)	(0.5)	17.71
88	(15.7)		(3.3)	(1.2)	(0.5)	(8.4)	(0.7)	(0.5)	(4.0)	(0.7)	(0.6)	16.02
89	(11.2)	-	(2.2)	(0.8)	(0.5)	(3.8)	(0.8)	(0.6)	(5.2)	(0.5)	(0.5)	9.41
90	(7.4)		(2.5)	(1.1)	(0.4)	(4.9)	(0.6)	(0.5)	-	-	-	8.16
91	2.9	三角形	2.9	2.8	0.4	-	-	-	-	-	-	3.55
92	(4.5)	-	-	-	-	(1.4)	(0.7)	(0.4)	(3.1)	(0.4)	(0.4)	2.2
93	(3.0)	-	-	-	-	-	-	-	(3.0)	(0.4)	(0.4)	0.71

第14表 1号石棺出土鉄鏃観察表

No	全長 (cm)	鏃身部 (cm)			頸部 (cm)			茎部 (cm)			重量 (g)	
		形態	長	幅	厚	長	幅	厚	長	幅		厚
1	(3.3)	柳葉形?	(3.3)	(1.2)	(0.4)	-	-	-	-	-	-	2.49
2	(3.6)	長三角形?	(3.6)	(0.85)	(0.3)	-	-	-	-	-	-	2.75
3	(2.3)	-	-	-	-	(0.6)	(0.6)	(0.5)	(1.7)	(0.7)	(0.4)	1.56
4	(3.55)	-	-	-	-	-	-	-	(3.55)	(0.6)	(0.5)	1.45

第15表 5号墳出土直刀・刀子観察表

No	全長 (cm)	刃部 (cm)			茎部 (cm)			重さ (g)	備考
		長	幅	厚	長	幅	厚		
108	76.8	65.8	3.8	0.8	11.0	1.7	0.9		無窓倒卵形の鏃を有する。縦7.0cm、横6.3cm、厚さ0.4cm。鏃は断面倒卵形で縦3.9cm横3.1cm、厚さ1.3cm。茎部に目釘孔が2箇所穿たれている。裏面刃部中央には鉄鏃が癒着している。
109	(21.4)	(16.3)	1.0~1.3	0.3~0.4	5.1	0.7	0.35	18.73	鏃残存。刃部に目釘孔。
110	(12.3)	(12.3)	2.2	-	-	-	-	29.53	切先か。表面に木質依存。
111	(4.4)	(4.4)	1.8	-	-	-	-	4.44	切先。
112	(15.8)	(10.4)	1.4~1.6	0.5	5.4	0.7	0.3	25.61	両閃。わずかに木質依存。
113	(5.2)	(5.2)	2.35	0.8	-	-	-	14.22	
114	(4.4)	-	-	-	(4.4)	1.0	0.3~0.2	3.69	
115	(2.85)	-	-	-	(2.85)	0.95	0.35	1.58	一部に木質依存
116	(4.05)	-	-	-	(4.05)	0.9	4.0	3.53	

第16表 7号墳出土直刀観察表

No	全長 (cm)	刃部 (cm)			茎部 (cm)			重さ (g)	備考
		長	幅	厚	長	幅	厚		
57	(48.9)	41.5	2.6	0.8	(7.4)	1.8	0.7		刃部に木質依存。鏃残存。目釘。
58	(29.5)	(21.8)	2.2	0.8	7.7	1.3	0.4		片閃。目釘。

第17表 8号墳出土刀子観察表

No	全長 (cm)	刃部 (cm)			茎部 (cm)			重さ (g)	備考
		長	幅	厚	長	幅	厚		
7	(6.0)	(6.0)	1.95	0.3	—	—	—	9.89	切先。

第18表 9号墳出土刀子・直刀観察表

No	全長 (cm)	刃部 (cm)			茎部 (cm)			重さ (g)	備考
		長	幅	厚	長	幅	厚		
94	54.7	46.6	2.6	1.0	8.1	2.2	0.6		鍔一部残存。目釘。
95	(25.6)	(25.6)	3.1	—	—	—	—		剥離しており、片面のみの残存。
96	(10.9)	(10.9)	2.7	—	—	—	—		剥離しており、片面のみの残存。
97	(26.9)	(26.9)	3.1	—	—	—	—		剥離しており、片面のみの残存。

第19表 1号石棺出土刀子観察表

No	全長 (cm)	刃部 (cm)			茎部 (cm)			重さ (g)	備考
		長	幅	厚	長	幅	厚		
5	(15.8)	(10.9)	2.2	0.6	4.9	10.0	0.25	37.17	鍔残存。茎部に目釘。

第20表 5号墳出土弓金具観察表

No	全長 (cm)	弓幅 (cm)	筒状部径 (cm)	重量 (g)	備考
117	3.0	1.85	0.45	2.8	
118	3.15	1.9	0.75	2.96	
119	(3.4)	(2.6)	0.6	2.56	弓金具か？

第21表 土坑墓出土古銭観察表

No	銭種	外縁外径 (cm)	外縁内径 (cm)	内郭外長 (cm)	内郭内長 (cm)	外縁厚 (cm)	文字面厚 (cm)	質量 (g)
1	寛永通宝	2.35	1.9	0.68×0.7	0.6×0.6	0.2	0.15	3.52
2	寛永通宝	2.38	2.05	0.7×0.69	0.63×0.61	0.2	0.12	3.99
3	寛永通宝	2.44	2.0	0.72×0.75	0.6×0.62	0.18	0.1	3.13
4	寛永通宝	2.46	2.0	0.7×0.72	0.6×0.59	0.18	0.1	3.47
5	寛永通宝	2.46	2.04	0.73×0.71	0.61×0.6	0.18	0.1	3.3
6	寛永通宝	2.45	2.0	0.7×0.72	0.59×0.6	0.18	0.1	3.28

第22表 遺構外出土石器観察表

No	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石質	出土地点
		長	幅	厚			
1	ナイフ	7.3	2.7	0.9	13.43	チャート	4号墳墳丘上
2	ナイフ	8.8	2.2	0.8	15.26	チャート	4号墳周溝西南西区内埋土
3	スクレイパー	4.8	4.2	2.1	28.69	黒曜石	8号墳周溝内
4	石匙?	8.1	6.2	2.8	71.29	チャート	9号墳墳丘内
5	石匙	4.8	6.2	1.8		黒曜石	9号墳墳丘内
6	尖頭器	10.7	(3.9)	1.9	78.16	頁岩	9号墳周溝内
7	打製石斧	10.1	6.9	1.7	138.69		調査地区内表採
8	スクレイパー	5.8	3.7	1.0			9号墳周溝内
9	打製石斧	10.6	7.1	1.6	130.76		T-12土塁内
10	磨製石斧	(9.4)	4.0	2.8	146.34	変成岩	9号墳周溝内
11	乳棒状石斧	12.4	5.5	3.6	404.4	片磨岩	F-3-C表採
12	磨製石斧	(4.7)	(4.5)	2.2	65.31	安山岩	調査地区内表採
13	磨製石斧	(4.5)	4.4	(1.0)	31.57	砂岩	9号墳付近
14	垂飾	13.3	3.25	0.9	88.82	蛇紋岩	5号墳墳丘内
15	砥石	4.0	3.5	3.2	66.36	砂岩	7・8号墳付近
16	磨製石斧	3.5	2.1	0.6	6.31	チャート	T-11堀埋土

17	磨製石斧	9.6	4.0	2.0	110.86	チャート	調査地区内表採
18	石皿	22.3	14.4	3.9	1760.79	安山岩	B-2-d
19	磨石	8.5	3.4	2.9	111.15	安山岩	調査地区内表採
20	磨石	9.3	5.5	3.3	250.14	安山岩	調査地区内表採
21	磨石	9.0	3.3	2.9	124.63	安山岩	調査地区内表採
22	磨石	(12.1)	7.75	4.7	626.8	安山岩	5号墳墳丘上
23	磨石	9.05	8.0	4.0	410.55	安山岩	5号墳墳丘上
24	磨石	9.2	3.3	1.7	81.17	安山岩	5号墳石室上盛土内
25	磨石	10.3	6.85	4.2	421.18	安山岩	5号墳墳丘上
26	磨石	12.7	6.4	4.0	467.23	安山岩	9号墳
27	磨石	8.9	8.1	4.1	401.11	安山岩	9号墳周溝内
28	磨石	11.3	4.4	3.4	295.58	安山岩	F-3-b
29	磨石	10.5	6.9	3.7	379.32	安山岩	F-3-b
30	磨石	9.8	8.8	3.2	344.01	安山岩	F-4-d
31	石皿	(10.2)	6.0	4.5	303.45	安山岩	F-4-d
32	磨石	10.4	5.1	2.4	201.93	安山岩	G-5-c
33	磨石	8.9	6.1	3.7	286.6	安山岩	G-5-c
34	磨石	11.4	4.8	3.0	231.93	安山岩	F-4-b
35	磨石	8.0	6.2	4.9	296.79	安山岩	F-4-b
36	石皿	(7.8)	(6.1)	2.7	111.12	安山岩	8号墳封土中
37	磨石	7.8	6.8	3.5	255.01	安山岩	B-2-d

III おわりに

1 古墳群について

今回割田遺跡においては、小丘陵の尾根部から南東斜面にかけて分布する9基の円墳を発掘調査した。ここではこの古墳群の特徴を簡単に整理し、まとめとしたい。

墳丘規模 右表は本古墳群の墳丘規模を一覧表にしたものである。墳丘径(直径)に注目すると、やや機械的ではあるが、径15m未満の小型(1・3・4・8号墳)、径15～20mの中型(2・6・7号墳)、径20m以上の大型(5・9号墳)の3類型に分けることができる。

一方、古墳の分布をみると、北東支群(1～6号墳)と南西支群(7～9号墳)の2支群に分かれている。これに墳丘規模を合わせると、それぞれ基数は異なるが、大型円墳を中心に、中小型の3類型で構成されている様子が

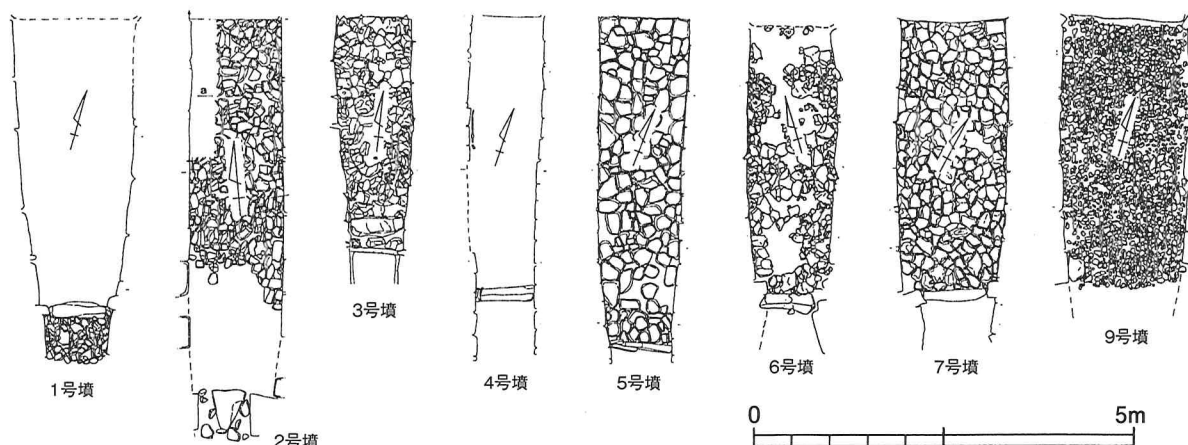
第23表 割田古墳群の墳丘規模

番号	墳形	墳丘 (m)		周溝 (m)	
		直径	高さ	幅	深さ
1号墳	円墳	13.7～14.3	2.2	2.3～5.1	0.3～0.65
2号墳	円墳	12.8～15.2	2.9	3.5～5.2	0.2～0.65
3号墳	円墳	10.5～11.1	1.7	1.9～2.9	0.35～0.82
4号墳	円墳	11.9～12.4	2.1	2.4～2.8	0.6～0.75
5号墳	円墳	18.5～20.2	3.5	2.7～4.2	0.4～0.65
6号墳	円墳	18.6	2.5	2.8～4.5	0.5～0.7
7号墳	円墳	17.4	2.1	1.4～2.9	0.4～0.65
8号墳	円墳	14.2	1.7	1.4～2.3	0.5～0.75
9号墳	円墳	24.5	2.9	2.8～4.2	0.4～0.75

分かる。本遺跡周辺にも上の原古墳群・瓦作古墳群等の円墳群がみられ、明らかに墳丘規模の大小は認められるが、未調査のため類型化できるほどの内容は把握されていない。なお、姿川流域に限ってみると、前方後円墳を含む古墳群は約7km下流の稲荷古墳群まで確認することができない。

横穴式石室 今回確認された9基の円墳の埋葬主体部はすべて横穴式石室である。構造的には半地下式の掘方内に羨道部も含めて構築し、溝状の墓道へ繋げるという点でほぼ共通している。また、石材は基本的に安山岩の割石で、奥壁や玄門部の一部に凝灰岩が使用されることが多いが、いずれも地元産である。ここでは特に石室の平面形に着目し、本古墳群の特徴を整理することにしたい。

後世の攪乱等により形状が失われているものもあるが、大きくは玄室の平面形が長方形タイプのもの(1・2・3・4・5号墳)と胴張りタイプのもの(6・7・9号墳)とに分かれる。さら



第76図 割田古墳群の横穴式石室平面形

に長方形タイプには奥壁側が少し広くなるバチ形（1・3・4・5号墳）が多いこと、立柱石が内側に張り出すだけの疑似両袖型（1・2号墳）が目立つことなどが特徴として挙げられる。また分布をみると、北東支群が6号墳を除きすべて長方形タイプであるのに対し、南西支群は後出的とされる胴張タイプが主体であり、北東支群から南西支群へと墓域が移動した様子が窺われる。

築造時期 各古墳からは、葬送や墓前祭祀に使用されたものとみられる土器類が比較的多く出土している。特に多いのは土師器坏で、主に須恵器模倣形（2号墳1、4号墳1・2、8号墳1等）と半球形（5号墳1、4号墳4、8号墳2・3等）とで構成されているが、全体に器形の扁平化と小型化が進んでいるとともに、内面を撫でだけで仕上げるものも多くみられる。これらと類似する土器群は市内では東谷・中島地区の立野遺跡・権現山遺跡・百目鬼遺跡等で類例がみられ、TK43～TK209段階の須恵器との共伴が確認されている。

副葬品では5号墳の玄室から一括で出土した大量の鉄鏃が注目できる。その内訳は、小森哲也氏の分類に従えば『8B. 篋被柳葉式』が51点（第32図47～51、第33図、第34図75～81）、『11B. 棘篋被鏃箭式』が40点（第31図13～28、第32図29～46）及び『2. 無茎長三角形式』が1点（第34図82）である。このうち長頸鏃である『11B. 棘篋被鏃箭式』は、小森氏によれば、6世紀後半代では（鏃身+頸部）の長さが11.5cm以内、頸部長8cm以内に収束し、7世紀以降により長くなるとされる。5号墳のものは（鏃身+頸部）長の平均が10.6cmで11.5cmを超えるものは無く、頸部長も平均7.1cmで8cmを超えるものは無いことから6世紀後半代と考えると良いものと思われる。近隣の類例としては山本山2号墳や境林古墳等の出土品が挙げられる。また『2. 無茎長三角形式』と『8B. 篋被柳葉式』については5世紀後半から7世紀までと年代幅の広い形式であるが、中心は6世紀代であるとされている。なお9号墳からも長頸鏃が数本出土しているが、（鏃身+頸部）長が11.5cm近い長手のものも認められる。

さて本古墳群は、横穴式石室の形態に長方形タイプから胴張りタイプへという変遷がみられ、分布状況等を考え合わせると数世代に渡って造営されたものと思われる。長方形タイプの横穴式石室を有する5号墳については、副葬品である鉄鏃の特徴から6世紀後半代の築造とみられるが、古墳群全体の造営は胴張りタイプの横穴式石室を主体として7世紀代まで継続したものと思われる。このことは出土した土器群の様相とも一致している。

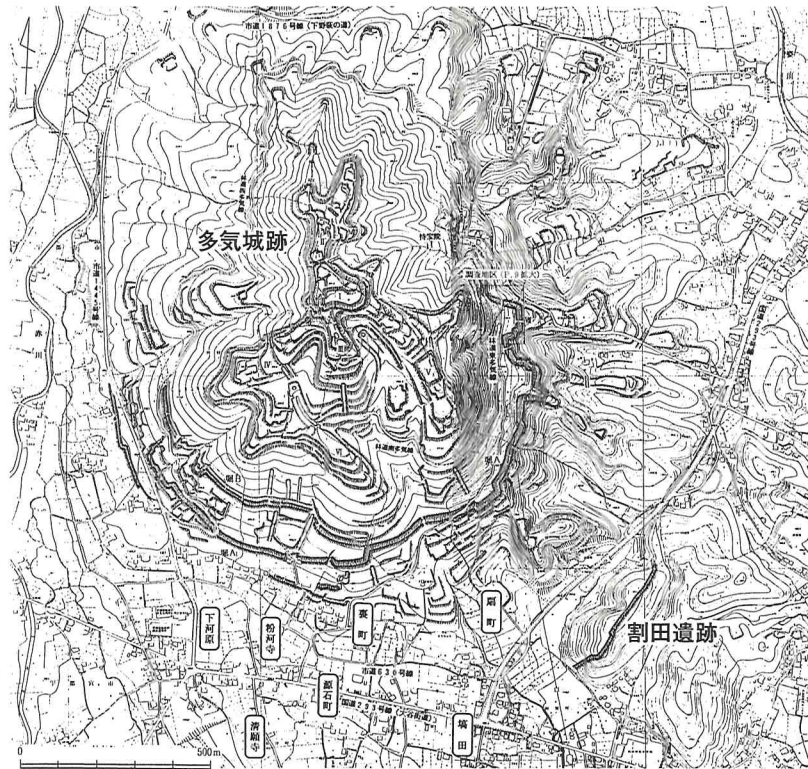
2 堀・土塁について

本遺跡で確認された堀・土塁は、南西から北東に向かって延びる小高い丘陵を縦断するように設けられたもので、その総延長は約400mに及ぶとみられる。このうち今回発掘調査したのは、丘陵尾根筋に設けられた約290mの区間で、横矢がけのための折や土橋も確認されている。堀・土塁の基本的な構造は、鋭い薬研堀を挟んで谷側に低い土塁・山側に高い土塁さらにその内側に幅広の浅い堀を構築するもので、幅は20数mに及ぶものである。なお、内側とみられる北西側は整地などはせずに古墳群をそのまま残しており、墳丘を見張り台等に活用した可能性も考えられる。

ところで、この堀・土塁が関わりとみられる多気城跡は本県屈指の山城跡である。標高377mの多気山頂に主郭を設け、急峻な北側を除きほぼ全山に無数の堀・土塁・曲輪を築き、山裾近くには総延長2kmに及ぶ巨大な横堀が巡らされているものである。近年の研究では、天正13年（1585）～18年（1590）の間、宇都宮氏が小田原北条氏の攻勢に対処するために、本拠地を平城の宇都宮

城からこの多気城に移転したことがいくつかの史料から明らかにされている。もともと宇都宮氏の支城としてあったものが、軍事拠点として整備・拡大されたものとみられるが、多気山南麓には下河原・扇町・裏町・埜田・源石町・粉河寺・清願寺など宇都宮城下と同じ地名も残されており、町場も含めての本格的移転であったことが窺われる。

さて本遺跡堀・土塁がこの広大な多気城跡の外郭の一つであることは言を俟たないところであるが、その位置や立地には注目しなければならない。まず1点目は本土塁・堀



第77図 多気城跡と割田遺跡

が位置する城郭の南東部は丁度多気城跡と宇都宮城跡を結ぶ直線の線上となっていること、また2点目には宇都宮から鹿沼・今市方面へ向かう街道と北方の徳次郎方面から来る街道の交差点及びその近辺に形成されたとみられる町場を見下ろせる位置にあることなどが挙げられる。このようなことから、本土塁・堀は宇都宮城との連携・連絡を意識しつつ、多気城及びその城下の南東方面の守りを固めるために築かれたものと考えられる。

(参考文献)

- 藤田典夫・谷中隆他 2001 『権現山遺跡・百目鬼遺跡』 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 内山敏行 2005 『東谷・中島地区遺跡群5 立野遺跡』 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 小森哲也 1984 「栃木県内古墳出土遺物考(1)―鉄鏃の変遷―」 『栃木県考古学会誌』 第8集
- 宇都宮市教育委員会 1997 『多気城跡』
- 宇都宮市教育委員会 2013 『多気城跡Ⅱ・岡本城跡』
- 荒川善夫・関口和也 2004 「第7節 宇都宮氏による多気山城の築城」 『鹿沼市史』 通史編原始・古代・中世 鹿沼市史編纂委員会

写 真 图 版



遺跡遠景（南東から、背後に多気山）

PL2



遺跡全景（南上空から）



遺跡全景（西上空から）



調査前の遺跡現況（東部を西から）



調査前の遺跡現況（西部を東から）

PL4



1号墳現況 (南西から)



1号墳調査風景 (南から)



1号墳周溝の集石 (南から)



1号墳周溝土器出土状況



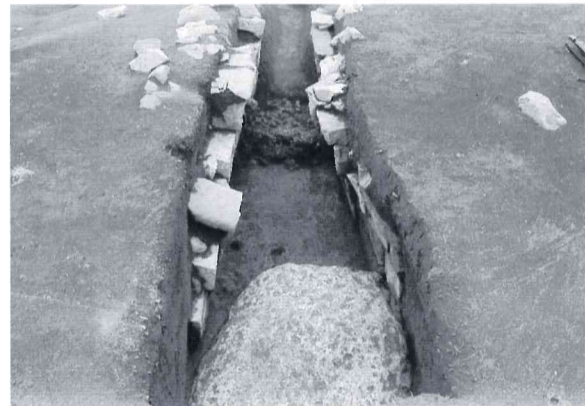
1号墳墓道 (南から)



1号墳墓道上土器出土状況



1号墳全景 (南から)



1号墳横穴式石室全景 (北から)



1号墳玄室 (南から)



1号墳玄室 (北から)



1号墳墳丘断面 (南から)



1号墳東側壁裏込め断面 (南から)



1号墳全景 (西上空から)

PL6



2号墳現況 (南から)



2号墳周溝調査 (北東から)



2号墳全景 (南から)



2号墳横穴式石室 (南から)



2号墳玄室 (南南西から)



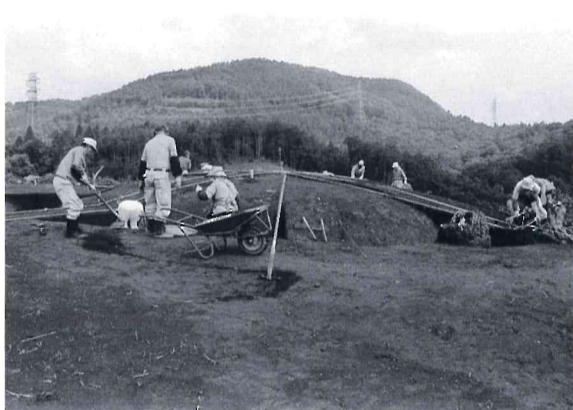
2号墳玄室奥壁 (南から)



2号墳玄室床面遺物出土状況



3号墳現況 (北東から)



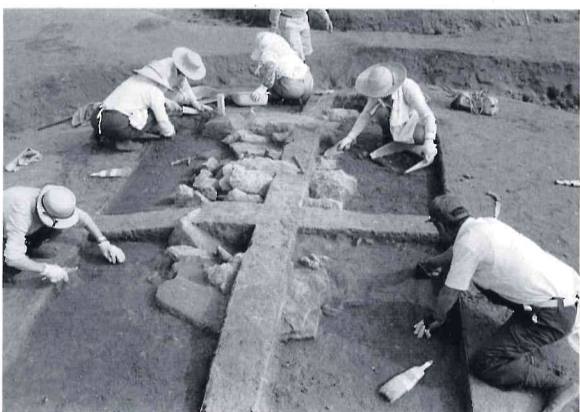
3号墳調査風景 (南から)



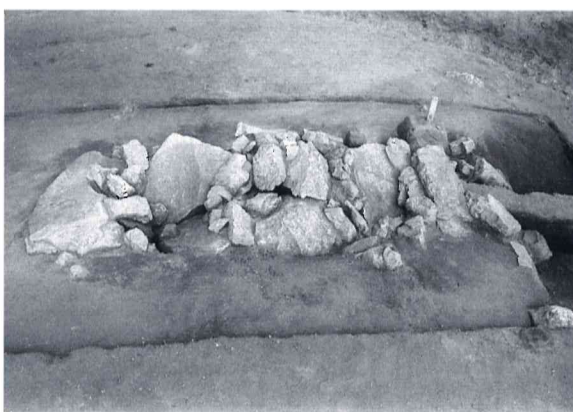
3号墳周溝調査 (北から)



3号墳周溝断面 (南から)



3号墳横穴式石室調査風景 (北から)



3号墳横穴式石室天井部 (東から)



3号墳羨道部 (東から)



3号墳墓道 (南から)

PL8



3号墳玄室（南から）



3号墳玄室（北から）



3号墳側壁裏込め断面（南東から）



3号墳奥壁裏込め断面（東から）



3号墳全景（南東上空から）



4号墳現況（北から）



4・5号墳周溝重複部断面（東から）



4号墳周溝（南から）



4号墳周溝遺物出土状況（南から）



4号墳横穴式石室（北から）

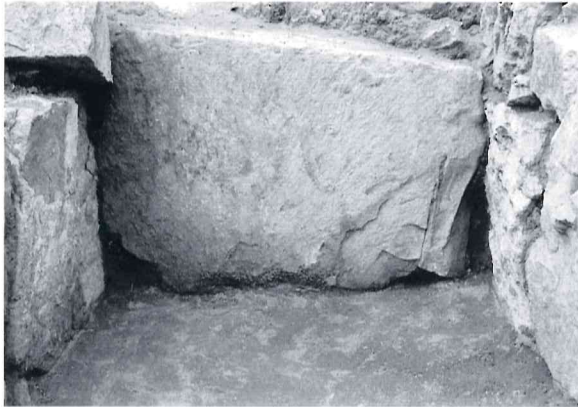


4号墳玄室（西から）



4号墳羨道部（東から）

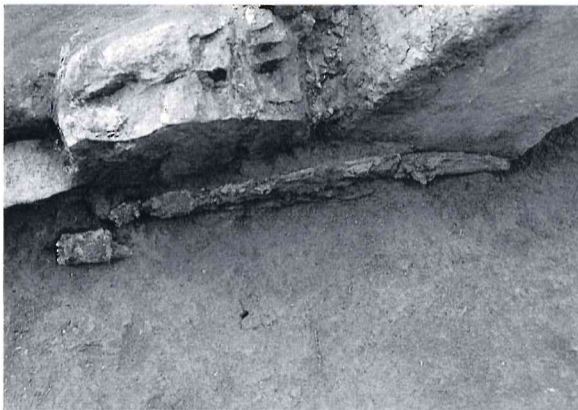
PL10



4号墳玄室奥壁（南から）



4号墳玄門（北から）



4号墳玄室直刀出土状況（東から）



4号墳側壁裏込め断面（北西から）



4号墳全景（東上空から）



5号墳現況（南西から）



5号墳調査風景（南西から）



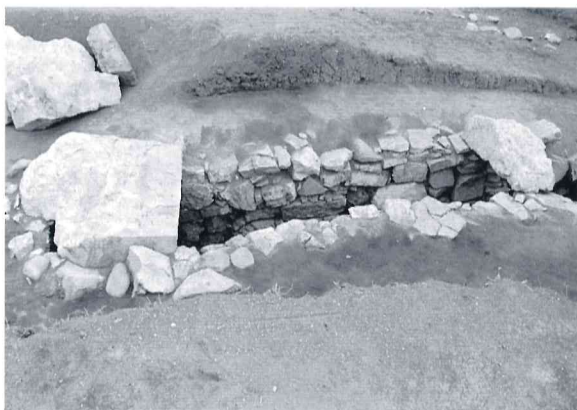
5号墳石室確認状況（北東から）



5号墳横穴式石室天井部（南西から）



5号墳横穴式石室調査風景（北から）



5号墳横穴式石室全景（西から）



5号墳玄室（南から）



5号墳玄室（北から）



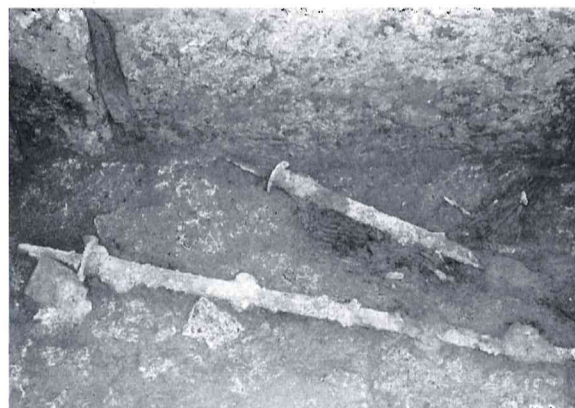
5号墳玄室遺物出土状況（南から）



5号墳玄室鉄鏃出土状況



5号墳玄室馬具等出土状況



5号墳玄室直刀出土状況



5号墳側壁裏込め断面（南西から）



5号墳奥壁裏込め断面（北東から）



5号墳墓道及び閉塞状況（南から）



5号墳全景（南南西上空から）



6号墳現況（南から）



6号墳横穴式石室（西から）



6号墳横穴式石室（南から）



6号墳側壁裏込め断面（南西から）

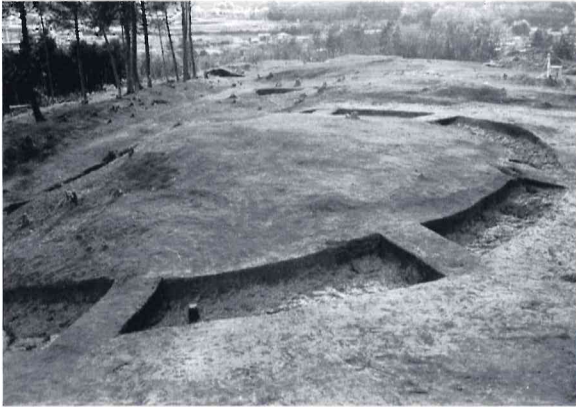
PL14



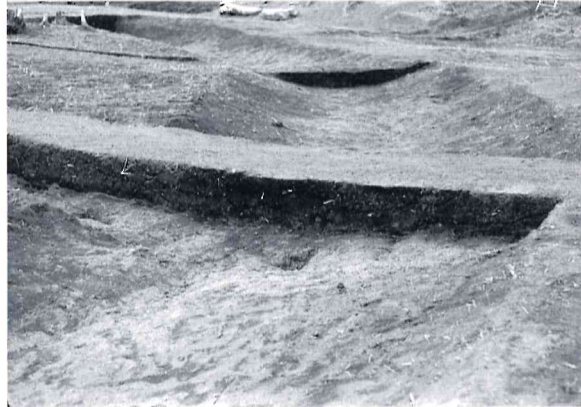
6号墳全景 (南上空から)



1~6号墳全景 (南東上空から)



7号墳周溝調査（北東から）



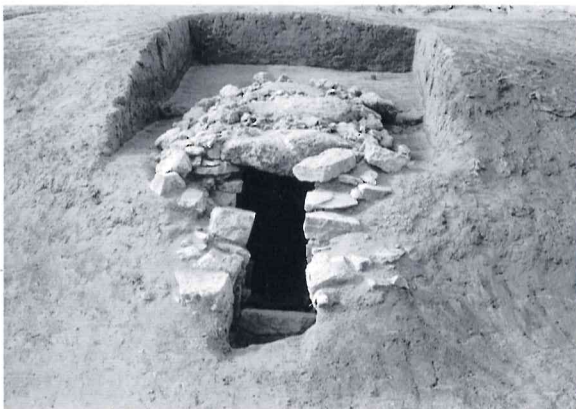
7号墳周溝断面（南から）



7号墳横穴式石室確認状況（南から）



7号墳石室被覆粘土（北西から）



7号墳石室墓道（南から）



7号墳石室天井石（北から）



7号墳玄室（南から）



7号墳玄室（北から）

PL16



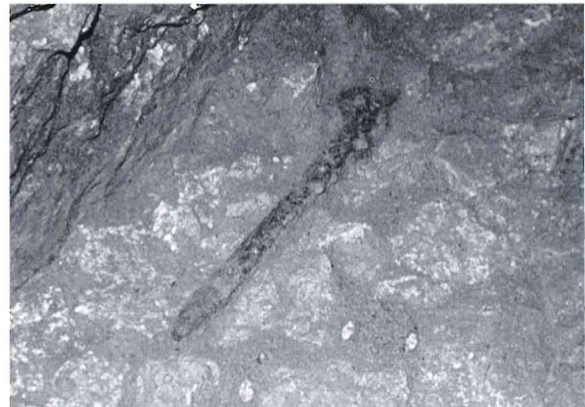
7号墳玄門（北から）



7号墳石室西側壁（北から）



7号墳石室天井（南から）



7号墳玄室直刀出土状況



7号墳全景（南上空から）



8号墳調査前（北東から）



8号墳周溝断面（西から）



8号墳横穴式石室（南から）



8号墳全景（北東から）



9号墳現況（南西から）



9号墳全景（南から）



9号墳横穴式石室（北から）



9号墳横穴式石室（西から）



9号墳玄室床面（北から）



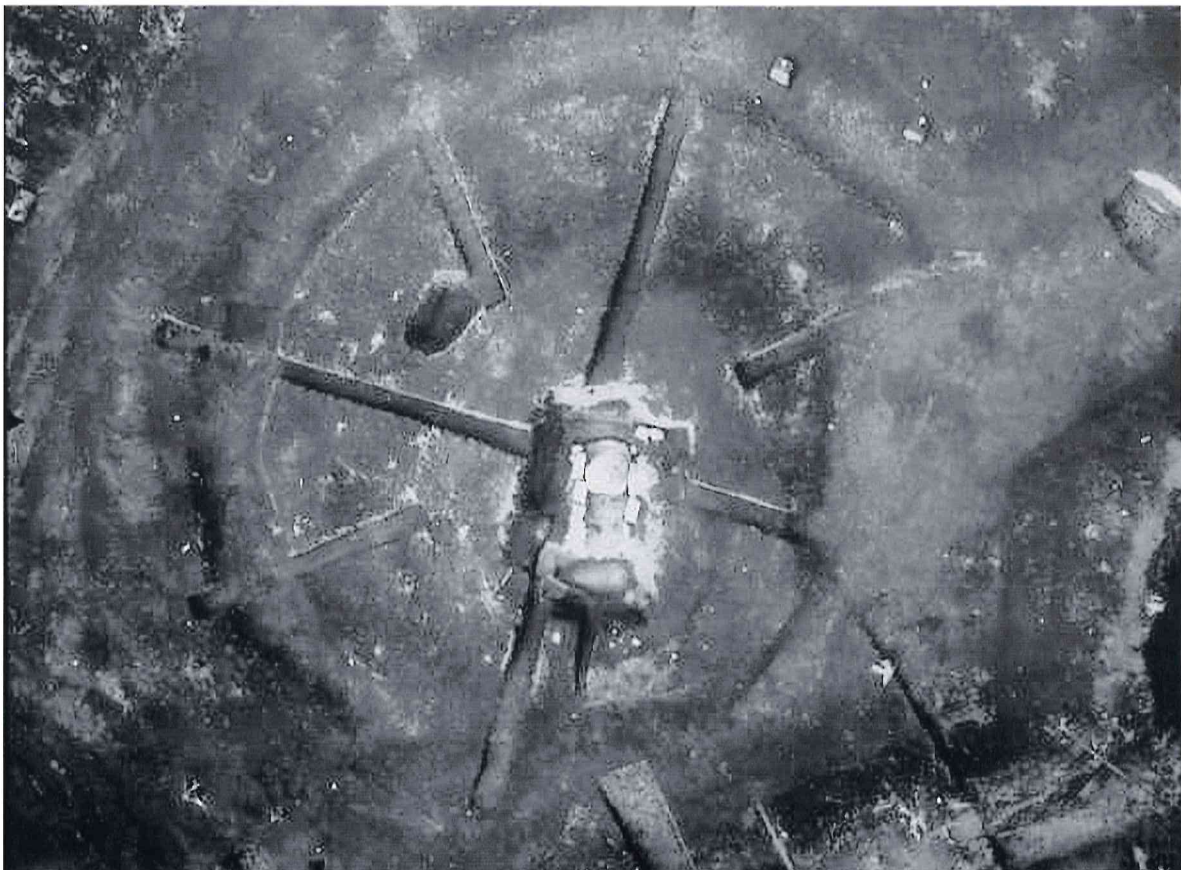
9号墳玄室玉類出土状況



9号墳玄室鉄鏃出土状況



9号墳玄室直刀出土状況



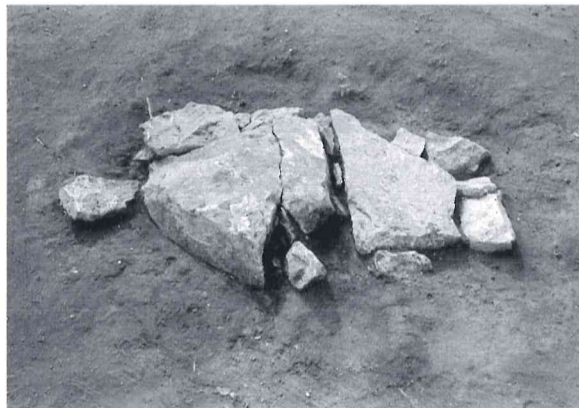
9号墳全景（南上空から）



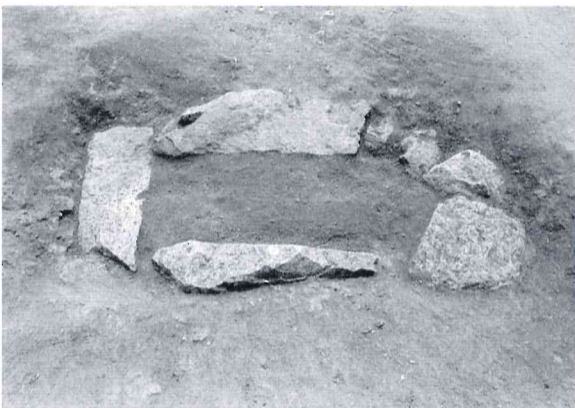
7～9号墳全景 (南東上空から)



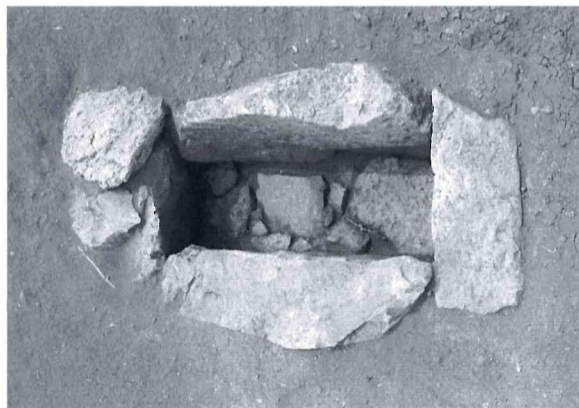
1号石棺の位置 (南上空から)



1号石棺確認状況 (東上から)



1号石棺蓋石除去状況 (西上から)



1号石棺完掘状況 (東上から)



堀・土塁現況 (北東から)



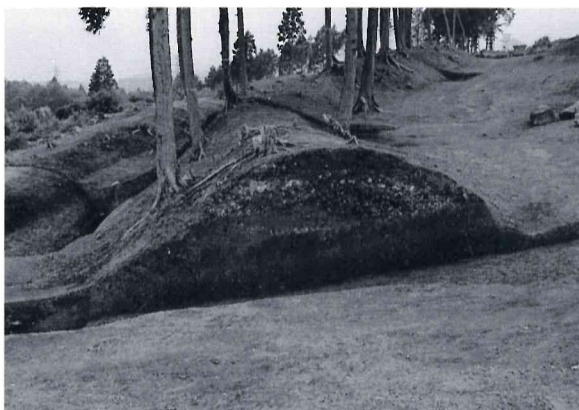
堀・土塁現況 (南西から)



堀・土塁清掃作業風景 (南西から)



調査前の堀・土塁 (南西から)



土塁断面・A地点 (北東から)



土塁断面・B地点 (北東から)



土塁断面・C地点 (北から)



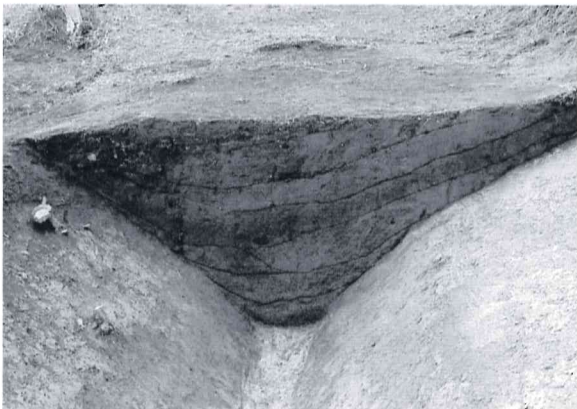
土塁調査風景・D地点 (北東から)



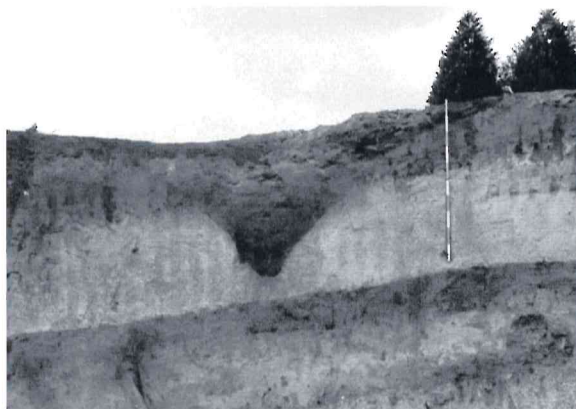
堀断面・A地点（北東から）



堀断面・B地点（北東から）



堀断面・C地点（北東から）



堀・地層断面（北東から）



堀・土塁（北東から）



堀・土塁（東から）



堀・土塁（南西から）



堀・土塁調査風景（東から）



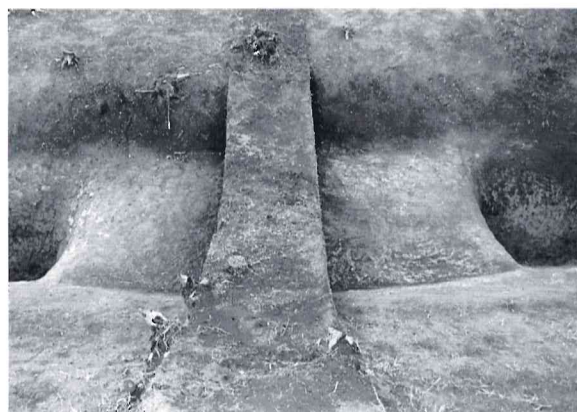
1号土橋現況（北東から）



1号土橋（西から）



2号土橋（南西から）



2号土橋（北西から）



折部現況（南から）



折部の土塁（北から）



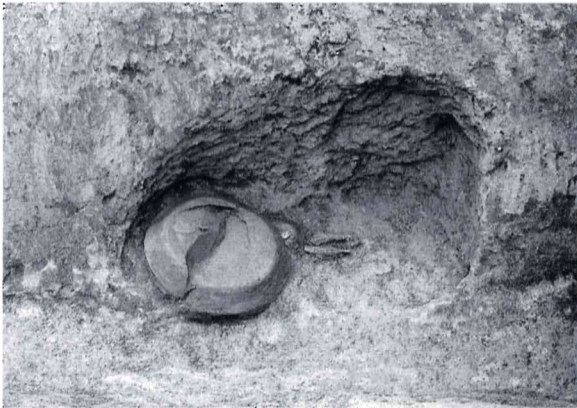
折部調査風景（北から）



1号土橋と折部（北から）



折部と1号土橋 (南東上空から)



土坑墓 (北西から)



土坑墓遺物出土状況

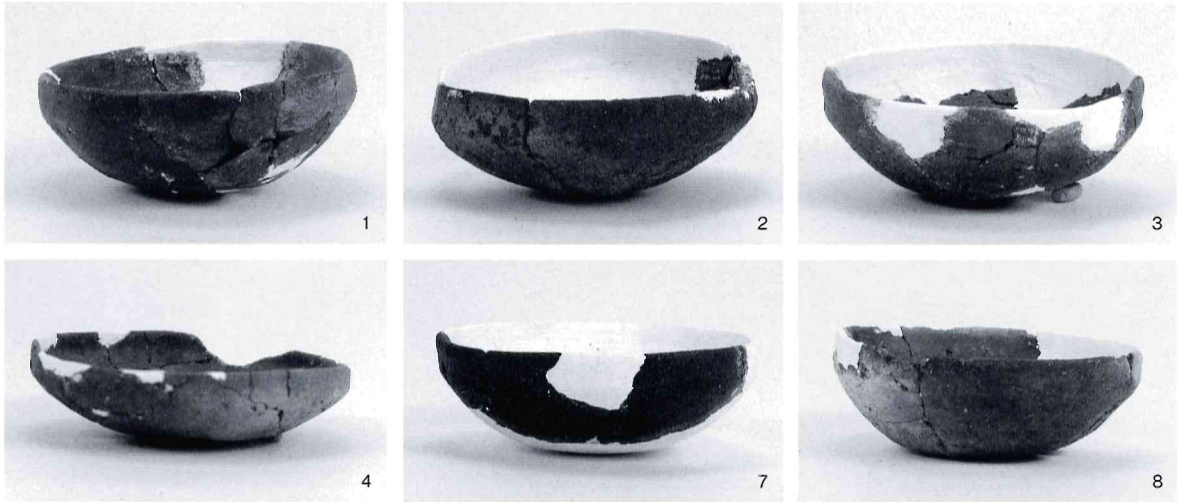


土坑墓遺物出土状況



7号墳周溝内土坑 (南から)

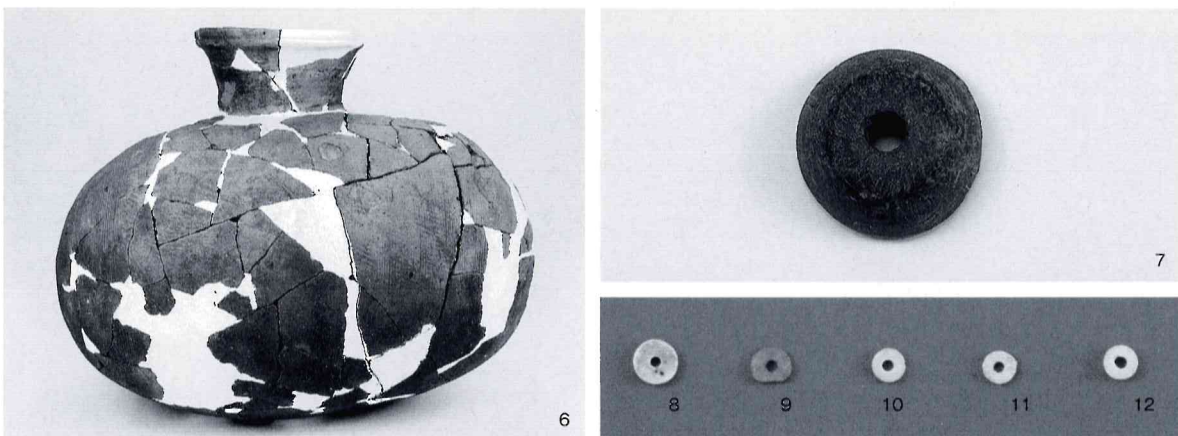
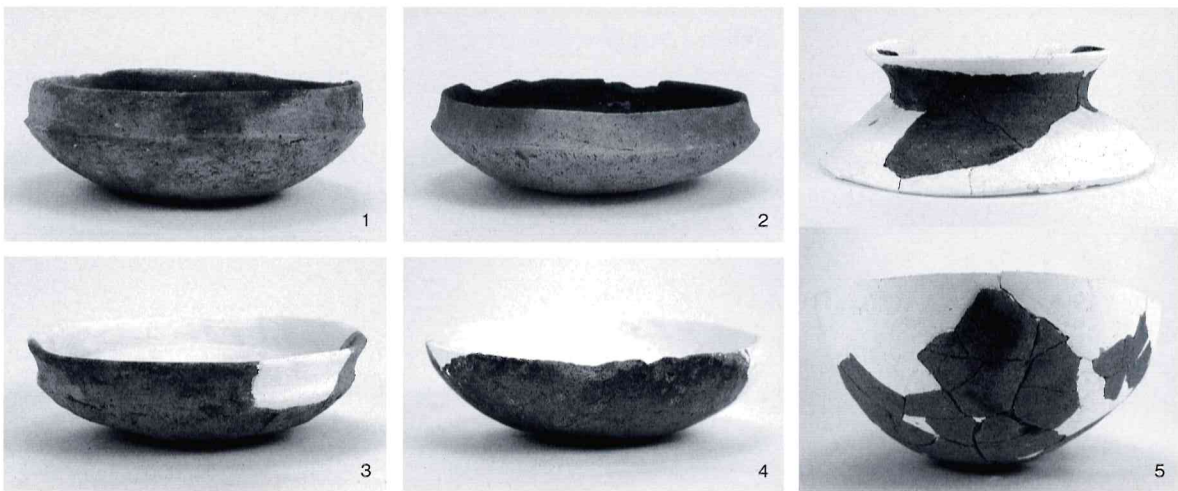
PL24



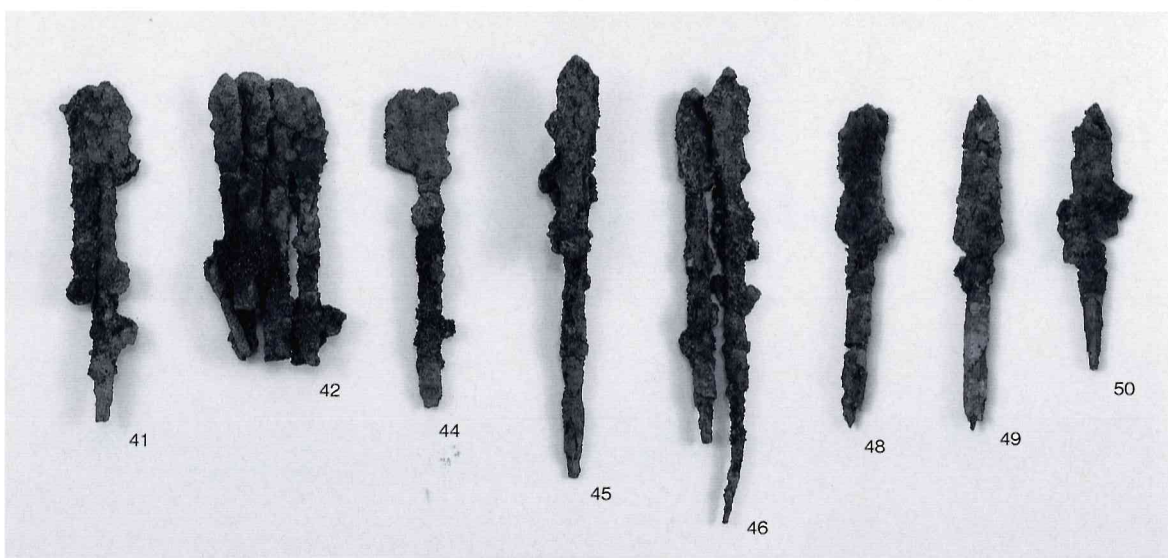
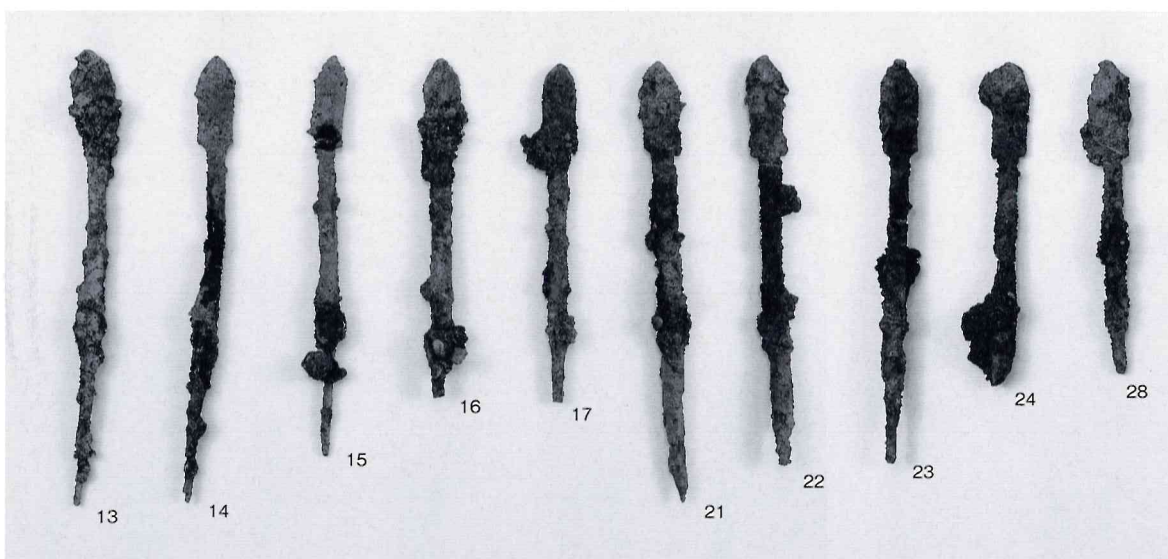
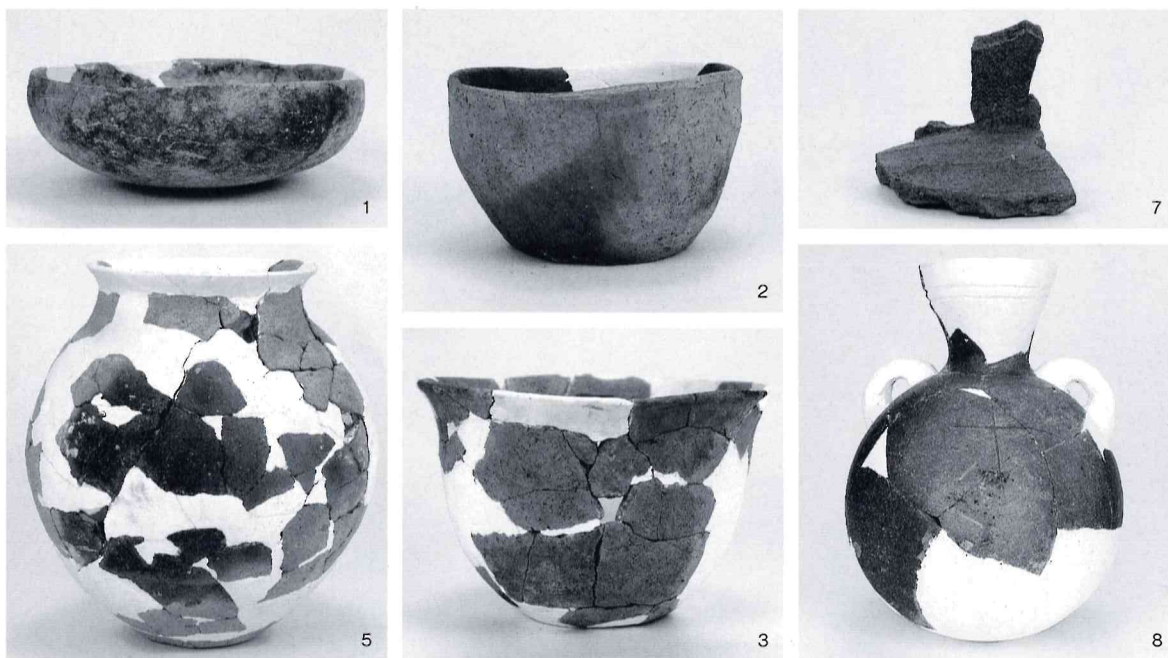
1号墳出土遺物



2号墳出土遺物

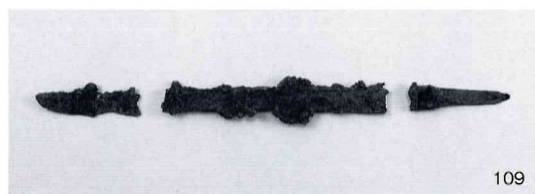
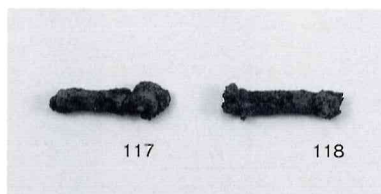
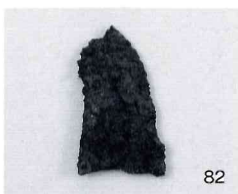
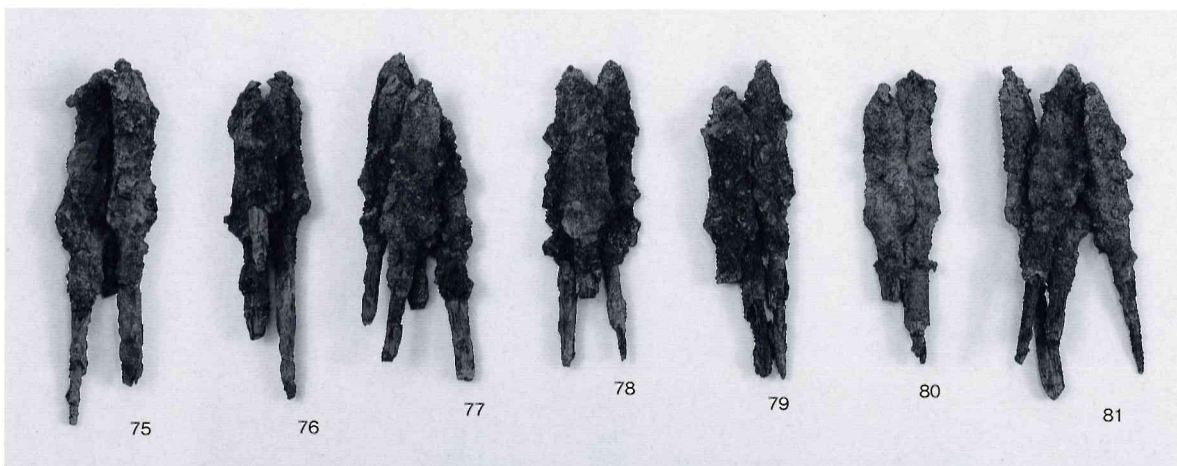
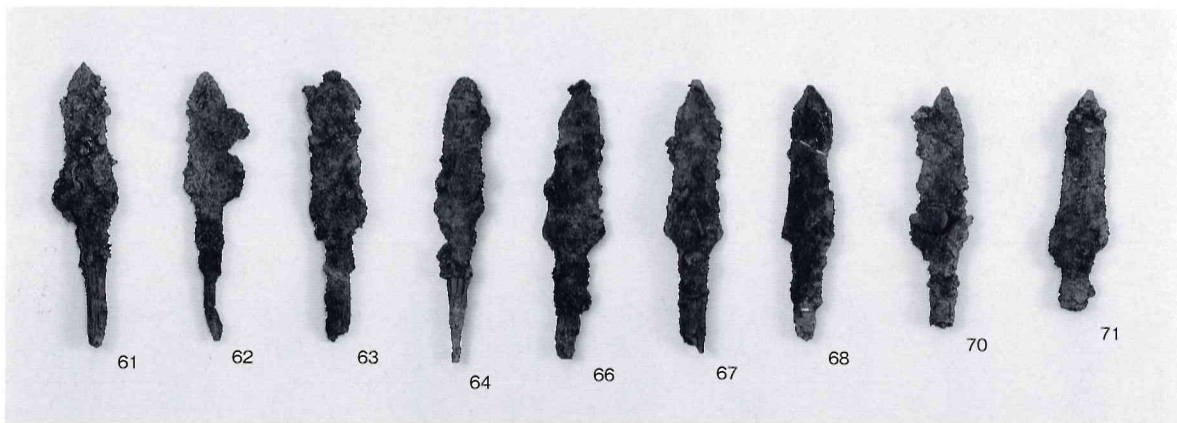
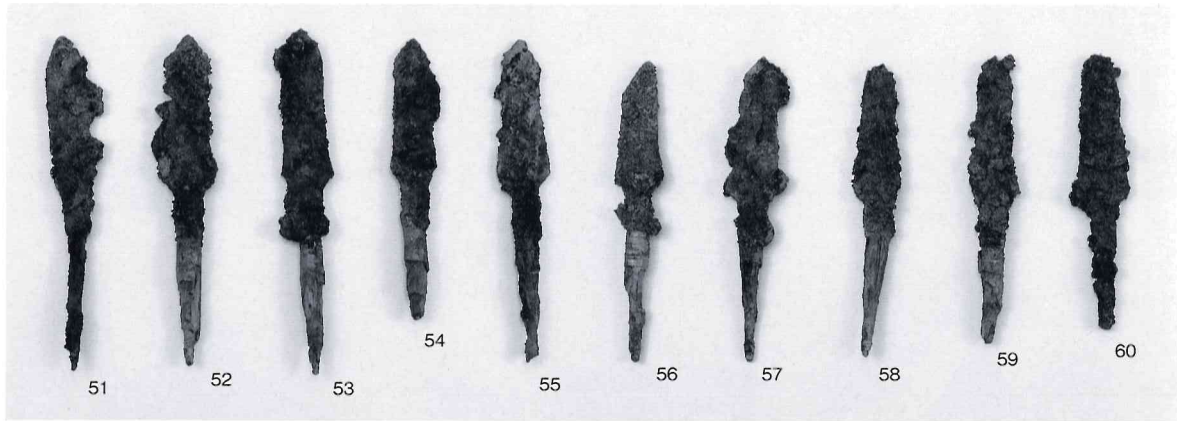


4号墳出土遺物

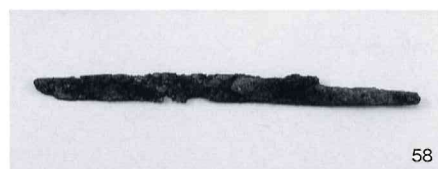
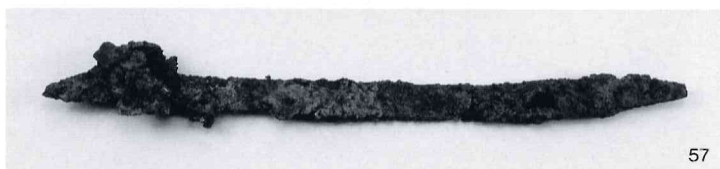
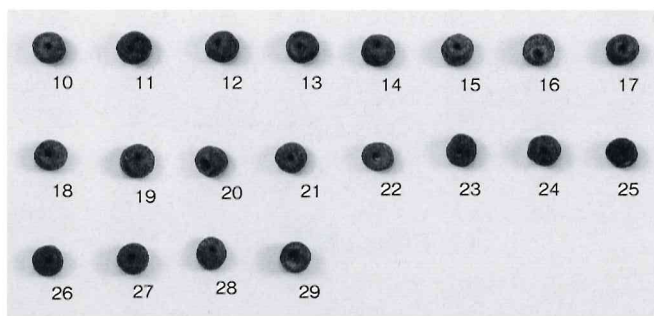
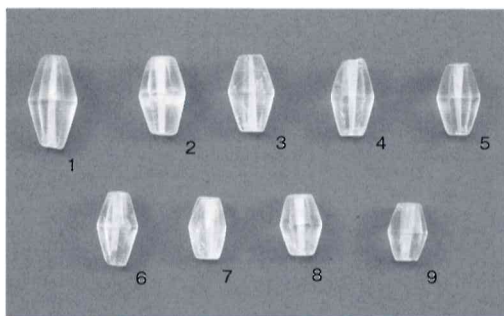


5号墳出土遺物(1)

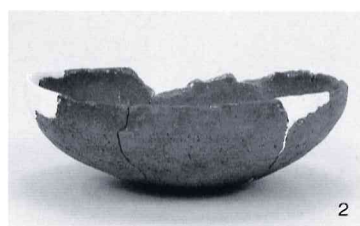
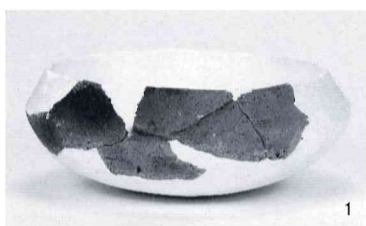
PL26



5号墳出土遺物 (2)

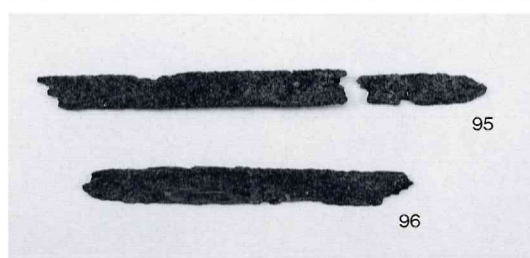
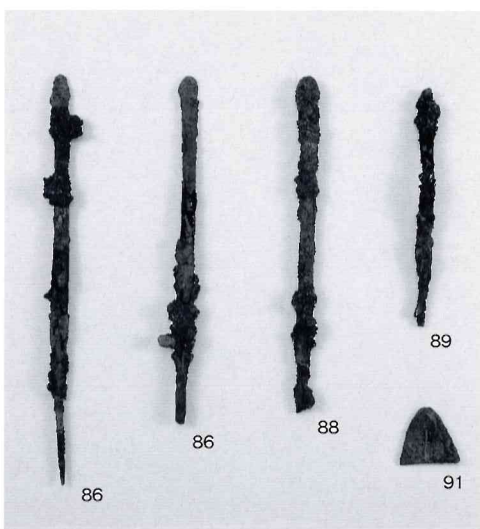
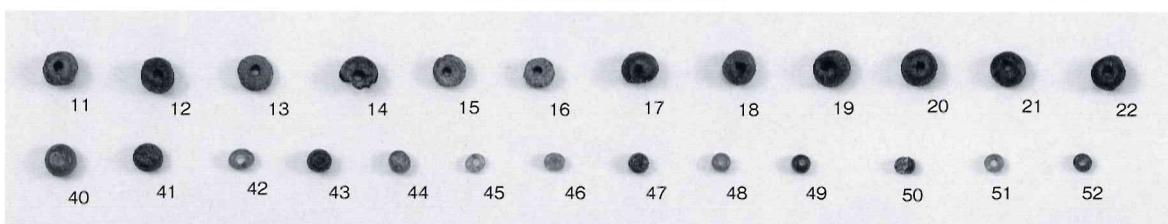
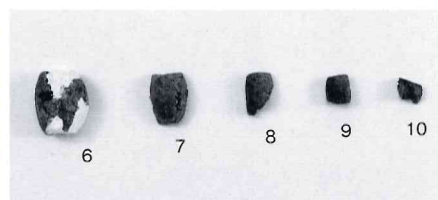
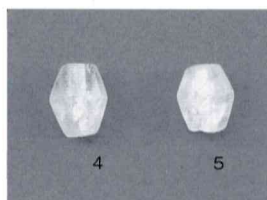


7号墳出土遺物

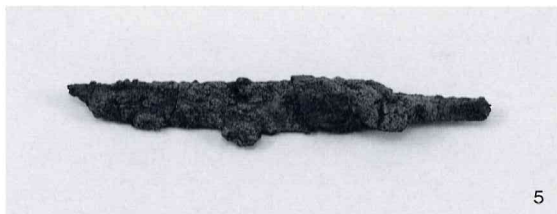


8号墳出土遺物

(2号墳出土)

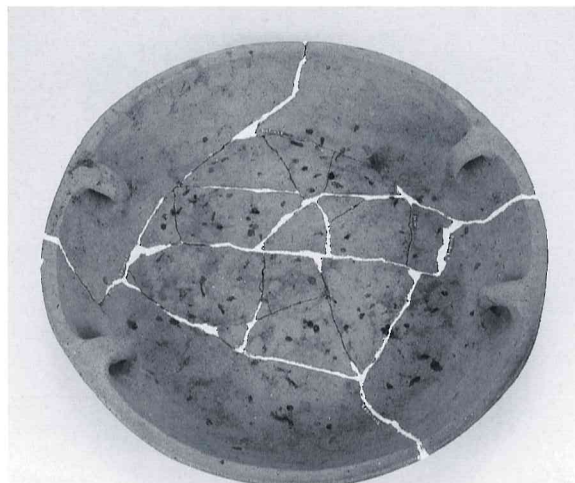


9号墳出土遺物

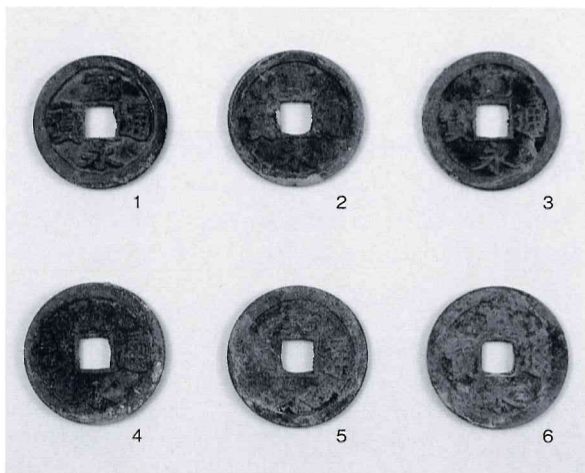


5

1号石棺出土遺物



内耳土器



1

2

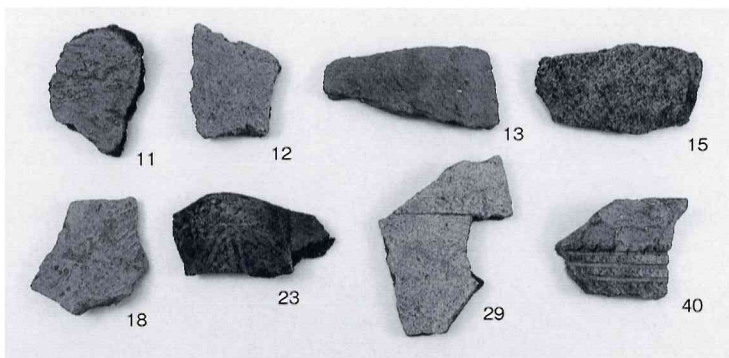
3

4

5

6

土坑墓出土遺物



11

12

13

15

18

23

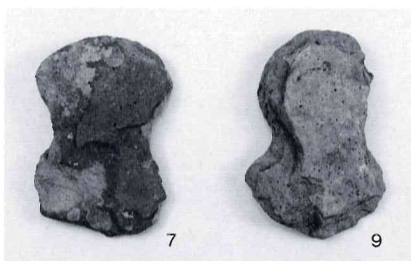
29

40



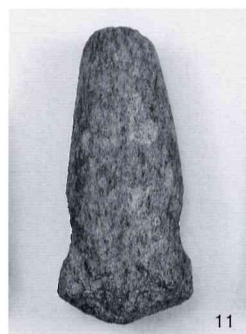
43

遺構外出土土器

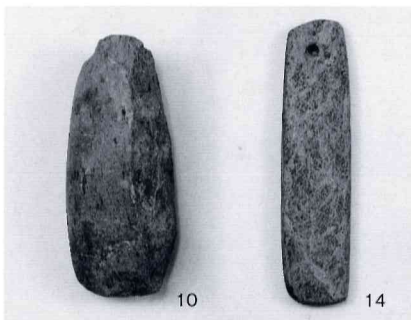


7

9

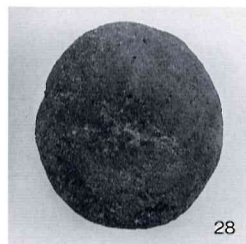


11



10

14



28



18

遺構外出土石器

報告書抄録

ふりがな	わたたいせき
書名	割田遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第108集
編著者名	梁木 誠 澁谷麻友子 近藤 真
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 TEL028-632-2764
発行年月日	西暦 2020年(令和2年)9月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
わたたいせき 割田遺跡	うつのみやし 宇都宮市 たのまち 田野町	09201		36度 35分 45秒	139度 48分 43秒	19920406 ～ 19930320	18,000	民間の大 規模宅地 開発

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
割田遺跡	古墳 城館	古墳時代 戦国時代	円墳9基、堀・ 土塁	土師器、須恵器、 鉄器、石製品等	・地元の大谷石等を利用した横穴式石室 ・多気城跡の外郭とみられる堀・土塁

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第108集

割田遺跡

発行 宇都宮市教育委員会

編集 宇都宮市教育委員会

宇都宮市旭1丁目1番5号

TEL 028-632-2764

発行日 令和2年9月30日発行

印刷 有限会社 印刷親友社

宇都宮市瑞穂3-9-11

TEL 028-656-3655
